

平成 22 年度

岩手県農業研究センター 年 報

平成 23 年 8 月

目 次

I 農業研究センターの概要

1 組織機構・職員数	I - 1
2 会議、委員会、部会等の運営	I - 2
(1) 農業試験研究推進会議等の開催	
ア 新規試験研究課題の評価と選定	
イ 試験研究成果の評価と採択	
ウ 試験研究課題の年度評価及び事後評価	
エ その他	
オ 外部評価委員	
(2) 企画運営会議、全体会議の概要	I - 9
(3) 委員会等の運営	I - 13
ア ほ場管理委員会	
イ 図書管理委員会	
ウ 研究報告等編集委員会	
エ 参観デー等企画運営委員会	
オ 特許審査委員会	
カ 備品導入検討委員会	
キ 岩手県立農業ふれあい公園管理運営委員会	
ク 環境美化委員会	
ケ 職員衛生委員会	
コ 原種等生産管理委員会	
(4) その他会議	I - 16
ア 全国農業関係試験研究場所長会議	
イ 東北地域農業関係試験研究場所長会議	
ウ 全国農業関係試験研究主務課長・場長会議	
エ 全国畜産関係試験研究場所長会議	
オ 全国畜産関係場所長会北海道・東北ブロック会議	
カ 岩手県試験研究機関評価に係る公設試所長等会議	
キ 東北農業試験研究推進会議	
ク 東北地域研究・普及連絡会議	
ケ 県内で開催された関係学会	
コ 北東北3県農業試験研究センター企画経営室長会議	

II 試験研究の推進

1 研究活動の概要	II - 1
2 トピックス	II - 2
(1) 特許・品種登録出願状況	
(2) 表彰等受賞状況	
(3) 特定課題調査検討チームによる検討及び連携プロジェクトによる研究推進	
(4) その他	
3 研究室の動き	II - 7
(1) プロジェクト推進室	
(2) 企画管理部	
(3) 技術部	
(4) 環境部	

(5) 病虫害防除部	
(6) 畜産研究所	
(7) 県北農業研究所	
4 平成22年度試験研究課題	II- 18
(1) 細目課題分類	
(2) 試験研究課題一覧	
(3) 要望課題の措置	
5 共同研究等の推進	II- 29
(1) 国庫委託研究事業	
(2) 農研機構プロジェクト(交付金プロジェクト)研究	
(3) 農林水産省委託プロジェクト研究事業	
(4) 新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業	
(5) 重点地域研究開発推進プログラム(地域ニーズ即応型)	
(6) その他独法等からの委託	
(7) 民間委託試験	
(8) (財)岩手生物工学研究センターとの共同研究	
(9) 他の公設試との共同研究	
(10) AFR(岩手農林研究協議会)研究会	
(11) その他共同研究	
(12) 産学官連携	
6 現地試験の実施	II- 35
III 試験研究の成果	
1 試験研究成果	III- 1
(1) 平成22年度成果数	
(2) 外部評価結果(集計)	
(3) 平成22年度成果名及び外部評価結果一覧	
2 追跡評価	III- 6
(1) 評価視点	
(2) 追跡評価の調査方法	
(3) 追跡評価結果	
3 東北農業試験研究成果	III- 6
(1) 研究成果数	
(2) 研究成果名	
IV 試験研究成果の発表	
1 試験成績書等刊行物	IV- 1
2 研究レポート	IV- 2
3 岩手県農業研究センター研究報告	IV- 3
4 学会等研究報告	IV- 4
5 雑誌等掲載	IV- 11
6 新聞等掲載	IV- 15
7 テレビ・ラジオ放送	IV- 18
8 指導資料等掲載	IV- 19
9 図書資料収集・提供	IV- 21
10 ホームページ	IV- 21

V 指導・啓発活動

1 技術伝達研修等の実施	V-	1
2 現地指導・研修会等への講師派遣	V-	3
3 視察者、見学者の受け入れ状況	V-	15
4 春季一般公開及び参観デー	V-	15
5 現地ふれあい農業研究センター	V-	15
6 一日子供農業研究員	V-	15
7 農業科学博物館、農業ふれあい公園、加工工房(加工体験)の利用者	V-	16
8 研修生の受け入れ	V-	17
(1) 海外研修員		
(2) 北東北3県連携に係る人事交流(研修受入)		
(3) 短期研修生		
(4) 体験学習の受け入れ		
ア 小中学校及び高等学校等の「総合的な学習の時間」等に対応したもの		
イ 高等学校、大学の「職場体験研修」「視察」等に対応したもの		
ウ インターンシップ等に対応したもの		
9 協議会、委員会等委員	V-	19

VI 職員研修

1 大学院派遣	VI-	1
2 海外派遣・研修	VI-	1
3 国内研修への派遣	VI-	1
(1) 依頼研究員		
(2) 北東北3県研究職員交流(職員派遣)		
(3) 農林水産関係研究リーダー研修		
(4) 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 短期集合研修		
(5) 農林水産関係中堅研究者養成研修		
(6) その他		
4 所内研修等	VI-	5
5 所内セミナー等	VI-	7

VII 試験研究以外の業務概要

1 作物の原々種の採種	VII-	1
(1) 主要農作物種子法に基づく原々種種子の生産		
(2) その他原々種種子の生産		
2 作物の原種の採種	VII-	2
(1) 主要農作物種子法に基づく原種種子の生産		
(2) その他原種種子の生産		
3 種苗等の配布	VII-	3
(1) 主要農作物種子法に基づく種苗の配布		
(2) その他種苗の配布		
4 県有種雄牛の精液の供給	VII-	5
(1) 黒毛和種		
(2) 日本短角種		
5 種豚、種鶏等の配布	VII-	6
(1) 銘柄鶏の配布		

6 寄託放牧	VII-	6
(1) 牛			
(2) 馬			

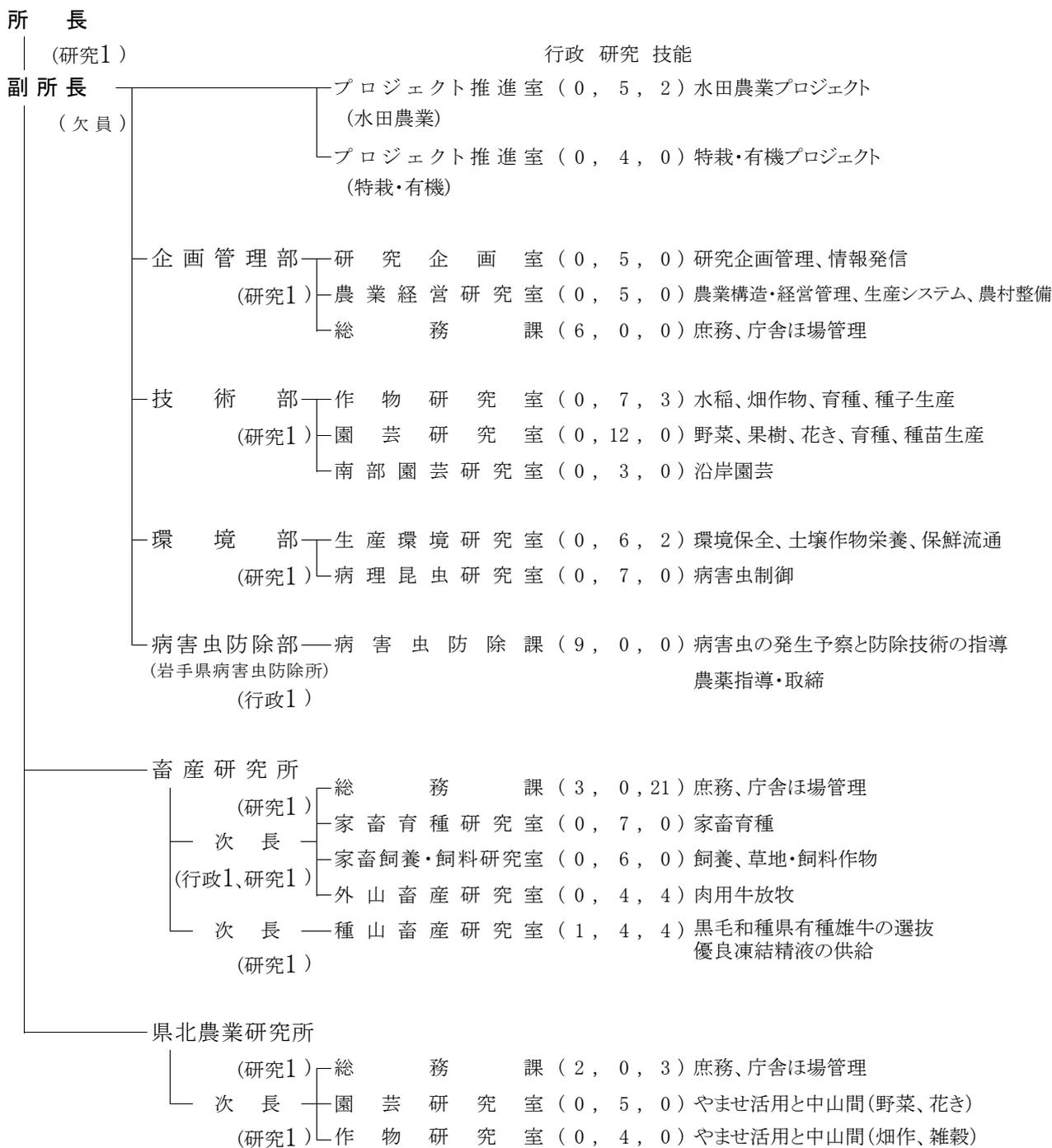
VIII 人事、予算、財産

1 岩手県農業研究センター予算	VIII-	1
2 建物、用地の面積及び飼養家畜数	VIII-	2
(1) 建物・用地の面積			
(2) 飼育家畜頭数			
3 種苗登録、特許等	VIII-	3
(1) 種苗登録			
(2) 特許、実用新案			
(3) 一般に公開しているプログラム等			
4 表彰	VIII-	6
5 職員名簿	VIII-	8

沿 革

農業研究センターの概要

1 岩手県農業研究センター 組織機構・職員数



(職員数)

	本 部		畜産研究所			県北農業研究所	合 計
	(北上市)	南部園芸研究室 (陸前高田市)	(滝沢村)	外山畜産研究室 (盛岡市玉山区)	種山畜産研究室 (住田町)	(軽米町)	
行政	16	0	4	0	1	2	23
研究	56	3	15	4	5	11	94
技能	7	0	21	4	4	3	39
合計	79	3	40	8	10	16	156

2 会議、委員会、各部等の運営

(1) 農業試験研究推進会議等の開催

ア 新規試験研究課題の評価と選定

(ア) 第1回内部検討会議

a 開催日及び参集範囲

部会名等	農産	園芸			畜産	県北振興*
		(果樹)	(野菜)	(花き)		
開催日	H22.7.28(水)	H22.8.2(月)			H22.7.29(木)	H22.7.30(金)
(財)岩手生物工学研究センター	○		○		○	○
農林水産企画室	○		○		○	○
流通課	○		○		○	○
農業振興課	○					
農業普及技術課	○		○		○	○
農村計画課	○					
農村建設課	○					
農産園芸課	○		○		○	○
畜産課	○				○	
中央家畜保健衛生所					○	
県北家畜保健衛生所					○	
県南家畜保健衛生所					○	
農業大学校	○		○		○	○
中央農業改良普及センター(県域)	○		○		○	○
中央農業改良普及センター(軽米)					○	○
中央農業改良普及センター(地域)	○		○		○	
中央農業改良普及センター(遠野)					○	○
盛岡農業改良普及センター	○		○		○	○
八幡平農業改良普及センター	○		○		○	○
奥州農業改良普及センター	○		○		○	
一関農業改良普及センター	○		○		○	
大船渡農業改良普及センター	○		○			
宮古農業改良普及センター	○		○		○	○
宮古農業改良普及センター(岩泉)					○	○
久慈農業改良普及センター	○		○			○
二戸農業改良普及センター	○		○			○
盛岡広域振興局農政部	○		○		○	○
県南広域振興局農政部	○		○		○	
県南広域振興局花巻農林振興センター					○	
県南広域振興局遠野農林振興センター					○	○
県南広域振興局一関農林振興センター					○	
沿岸広域振興局農林部	○		○		○	
沿岸広域振興局大船渡農林振興センター					○	
沿岸広域振興局宮古農林振興センター					○	○
県北広域振興局農政部	○				○	○
県北広域振興局二戸農林振興センター					○	○

注1) *は県北振興連携プロジェクトの略(ホウレンソウ・雑穀に係る試験研究課題について検討)

注2) H22年度総合部会を廃止

b 協議事項

- (a) 平成23年度試験研究を要望された課題とその措置(案)について
- (b) 平成23年度新規試験研究課題(案)について
- (c) 平成22年度試験研究成果(案)について (※農産部会のみ)
- (d) その他

(イ) 第1回内部調整会議

- a 開催日 平成22年8月23日(月) 13:00～
- b 協議事項
 - (a) 平成23年度試験研究を要望された課題とその措置(案)について
 - (b) 平成23年度新規試験研究課題(案)について
 - (c) 平成22年度試験研究成果(案)について
 - (d) その他
- c 参集範囲
農業研究センター所長、各部長、各研究所長、プロジェクト推進室長

(ウ) 第1回外部検討会議

- a 開催日及び参集範囲

部会名等		農産	園芸			畜産
			(果樹)	(野菜)	(花き)	
開催日		H22.9.13(月)	H22.9.15(水)	H22.9.15(水)	—	H22.9.15(水)
参集範囲	外部評価委員	○	○	○	園芸部会(果樹)と合同開催	○
	独立行政法人家畜改良センター岩手牧場					○
	東北農政局岩手農政事務所	○				
	全国農業協同組合連合会岩手県本部	○	○	○		
	岩手県農業共済組合連合会					
	岩手県農産物改良種苗センター		○			
	岩手県植物防疫協会	○		○		
	岩手家農薬卸商業協同組合	○		○		
	岩手県農業公社					
	岩手県農業機械協会					
	岩手県畜産協会					
	農業振興課	○				
	農業普及技術課	○	○	○		○
	農産園芸課	○	○	○		
畜産課				○		

注1) H22年度総合部会を廃止、園芸部会(果樹)と園芸部会(花き)は合同開催

- b 協議事項等
 - (a) 主な試験研究の取組みについて
 - (b) 平成23年度新規試験研究課題について
 - (c) 平成22年度試験研究成果について

(エ) 第1回総合調整会議

- a 開催日 平成22年10月25日(月) 10:00～
- b 協議事項等
 - (a) 平成23年度実施要望課題の措置について
 - (b) 平成23年度新規試験研究課題(案)について
 - (c) 平成22年度試験研究成果(案)について
 - (d) その他
- c 参集範囲
農業研究センター所長、各部長、各研究所長、プロジェクト推進室長
農業普及技術課総括課長、中央農業改良普及センター所長

イ 試験研究成果の評価と採択

(ア) 第2回内部検討会議

a 開催日及び参集範囲

部会名等	農産	園芸			畜産	県北振興*
		(果樹)	(野菜)	(花き)		
開催日	H22.12.1(水)	H22.12.2(木)	H22.12.2(木)	H22.12.7(火)	H22.12.6(月)	H22.12.3(金)
(財)岩手生物工学研究センター	○	○	○	○	—	○
農林水産企画室	○	○	○	○	○	○
流通課	○	○	○	○	○	○
農業振興課	○	—	—	—	—	—
農業普及技術課	○	○	○	○	○	○
農村計画課	○	—	—	—	—	—
農村建設課	○	—	—	—	—	—
農産園芸課	○	○	○	○	○	○
畜産課	—	—	—	—	○	—
中央家畜保健衛生所	○	—	—	—	○	○
県北家畜保健衛生所	○	—	○	○	○	—
県南家畜保健衛生所	○	—	—	—	○	○
農業大学校	—	—	—	—	○	○
中央農業改良普及センター(県域)	○	—	—	—	○	—
中央農業改良普及センター(軽米)	—	—	—	—	○	—
中央農業改良普及センター(地域)	—	—	—	○	○	—
中央農業改良普及センター(遠野)	—	○	—	—	○	○
盛岡農業改良普及センター	—	—	—	—	○	○
八幡平農業改良普及センター	—	—	—	—	○	—
奥州農業改良普及センター	—	—	—	—	○	—
一関農業改良普及センター	—	—	—	—	○	—
大船渡農業改良普及センター	○	○	○	○	○	○
宮古農業改良普及センター	○	○	○	○	○	○
宮古農業改良普及センター(岩泉)	—	—	—	—	○	○
久慈農業改良普及センター	○	—	—	—	○	○
二戸農業改良普及センター	—	—	—	—	○	○
盛岡広域振興局農政部	—	—	—	—	—	—
県南広域振興局農政部	○	—	—	—	○	—
県南広域振興局花巻農林振興センター	—	—	—	—	○	○
県南広域振興局遠野農林振興センター	○	—	○	○	○	○
県南広域振興局一関農林振興センター	○	—	—	—	○	—
沿岸広域振興局農林部	—	—	—	○	—	—
沿岸広域振興局大船渡農林振興センター	—	○	—	—	○	—
沿岸広域振興局宮古農林振興センター	—	—	—	—	○	○
県北広域振興局農政部	—	—	○	—	—	○
県北広域振興局二戸農林振興センター	—	—	○	—	—	○

注1)*は県北振興連携プロジェクトの略(ホウレンソウ・雑穀に係る試験研究課題について検討)

b 協議事項

(a) 平成22年度試験研究成果(案)について

(b) その他

(イ) 第2回内部調整会議

- a 開催日 平成22年12月16日(木) 13:15～
- b 協議事項
 - (a) 平成22年度試験研究成果(案)について
 - ①内部評価(成果評価)
 - ②外部検討会議提案課題の確認
 - (b) その他
- c 参集範囲
 - 農業研究センター所長、各部長、各研究所長、プロジェクト推進室長

(ウ) 第2回外部検討会議

- a 開催日及び参集範囲

部会名等		農産	園芸			畜産
			(果樹)	(野菜)	(花き)	
開催日		H23.1.11(火)	H23.1.7(金)	H23.1.12(水)	H23.1.7(金)	H23.1.6(木)
参集範囲	外部評価委員	○	○	○	○	○
	東北農政局岩手農政事務所	○	-	-	-	-
	全国農業協同組合連合会岩手県本部	○	○	○	○	-
	岩手県農業共済組合連合会	○	-	-	-	○
	岩手県土地改良事業団体連合会	-	-	-	-	-
	岩手県農産物改良種苗センター	○	○	-	○	-
	岩手県植物防疫協会	○	○	○	○	-
	岩手県農薬卸商業協同組合	○	○	○	-	-
	岩手県農業公社	○	-	-	-	○
	岩手県農業機械協会	○	-	-	-	-
	岩手県畜産協会	-	-	-	-	-
	家畜改良事業団盛岡種雄牛センター	-	-	-	-	○
	農業振興課*1	○	-	-	-	-
	農業普及技術課*1	○	○	○	○	○
	農産園芸課*1	○	○	○	○	-
畜産課*1	-	-	-	-	○	

注1)*は県北振興連携プロジェクトの略(ホウレンソウ・アスパラガス・リンゴ・雑穀)に関する試験研究課題について検討)

- b 協議事項
 - (a) 平成22年度試験研究成果(案)について
 - (b) その他

(エ) 第2回総合調整会議

- a 開催日 平成23年1月24日(月) 10:00～
- b 協議事項
 - (a) 平成22年度試験研究成果(案)について
 - (b) その他
- c 参集範囲
 - 農業研究センター所長、各部長、各研究所長、プロジェクト推進室長
 - 農業普及技術課総括課長、中央農業改良普及センター所長

ウ 試験研究課題の年度評価及び事後評価

(ア) 第3回内部検討会議

a 開催日及び参集範囲

部会名等	プロジェクト 推進室	企画管理部	技術部		環境部	畜産 研究所	県北農業 研究所
			(作物関係)	(園芸関係)			
開催日	H23.3.4(金)	H23.2.22(火)	H23.3.4(金)	H23.3.1(火)	H23.3.2(水)	H23.3.3(木)	H23.3.3(木)
(財)岩手生物工学研究センター	—	—	○	○	○	—	—
農林水産企画室	○	—	—	○	—	○	—
流通課	○	○	○	○	○	○	○
農業振興課	—	○	○	—	—	—	—
農業普及技術課	○	○	○	○	○	○	○
農村計画課	○	—	—	—	—	—	—
農村建設課	—	—	—	—	—	—	—
農産園芸課	○	○	○	○	○	—	○
畜産課	—	—	—	—	—	○	—
盛岡広域振興局農政部	—	—	—	—	—	○	—
県南広域振興局農政部	—	—	—	—	—	○	○
〃 花巻農林振興センター	—	—	—	—	—	—	○
沿岸広域振興局農林部 宮古農林振興センター	—	—	—	—	—	○	—
県北広域振興局農政部	—	—	—	—	—	○	○
〃 二戸農林振興センター	—	—	—	—	—	○	○
中央家畜保健衛生所	—	—	—	—	—	○	—
県北家畜保健衛生所	—	—	—	—	—	○	—
県南家畜保健衛生所	—	—	—	—	—	○	—
農業大学校	○	—	○	○	○	○	—
中央農業改良普及センター(県域)	○	○	○	○	○	○	○
中央農業改良普及センター(地域)	—	○	○	—	—	○	○
盛岡農業改良普及センター	—	—	—	—	—	○	—
八幡平農業改良普及センター	—	○	—	—	—	○	○
奥州農業改良普及センター	—	—	—	—	—	○	○
一関農業改良普及センター	—	—	—	—	—	○	—
宮古農業改良普及センター	—	—	—	—	—	○	—
久慈農業改良普及センター	—	—	—	—	—	○	○
二戸農業改良普及センター	—	—	—	—	—	—	○

b 協議事項

- (a) 平成23年度試験研究課題の試験設計について
- (b) その他

★ リンドウこぶ症に関する課題は、第3回内部検討会議(リンドウこぶ症連携プロジェクト)で検討

a 開催日 平成23年3月2日(水) 14:30～

b 協議事項等

- (a) 平成22年度の実績について
- (b) 平成23年度の計画について
- (c) その他

c 参集範囲

(財)岩手生物工学研究センター、農産園芸課、中央農業改良普及センター(県域)
農業研究センター所長、各部長、各研究所長

(イ) 第3回内部調整会議

平成23年東北地方太平洋沖地震及び津波(東日本大震災津波)の影響により開催中止

エ 岩手県農業技術開発会議

(ア)第1回

- a 開催日 平成22年5月10日(月) 15:00～17:00
- b 協議
 - (a) 農業研究センター試験研究推進計画について
 - (b) 試験研究要望課題の収集等の見直し(地域農業の技術的課題を地域で解決する方策(案)との関係)について
 - (c) 技術開発に係る県以外の機関との連携について
 - (d) その他
- c その他
- d 参集範囲
(財)岩手生物工学研究センター
農政担当技監、農政関係各室課、生物工学研究所、農業大学校、中央農業改良普及センター
農業研究センター所長、各部長、各研究所長、各研究所次長、プロジェクト推進室長

(イ)第2回

- a 開催日 平成23年2月2日(水) 15:00～17:00
- b 議事
 - (a) 農業研究センターにおける技術開発について
 - (b) 生物工学研究センターにおける技術開発について
 - (c) 研究成果の活用方策と普及定着について
 - (d) 地域希望農業技術サポート会議の取組状況
 - (e) 試験研究機関における国際交流について
 - (f) その他
- c 参集範囲
(財)岩手生物工学研究センター
農政担当技監、農政関係各室課、生物工学研究所、農業大学校、中央農業改良普及センター
農業研究センター所長、各部長、各研究所長、各研究所次長、プロジェクト推進室長

オ 外部評価委員

所属部会	氏名	役職名	出席者	
			第1回	第2回
農産	星野 次汪	岩手大学農学部寒冷フィールドサイエンス教育研究センター 教授	○	
	関野 幸二	(独)東北農業研究センター東北地域活性化研究チーム長	○	○
	土屋 一成	(独)東北農業研究センター東北飼料イネ研究チーム 上席研究員	○	○
	高橋 信	(有)「高橋農産」代表取締役・岩手県農業農村指導士・いわて直播栽培米研究会会長	○	○
	小野 正一	農事組合法人アグリパーク舞川専務理事、岩手県農業農村指導士	○	○
	岩崎 隆	岩手県青年農業士	○	○
	石母田れい子	岩手県農業農村指導士	○	○
	千葉 丈	全国農業協同組合連合会岩手県本部営農対策部 次長兼営農技術課長	○	○
	小森 貞男	(国)岩手大学農学部農学生命課程准教授	○	○
園芸 (果樹)	阿部 和幸	(独)果樹研究所リンゴ研究チーム チーム長	○	○
	小岩 克宏	岩手県農業農村指導士、岩手県果樹協会 副会長	○	○
	岩渕 壽子	岩手県農業農村指導士	○	○
	菅原 榮一	岩手県農業農村指導士	○	○
	稲本 勝彦	(独)東北農業研究センター寒冷地野菜花き研究チーム 主任研究員	○	○
園芸 (花き)	遠藤 満	八幡平市花き研究開発センター 主任技師	○	○
	高橋 俊一	(株)T&Gバイオナーサリー 代表取締役社長	○	○
	新里 光子	岩手県農業農村指導士	○	○
園芸 (野菜)	森下 昌三	(独)東北農業研究センター夏秋どりイチゴ研究チーム チーム長	○	○
	門田 育生	(独)東北農業研究センター寒冷地野菜花き研究チーム 上席研究員	○	○
	橋本 正成	(株)銀河農園 代表取締役	○	○
	照井 勝也	全国農業協同組合連合会岩手県本部園芸部 次長	○	○
畜産	小田 伸一	岩手大学農学部動物科学課程 准教授	○	○
	御子柴 義郎	(独)東北農業研究センター 研究管理監	○	○
	白戸 綾子	(独)家畜改良センター岩手牧場 場長		○
	及川 欣一	岩手県農業農村指導士	○	○
	千葉 一幸	岩手県農業農村指導士	○	○
	小原 俊英	全農岩手県本部畜産酪農部 次長	○	○
	富手 研司	(社)岩手県畜産協会経営支援部 部長	○	○
			27 名	27 名

内訳別	人数
A 学識経験者	12名
B 農業者	12名
C 農業関係団体職員	4名
D 外部検討会議の議長が特に必要と認めるもの	
合計	28名

部会別	人数	主な分野
(1) 農産部会	8名	水稲、畑作、生産工学など
(2) 園芸部会	13名	果樹、野菜、花きなど
(3) 畜産部会	7名	畜産全般
合計	28名	

(2) 企画運営会議、全体会議の概要

開催月日	場 所	内 容(協議事項等)
22.04.09(金)	特別会議室	(第1回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 特定課題検討チーム、連携プロジェクトチームについて 2 連絡事項 (1) H22競争的研究資金の応募課題採否状況について (2) 平成22年度試験研究課題の最終調整結果について (3) 試験研究推進に係る諸規定及び外部評価委員の確認について (4) 災害発生時における職員配備体制及び非常召集連絡系統図について (6) 県庁各課との業務打合せについて (7) 農研センターHPのH21年度月別・項目別アクセス数 (8) 各部長・研究所長からの情報提供等 (9) 4月、5月の行事予定及び年間スケジュールについて
22.04.09(金)	大会議室	(全体会議) ○第1部 (室課長、チーム長、転入者等) (1) 試験研究推進に係る諸規程について (2) 「岩手県農業研究センターにおける研究活動に係る経費の管理・監査の実行方針」及び「岩手県農業研究センターにおける研究費等に関する不正防止計画」について (3) 予算執行に係る留意事項等について (4) 情報セキュリティ対策の徹底について ○第2部 (全職員) (1) 農林水産技術立県いわて技術開発基本方針等について(農業普及技術課) (2) 農業研究センター研究推進計画及び平成22年度業務方針について(農業研究センター) ア 農業研究センター研究推進計画 イ 組織のプロフィール、基本方針、職員の資質向上 ウ 各部・研究所の業務方針 (ア) 企画管理部 (イ) 技術部 (ウ) 環境部 (エ) 病虫害防除部 (オ) 畜産研究所 (カ) 県北農業研究所 (キ) プロジェクト推進室
22.04.22(木)	特別会議室	(第2回企画運営会議) 1 協議事項 (1) H22競争的研究資金事業等の研究課題について 2 連絡事項 (1) 特定課題検討チーム、連携プロジェクトチームの編成について (2) 試験研究推進会議及び評価制度見直しについて (3) 研究員等育成研修計画について (4) 県庁各課との業務打ち合わせについて (5) 農業技術開発会議について (6) 「らぼ・れたあ」の4～5月の投稿予定一覧について (7) 各部長・研究所長からの情報提供等 (8) 5月、6月の行事予定について

開催月日	場 所	内 容(協議事項等)
22.05.24(月)	特別会議室	<p>(第3回企画運営会議)</p> <p>1 協議事項</p> <p>(1) 試験研究会議及び評価制度の見直しについて</p> <p>(2) センター所長表彰について</p> <p>(3) りんご品種の特性評価試験の受託について</p> <p>2 連絡事項</p> <p>(1) 県庁関係各課との業務打合せについて(各部・研究所からの報告)</p> <p>(2) 農業・農村指導士との意見交換会について</p> <p>(3) 平成22年度外部研究資金課題の採否及び契約状況について</p> <p>(4) 参観デーの開催について</p> <p>(5) 平成22年度業務方針の進行管理(第1四半期)について</p> <p>(6) 「らぼ・れたあ」の5～6月の投稿予定一覧について</p> <p>(7) 機関評価に係る試験研究機関所長等会議(復命)</p> <p>(8) 各部長・研究所長からの情報提供等</p> <p>(9) 6月、7月の行事予定について</p>
22.06.21(月)	特別会議室	<p>(第4回企画運営会議)</p> <p>1 協議事項</p> <p>(1) 平成22年度 第1回内部検討会議の日程について</p> <p>(2) 試験研究推進会議等の見直しについて</p> <p>(3) 外部評価委員の候補者推薦について(H22単年度)</p> <p>(4) 外部研究資金事業に係る応募・契約等の現況について (ア. 新規応募、イ. 契約状況)</p> <p>(5) 県北農業研究所長表彰の実施について</p> <p>2 連絡事項等</p> <p>(1) 平成23年度新規課題提案時の留意事項(H22終了県単課題の扱い)</p> <p>(2) 農業農村指導士との懇談会に係る対応について</p> <p>(3) センター所長表彰について</p> <p>(4) センター業務方針の主要課題の第一四半期の取り組みについて</p> <p>(5) 現地ふれあい農業研究センターの実施申込み状況について</p> <p>(6) 「らぼ・れたあ」の投稿実績・計画一覧(5～7月)について</p> <p>(7) 月刊「農業普及」の定期記事(研究レポート)の執筆について</p> <p>(8) マスコミへの情報提供について</p> <p>(9) 各部長・研究所長からの情報提供等</p> <p>(10) 7月、8月の行事予定について</p>
22.07.23(金)	特別会議室	<p>(第5回企画運営会議)</p> <p>1 協議事項</p> <p>(1) 内部検討会議に提案予定の平成23年度新規試験研究課題(案)等について</p> <p>(2) 追跡調査の実施について</p> <p>(3) 職員表彰の選考について</p> <p>2 連絡事項等</p> <p>(1) 外部研究資金事業に係る応募・契約等の現況について 併せて9月補正予算要求について</p> <p>(2) 平成22年度参観デーについて</p> <p>(3) 現地ふれあい農業研究センターの実施申込み状況について</p> <p>(4) 「らぼ・れたあ」の投稿予定及び実績について</p> <p>(5) ホームページへのアクセス状況について</p> <p>(6) 各部長・研究所長から情報提供</p> <p>(7) 8、9月の行事予定について</p>

開催月日	場 所	内 容(協議事項等)
22.08.23(月)	特別会議室	(第6回企画運営会議) 1 協議事項 なし 2 連絡事項等 (1) 平成22年度第1回外部検討会議について (2) センター業務方針の重要課題の第二四半期の取り組みについて (3) 平成22年度参観デーについて (4) 現地ふれあい農業研究センターの開催について (5) (東北ハイテク研究会)コーディネーター派遣事業等 (6) 「らぼ・れたあ」の投稿予定及び実績について (7) ホームページへのアクセス状況について (8) 業績顕著者表彰等について (9) 各部長・研究所長からの情報提供等 (10) 9月、10月の行事予定について
22.10.01(金)	特別会議室	(第7回企画運営会議) 1 協議事項 なし 2 連絡事項等 (1) 特定課題調査検討チーム(次期プロジェクト研究課題)の検討結果について (2) 平成22年度試験研究課題に係る現地試験圃場設置状況について (3) 府省及び民間の競争的資金及び獲得のポイントについて (4) 平成22年度予算執行管理及び平成23年度当初予算要求について(作業依頼) (5) マスコミへの情報提供計画(実績)について (6) リエゾン-Iマッチングフェアについて (7) 各部長・研究所長からの情報提供等 (9) 10、11月の行事予定について
22.10.25(月)	特別会議室	(第8回企画運営会議) 1 協議事項 なし 2 連絡事項等 (1) 研究推進計画の見直しについて(進捗状況) (2) センター業務方針の主要課題の第三四半期の取組実績の作成について (3) 平成23年度当初予算要求の概要について(備品を含む) (4) 「らぼ・れたあ」の投稿計画及び実績について (5) センターホームページへのアクセス解析について (6) いわて産学連携協議会(リエゾン-I) マッチングフォーラムの対応について (7) 各部長・研究所長から情報提供等 (7) 11月、12月の行事予定について
22.11.25(木)	特別会議室	(第9回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 平成23年度向け競争的資金への応募課題について 2 連絡事項 (1) 平成22年度第2回内部検討会議について(日程及び提案予定成果について) (2) 平成23年度依頼研究員派遣計画について (3) 研究推進計画(工程表)の見直しについて(新規課題反映等) (4) 平成22年度第2回所長表彰について (5) 平成22年度委託課題研究に係る支出経理等のヒアリング日程について (6) 「らぼ・れたあ」の投稿計画及び実績について (7) 各部長・研究所長から情報提供等 (8) 12月、1月の行事予定について

開催月日	場 所	内 容(協議事項等)
22.12.17(木)	特別会議室	(第10回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 平成22年度向け競争的資金への応募課題について 2 連絡事項等 (1) 「らぼ・れたあ」の投稿計画及び実績について (2) 各部長・研究所長から情報提供等 (3) 1、2月の行事予定について
23.01.24(月)	特別会議室	(第11回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 平成23年度向け競争的資金への応募課題について (2) 第2回農業技術開発会議について 2 連絡事項等 (1) 所長表彰について (2) 試験研究推進計画の見直しについて(進捗) (3) 平成23年度センター業務方針に係る主要課題及び組織運営課題の作成について (4) 平成22年度2月補正予算要求概要について (5) 平成22年度年報原稿等の作成スケジュールについて (6) センターホームページ・アクセス状況について(～第3四半期) (7) マスコミへの情報提供計画(実績)について (8) 各部長・研究所長からの情報提供等 (9) 2、3月の行事予定について
23.02.21(月)	特別会議室	(第12回企画運営会議) 1 協議事項 (1) 平成23年度向け競争的資金への応募課題について (2) 研究会議等の見直しについて(会議及び評価制度) 2 連絡事項等 (1) 第3回内部検討会議について (2) 試験研究推進計画の見直しについて(進捗) (3) 平成22年度2月補正予算及び平成23年度当初予算について (4) ファイル共有ソフトに関する調査の実施結果及び情報セキュリティの徹底について (5) 平成23年度マスコミへの情報提供(プレスリリース)計画について (6) 平成23年度農業研究センター参観デー開催日等について (7) 平成22年度年報原稿等の作成スケジュールについて (8) 研究報告(第12号)の投稿募集について (9) 月刊「農業普及」研究レポートの執筆について (10) 各部長・研究所長から情報提供 ・職員意識調査について (11) 3、4月の行事予定について
—		(第13回企画運営会議) 中止 (東日本大震災のため)

(3) 委員会等の運営

ア ほ場管理委員会

開催月日	活動事項	内容
22.04.08	作業部会打ち合わせ	○作業部会「ほ場使用及びほ場作業調整」の年間計画 ○平成22年度の岩手県農業公社への作業委託内容 ○水路掃除 ○圃場利用計画、E地区水稻育苗ハウスの利用計画 ○圃場用水の利用計画 ○E地区水稻育苗ハウス周辺の揚水ポンプの稼働
22.04.12	水田関係 E地区水田等水路泥上げ、圃場周辺のゴミ拾い	○E地区排水路、水稻育種研究室耐冷性検定圃場の泥上げ作業 ○E地区圃場周辺の環境美化、ゴミ拾い作業 ○育苗ハウス当番打ち合わせ
22.04.23	技術部圃場管理打ち合わせ	○当面する作業予定について(調整) ○その他技術部に関わる圃場の管理について
22.05.28	技術部圃場管理打ち合わせ	○当面する作業予定について(調整) ○その他技術部に関わる圃場の管理について
22.06.02	水田関係	○本田水管理にかかる打ち合わせ
22.07.30	技術部圃場管理打ち合わせ	○当面する作業予定について(調整) ○その他技術部に関わる圃場の管理について
22.08.05	圃場説明会	○当年度の圃場試験に係る職員説明会
22.09.17	水田関係圃場管理打合せ	○秋作業の計画と調整
22.10.01	技術部圃場管理打ち合わせ	○当面する作業予定について(調整) ○その他技術部に関わる圃場の管理について
22.10.29	技術部圃場管理打ち合わせ	○当面する作業予定について(調整) ○その他技術部に関わる圃場の管理について
22.12.20	圃場周辺のゴミ拾い等	○野鼠防除 ○圃場周辺の環境美化、ゴミ拾い作業
23.02.25	技術部圃場管理打ち合わせ	○当面する作業予定について(調整) ○その他技術部に関わる圃場の管理について

イ 図書管理委員会

ウ 研究報告等企画編集委員会

- (ア)委員会
- (イ)幹事会

平成22年度は未開催

エ 参観デー等企画運営委員会

(ア)委員会

開催月日	場所	内容
H22.8.30	本部2階小会議室	【第4回幹事会と同時開催】 (1) 平成22年度岩手県農業研究センター本部参観デーの運営について ア 本部参観デーマニュアル(案)について イ 準備作業等について (2) 生物学研究所一般公開について (3) その他

(イ)幹事会等

(本部関係)

開催月日	場所	内 容
H22.7.1	本部1階小会議室	(1) 平成22年度岩手県農業研究センター本部参観デー開催計画について ア 平成21年度の反省点について イ 開催計画について(イベント、人員配置、必要資材など) ウ 今後のスケジュール(予定)について (2) 第65回岩手県全国農業機械実演展示会における農事・営農相談コーナーの設置について (3) 生物工学研究所一般公開について (4) その他
H22.7.16	本部1階小会議室	(1) 平成22年度岩手県農業研究センター本部参観デー開催計画について ア 開催計画について(イベント、人員配置、必要資材など) イ 今後のスケジュール(予定)について (2) 生物工学研究所一般公開について (3) その他
H22.8.6	本部2階小会議室	(1) 平成22年度岩手県農業研究センター本部参観デー開催計画について ア 開催計画について イ 今後のスケジュール(予定)について (2) 生物工学研究所一般公開について (3) その他
H22.8.30	本部2階小会議室	(1) 平成22年度岩手県農業研究センター本部参観デーの運営について ア 本部参観デーマニュアル(案)について イ 準備作業等について (2) 生物工学研究所一般公開について (3) その他
H22.9.1	本部 2階中会議室	平成22年度岩手県農業研究センター本部参観デー全体説明会 (1) 平成22年度岩手県農業研究センター本部参観デー開催計画について ア 本部参観デーのイベントについて イ 準備作業等について (2) 生物工学研究所一般公開について (3) その他

(畜産研究所関係)

開催月日	場所	内 容
22.8.4	セミナー室	平成22年度参観デー (1)日程について (2)開催期間中の人員について (3)開催内容について
22.8.9	セミナー室	(1)実施体制・今後のスケジュールについて (2)体験コーナー内容について (3)会場配置について (4)開催内容について
22.8.26	セミナー室、会場テント	(1)平成22年度参観デー展示物確認 ・パネルおよび配布資材の搬入展示

(県北農業研究所関係)

開催月日	場所	内 容
22.5.11	ミーティング室	(1)平成22年度参観デー合同開催について (2)今後の進め方及びスケジュールについて
22.6.10	ミーティング室	(1)平成22年度参観デー実行委員会設置について (2)準備状況について
22.7.1	ミーティング室	(1)事業計画について (2)ポスターについて (3)クイズラリー、雑穀試食クイズについて (4)雨天時対応と会場配置について (5)今後のスケジュールについて
22.8.25	ミーティング室	(1)平成22年度参観デーに係る最終確認について (2)その他

オ 特許審査委員会 平成22年度は未開催

カ 備品導入検討委員会

開催月日	場所	内 容
22.04.23	特別会議室	1 協議事項 (1) 平成22年度の備品購入について(6件)
22.05.26	持ち回り審議	1 協議事項 (1) 人工光形グロースキャビネットの購入について
22.10.06	特別会議室	1 協議事項 (1) 平成22年度の備品購入について(3件) (2) 平成22年度2月補正及びH23年度当初研究用備品更新需要調査結果の報告

キ 岩手県立農業ふれあい公園管理運営委員会

開催月日	場 所	内 容
22.07.29	特別会議室	協議 (1)平成21年度管理運営報告について (2)平成22年度事業計画(案)について

ク 環境美化委員会

開催月日	場 所	内 容
22.04.07	2階小会議室	協議 (1)平成21年度環境美化事業報告について (2)平成22年度環境美化事業計画(案)について

ケ 職員衛生委員会

開催月日	場 所	内 容
22.06.29	応接室	議題 (1)平成21年度事業実績について (2)平成22年度事業計画(案)について
22.10.29	応接室	議題 (1)平成22年度定期健康診断の結果について (2)労働安全衛生立入指導の結果について

コ 原種等生産管理委員会

開催月日	活動事項	内 容
22.07.02	第1回委員会	○本年の重点取り組み事項 水稲「クリーン種子」緊急確保対策事業(農産園芸課令達)の確認 …水稲原種周辺圃場のばか苗対策 ○生産計画 ○関係様式の確認 ○規程整備 ○原種等生産管理委員会設置要領
22.07.22 ～23	東北6県主要農作物原種 原々種生産にかかる情報 交換会(青森県)	○作物研究室佐々木力室長、同伊藤信二専門研究員派遣 ○東北各県の主要農作物の生産状況 ○意見交換
22.08.11	第1回外部審査	○水稲原種・原々種外部審査(出穂期)
22.09.06	第2回外部審査	○水稲原種・原々種外部審査(糊熟期)
23.01.19	第3回外部審査	○水稲原種・原々種外部審査(生産物)
23.02.18	第2回委員会	○22年度の実績について ○23年度の計画について

(4) その他会議

ア 全国農業関係試験研究場所長会議

開催月日	場 所	内 容
22.6.17 ～18	青森県弘前市・黒石市	参加者:企画管理部長 全国農業関係試験研究場所長会議総会・現地検討会 1 平成22年度全国農業関係試験研究場所長会議通常総会 2 平成22年度研究功労者表彰式 3 平成22年度全国農業関係試験研究場所長会議現地検討会 (1) 基調講演 演題 農林水産省における産学連携の推進 講師 農林水産技術会議 産学連携室長 講演 演題 (地独)青森県産業技術センターの設立について 講師 (地独)青森県産業技術センター理事長 (2) 現地視察 ① (地独)青森県産業技術センターりんご研究所(黒石市) ② (地独)青森県産業技術センター農林総合研究所(黒石市) ③ 不耕起V溝直播農家(青森市)

イ 東北地域農業関係試験研究場所長会議

開催月日	場 所	内 容
22.5.27 ～28	秋田県大潟村	参加者:技術部長 1 協議 (1) 環境にやさしい農産物生産技術等に関する試験研究の取組みについて (2) 全国農業関係試験研究場所長会議に向けた課題の協議について 2 情報交換 (1) 各県試験研究機関の連携等について 3 現地検討会 (1) 秋田県ソフトセルロース利活用プロジェクト 収集運搬実証ほ場(大潟村) (2) 同上プロジェクト エタノール製造実証プラント(潟上市) (3) 秋田県花き種苗センター(潟上市)

ウ 全国畜産関係試験研究場所長会議

開催月日	場 所	内 容
22.06.22	東京都	1 通常総会 (1) 平成21年度事業報告及び収支決算について (2) 平成22年度事業計画及び収支予算について (3) 平成22年度会費の額及び徴収方法について (4) その他 2 畜産研究功労賞表彰

エ 全国畜産関係場所長会北海道・東北ブロック会議

開催月日	場 所	内 容
22.9.13 ～14	山形県	1 開 会 2 挨拶 3 議 題 (1)重点研究課題、連携(共同)研究の実施について (2)国・独立行政法人に対する提案事項について (3)新たな農林水産施策を推進する実用技術開発事業の研究領域設定型又は現場提案型研究の採択に関する地方農政局との協力について (4)優秀畜産技術者表彰候補者の推薦について (5)畜産研究功労者表彰候補者の推薦について (6)役員改選・次回開催地について (7)その他 4 現地視察 「山形県食肉公社」(山形市)

オ 岩手県試験研究機関評価に係る公設試所長等会議

開催月日	場 所	内 容
22.5.18	盛岡市(エスポワールいわて)	試験研究機関所長等会議 (1)試験研究機関における機関評価の実施方法の見直し(案)について (2)岩手県研究開発推進連絡会議について
22.6.10	盛岡地区合同庁舎	公設試機関評価に係る担当者会議
22.7.2	(文書照会「科も第77号」)	岩手県試験研究機関にかかる機関評価及び研究評価ガイドラインについて
22.8.31	(文書通知「科も第99号」)	岩手県試験研究機関に係る機関評価及び研究評価ガイドラインの改正について

カ 岩手県農作物病害虫・雑草防除指針検討会議

開催月日	場 所	内 容
22.9.14	盛岡市(エスポワールいわて)	防除指針作成会議(農業普及技術課主催): 作成に係る基本方針の周知等
22.11.1～2	農業研究センター会議室	分科会(農業普及技術課主催): 防除指針の原案及び要望事項の検討
22.12.22	農業研究センター会議室	○平成23年度県防除指針の改正内容について(病害虫防除所主催): チェック結果の妥当性の検討
23.2.4	盛岡市(エスポワールいわて)	防除指針作成会議(農業普及技術課主催): 防除指針(案)の決定

キ 東北農業試験研究推進会議

開催月日	場 所	内 容
【作物推進部会】		
22.8.31～9.1	秋田県秋田市他 (秋田県農林水産技術センター)	○畑作物研究会 1 畑作物研究会:難防除雑草の侵入と拡大を水際で防ぐためには 2 各県の畑作物生育概況
22.9.1	盛岡市 (東北農業研究センター)	○東北地域麦・なたね品種・検討検討会 1 麦・なたねの有望品種・系統及び新配布系統の成績検討
22.9.9～10	福島県農業総合センター	○東北地域水稲品種立毛検討会 1 水稲育成系統等の試験実施状況の視察及び立毛観察調査
22.9.9～10	山形県鶴岡市 (鶴岡ワシントンホテル)	○直播研究会 1 東北地域の直播栽培の現状について 2 各県における水稲直播栽培等の取組状況及び今後の推進方策等について 3 各県における水稲直播栽培導入事例 4 水稲直播栽培の試験研究に関する情報提供 ・「飼料自給率の向上を目指した飼料用イネの湛水直播栽培技術」 ・「飼料用米の低コスト・多収生産技術の確立」
22.9.16	青森県十和田市	○東北ソバ研究会 1 東北のそばの現状と課題～東北産そばの単収・品質の向上に向けて～
23.1.27	秋田県大仙市 (グランドパレス川端)	○東北地域水稲品種・系統検討会 1 研究成果情報(稲育種)の検討 2 品種の作付け動向と要望される品種 3 奨励品種決定調査関係の検討 4 新配布系統の紹介 5 育種関係情報交換 ○稲栽培研究会 1 検討課題「2010年産米の品質低下要因と対策技術」の検討 2 研究成果情報候補課題の検討 ○畑作物栽培研究会 1 検討会①「拡充される戸別所得補償政策に対応する畑作物栽培技術」 2 検討会②「高温・乾燥条件における夏畑作物の生育・収量と対策技術」 3 主要研究成果候補の検討 4 その他
23.1.28		○畑作物品種検討会 1 夏畑作物品種系統の検討 2 ハトムギ・ソバ・雑穀等育種成績の検討 3 各県の研究実施状況の報告 作物部会 本会議 1 試験研究の検討・評価 (1) 主要研究成果候補の検討 (2) 「農業新技術20XX」候補の検討 (3) 「1.5年プロ」候補の検討 2 重点検討事項「気象変動の状況とそれに対応した作物生産」 3 次年度重点検討事項候補課題 4 地域連携プロジェクト応募を予定している課題の検討 5 その他

開催月日	場 所	内 容
【基盤研究推進部会】		
22.7.22	盛岡市 (東北農業研究センター)	○東北地域農業経営研究会(夏期) 1 環境保全という視点を入れた技術の経営評価
22.7.29～30	山形県上山市(かみのやま温泉月岡ホテル 他)	○土壌肥料研究会(夏期) 1 家畜ふん堆肥等の肥料成分の評価と利用に関する研究の現状と課題
22.08.19 ～20	青森県黒石市他 (青森産技・農林総合研究所)	○作業技術研究会(夏期) 1 地域資源を活かした低コスト栽培システムに関する各県の研究・取組事例の紹介
22.8.26～27	二戸市他	○病害虫研究会 1 地域農業活性化のための病害虫管理の問題点
23.1.25～26	盛岡市 (東北農業研究センター)	○土壌肥料研究会: 1 研究成果情報の検討 2 重点検討事項「東北地域における農耕地土壌の現状と課題」の検討 3 その他
	盛岡市(アイーナ)	○病害虫分科会 病害研究会 1 研究成果情報の検討 2 平成22年度試験研究成績の検討
		○病害虫分科会 虫害研究会 1 研究成果情報の検討 2 平成22年度試験研究成績の検討
23.1.25～26	盛岡市 (東北農業研究センター)	○作業技術研究会 1 研究成果情報の検討 2 重点検討事項「東北農業の経営改善に寄与する工学的新技術」の検討 3 県が国に解決を要望する課題「ほ場レベルでの排水性を判断する際の客観的 判断基準の策定」の検討
		○経営研究検討会 1 研究成果情報の検討 2 「農業新技術2012」および「1.5年プロ」候補の選定 3 重点検討事項「今後取り組むべき経営研究課題」の検討 4 夏期研究会の次年度開催計画の検討 5 その他
23.1.26		○農業気象研究会 1 研究成果情報の検討 2 重要検討事項「2010年の異常高温の影響について」の検討
23.1.25		○流通加工研究会 1 情勢報告 2 検討課題「食品安全性研究の現状と課題」 3 研究成果情報の検討 4 その他
23.1.26		基盤研究推進部会 1 平成21年度主要研究成果の選定 2 重点検討事項「基盤技術推進部会のあり方」の検討 3 「地域連携プロジェクト」の検討 4 現場段階での重要な技術的課題への取り組み 5 県が国・独立行政法人に解決を要望する課題及び共同研究を要望する課題 6 各県からの情勢報告

開催月日	場 所	内 容
【畜産推進部会】		
(夏季は中止)		畜産研究会 :国内口蹄疫発生を鑑みて中止
23.1.27～28	盛岡市 (サンセール盛岡)	畜産推進部会 1 試験研究の検討・評価 2 重点検討事項「東北地域のける特色ある牛肉生産の展望」 3 現場段階での重要な技術的課題への取り組み 4 次年度重点検討事項候補課題:水田フル活用等による自給飼料の生産と利用 5 「地域連携プロジェクト」課題案の検討:「飼料用トウモロコシにおけるフザリウム属かび毒含量の品種間差と地域間差の把握」
23.1.28		○牧草飼料作物優良品種選定ネットワーク推進会議 1 飼料用トウモロコシ品種の選定試験 2 優良品種選定試験 3 話題提供「フザリウムかび毒の品種間差・地域間差に関する共同研究」
【野菜花き推進部会】		
22.7.22～23	秋田市 (ふきみ会館)	○野菜研究会 1 水田の高度利用による露地野菜の生産安定
22.8.24～25	八幡平市	○花き研究会 1 東北の花きにおける地域の要望に対する新たな取り組みと技術シーズ
23.1.24～25	盛岡市 (東北農業研究センター)	○野菜研究会 1 重点検討事項「東北地域の野菜栽培における異常気象の影響と対策」 ○花き研究会 1 重点検討事項「これからの『花産業』に向けた新たな試験研究方向」
23.1.25	東北農業研究センター	野菜花き推進部会 1 試験研究の検討・評価 2 重点検討事項「野菜花き推進部会の今後のあり方について」の検討 3 研究成果情報候補課題の採択 4 現場段階での重要な技術的課題の検討 5 平成23年度東北農業試験研究「地域連携プロジェクト」提案課題の検討
【果樹推進部会】		
22.6.9	福島市(福島県農業総合センター)	○果樹研究会 1 オウトウの平棚仕立てにおける低樹高・省力栽培
23.1.20～21	盛岡市(労働福祉会館)	果樹推進部会 1 重点検討事項 (1)寒冷地果樹における今年度の顕著な春季低温・夏季高温等異常気象の影響と対策 (2)果樹農業振興基本方針の策定と研究推進方向 2 現場段階での重要な技術的課題の抽出と検討 3 平成22年度研究成果情報の検討・評価 4 主要新規試験研究計画の検討(競争資金応募課題等を含む) 5 今後の会議運営
【評価企画会議】		
22.8.18	盛岡市 (東北農業研究センター)	第1回評価企画会議 1. 農業新技術2011候補の抽出 2. 東北農業新技術実用化促進プロジェクト(1.5年プロ)実証技術候補の抽出 3. 国の施策で対応すべき技術的課題候補の抽出 4. 地域連携プロジェクトに対する意見 5. 重点検討事項の抽出 6. 競争的研究資金獲得の取り組み 7. 県間連携のあるテーマの抽出 8. その他

開催月日	場 所	内 容
23.02.03	盛岡市 (東北農業研究センター)	第2回評価企画会議 1 評価企画会議及び本会議の運営について 2 推進部会での検討の報告 3 現場段階での重要な技術的課題の抽出と検討 4 主要研究成果の評価及び公表について 5 その他
【本会議】		
23.02.04	盛岡市 (東北農業研究センター)	1 重点検討事項の検討 「東北農業試験研究推進会議の今後の進め方について」 (1) 東北農業研究センターの考え方 (2) 各県からの意見 (3) 討論 2 その他

ク 東北地域研究・普及連絡会議

開催月日	場 所	内 容
22.9.17	東北農政局	参加者:所長 1 「国の施策で対応すべき技術的課題」候補等の選定について 2 「農業新技術2011」候補の選定について 3 「東北農業新技術実用化促進プロジェクト(1.5年プロ)」実証技術の選定について 4 その他

ケ 県内で開催された関係学会

開催月日	場 所	学 会 名 ・ 内 容
22.01.25～26	マリオス	東日本受精卵移植研究会大会

コ 北東北3県農業試験研究センター企画経営室長会議

開催月日	場 所	内 容
22.9.28	青森県黒石市 (地独)青森県産業技術センター	参加者:研究企画室長 1 平成22年度の研究職員交流の経過報告について 2 平成23年度の研究職員交流の進め方について 3 北東北3県試験研究機関における連携について 4 情報交換

試験研究の推進

1 研究活動の概要

県では、平成21年度から平成30年度までの10年間の計画となる「いわて県民計画」を平成21年12月に策定した。この「いわて県民計画」に基づき、農林水産部では、農林水産分野の長期的な技術開発の方針として『農林水産技術立県いわて』技術開発基本方針（以下「技術開発基本方針」という。）を策定した（平成22年3月）。

この方針をうけ、農業研究センターは平成26年度までに取り組む具体的なアクションプラン「岩手県農業研究センター試験研究推進計画」を策定し（平成22年3月）、以下の6つの農業技術開発の方向に基づき、県民ニーズにあい、時代を先取りした試験研究に取り組んだ。

- 1 もうかる農業経営体の育成に向けた技術開発
- 2 安全・安心を基本とした産地形成に向けた技術開発
- 3 クオリティマネジメントによる日本一の畜産県に向けた技術開発
- 4 いわてブランド確立を推進する高付加価値化技術の開発
- 5 農業生産の持続的発展のための生産環境技術の開発
- 6 バイオマスの有効利用技術の開発

試験研究の推進にあたっては、以下の4つの基本方針に沿って取り組んだ。

- ①「農林水産技術立県いわて」の確立のため、「試験研究推進計画」に基づいた顧客等の視点に立った試験研究の着実な推進
- ②プロジェクト推進室、プロジェクトチーム（県北振興連携チーム、リンドウこぶ症対策チーム）などの活動による農林水産部重点施策の推進に資する技術的確かかつ迅速な開発
- ③研究の課題化や成果に対し顧客の意見を直接反映する仕組みの構築と行政や普及組織、生産者等と密接に連携し、アウトカムを意識した技術開発と成果の早期提供
- ④県内外の大学、独立行政法人、公設試験場、民間企業との連携や共同研究の実施及び外部研究資金の積極的な導入
- ⑤限られた研究資源の中で効率的な技術開発を行うための、研究員等育成プログラムに基づく職員の計画的な育成とスキルの向上

平成22年度は、19の試験研究分野56の取り組み内容から、新規32、継続97、合計129の研究課題に取り組んだ。これらの試験研究の推進にあたっては、専任体制（プロジェクト推進室）とプロジェクトチーム及び基盤研究部門とが一体となり、現地に密着した研究に取り組み、普及組織と連携しながら技術開発段階から技術の迅速な普及・定着化にも取り組んだ。

本センターが初めて中核機関となる平成22年度新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業が採択され、（地独）青森県産業技術センター及び（財）岩手生物工学研究センターとともに「北東北地域における非主食用多用途多収イネの品種開発と省力栽培技術の開発」に係る共同研究にも着手した。

これらの研究から得られた成果は、内部・外部（外部評価委員、生産者）の評価を経て、93の研究成果（普及区分16、指導区分39、行政区分13、研究区分25）にとりまとめた。

また、予算面では、競争的資金へ積極的に応募するとともに、応募課題内容のブラッシュアップなどにより採択率の向上を図り、初めて一億円を越える資金を獲得した。

2 トピックス

(1) 特許・品種登録出願状況

区分	出願内容	担当
特許	樹皮繊維培土の製造方法及び樹皮繊維培土 (出願中)【特願 2010-164641(2010/7/22)】	技術部 南部園芸研究室 (共同出願:葛巻林業株式会社)
種苗登録	<p>稲</p> <p>あけのむらさき(岩手紫 76 号) 第 20,710 号、2011/3/18 ・玄米の表面(糠)にアントシアニン(ポリフェノールの一種)を有する紫黒うるち米。</p> <p>吟さやか(岩手酒 79 号) 第 20,711 号、2011/3/18 ・易消化性タンパクであるグルテリン含量の少ない酒造好適米。</p> <p>ゆきおとめ(岩手 80 号) 第 20,712 号、2011/3/18 ・普通米に比べアミロース含量が低く、冷めても粘りがあり、弁当やおにぎりなどの加工に好適。</p> <p>かぐやの舞(岩手香 84 号) 第 20,350 号、2011/2/15 ・ポップコーンや枝豆のような芳香を有し、だんごや菓子への利用が可能。</p> <p>つづみ星(岩手巨胚 87 号) 第 20,351 号、2011/2/15 ・胚芽が通常の米の約 2 倍の大きさと、米油(脂質)含量が普通米の約 1.5 倍あり、健康食品の素材として利用が可能。</p> <p>つぶゆたか(岩南 29 号) 第 20,716 号、2011/3/18 ・「ひとめぼれ」熟期の県中南部向け非主食用多収品種。</p> <p>つぶみのり(岩手 85 号) 第 20,535 号、2011/3/9 ・「あきたこまち」熟期の県中北部向け非主食用多収品種。</p>	技術部 作物研究室
種苗登録	ぶどう 岩手3号 【登録出願 2010/7/2】 ・耐寒性が強く食味良好な赤色・大粒種ぶどう	技術部 園芸研究室
	りんどう いわた DPB1 号(A4PB No.34-25) 【登録 2011/2/15】 ・A4 菌により作出されたわい性リンドウ	技術部 園芸研究室 (財)岩手生物工学研究センター)
	ももずきんちゃん(花研鉢2) 【登録 2011/1/25】 ・親株無加温で 8 月下旬から出荷できる鉢物リンドウ	技術部 園芸研究室

(2) 表彰等受賞状況

ア 平成 22 年度研究功労者表彰(全国農業関係試験研究場所長会)

農業技術、経営の研究に顕著な業績を表彰してその功労に報い、併せて試験研究場所の研究活力を高め、農業技術の発展に資することを目的に、全国農業関係試験研究場所長会が行っている研究功労者表彰を受けた。

- ①被表彰者：八幡平農業改良普及センター 及川一也 所長(前・プロジェクト推進室長(水田農業))
- ②表彰事績：転換畑ダイズ栽培技術及び水稻湛水直播栽培技術の開発と普及

東北地方における水田農業の大規模化に伴い、安定的な生産を省力、低コストのもとで実現するという新たな課題について、以下の技術開発を行った。

(1) 転換畑ダイズの高能率低コスト栽培技術開発

東北地方の水田転換畑では、耕うん同時畦立てによるダイズの湿害回避技術が開発導入されているが、作業機が重いため作業能率や作業機にかかる費用が課題であった。そこで、東北地方の水田農家が一般的に所有する代かきハローを用いて、作業能率が高くコストが低い「ダイズ小畦立て播種栽培技術」を開発した。この技術により、ダイズの初期生育が向上し、収量が平均約 10% 多くなる。また、作業能率が 2~4 時間/ha と高く、改良費用が安いことが特徴である。岩手県内で 865ha、東北全体で 1,345ha(2008 年)にこの技術が普及している。

(2) 水稻湛水直播栽培における作溝同時直播技術

東北地方の湛水直播栽培の収量が移植栽培に比べて低い原因のひとつが圃場内の滞水による出芽不良であった。そこで、直播機のフロート底部に取り付ける作溝装置(特願 2008-304112)による「作溝同時直播技術」を開発した。この技術により圃場内の周辺部や凹部の落水を促して出芽不良を解消し、収量の確保が容易になり、作業能率も低下しない。本技術は開発されたばかりであるが、技術実証を通じて生産者や普及機関と共に普及を始めている。

ところである。

イ 平成 22 年度事績顕著表彰(岩手県職員表彰)

当センターの職員を中心とするグループが、職務に関し有益な研究、発明、改良又は工夫を行ない、著しい業績をあげたとして、事績顕著表彰を受けた(平成 22 年 10 月 25 日)。

- ①被表彰者：農林水産部農業振興課 高橋良学 主任(元・生産環境部土壌作物栄養研究室専門研究員)
岩手県農業研究センター 小菅裕明 生産環境研究室長
岩手県農業研究センター 大友英嗣 主任専門研究員
(農林水産部農業普及技術課 小林卓史 主任主査)
- ②表彰事績：簡易土壌分析システムの開発・製品化による新たな土壌診断体制の構築

簡易土壌分析システムを開発・製品化させ、従来、高度な専門的知識を有する技術者が行っていた土壌分析を、生産者自らが容易に行うことを可能としたことに加え、施肥判定シートを作成し、過剰施肥を回避する新たな土壌診断体制を構築し、本県農業の振興に貢献した。

被表彰者の高橋主任が、旧生産環境部土壌作物栄養研究室(現・環境部生産環境研究室)在籍時に開発し、特許登録された「汎用機器のフラットベッドスキャナーを測定器として用い、色の輝度から物質量を測定する手法」(特許第 4258780 号、「物質の成分推定装置」)を基に、当センターの2名と(有)イグノス(北上市)との共同研究により、簡易土壌分析システムを開発した。

製品化にあたっては、(有)イグノスと共同で、富士平工業(株)(東京都)及び(株)ケット科学研究所(東京都)に対して、簡易測定用試薬や機器・機材の提供と販売への協力を取り付け、民間企業 3 社による販売体制を確立した。

さらに、ユーザーが分析結果を施肥設計に反映できるように、当該機専用の「施肥判定シート」及び「施肥設計支援シート(水稲用)」を作成した。

以上の取り組みは、農林水産部農業普及技術課における「施肥低減体系緊急導入促進事業」を活用したシステムの導入促進や適正な施肥管理を助言、指導し、その取り組みを推進する「施肥設計アドバイザー」の活動によって、これまで専門性が高かった土壌分析を農家にとって身近な技術に転換する新たな土壌診断体制の構築に発展した。

(3) 特定課題調査検討チームによる検討及び連携プロジェクトによる研究推進

ア 特定課題検討チーム*

(*多岐にわたる課題あるいは今後重要と見込まれる事項について、研究的観点から整理)

(ア)今年度の取り組み概要

チーム名 【チーム構成】[検討時期]	検討項目	検討結果
次期プロジェクト研究課題 【農研セ】 チーム長:企画管理部長 [H22.4~H22.9]	①プロジェクト推進研究の現状・課題と対応の方向 ②プロジェクト推進研究の定義 ②次期プロジェクト推進研究課題	①平成 20~22 までのプロジェクト推進研究のメリットとデメリットを整理し今後のあるべき姿について提案 ②プロジェクト推進研究を定義し組織体制と研究予算について提案 ③次期プロジェクト研究課題候補として 3 つのプロジェクトからなる研究課題を提案 ※企画運営会議で説明し、報告書として取りまとめ

(イ)具体的な検討内容

平成 20 年度に発足したプロジェクト推進室(水田農業、特裁・有機)は、当初予定した研究目標をほぼ達成したことから、次期プロジェクト研究のあり方と次に取り組むべき研究課題の検討を行った。5回の検討会を行い、これまでの現状を踏ま

え、プロジェクト推進研究のメリットとデメリットを検討し、今後のあるべき方向を明確化した。併せて、これまでの活動を踏まえて、あるべきプロジェクト研究の姿をあらためて定義した。

プロジェクト推進研究の定義

1 プロジェクト推進研究のあり方(基本方針)

県政の戦略的政策課題に迅速かつ的確に対応し、現場密着型の技術開発により、複数の研究分野にまたがる研究課題を短期間に解決して成果の早期還元を図るため、専門的な知識を有する研究員を招集して研究室を設置し、専任体制で取り組む研究

2 プロジェクト推進研究の組織体制

- (1) プロジェクトのマネージメントを明確化し、研究管理者及び研究運営責任者を配置すること
- (2) プロジェクト推進室を設置し、課題に関連した専門的な知識を有する研究員を招集し、専任体制とすること
- (3) 原則として、研究期間中の研究員の異動は行なわないこと
- (4) 必要に応じ、プロジェクト推進室に研究担当主査を配置し、基盤研究部門との共同研究を行なう連携プロジェクト体制(予算を含む)がとれること

3 研究予算のあり方

- (1) 県単事業として必要経費を確保すること
- (2) 課題によっては外部資金を活用すること

次期プロジェクト推進研究課題について、特定課題検討チーム員からの提案に基づいて候補課題を検討するとともに、センター内研究員及び中央農業改良普及センター職員から提案を募った。集まった課題について「経営の高度化」、「高品質・安定生産」、「高付加価値化」の視点と低コスト・多収により儲かる経営体の育成を目指した技術開発に着目し、早期に技術開発とその普及を図る必要のある以下の3つのプロジェクトからなる研究課題を提案した。

研究課題名:水田農業担い手支援のための生産技術の開発と実証

プロジェクト名

- (1) 非主食用水稲低コスト生産技術開発プロジェクト
- (2) 水稲安定生産技術実証プロジェクト
- (3) 水田を活用した作物の安定生産技術開発プロジェクト

イ 連携プロジェクト**

(**多岐の研究部門にまたがる研究課題を短期間に、効率よく解決するために編成するプロジェクト)

(ア)プロジェクト名及び構成

分野	プロジェクト名	研究内容	チーム員	協力
地域振興	県北振興連携プロジェクト [H20～]	◎ほうれんそう振興に係る試験研究 ◎雑穀振興に係る試験研究	県北農業研究所 企画管理部 環境部	・農産園芸課 ・中央農業改良普及センター
個別課題解決	リンドウこぶ症連携プロジェクト [H21～]	◎リンドウこぶ症対策に係る試験研究	環境部 技術部	・(財)岩手生物工学研究センター ・中央農業改良普及センター

(イ)今年度の取組概要

名称	検討内容	検討結果
県北振興	<ul style="list-style-type: none"> ●成果ユーザー(生産者、JA)を含めた試験研究課題及び試験研究成果検討会を開催。 ●今年度は試行的に、ハウレンソウ・雑穀以外の県北農業研究所研究成果(リンドウ・アスパラガス)についても、県北振興連携プロでユーザーと検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ○成果ユーザーと連携したプロジェクト研究態勢を継続。 ※ハウレンソウ夏期 1t どり技術確立 ※雑穀品種開発・安定生産技術確立 ※雑穀優良種子生産
リンドウ こぶ症	<ul style="list-style-type: none"> ●「H20 までの研究成果の確認」、「H21 年度の試験設計の協議」、「現地試験圃場巡回」を実施。生工研と連携し研究を実施中。 ※当センターでサンプル提供したこぶ症株の GKaV(リンドウこぶ症関連ウイルス(仮称))陽性数は 235/249、発症圃の見かけ健全株の陽性数は 9/215(生工研)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生工研からの要望に対応し、こぶ症越冬芽のサンプル提供を継続実施。 ○実績及び次年度の設計・連携計画の検討を実施(3月) ○H21 終了予定課題を 1 年延長し、物理的遮断効果、接木・種子伝染性を確認。

○震災復旧・復興プロジェクトチーム

3月11日に発生した平成23年東北地方太平洋沖地震及び津波で甚大な被害を被った沿岸地域の農業の復旧・復興に向けた具体的な技術支援対策を実施するため、南部園芸研究室長をチーム長とし、水稻・野菜栽培、土壌肥料、農業経営など各専門分野の研究員9名をチーム員として、3月28日に設置した。

本プロジェクトチームは、大船渡、釜石地域の沿岸南部(宮古を一部含む)を対象に、①復旧に向けた取組支援として、津波により海水が流入した圃場の除塩対策や、②復興に向けた取組みとして、塩害土壌を直接用いない隔離床栽培など新たな野菜栽培技術の実証と複合経営モデルの確立に取り組む予定である。

(4)その他

ア 北東北3県交流の成果が具体化 ～本県開発の水稻直播技術が青森県へ！～

岩手県農業研究センタープロジェクト推進室(水田農業)で開発された水稻湛水直播技術(作溝装置)について、青森県つがる市の出来島21生産組合において、鳥害回避を目的に「東北農業新技術実用化プロジェクト(1.5年プロ)」として現地実証を行った。当該地区は、湛水直播栽培におけるカルガモの被害が多発し、その対策に悩まされていたが、本県開発の作溝装置に注目、実証の結果、鳥害が明らかに軽減し、収量についても作溝しない慣行より上回る結果となった。

作溝装置については、(株)岩手クボタを通じて販売中であるが、青森県からも照会が来ており、今後、県内のみならず、他県への普及も期待される。

イ 全国大豆現地フォーラム開催

平成22年6月2日に岩手県農業研究センターを会場に、「平成22年度全国大豆現地フォーラム」(主催:(社)全国農業改良普及支援協会、後援:東北農政局、岩手県)が開催された。東北地方を中心に全国各地から約300人が参加し、ほ場での播種実演展示と室内検討が行われた。

ほ場では、岩手県農業研究センターから「小畦立て播種」、「晩播用狭畦密植畦立て播種」、中央農業総合研究センター北陸研究センターから「耕うん同時畝立て播種」、中央農業総合研究センター水田輪作研究東海サブチームから「小明渠浅耕播種」、東北農業研究センターから「有芯部分耕播種」が実演・紹介された。

室内検討では、中央農業改良普及センターから雑草害とその対策、岩手県農業研究センターから小畦立て播種技術の開発状況、東北農業研究センターから大豆品種の開発状況が紹介された。

ウ 共同研究2企業にリエゾン-I研究開発事業化育成資金が贈呈される

いわて産学連携推進協議会(リエゾン-I)主催による「第8回研究開発事業化育成資金」贈呈式が平成23年2月21日に盛岡市で行われた。この育成資金は、県内企業が持つ技術開発・商品開発のニーズと大学・研究機関等が持つ高度な技

術研究成果とを共同研究等を通じマッチングさせ、中小企業の「事業の多角化」「新たなビジネス創出」につなげることを目的とするものである。今回 12 社から応募があり、評価委員会の厳しい審査を経て、8社が選考された。

その中で南部園芸研究室と共同研究を行っている(株)東日本機電開発、(株)石村工業の2社が難関を突破し、今回揃っての採択となった。目録贈呈後、トップで採択された(株)東日本機電開発の水戸谷剛社長が受賞企業を代表して本研究室との新事業の概要について発表した。この受賞を機会に、今後産学連携をさらに深め、よりよい成果がいち早く現地に出せるよう頑張りたいと考えている。

エ 半もち性ヒエの品種名が「ねばりっこ」に決定し、栽培が本格的にスタート！！

平成 22 年 5 月 7 日、盛岡市内のホテルで県北農業研究所作物研究室において育成した県オリジナルヒエ3品種の名称発表会が開催された。小田島農林水産部長、茂市県北農業研究所長、軽米町内の小学生(命名者のひとり)によって公表された品種名は、全国から応募された 111 件の中から、県雑穀生産・販売戦略会議検討委員会で選考したもので、オリジナルヒエ品種の特徴である、良く粘る食味をイメージ(“ねばり”)と、収穫作業がしやすい背の低さをイメージした“こ”を組み合わせたものに由来する。



写真1 品種名のお披露目

当日は試食会も行われ、「ねばりっこ」の良く粘る食味特性を活かした創意工夫の凝らされた新たなヒエ料理やお菓子が「半もち性ヒエ活用研究会」の会員事業者、生産者団体の手により参加者に振る舞われた。

「ねばりっこ」は今年度から県内栽培が本格化し、早生の「ねばりっこ1号」は軽米町内で 40a、中生の「ねばりっこ2号」は花巻地域を中心に約 30ha が作付けされた。軽米町の盛岡農業高等学校の生徒が協力して栽培した「ねばりっこ1号」は、盛岡農高パン研究班と地元パンメーカーが共同開発し、市販している「雑穀パン」の原料として利用されている。



写真2 「ねばりっこ」を使った料理・菓子の試食の様子

3 研究室・課の動き

(1)プロジェクト推進室

岩手県農業試験研究推進構想の目標達成に向けた「平成 22 年度までに取り組む研究方向について」(平成 19 年 3 月策定)に基づき、県民ニーズを重視するとともに、県政課題に即応し、重点的かつ機動的に高度な生産技術の開発を図るため、平成 20 年 4 月に 3 年間(平成 22 年度)を目処にした、専任体制のプロジェクト推進室を設立して鋭意研究に取り組んできたが、本年度が最終年となるため、農業研究センター内の基盤研究部門との連携をさらに密にしミッション達成のため、以下の重点的な技術開発に取り組んだ。

- 「競争力のある産地形成」に向けた水田農業の低コスト化、収益性向上を図る新技術開発
- 「環境と共生する産地づくり」に向けた特別栽培・有機栽培技術開発

水田農業

水田農業の担い手の育成に資する技術開発を進めるため、水稻の湛水直播栽培安定多収技術の開発、乾田直播栽培技術の開発、及び水田麦・大豆の安定多収を実現する新技術等の開発に取り組んだ。これらを軸に、土地利用型作物の低コスト生産技術の確立と体系化に取り組んだ。

業務推進にあたっては、競争力・社会貢献力のある技術シーズを開発し、現地実証試験やビジネスパートナーとのコミュニケーションの強化によって、生産現場に即した技術の実用化を図った。

<水稻直播栽培の安定多収技術の開発>

「水田作業機の排水溝形成装置(特開 2010-124775)」を粒状側条施肥に対応させるため、作溝同時直播装置を改良し、県内 2ヶ所(紫波町、金ケ崎町)の水田で現地実証を行い、実用性を明らかにした(研究成果:普及区分 水稻湛水直播栽培における作溝同時直播装置の開発(追補)～粒状側条施肥機付き直播機での作溝同時直播～)。併せて、作溝装置の低価格化をねらいとして材質改良に取り組んだ。

また、青森県つがる市において、鳥害回避を目的に「東北農業新技術実用化プロジェクト(1.5年プロ)」として現地実証を行い、鳥害軽減効果が明らかとなった。

乾田直播栽培について、大区画ほ場試験や現地試験(一関市)を実施し、肥効調節型肥料を用いた接触施肥法が有効であることを明らかにし、また、品種による栽培適地の提示など、栽培法として取りまとめた(研究成果:普及区分 水稻の乾田直播栽培法)。

このほか、新たな作溝装置の開発、直播での非主食用米の栽培等、水田農業の低コスト化、軽労化、安定化に向けた試験研究を進めた。

<水田大豆・小麦の多収、低コスト技術の開発>

水田大豆の湿害を回避し多収化を図る小畦立て播種栽培を汎用的に適用する技術の開発を進めた。麦作あと晩播大豆の密植狭畦栽培や、小麦作に適用する「密条用小畦立て播種機」を完成させるとともに、その適用性を所内試験及び現地実証試験(紫波町、花巻市)で確認し、成果として取りまとめた(研究成果:指導区分 中間管理作業がスムーズにできる晩播大豆の狭畦密植畦立て播種栽培技術、普及区分 小麦の密条用小畦立て播種機の開発と効果)。小麦及び大麦の密条小畦立て播種について現地実証試験(矢巾町、花巻市、奥州市)を実施中である。

また、水稻乾田直播と大豆小畦立て播種栽培を組み合わせた輪作体系について実規模現地実証(花巻市)を行い、3か年間にわたりコストがほぼ半減する試験結果を得た。

大豆の湿害回避をねらいとして開発された各種耕うん同時播種法について、(独)東北農業研究センター、秋田県農林水産技術センター、福島県農業総合センターと連携して、マニュアル作成に向けた連絡試験を場内と現地(奥州市)で実施した。

ナタネの搾油とBDFにカスケード利用に向けた生産安定を図るため、ナタネなど微小種子を播種できる播種ユニットを開発し、湿害回避播種技術と組み合わせる成果として取りまとめた(研究成果:普及区分 極少量播種機構を備えたナタネの畦立て同時播種技術の開発)。現地実証試験(雫石町)を実施中である。

特裁・有機

重点目標である「環境と共生する産地づくり」に向けた特別栽培・有機栽培技術の開発の解決に向けて以下の課題に取り組んだ。

<農業に有用な生物多様性の指標及び評価手法の開発>

昨年までに、水稻を環境保全型農業(特別栽培及び有機栽培)で栽培することによる生物多様性向上の指標生物種の選

抜を目的として、環境保全型農業実施集落と慣行栽培の集落で調査を行い、「クモ類」等が指標生物種として有望であることを明らかにしたが、本年度は、調査地域を拡大し、昨年までの結果の妥当性について検証すると共に問題点を抽出した。

<特別栽培・有機栽培等高度化生産方式の開発>

プレミアムブランド米生産を支援する技術(化学合成農薬を慣行の1/4以下等)の開発では、現地(奥州市江刺区、一関市花泉町)実証試験を中心に検討を行い、高度な管理技術が必要であるものの、商材を生産することが可能であることを実証した。

有機栽培を支援する技術(機械除草)の開発では、現地(一関市大東町)有機栽培圃場を中心にタイン型除草機及びプラウ耕の有効性について試験を実施し、有効性を確認すると共に問題点を抽出した。

野菜については、トマトの無化学肥料栽培、トマトの害虫に対する物理的防除を中心にした減農薬栽培について検討し、有効性を確認した。

畑作物については、大豆のボルドー剤・機械除草を中心にした減農薬栽培について検討し、問題点を抽出した。

(2)企画管理部

研究企画室

農業試験研究のアクションプランである「農業研究センター試験研究推進計画」に基づき、研究員の円滑な試験研究の支援、生産者や県民に開かれた農業研究センターを目指し、以下の事項について重点的に取り組んだ。

<顧客起点の試験研究の推進>

顧客のニーズに対応した試験研究や成果の普及・定着化を図るため、農業農村指導士との意見交換(6月)の開催や現地ふれあい農業研究センター等の機会を活用しアンケートなどにより、顧客である農業者等のニーズを把握した。

試験研究推進計画についてはローリングを含めた進捗管理を行なうとともに、試験研究会議の仕組みの改善や次年度に実施する新たな機関評価に対応した評価制度の見直しを行なった。

試験研究への外部資金導入促進のため、資金情報提供や申請書の書き方等の研修を開催するとともに、研究シーズの企業等へのマッチング活動により産学官連携に取り組んだ。

<アウトカムを意識した研究成果の普及と情報発信>

研究センターの業務内容や研究成果の周知を図るため、マスコミへのプレスリリースやホームページによる積極的な情報発信を行なった。プレスリリースは年間38回行い、掲載記事等の件数は98件(前年105件)であり、ホームページの閲覧数は年間392万件であった(前年287万件)。また、研究活動の「現在(いま)」を分かり易く伝える「らば・れたあ」をメールやホームページにより発信した(年75回)。

県民に身近に感じてもらえるよう、研究センターを一般に開放する参観デーや要請に応じて出かける現地ふれあい研究センターを開催するとともに、一日子ども農業研究員や小中高등학교の職場体験学習を積極的に受け入れた。

<専門知識と技術を有する人材育成>

研究員の資質向上については、「農業研究センター研究員育成プログラム」(平成19年3月策定)に基づき、センター研究員研修計画を策定し、ゼミの開催(82回)、学会等への参加(122人)による研究員の資質向上に取り組んだ。

また、北東北三県研究職員交流による研究員の資質向上支援(3人)、中国国龍江省農業科学院との研究交流を行なった。

予算管理面では、予算管理方法を改善するとともに、「不正防止計画」に基づいた内部監査の実施により適正な経理事務を支援した。また、研究等備品の更新計画をローリングし、更新・整備を図った。

農業経営研究室

生産性の高い農業経営構造の確立に向け、①本県主要農産物の競争ポジショニングの提示、②本県の農業構造の現状及び動向の提示、③主要経営類型の経営管理方策の提示、④営農計画作成支援情報の提供、⑤開発技術の経営的評価による効率的な研究推進を柱として業務に取り組んでいる。

本県主要農産物の競争ポジショニングの提示では、県農業農村指導士協会から要望のあった小ぎくの需要動向について

農業農村指導士と協同で調査を実施し「岩手県産小ぎくの競争ポジショニングと対応方向」を公表し、小ぎくの新たな販売先の確保に活用された。

本県の農業構造の現状及び動向の提示では、農業振興課からの要請を受け、「岩手県の農業生産性が低い理由と対応方向」を取りまとめ、目指すべき担い手の姿の検討に活用された。

主要経営類型の経営管理方策では、県内外の施設野菜経営と土地利用型野菜経営を調査し「先進的野菜経営体の特徴と展開方向」を公表した。また、りんどうの先進経営体の収穫選花調製作業をタイムスタディーし「りんどう収穫調製作業に影響を及ぼす要因と改善方向」を公表するとともに、作業能率向上を図るため「動作経済の原則に基づいたりんどう選花作業台セット」を開発し公表した。

営農計画作成支援情報の提供では、意志決定支援システムとして「生産工程管理支援のための農業経営ナビ・帳票作成ツール」「農業技術体系データ作成ブック Ver2.0」「営農計画作成支援シート Ver2.0」を開発し提供するとともに、県の技術体系・営農類型作成ワーキングチームの一員として 85 体系の農業技術体系データを更新した。

東北農業研究センターが公募した地域連携プロジェクトでは、東北農研、宮城農園総研と共同で、集落営農組織へのインタビュー調査とアンケート調査により、戸別所得補償モデル事業が担い手に及ぼす影響を明らかにし報告書として取りまとめるとともに、農業振興課等にタイムリーに情報提供した。

(3)技術部

作物研究室

本年から作物研究室長のもとに水稻栽培・育種チーム(研究員 3 名)と畑作・種子生産チーム(同 3 名)の 2 チームをおく体制で研究に取り組むこととなった。

<水稻栽培・育種チーム>

(水稻栽培)

水稻の奨励品種決定調査、作況調査・作柄解析、高品質・良食味米の安定生産技術確立に関する研究および水稻品種開発に取り組んだ。

奨励品種決定調査では、本調査において粳 11 系統を供試した。現地調査は粳を 12 か所、有色素米を 2 か所で検討した。本調査と予備調査結果を踏まえ、粳の早生で岩手 94 号、岩手 91 号(低アミロース米)、中生で岩手 100 号、岩手 101 号、晩生で岩手 96 号、岩手 102 号、山形 114 号(初年目、多収・良食味)、酒造好適米で岩手酒 98 号、糯米で早生のふ系糯 229 号(初年目、玄米品質良好、良食味)を 23 年度の本調査に供試することとした(試験研究成果書(行-02)、(行-03)、(行-04))。岩手酒 98 号(初年目)については、本年度に引き続き、次年度も現地圃場を設置して実規模の醸造試験を実施する予定である。

作況調査・作柄解析については、所内の作況試験データ(本部および県北研究所)・現地生育データ(農業改良普及センター)・気象データ(盛岡地方気象台)・土壌栄養(生産環境研究室)・病虫害(病理昆虫研究室)・作柄(岩手農政事務所)・品質情報(同)を総合的に解析し、当年及び次年度以降の技術対策指導に供した(指-06)。特にも 22 年は夏季高温であったことを踏まえ、品質へ与えた影響について詳細に解析した。また、「新しい岩手県リアルタイムメッシュ情報システムに対応した水稻主要品種の生育ステージ予測技術」を成果として提案した(指-07)。

栽培技術開発においては、水管理の履歴、すなわち異常低温への感受性がある生育時期より以前の水温を制御し、頑強な植物体を育成し、地球温暖化に伴う気象変動下で冷害被害を最小限に抑える新たな技術シナリオを提案するため、岩手大学が中核機関となり「履歴水温管理による水稻の冷害軽減技術の開発」(農林水産省「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」)に平成 21 年度から平成 23 年度までの予定で取り組んでいる。

(水稻育種)

いわてオリジナル水稻品種開発及びバイオエネルギー利活用促進技術の開発に取り組んだ。

生産力検定予備試験は所内で 26 組合せ 129 系統、生産力検定本試験では所内で 26 組合せ 42 系統を供試し、各種特性検定試験の結果と合わせ、岩手 103 号(早生の中、いわてっこ並～やや優る良食味)、岩手 104 号(中生の中、あきたこまち並みの良食味、玄米品質良(乳白少、粒揃い・光沢良)玄米品質良(乳白極小))、岩手 105 号(晩生の中、ひとめぼれ並みの良食味、玄米品質良(乳白少、粒揃い良))の 3 系統を選抜した(行-04)。

育種の効率化を図るため、(財)岩手生物工学研究センターと連携し、分子マーカーを用いた選抜技術の開発に取り組んだ。重要形質と連鎖した DNA マーカーの探索では、高度いもち病抵抗性、高度耐冷性など有用な形質と連鎖したものを選抜するため、RILs の養成と特性検定、低温発芽性に連鎖する DNA マーカーを利用した選抜ともし交雑を実施した。

バイオエネルギー利活用促進技術の開発では、つぶゆたかの種子生産と、DNA マーカーを活用した低コスト対応品種の選抜に取り組んだ。種子生産では、つぶゆたか 125kg を生産し、試験用種子として 119kg を供給した。DNA マーカーでは、初期伸長性に優れるハンガリー水稲品種「Dunghan Shali」に岩手県オリジナル品種「いわてっこ」の連続戻し交雑と DNA マーカー選抜により、初期伸長性に効果のある QTL を導入した「岩 1053」を育成した(試験研究成果書(研-02))。

平成 22 年度から(独)東北農業研究センターおよび(地独)青森県産業技術センター農林総合研究所と共同で取り組んでいる「東北地域中北部向け多収品種の共同育成」は、本年度から農林水産省委託プロジェクトの「国産飼料(1系)コンソーシアム」の構成員として委託課題「11002c 多収でいもち病抵抗性・耐冷性・識別性を有する飼料用米品種の育成(東北地域中北部向けのいもち病抵抗性評価と多収性飼料用米系統の選抜)」で平成 26 年度まで取り組むこととした。

また、農林水産省の「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」(機関連携強化型研究)で岩手県農業研究センターが中核機関となり、(地独)青森県産業技術センター農林総合研究所および(財)岩手生物工学研究センターと共同で「北東北地域向け非主食用多用途稲の直播品種及び直播栽培等関連技術の開発」に取り組み、平成 24 年度まで直播栽培で 800kg/10a を実現する技術開発を目指し、作物研究室は直播適性の高い多収品種の育成に取り組むこととした。

育成した品種で平成 22 年度に種苗登録されたものは、以下のとおりである(品種名(旧系統名)・登録番号・登録年月日)。あけのむらさき(岩手紫 76 号)・第 20,710 号・H23. 3.18、吟さやか(岩手酒 79 号)・第 20,711 号・H23. 3.18、ゆきおとめ(岩手 80 号)・第 20,712 号・H23. 3.18、かぐやの舞(岩手香 84 号)・第 20,350 号・H23. 2.15、つづみ星(岩手巨胚 87 号)・第 20,351 号・H23. 2.15、つぶゆたか(岩南 29 号)・第 20,716 号・H23. 3.18、つづみのり(岩手 85 号)・第 20,535 号・H23. 3. 9。

<畑作・種子生産チーム>

麦類・豆類の優良品種選抜、同栽培法の確立、畑作物の生育相及び気象反応の解明、各種特性検定、水稲・小麦・大豆等の原種・原々種等の生産に取り組んだ。

(小麦)

麦類奨励品種決定調査では、小麦 8 品種・系統、大麦 4 品種・系統を供試した。小麦では菓子用として有望視していた東北 224 号は外観品質と容積重が良好で、「有望」とした。

また、普及員等指導者の技術指導に資するため、試験研究成果として「岩手県における平成 22 年産小麦の生育経過の概要と特徴」(指-08)をとりまとめた。

特性検定では、麦類耐寒雪性において 110 品種・系統を供試し、小麦では 6 系統、大麦では 0 系統を「強」と判定した。

(大豆)

大豆奨励品種決定調査では、1 品種 4 系統を供試し、東北 166 号を「多収、外観品質良」として「やや有望」と評価した。22 年度まで有望視していた「里のほほえみ」(旧系統名東北 160 号)は、収量性が劣り成熟期が遅いことから、試験打ち切りとした。

畑作物の生育相及び気象反応の解明においては、および「平成 22 年岩手県産大豆の生育経過の概要と特徴・特に夏季高温の影響の解析」(指-09)として研究成果にとりまとめ、普及員等指導者の技術指導の資とした。

立枯性病害抵抗性検定試験では、39 系統を供試し、「強」は無し、4 系統・品種を「やや強」と判定した。

(その他品目における取り組み)

あずき系統適応性検定試験では、9 系統を供試し、「有望」「やや有望」の系統はなかった。

ばれいしょ系統適応性検定試験では 6 系統を供試し、1 系統を「やや有望」とした。また、十数年にわたり栽培してきた主要 3 品種を気象と収量・品質との関連について検討し、試験研究成果「生育期の気象がばれいしょの収量・品質に及ぼす影響」(研-04)としてとりまとめた。

(種子生産)

水稲種子生産(主要品種)では、原々種はうるち 4 品種(47 系統)417kg、原種はうるち 4 品種 17,960kg、もち 2 品種 900kg を生産した。また、岩手県内で増加しているばか苗病対策の事業(水稲「クリーン種子」緊急確保対策事業:農産園芸課令達)の一環で、当研究室では原種圃周辺の一般圃場に発生したばか苗病罹病株を 6 月中旬から 8 月中旬にかけて徹底した抜取りを実施した。

小麦原種はナンブコムギを 5,460kg、ゆきちからを 2,340kg 生産した。

大豆原種は 2 品種 1,730kg 生産し、原々種は生産しなかった。

また、品目共通事項として、採種圃担当者(普及員、農協職員、種子部会生産者等)を対象とした研修会で講師として指導した。

園芸研究室では、「農林水産技術立県いわて」の確立のため、以下の基本方針に沿って果樹、野菜、花きの作目毎3チーム体制で試験研究に取り組んでいる。(1)消費ニーズ及び将来の動向を見越した本県に適する果樹(リンゴ、ブドウ)、花き(リンドウ)の新品種の育成・選抜。(2)顧客の視点に立った園芸品目の省力・低コスト生産技術の開発。(3)生産の安定に直結する優良な原種苗等の正確かつ安定的な供給。

＜果樹チーム＞

果樹は、リンゴを主体に、ブドウ、西洋ナシ、オウトウ、ブルーベリーなどの樹種に係る試験を実施している。特に、早生から晩生までを網羅するオリジナルりんご品種の開発を掲げ、「つがる」に代わる早生品種と「ふじ」に匹敵する晩生種の開発を重点課題としている。また、老齡樹等低位生産園の改植を推進するため、新しい性台木等を利用した安定生産技術確立、防除薬剤の削減やドリフト防止など安全、安心に配慮した栽培技術確立に向けた課題を実施している。

リンゴの品種開発では、平成 22 年までに中晩生種での新たなオリジナル品種1品種開発を目標に掲げ、主に岩手系統 4号、5号の最終評価に取り組んだ。開花期及び葉に関する特性調査、果実肥大調査等をほぼ研究計画どおり実施できている。9月と11月にオリジナル新品種検討会を実施し各方面からの評価を経たうえで、研究成果として「品種 りんご 11月上旬に成熟する大玉で果汁の多い赤色品種『岩手5号』(普及)を取りまとめた。今後、「ふじ」の小玉化が懸念される県北部や沿岸部を重点とした振興方策と併せて、県の奨励品種検討会議で了承された。平成 23 年度に種苗登録手続きを進め、苗木については平成 24 年春からの供給開始を予定している。

ブドウの品種開発では、平成 21 年度に研究成果として公表した耐寒性が強く食味良好な赤色品種「岩手3号」について、関係者から名称を募集し、「エーデルロツ」として登録出願受理された(H22.7.2)。また、オリジナル育成系統から2次選抜された岩手4号、5号の特性評価を進めた。今後、これら2系統を品種登録候補として最終選抜を行うにあたり、果実・生育特性を蓄積していくが、平成 22 年度は「ぶどう育成系統『岩手4号』、『岩手5号』の特性」(研究)を公表した。「岩手4号」は「紅伊豆」よりもやや早く収穫可能で、糖度が高く食味良好な黒色の大粒種であること。「岩手5号」は8月下旬～9月上旬に収穫可能で、食味良好な赤色の中～大粒種であることなどを確認している。

リンゴの栽培技術では、省力・低コスト・高品質安定生産技術や、安全・安心で環境に配慮した生産技術の確立に取り組み、今年度は以下の4成果を公表している。

(1)「JM7台木利用りんご樹の幼木～若木期(7年生頃)における低樹高仕立て法」(普及)として、高品質生産に適した低樹高樹形を解明し、JM7台木利用樹における低樹高樹形仕立て法を明らかにした。(2)「りんご『黄香』の裂果を軽減する摘果時期」(指導)では、裂果軽減しつつ目的とする果実の大きさに仕上げるための摘果技術を明らかにした。(3)「カラムナータイプ『タスカン』のリンゴ授粉専用品種としての特性」(指導)は、結実と果実品質の向上が期待できる授粉専用品種の利用拡大につながる。さらに、「スピードスプレーヤ用ドリフト低減型ノズル及び立木用ドリフト低減型防除機の特徴」(指導)では、(独)生物系特定産業技術研究支援センターとの共同研究により、近接作物や住宅地等への農薬ドリフト軽減効果を実証した。

リンゴ以外の樹種では、「大玉で食味良好な西洋なし『バラード』の特性」(指導)として本県における生態と果実特性を明らかにした。

平成 22 年度の新規課題は、「岩手県における果樹栽培の温暖化対策技術の確立」(H22～27)と「ハダニ類を主体としたリンゴ病害虫防除体系の最適化」(H22～26)の2課題である。温暖化対策関連では、(独)農業環境技術研究所の「全国スケールでの温暖化緩和ポテンシャルの評価(炭素蓄積と安定生産)」(H22～26)と連携して取り組むことになった。特に、低温感受性試験(4～5月)では、発芽～開花期の低温によるリンゴ花芽の耐凍性の向上が認められ、東北農業試験研究発表会で結果の一部を発表している。

この他、省力化をねらったオウトウの垣根仕立て栽培法の確立に関する試験に継続して取り組んだ。

＜野菜チーム＞

野菜は、「顧客の視点に立った園芸品目の省力・低コスト生産技術の開発」を着実に推進するため、果菜類では、施設栽培トマト、パプリカ、キュウリの安定多収技術、露地ピーマンの効率的施肥法、きゅうりの土壌病害軽減技術、夏秋どりイチゴの茎頂培養を用いた増殖技術の確立等に取り組んでいる。茎葉菜類では、国内生産量が少ない秋冬期のアスパラガス栽培技術の確立、ハクサイの冬～春生産を可能にする新品種・作型の開発に向けた課題を実施している。

このうちトマトでは、抑制作型における9月以降の商品果収量向上を目標に掲げ、定植後の草勢制御をねらったかん水、施肥試験に取り組んだ。その結果、目標とした全収量(7t/10a)及び9月以降の商品果収量(4t/10a以上)を達成し、「若苗利用トマト抑制作型における適品種と栽植様式および仕立て方等栽培管理方法」(指導)として公表した。

パプリカでは、平成 21 年度には赤色、黄色それぞれのグループで収量、品質に優れた品種を選定しており、残された課題として安定多収と省力化の実現に向けた、かん水や整枝などの栽培管理技術確立に取り組んだ。その結果、H21とH22の平均で目標収量(8トン/10a)を概ね達成し、「雨よけ無加温栽培におけるパプリカの栽植様式、かん水、着果管理等栽培管理

方法」(指導)として公表した。

きゅうりでは、長期獲り栽培技術の確立をねらい、空気膜2重構造ハウスを活用した作型拡大試験に取り組んだ。結果として無加温での出荷期延長は見込めないことが明らかとなったが、保温特性等について「無加温での空気膜二重ハウスにおける温度・栽培特性」(研究)として公表した。また、平成 22 年度に農林水産省の「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」で採択された「被害リスクに応じたウリ科野菜ホモポリス根腐病の総合的防除技術の確立」課題に取り組んだ。未発病ほ場においても有効な対策として、指標植物を利用して、しおれをあらかじめ予測し、整枝管理と組み合わせることによって、収量を維持する可能性を明らかにした。土壌消毒によらない被害回避対策の1つとして、継続して技術確立に取り組んでいく。

ピーマンでは、近畿中国四国農業研究センターからの研究委託により、低コスト養液土耕装置を利用した効率的施肥法に取り組んだ。適正なかん水管理により収量・品質向上と効率的な養液土耕による施肥量削減を目指して、所内試験の露地作型及び遠野市のトンネル作型現地試験で目標を上回る収量を得ている。

イチゴでは、東北農業研究センターからの委託試験として、夏秋イチゴ品種である「なつあかり」「デコルージュ」において、鉢上げ前に培養苗親株を低温遭遇させることでランナー数を増やす従来にない新手法に取り組んだ。結果として、到達指標には達しなかったが、ランナーを得るための低温遭遇時間を明らかにした。

アスパラガスでは、農林水産省の「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」で採択され、東北各県や大学など共同研究機関9組織との共同研究課題「寒冷地特性を活用しアスパラガスの周年供給を可能とする高収益生産システムの確立」(H21～23)に取り組んでいる。端境期となる11月の早期出荷実現に向け「アスパラガス伏せ込み促成栽培における休眠打破の重要性」(指導)及び、秋の低温が遅れた場合に有効な対策技術となる「根の Brix 糖度を上昇させるアスパラガス伏せ込み促成栽培の新たな茎葉黄化法の開発」(指導)の2成果を公表した。

この他、ハクサイでは、国独法、大学、民間種苗会社との共同研究課題「寒冷地における冬～春野菜生産を可能にする新品種・作型の開発」(H21～23)に取り組み、現時点の育成途中品種ではあるが、ハウスとべた掛けの利用により3月どりの作型と露地における5月、6月どりの作型を実証した。

＜花きチーム＞

花きは、世界に発信する「リンドウ王国いわて」の確立に向けて、主産地としての優位性を維持するために、研究対象をリンドウに特化している。特に、市場の需要を満たし、さらには需要を作り出すためのオリジナル品種開発を最重点課題とした。また、これまでに開発したオリジナル品種の原々種維持、原種増殖と種苗センターへの供給、生産性の高い省力・低コスト安定生産技術の確立、開花調節等応用化技術の確立に向けた課題を実施している。

リンドウの品種開発では、平成 22 年度までに晩生 3 品種の育成を目標に、昨年度一次選抜した有望3系統の評価に取り組んだ。その結果、9月下旬に開花する1系統を選定し、研究成果「9月下旬開花の切り花向け青色リンドウF1品種「いわてLB-2号」の育成」(普及)として公表した。今後、既存晩生品種「ジョバンニ」(9月中旬開花)と「アルビレオ」(10月上旬開花)の間を埋める品種として全県に作付け推進する振興方策と併せて、県の奨励品種検討会議で了承された。平成 23 年度に品種登録手続きを進め、種子については平成 24 年春からの供給開始を予定している。

なお、平成 20 年度に成果公表した鉢物リンドウ2品種が、それぞれ品種登録された(桃色の栄養繁殖系品種「ももずきんちゃん」(H23.1.25)、わい性リンドウ「いわてDPB1号」(H23.2.15))。

農林水産省の「新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業」で採択された、(財)岩手生物工学研究センター、岩手大学、(一社)安代リンドウ開発との共同研究課題「純系リンドウとDNAマーカーを利用した品種育成技術の開発」(H20～22)が最終年度となった。均一性の高いF1品種開発には、自殖劣勢課題を克服する必要があるため、純系を安定的に作出できる技術を開発し、研究成果「未受精胚珠培養はリンドウの倍数性育種母本作出に利用可能」(研究)として公表した。未受精胚珠の培養により得られた倍加半数体個体に由来する系統のうち44系統から自殖種子を採種し、今後系統として利用可能か検討する。

リンドウF1品種の親株維持、増殖技術の確立では、ジベレリン浸漬時間を48時間とすることで高い発芽勢、発芽率が得られることを「リンドウ種子の発芽促進を目的としたジベレリン浸漬時間」(指導)として成果公表した。

リンドウ種子供給に関して、平成 21 年度に、子房部位に輪紋が発現するこれまで未確認の症状が発生し、早生3品種(「キュースト」、「マシリ」、「マジエル」)が供給停止となった。原因解明のため、生物工学研究センターと連携して調査を行い、ウイルスの可能性を中心に対応を検討した。結果として、生産上の影響は少ないことから種子供給が再開されている。また、原々種の安定採種、親株の大量増殖と供給に取り組む、ほぼ計画数量どおりの親株を種苗センターに供給した。これら採種親株の管理について、種苗センター現地ほ場を確認しながら、毎月関係機関で検討会を実施し安定供給を図った。

平成 22 年度の新規課題は、リンドウ発芽率向上安定化技術の開発と県育成極早生品種の株養成技術開発を目的とした「リンドウ安定生産技術の開発」(H22～24)である。初年度として、発芽率の高い種子の形態的傾向の解明とジベレリン処理による株養成効果解明に着手した。

この他、りんどうの開花予測や開花調節、品質向上技術開発などにつながる生理生態に関する基礎的研究、組織培養における高増殖条件の解明、超低温保存法としてビーズガラス化法の適性に関する研究等に継続して取り組んだ。

南部園芸研究室

南部園芸研究室では、県東南部および中南部沿岸地域の夏期冷涼・冬期温暖な気象条件を活かした施設野菜、花きの高度生産技術の開発に取り組んでいる。本年度は、冬季温暖で夏季冷涼な気象条件や杉樹皮などの地域資源を活用した技術の開発を行った。

野菜では、沿岸部での産地形成が期待されている四季成り性いちご主要3品種の春植え栽培における培養液濃度について、EC濃度で0.4～0.6dS/mが適正範囲であることを研究成果としてとりまとめた。また、一季成り性品種「さがほのか」を用いた夏秋作型については、短日処理と送風の組み合わせにより花芽形成と花房の連続出蕾に一定の知見が得られた。

今後も四季成りと一季成りの両品種について夏秋どり技術の開発を進める計画である。さらに、いちごの低コストな高設栽培システムの開発においては、昨年度、「閉鎖型高設栽培システム」として研究成果にとりまとめたところであるが、現在、企業との共同研究により製品化に取り組み、研究成果がいち早く現地に導入されるよう進めている。

昨年度から取り組んでいる「研究成果最適展開支援事業(地域ニーズ即応型)」(独)科学技術振興機構)では、杉樹皮培地製造メーカーと園芸用培地メーカーと連携して、花壇苗用培養土の製品化に取り組んできた。この中で、ピートモスの代替品として杉樹皮培地を用いた農家段階でも直ちに利用できる培養土の開発に一定の知見が得られたところである。

(4) 環境部

生産環境研究室

安全で、安心できる農産物の安定的な生産・供給や環境に配慮した農業の振興を図り、岩手ならではの産地づくりに寄与するため、①環境への負荷軽減に配慮した持続的な土壌・施肥管理技術、②消費者の多様なニーズに対応した高品質農産物の安定供給技術による効率的な研究推進を柱とした業務に取り組んでいる。

今年度の成果として、① 堆肥を用いた「つぶゆたか」の稲WCS多収栽培の施肥法、② 簡易土壌分析システムに対応した施肥設計支援シート、③ C/N 比の低い有機質資材の畑状態での無機化特性とトマト雨よけ普通栽培の無化学肥料栽培における施肥法、④ 採花期間のりんどうにおける新根の分布位置に合わせた効果的な施肥、⑤ イムノクロマト法を用いた畑作物のカドミウム濃度簡易測定法などの技術を明らかにした。

その他には、県内耕地土壌の管理実態調査(S54～)や温室効果ガス情報調査、鶏ふんの利用拡大に向けた尿素添加高窒素鶏ふん堆肥の製造試験等を行ってきた。

引き続き、地球温暖化をはじめとした環境問題が大きクローズアップされてきていることや農産物価格の低迷、生産資材の高騰等により、より一層、低コスト施肥技術への期待が高まっていることから、「いわて県民計画」の実現に向け、『農林水産技術立県いわて』技術開発基本方針(農林水産物の高付加価値化と販路の拡大)に即して、環境保全と食の安全安心を求める消費者の視点を重視しながら、従来の栽培法と同等以下のコストで、高品質・安定生産を確保できる環境に負荷の少ない土壌施肥管理技術を開発する。

病理昆虫研究室

持続性が高く安定性のある農業生産の展開を目指した病害虫制御技術の確立を進めるため、環境負荷軽減を目指した効率的な化学的病害虫防除技術、生物的防除など環境にやさしい病害虫防除技術及び病害虫総合管理技術(I PM)の開発に取り組んだ。

水稻分野では、ばか苗病や細菌病類にも効果のある化学合成農薬を使用した大型消毒機械による大量種子消毒技術を開発した(研究成果・普及)。また、例年のない異常高温の影響でカメムシ類による斑点米被害が多発したことから、有効積算温度をもとにアカスジカスミカメの発生要因解析を行い、今後の発生予察や斑点米被害予測を行う上での参考資料を取りまとめた(研究成果・指導)。

畑作分野では、ダイズ害虫ウコンノメイガの齢構成の異なる時期において、現在登録のある薬剤を使用した防除効果について比較検討し、防除効果が高い齢期を明らかにした(研究成果・指導)。

野菜分野では、キュウリ黒星病の防除計画策定の際の参考とするため、現在登録のある薬剤の防除効果を明らかにした(研究成果・指導)。

果樹分野では、リンゴ害虫モモシクイガの防除計画策定の際の参考とするため、新規登録薬剤と既存の薬剤とで

比較し、多発園地における食入防止期間を明らかにした（研究成果・指導）。また、（財）岩手生物工学研究センターと共同で、スモモヒメシクイとナシヒメシクイの幼虫およびりんごの最重点防除害虫であるモモシクイガ幼虫を簡易、迅速、確実に識別できる PCR プライマーを開発した（研究成果・指導）。

花き分野では、育種場面で活用可能な手法として、リンドウ褐斑病に対する耐病性検定法を確立するとともに（研究成果・研究）、同手法を活用して、リンドウ褐斑病に対する耐病性の遺伝様式は、1 遺伝子支配の優性形質であることを明らかとした（研究成果・研究）。

また、学会等には積極的に参加し、日本植物病理学会で 2 件、日本応用動物昆虫学会では 2 件、北日本病害虫研究会では 4 件、北陸病害虫研究会では 1 件について口頭又はポスター発表し、本県の成果を PR した。

(5) 病害虫防除部

病害虫防除課

(病害虫発生予察)

水稻、麦類、大豆、りんご、ぶどう、きゅうり、キャベツ、ねぎ、りんどうを対象として発生予察調査等に基づき、7 回の定期情報に加え、注意報を 2 回（苗立枯病の予防対策、果樹カメムシの防除対策）、特殊報を 1 回（タバココナジラミ バイオタイプ B の発生）発表した。また、防除速報を 7 回（水稻：斑点米カメムシ 3 回、取り置き苗処分、いもち病、りんご：モニリア病、きゅうり：褐斑病・炭そ病）発行した。これらの情報については、メール、印刷物のほか、いわてアグリベンチャーネットにも掲載し、関係機関・団体、共同防除組合等に提供した。

(病害虫防除指導)

水稻においては、病害虫防除員(105 名)や関係機関・団体との連携による防除指導体制のもと、各地域において「市町村病害虫防除計画」に基づく的確な防除の実施を推進した。果樹(りんご)では、普及センター等とともに地域の防除暦作成に際して指導を行うとともに、県内 202 の共同防除組合等から 80 組織分の防除実績を収集、解析し、次年度の防除計画の改善に資した。重要性が増してきている病害虫診断は、123 件の依頼に対応した。作物別の内訳は、60%以上が野菜で、次に花き、果樹の順であり、原因別には、60%以上が病害で、次に生理障害・葉害、虫害、不明の順であった。

新防除技術等の普及促進に関しては、「天敵製剤によるハウスピーマンのアザミウマ防除」および「キンモンホソガの防除時期」の 2 件について「防除技術情報」として、また、「畦畔等の雑草管理による斑点米カメムシ防除」について指導資料としてまとめ、今後の指導に活用することとした。

(農薬適正使用指導)

農薬の適正な販売や使用を徹底するために、農薬の販売者や使用者に対する研修会を関係機関・団体と共同で開催した(6 月 1 日、参加者 307 名)。また、農薬取締法に基づき、農薬販売者への立入検査を実施するとともに(343 件)、農薬使用基準違反のあった使用者に対し指導を行った(3 件)。

(6) 畜産研究所

家畜育種研究室

<家畜育種>

産肉能力や旨味成分等に優れた本県オリジナル種畜の開発や肥育牛の飼養管理向上のための技術確立に取り組んでいる。

短角種雄牛作出について、H22 直接検定 16 頭(平均 DG1.30kg)から、現場後代検定用 6 頭(選抜率 37.5%、平均 DG1.41kg)を選抜した。H18 交配種雄牛「時姫」、「玉吉」、「川藤」、「松川」、「国灯」の産子の検定肥育成績を公表した。

日本短角種全個体認証のためのデータベースの血統・枝肉情報等を 700 件程度追加した。日本短角種の肥育において、トウモロコシ WCS と大豆 WCS 組合せ自給 100% 肥育を目指した試験に取組、肥育終了時の DG で 1.0kg 程度を確保した。また、給与飼料や種雄牛によって枝肉脂肪中脂肪酸組成が変化することを明らかにする試験を継続している。

黒毛和種肥育の飼料自給率向上のため、膨軟化した飼料用籾米を給与する試験や和牛肥育牛の尿石症を予防する試験を継続中である。

養豚では、黒豚等純粋豚生産農場における集団維持手法の検討を現地農場と提携しながら取組み、血統・交配方法等の情報提供を行うとともに、所内繋養種豚群(パークシャー種)の繁殖・産肉能力を調査しながら種豚を供給した。

養鶏では、南部かしわ飼養マニュアル作成の一環で飼料中の CP/ME 比は南部かしわ肥育における体重、腹腔脂肪量に影響を及ぼしていることを明らかとした。また、「南部かしわ」の雛供給や南部かしわ研究会開催等により普及推進を図った。

＜家畜工学＞

本県の牛の改良と増殖を促進するために胚移植技術および遺伝子解析技術等のバイオテクノロジーに関する課題について基礎研究と応用化研究に取り組み、成果の普及、啓発に努めている。

胚移植技術では、ホルスタイン未経産牛において胚移植前発情日から 28 日後まで非繊維性炭水化物(NFC)／分解性蛋白(DIP)が 3.5～6.0、充足率 100%以上の飼料を給与することで高い受胎率が期待できることを提示した。

遺伝子解析では、種雄牛「菊安舞鶴」産子の DNA と枝肉格付データを用いて QTL 解析を拡充図るとともに、日本短角種種雄牛「高福」産子の DNA と枝肉格付データを用いて QTL 解析を行い、10カ所に QTL を検出し、第 19 番染色体が有力な BMS ナンバーQTL 候補領域であることが考えられた。また、黒毛和種の県枝肉共進会展品牛について脂肪酸組成と関連遺伝子分布状況等について調査を実施した。

家畜飼養・飼料研究室

当研究室では、乳用牛の飼養管理技術の確立と良質粗飼料の効率的な生産・調製技術開発に取り組んでいる。

＜飼養＞

「岩手県酪農・肉用牛生産近代化計画」を基本に、生産者ニーズに応えるため、家畜生理と調和した高能力牛の飼養管理技術の確立と省力管理システム、自然環境と調和したゆとりのある酪農経営を構築するための技術開発に取り組んでいる。

破砕処理機によるトウモロコシサイレージ(CS)の乳牛への給与技術について、TMR 乾物中の 60%まで破砕 CS を給与することは可能であるが、破砕 CS 由来の NDF はグラスサイレージのそれよりも消化率が低いため、乳脂肪分率、飼料効率が低下する可能性があることを明らかにした。

また、大豆乾燥調整施設において大きさ、破砕等の理由ではじかれる非食用の大豆の有効利用を図るため、「発酵 TMR 素材としての高タンパク質自給飼料の低コスト調製・給与技術の開発」に着手した。

＜飼料＞

本県の畜産を安定的に推進するため、良質で効率的自給粗飼料の生産技術の開発に取り組んでいる。

ライ麦＋トウモロコシの不耕起栽培体系の確立を目指した試験では、ライ麦の再生残草はトウモロコシの乾物収量を減少させるため非選択性除草剤であるグリホサートカリウム塩をトウモロコシ播種当日～播種 4 日後に全面散布することでライ麦再生残草を効果的に抑制され、トウモロコシの収量も確保できることを明らかにした。

飼料用トウモロコシ市販品種のうち、極早生 3 品種、早生 7 品種、中生 5 品種、晩生 2 品種の生育特性、耐病性、収量性等について比較し、これらを総合的に判断して、極早生の中では「38H20(パイオニア 95 日)」を推奨品種として提案した。

外山畜産研究室

中山間地域の草地資源を最大限に活用した肉用牛生産基盤の拡大を推進するため、日本短角種の周年出荷へ向けた飼養管理技術の確立、草地管理技術の確立のためのリモートセンシング、GPSの活用、作溝式播種機を活用した簡易な放牧地更新技術、外部寄生虫(アブ)の駆除技術に取り組んでいる。

日本短角種の周年出荷へ向けた飼養管理技術では、舎飼い期に経産牛に種雄牛を自然交配させることにより早期分娩させることが出来た。リモートセンシングについては衛生データと実測データの関連性が明らかになった。GPSについては、肥料作業撒布精度の向上と波及地における作業時間の大幅な短縮が出来た。作耕式播種機を活用した簡易な放牧地更新技術では、春期放牧地での簡易更新技術を明らかにした。外部寄生虫(アブ)の駆除技術でもバイチコールで殺虫効果があることを明らかにした。

種山畜産研究室

黒毛和種改良事業(いわて和牛改良増殖対策事業)の一環として、県内産黒毛和種種雄牛候補 12 頭を選定するとともに畜産研究所生産の受精卵雄産子等5頭計 17頭の直接検定を実施し、後代検定を実施する候補種雄牛として5頭(「花金

幸」「緑乃大地」「奥安美継」「山根雲」「福幸久」選抜した。また、平成 18 年度の直接検定により選抜された「純康大」「秀福安」「桜金三」「桜忠陸」「沢茂治」の 5 種雄牛について現場後代検定を実施し、うち成績が優れた「純康大」「秀福安」を新たに基幹種雄牛として選抜した。

(7) 県北農業研究所

園芸研究室(県北)

県北地域における野菜、花きの地域適応性技術の確立及び開発技術の現地実証に関する研究を実施した。

1) ほうれんそう産地における夏期増収技術の確立

① 雨よけほうれんそうの土壌水分実態を、八幡平農業改良普及センター管内3戸(ハウス)、久慈農業改良普及センター管内3戸(ハウス)の計6戸について、水分センサーを用いて測定しデータを蓄積した。

2) 業務用ほうれんそうの栽培技術の確立

① 安定出荷に対応した播種時期、栽植密度と適正施肥量、排水対策に対応した栽培床、除草対策試験に取り組み、成果区分「普及」として報告した。

3) 国産アスパラガスの周年生産技術の確立

① レタス連作ほ場に促成アスパラガスの根株栽培による輪作や伏せ込み終了後の根株をレタス連作ほ場にすき込むことによるネグサレ・ネコブセンチュウの密度低減により、レタス生育の向上を図るための研究を行った。

② 促成アスパラガスの収益性向上のための大株養成について、「深耕ロータリによる土壌の膨軟化」、「大畦による根の伸長容積の確保」、「ポット育苗による大苗定植」、「フラワーネット等での倒伏防止による斑点病軽減」の4点について、総合的な実証を行った。

4) 生物多様性

5) 温暖化ほうれんそう

6) 県北地域における小ぎくの安定生産技術の確立

① 親株管理等の省力化のため、同一品種を用いた継続出荷体系の確立試験を行い、成果区分「指導」として報告した。

② 晩霜対策としてのトンネル被覆を省くため、定植時期を遅らせる栽培技術を研究し、成果区分「指導」として報告した。

7) 県北地域におけるりんどうの収益向上技術の確立

① 露地でのトンネル栽培による「いわて夢あおい」(極々早生6)の作期前進をはかる研究を行った。

② りんどう有望系統の現地適応性について研究を行った。

③ ハウス栽培における病虫害防除法について研究を行った。

作物研究室(県北)

平成 21 年 3 月に策定された「いわて雑穀生産・販売戦略」の戦略目標「高品質な雑穀の安定生産」「化学合成農薬や化学肥料を用いない栽培技術の確立」を達成するため、オリジナル品種の開発と持続的安定生産技術の確立に取り組んだ。

1) 雑穀オリジナル品種の開発

① アワ F5 世代 8 系統の黄色粒多収糯系統から 4 系統を選抜した。また、キビ F4 世代 29 系統の濃穎色大粒糯系統から 8 系統を選抜した。

2) 持続的安定生産技術

① アワおよびキビの移植栽培では、直播栽培に比較してヒサゴトビハムシによる被害が低減することを明らかにした(研究成果・研究)。

② ヒエのイネヨトウに対し、イネヨトウ越冬世代の羽化揃期を起点とする BT 水和剤 7 日前後間隔の 3 回散布は防除効果があることを明らかにした(研究成果・研究)。

③ ヒエ黒穂病菌の胞子発芽は 60℃の温湯に 5 分間浸漬することで抑制された。ヒエ種子は同条件の温湯浸漬を行っても種子として十分な発芽率を維持できたことを明らかにした(研究成果・研究)。

3) 研修会、セミナー等では最新の技術開発状況を話題提供して生産者等と意見交換を行い、現場密着型技術開発及び業務の見える化に努めた。

また、学会等には積極的に参加し、日本作物学会では 2 件、日本作物学会東北支部では 2 件、北日本病虫害研究会では 1 件について口頭発表し、本県の成果を PR した。

県北農業研究所参観デーを3公所合同で開催

平成 22 年 9 月 10 日(金)～11 日(土)の2日間、県北農業研究所(軽米町)において、県北農業研究所、県北家畜保健衛生

所、中央農業改良普及センター軽米普及サブセンターの3公所による合同参観デーを開催した。

「もっと知ろう！ 県北農業」をテーマに、「楽しい」イベントとして雑穀試食クイズ、クイズラリー、無人防除ヘリの実演飛行、ゲートボール大会が、「おいしい」イベントとして郷土料理の提供、農産物・特産品販売が、「ためになる」イベントとして県北広域農業技術セミナー(最新の研究成果や先進事例の発表)を行った。

この他にも、研究成果パネル展示、営農相談、ほ場見学案内、農業機械・肥料・農薬等の展示、懐かし資料展示、地元小中学生の図画・自由研究等の作品展示など、盛り沢山のイベントを行った。

また、県北農業研究所の母体である「農事試験場軽米農場」が設置されて満 80 年を迎えることから、農業試験場県北分場(当研究所の前身)OBの齊藤博之氏(現岩手県工業技術センター副理事長)を迎え、OBも多数参加する中で「県北広域における食産業振興に向けて」と題した創設 80 周年記念講演を行い、引続きOB主催の「軽米の思い出を語る会」が軽米町内で開催された。

4 平成22年度試験研究課題

(1) 細目課題分類

野 研究推進計画分 担当部署	総課題数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
		農業構造・経営管理	水稲	畑作物	果樹	野菜	花き	作物バイオテクノロジー	作業技術	環境保全	土壌作物栄養	病害虫制御	食の安全	乳用牛	肉用牛	中小家畜（豚・鶏）	草地・飼料作物	家畜バイオテクノロジー	畜産環境	県北農業振興
プロジェクト推進室	44	4	5	2	0	0	0	0	13	2	11	5	0	0	0	0	0	0	2	0
水田農業	26		5						13		6								2	
特栽・有機	18	4		2						2	5	5								
企画管理部	7	5	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
農業経営研究室	7	5							1		1									
技術部	214	0	89	19	40	28	17	3	0	4	8	4	0	0	0	0	1	0	0	1
作物研究室	109		89	18							2									
園芸研究室	93			1	40	19	16	3		4	4	4					1			1
南部園芸研究室	12					9	1				2									
環境部	46	0	0	0	0	0	2	0	2	3	14	19	4	0	0	0	0	0	2	0
生産環境研究室	23								2	1	14		4						2	
病理昆虫研究室	23						2			2		19								
畜産研究所	49	0	0	0	0	0	0	0	3	0	2	0	0	8	11	5	13	3	4	0
家畜育種研究室	17													3	6	5		3		
家畜飼養・飼料研究室	22								3		2			5			8		4	
外山畜産研究室	5															5				
種山畜産研究室	5													5						
県北農業研究所	51	0	6	8	0	6	0	0	0	2	5	2	0	0	0	0	0	0	0	22
園芸研究室	28					6				2	2	2								16
作物研究室	23		6	8							3									6
総計	411	9	100	29	40	34	19	3	19	11	41	30	4	8	11	5	14	3	8	23

※複数の分野に再掲されている研究課題はそれぞれに計上。
 複数の担当研究室がある研究課題はそれぞれに計上。

(2) 試験研究課題一覧

凡 例

- ・主査: 小課題の主査研究室
- ・No.: 小課題の連番、課題毎の固有番号はそれぞれの課題名の先頭に()表記
- ・課題: (課題番号)課題名を記載、小課題は太字表示
※ 課題番号: 細目課題は1000番代表記、細目1～4まで各桁毎の表記
- ・開始・終了: 課題の実施～終了年数
- ・予算区分: 国庫補助; 国庫補助事業、国庫委託; 国庫委託事業、独法委託; 独法委託事業、民間委託; 民間委託事業
令達; 令達予算研究、県単研究; 県単予算予算、県単採種; 主要農作物採種管理費
- ・担当: 小課題、細目課題の担当研究室名

主査研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
【プロジェクト推進室】						
プロ水田	1	(H18-20)水田単作地帯において堆肥を有効に活用した飼料稲多収生産と良質サイレージ生産技術の確立	18	22	H18～21国庫委託(独法再委託)	プロ水田,生産環境,家畜飼養・飼料
プロ水田		(H18-20-1000)(1)堆肥を活用した多収生産技術の確立	18	22	県単研究	生産環境,プロ水田
プロ水田		(H18-20-2000)(2)飼料稲収穫作業適期巾拡大方策の検	18	22	県単研究	家畜飼養・飼料
プロ水田		(H18-20-3000)(3)飼料稲栽培における効率的雑草防除法の確立	18	22	県単研究	プロ水田
プロ水田	2	(H21-11)積雪寒冷地水稲乾田直播栽培における出芽安定化技術の確立	21	22	民間委託	プロ水田
プロ水田	3	(H19-29)水稲乾田直播と大豆浅耕小畦立て栽培技術による輪作体系の確立と実証	19	23	独法委託	プロ水田,農業経営,生産環境
プロ水田		(H19-29-2000)大豆小畦立て播種栽培技術の確立	19	22	独法委託	プロ水田
プロ水田		(H19-29-3000)1年1作輪作体系の現地実証	19	23	独法委託	プロ水田,農業経営,生産環境
プロ水田	4	(H21-01)水田における小麦の湿害軽減播種技術の開発	21	23	県単研究	プロ水田
プロ水田	5	(H21-18)寒冷地におけるナタネ生産現地実証試験	21	23	独法委託	プロ水田
プロ水田	6	(H21-25)作溝型直播装置の実用化による生産性の高い直播稲作システムの確立	21	24	国庫委託・独法委託・令達	プロ水田
プロ水田		(H21-25-1000)イネの直播栽培の収量を高める作溝直播機の開発	21	22	独法委託	プロ水田
プロ水田		(H21-25-2000)作溝直播機の現地適用性実証と実用化	21	22	令達	プロ水田
プロ水田		(H21-25-3000)寒冷地におけるドレイン作溝型土中直播・落水出芽・無コーティングによる高精度苗立技術の開発	23	24	国庫委託	プロ水田
プロ水田		(H21-25-4000)除草効果と出芽を高める管理法の確立	22	24	令達	プロ水田
プロ水田	7	(H22-25)水田大豆の多収安定化に寄与する現地適用マニュアル作成のための連携研究のうち「太平洋側北部における各種耕うん播種法の適用条件解明」	22	22	独法委託	プロ水田
プロ特裁	8	(H19-44)特別栽培・有機栽培等高度化生産方式の開発	19	22	国庫補助,独法委託,民間委託,令達	プロ特裁
プロ特裁		(H19-44-2000)水稲における特別栽培農産物等生産技術の安定化実証	19	22	国庫補助,独法委託,民間委託,令達	プロ特裁
プロ特裁		(H19-44-2100)①プレミアムブランド米に対応した生産技術の安定化実証	19	22	民間委託,令達	プロ特裁
プロ特裁		(H19-44-2200)②有機栽培における除草機を中心とした栽培管理技術の評価と有機栽培の実態調査	19	22	国庫補助,独法委託,令達	プロ特裁
プロ特裁		(H19-44-3000)野菜・畑作物における特別栽培農産物等生産技術の開発	19	22	国庫補助,民間委託,令達	プロ特裁,作物(県北)
プロ特裁		(H19-44-3100)①化学肥料代替技術の開発	19	22	民間委託,令達	プロ特裁,作物(県北)
プロ特裁		(H19-44-3110)ア トマトにおける代替技術の開発	19	22	民間委託,令達	プロ特裁
プロ特裁		(H19-44-3120)イ 大豆における代替技術の開発	19	22	令達	作物(県北)
プロ特裁		(H19-44-3200)②化学合成農薬代替技術の開発	19	22	国庫補助,令達	プロ特裁
プロ特裁		(H19-44-3210)ア トマトにおける代替技術の開発	19	22	国庫補助	プロ特裁
プロ特裁		(H19-44-3230)ウ 大豆における病害虫防除代替技術の開発	19	22	令達	プロ特裁
プロ特裁		(H19-44-3240)エ 大豆における雑草防除代替技術の開発	19	22	国庫補助	プロ特裁

主査 研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
プロ特裁	9	(H20-19)農業に有用な生物多様性の指標及び評価手法の開発	20	24	独法委託	プロ特裁,病理昆虫 園芸(県北)
プロ特裁		(H20-19-1000)(1)東北の水田集落における指標生物の選抜と評価手法の開発	20	24	独法委託	プロ特裁
プロ特裁		(H20-19-2000)(2)寒冷地のキャベツ圃場における環境保全型農法と関連した生物多様性の指標生物の選抜と評価手法の開発	20	24	独法委託	病理昆虫,園芸 (県北)
【農業経営研究室】						
農業経営	10	(H20-28)GAP導入促進のための経営支援ナビゲーションシステムの開発	20	22	独法委託	農業経営
農業経営	11	(H21-03)先進的経営体のビジネスモデルと経営管理方策の解明	21	23	県単研究	農業経営
農業経営	12	(H21-02)本県主要農産物の需要・競争構造の分析	21	25	県単研究	農業経営
農業経営	13	(H21-04)農業技術体系データベースの整備・拡充	21	25	県単研究	農業経営
農業経営	14	(H22-32)水田農業に対する施策変更が地域農業の担い手に及ぼす影響把握	22	22	独法委託	農業経営
【作物研究室】						
作物(技術)	15	(803)水稲奨励品種決定調査	14	22	県単採種	作物(技術)
作物(技術)		(803-1000)予備調査	14	22	県単採種	作物(技術)
作物(技術)		(803-1100)中晩生系統	14	22	県単採種	作物(技術)
作物(技術)		(803-1200)早生系統	14	22	県単採種	作物(県北)
作物(技術)		(803-2000)本調査	14	22	県単採種	作物(技術)
作物(技術)		(803-2100)中晩生系統	14	22	県単採種	作物(技術)
作物(技術)		(803-2200)早生系統	14	22	県単採種	作物(県北)
作物(技術)		(803-3000)現地調査	14	22	県単採種	作物(技術)
作物(技術)	16	(805)水稲作況調査と作柄成立要因の解析	14	22	県単研究	作物(技術)
作物(技術)		(805-1000)水稲作況調査	14	22	県単研究	作物(技術)
作物(技術)		(805-1100)県央・県南地域	14	22	県単研究	作物(技術)
作物(技術)		(805-1200)県北地域	14	22	県単研究	作物(県北)
作物(技術)		(805-2000)水稲優良品種の気象反応試験	14	22	県単研究	作物(技術)
作物(技術)		(805-2100)県央・県南地域	14	22	県単研究	作物(技術)
作物(技術)		(805-2200)県北地域	14	22	県単研究	作物(県北)
作物(技術)		(805-3000)水稲作柄成立要因の解析	14	22	県単研究	作物(技術)
作物(技術)	17	(61)水稲原々種生産	S29	22	県単採種	作物(技術)
作物(技術)	18	(62)水稲原種生産	S29	22	県単採種	作物(技術)
作物(技術)	19	(807)水田雑草の効率的防除技術の開発	14	22	民間委託	作物(技術)
作物(技術)		(807-1000)水稲作用除草剤第2次適用性試験	14	22	民間委託	プロ水田
作物(技術)		(807-1100)県央・県南地域	14	22	民間委託	プロ水田
作物(技術)		(807-1200)県北地域	14	22	民間委託	作物(県北)
作物(技術)	20	(H22-rb01)主食用米等品種の育成(コシヒカリを超える米)	S59	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-1000)交配母本評価と交配	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-2000)初期世代養成	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-3000)個体選抜	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-4000)系統選抜	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-4100)単独系統	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-4200)生産力検定本試験検討群	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-4300)生産力検定予備試験系統群	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-5000)生産力検定	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-5100)生産力検定予備試験	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-5200)生産力検定本試験	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-5300)生産力検定試験早生系統	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-6000)特性検定試験	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-6100)いもち病真性抵抗性遺伝子型推定	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-6200)葉いもち圃場抵抗性検定試験	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-6300)穂いもち圃場抵抗性検定試験	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-6400)耐冷性検定試験(育成系統)	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-6500)食味官能試験	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-6600)食味関連成分分析及び物性試験	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-6700)穂発芽検定試験	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-6800)直播適性	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-7000)DNAマーカー等先端技術利用	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb01-8000)育成系統採種	S63	22	令達	作物(技術)

主査 研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
作物(技術)	21	(H22-rb02)醸造用水稲品種の育成(山田錦を超える米)	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-1000)交配母本評価と交配	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-2000)初期世代養成	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-3000)個体選抜	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-4000)系統選抜	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-4100)単独系統	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-4200)生産力検定本試験検討群	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-4300)生産力検定予備試験系統群	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-5000)生産力検定	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-5100)生産力検定予備試験	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-5200)生産力検定本試験	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-5300)生産力検定試験早生系統	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-6000)特性検定試験	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-6100)いもち病真性抵抗性遺伝子型推定	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-6200)葉いもち圃場抵抗性検定試験	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-6300)穂いもち圃場抵抗性検定試験	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-6400)耐冷性検定試験(育成系統)	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-6500)食味官能試験	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-6600)食味関連成分分析及び物性試験	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-6700)穂発芽検定試験	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-6900)醸造適性	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-7000)DNAマーカー等先端技術利用	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb02-8000)育成系統採種	S63	22	令達	作物(技術)
作物(技術)	22	(H22-rb03)委託試験	S39	22	国庫委託、民間委託	作物(技術),作物(県北)
作物(技術)		(H22-rb03-1000)水稻系統適応性検定試験	S39	22	国庫委託	作物(技術),作物(県北)
作物(技術)		(H22-rb03-2000)稲民間育成品種評価試験	H13	22	民間委託	作物(技術)
作物(技術)		(H22-rb03-3000)耐冷性検定試験(委託系統検定)	H18	22	国庫委託	作物(技術)
作物(技術)	23	(H20-25)バイオエネルギー利活用技術の開発	H20	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H20-25-1000)バイオエネルギー対応品種の種子増殖	H20	22	令達	作物(技術)
作物(技術)		(H20-25-2000)DNAマーカーを活用した原料用米低コスト生産品種の選抜	H20	22	令達	作物(技術)
作物(技術)	24	(H21-24)東北地域中北部向け多収稲品種の共同育成	21	25	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-3000)個体選抜	21	25	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-4000)系統選抜	21	25	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-4100)単独系統	21	25	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-4200)生産力検定本試験検討群	21	25	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-4300)生産力検定予備試験系統群	21	25	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-5000)生産力検定	21	25	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-6000)特性検定試験	21	25	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-6100)いもち病真性抵抗性遺伝子型推定	21	25	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-6200)葉いもち圃場抵抗性検定試験	21	25	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-6300)穂いもち圃場抵抗性検定試験	21	25	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-6400)耐冷性検定試験(育成系統)	21	25	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-6600)食味関連成分分析及び物性試験	21	25	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-6700)穂発芽検定試験	21	25	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-6800)直播適性	21	25	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-24-8000)育成系統採種	21	25	独法委託	作物(技術)
作物(技術)	25	(174)えだまめ等オリジナル品種優良種苗の維持・増殖	8	22	令達	作物(技術)
作物(技術)	26	(877)大豆立枯性病害抵抗性検定試験	14	22	国庫委託	作物(技術)
作物(技術)	27	(889)麦類耐寒雪性特性検定試験	14	22	国庫委託	作物(技術)
作物(技術)	28	(819)あずき系統適応性検定試験	14	22	国庫委託	作物(技術)
作物(技術)	29	(835)はれいしょ系統適応性検定試験	14	22	国庫委託	作物(技術)
作物(技術)	30	(890)畑作物の生育相及び気象反応の解明	14	22	県単研究	作物(技術)
作物(技術)		(890-2000)大豆の生育相と気象反応の解明	14	22	県単研究	作物(技術)
作物(技術)		(890-2100)県央・県南地域	14	22	県単研究	作物(技術)
作物(技術)		(890-2200)県北地域	14	22	県単研究	作物(県北)
作物(技術)		(890-1000)麦類の生育相と気象反応の解明	14	22	県単研究	作物(技術)
作物(技術)		(890-1100)県央・県南地域	14	22	県単研究	作物(技術)
作物(技術)		(890-1200)県北地域	14	22	県単研究	作物(県北)

主査 研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
作物(技術)	31	(891)畑作物原々種・原種生産	14	22	県単採種	作物(技術)
作物(技術)	32	(H19-13)麦類奨励品種決定調査及び有望系統の特性調	19	22	県単採種	作物(技術)
作物(技術)		(H19-13-1000)(1)奨励品種決定調査(県南・県央地域)	19	22	県単採種	作物(技術)
作物(技術)		(H19-13-2000)(2)奨励品種決定調査(県北地域)	19	22	県単採種	作物(県北)
作物(技術)		(H19-13-3000)(3)有望系統特性調査	19	22	令達	作物(技術)
作物(技術)	33	(H19-12)大豆等奨励品種決定調査及び有望系統の特性	19	22	県単採種	作物(技術)
作物(技術)		(H19-12-1000)(1)奨励品種決定調査(県南・県央地域)	19	22	県単採種	作物(技術)
作物(技術)		(H19-12-2000)(2)奨励品種決定調査(県北地域)	19	22	県単採種	作物(県北)
作物(技術)		(H19-12-3000)(3)有望系統特性調査	19	22	県単採種	作物(技術)
作物(技術)	34	(H21-16)履歴水温管理による水稻の冷害軽減技術の開発	21	23	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		(H21-16-1000)栽培指針の策定と現地実証	21	23	独法委託	作物(技術)
作物(技術)	35	(H21-20)「ひとめぼれ」突然変異集団とRILsを用いた連関解	21	23	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		析実験系の確立と利用				
作物(技術)		(H21-20-1000)系統群の形質評価および多様なイネ中間	21	23	独法委託	作物(技術)
作物(技術)		母本の迅速なDNAマーカー育種				
作物(技術)	36	(H22-33)北東北地域向け非主食用多用途稲の直播品種及	22	24	国庫委託	作物(技術),プロ
作物(技術)		び直播栽培等関連技術の開発				(水田)
作物(技術)		(H22-33-1000)北東北地域に適應する非主食用多用途	22	24	国庫委託	作物(技術)
作物(技術)		多収稲の品種開発・岩手県南部向け品種の開発				
作物(技術)		(H22-33-2000)寒冷地における湛水作溝同時直播栽培	22	24	国庫委託	プロ(水田)
作物(技術)		技術の確立・寒冷水田に適應した湛水作溝同時直播技術				
作物(技術)		(H22-33-3000)寒冷地における湛水作溝同時直播栽培	22	24	国庫委託	プロ(水田)
作物(技術)		技術の確立・DVRモデルによる湛水直播生育予測と季節予				
作物(技術)		報を組み合わせた適品種・適期予測システムの開発				
作物(技術)		(H22-33-4000)寒冷地における湛水作溝同時直播栽培	23	24	国庫委託	プロ(水田)
作物(技術)		技術の確立・湛水直播栽培における多収生産技術の現地				
【園芸研究室】						
園芸(技術)	37	(851)果樹の生育と果実品質変動要因の解明	14	22	県単研究	園芸(技術)
園芸(技術)		(851-1000)りんごの生育・生態の把握	14	22	県単研究	園芸(技術)
園芸(技術)		(851-2000)ぶどうの生育・生態の把握	14	22	県単研究	園芸(技術)
園芸(技術)		(851-3000)西洋なし、その他の果樹の生育・生態の把握	14	22	県単研究	園芸(技術)
園芸(技術)	38	(850)畑作物に対する植調剤等の利用法	14	22	民間委託	園芸(技術)
園芸(技術)		(850-1000)果樹園用除草剤の効果的使用法	14	22	民間委託	園芸(技術)
園芸(技術)		(850-1100)民間委託試験分	14	22	民間委託	園芸(技術)
園芸(技術)		(850-1200)令達試験分	14	22	令達	園芸(技術)
園芸(技術)		(850-2000)果樹の植調剤及び資材の効果的使用法	14	22	民間委託	園芸(技術)
園芸(技術)		(850-3000)野菜の除草剤実用化試験	15	22	民間委託	園芸(技術)
園芸(技術)		(850-5000)【畜産研究所担当分】	16	22	民間委託	家畜飼養・飼料
園芸(技術)		(850-5100)【家畜飼養・飼料研究室担当分】	16	22	民間委託	家畜飼養・飼料
園芸(技術)		(850-5110)除草剤試験	16	22	民間委託	家畜飼養・飼料
園芸(技術)		(850-6000)【県北農業研究所担当分】	16	22	民間委託	園芸(県北)
園芸(技術)		(850-6100)【県北園芸研究室担当分】	16	22	民間委託	園芸(県北)
園芸(技術)		(850-6110)植調剤試験	16	22	民間委託	園芸(県北)
園芸(技術)		(850-6200)【県北作物研究室担当分】	19	22	民間委託	作物(県北)
園芸(技術)		(850-6210)植調剤試験	19	22	民間委託	作物(県北)
園芸(技術)		(850-7000)小麦の除草剤実用化試験	18	22	民間委託	作物(技術)
園芸(技術)		(850-8000)南部園芸研究室分	18	22	民間委託	南部園芸
園芸(技術)		(850-8100)除草剤試験	18	22	民間委託	南部園芸
園芸(技術)	39	(894)良品質・高品質生産を目的としたウイルスフリー樹の作	14	22	令達	園芸(技術)
園芸(技術)	40	(830)ジョナゴールド、ふじ等に優るりんご中・晩生種の開発	14	22	令達	園芸(技術)
園芸(技術)		(830-1000)国育成系統適応性(盛岡58~65号)	14	22	国庫委託	園芸(技術)
園芸(技術)		(830-2000)国内外導入品種の選抜	14	22	令達	園芸(技術)
園芸(技術)		(830-3000)いわて特産中晩生種の交配育成	14	22	令達	園芸(技術)
園芸(技術)	41	(829)キャンベル・紅伊豆にかわる耐寒性大衆嗜好品種の育	14	22	国庫委託,令達	園芸(技術)
園芸(技術)		成及び選抜				
園芸(技術)		(829-1000)寒冷地向きぶどうの系統適応性試験	14	22	国庫委託	園芸(技術)
園芸(技術)		(829-1400)第12回系統適応性検定試験	20	22	国庫委託	園芸(技術)
園芸(技術)		(829-1500)第13回系統適応性検定試験	22	22	国庫委託	園芸(技術)
園芸(技術)		(829-2000)国内外育成の寒冷地向き品種の選抜(生食	14	22	令達	園芸(技術)
園芸(技術)		用、醸造、兼用種等品種の選抜)				
園芸(技術)		(829-3000)耐寒性大衆嗜好品種の育成及び選抜	14	22	令達	園芸(技術)
園芸(技術)	42	(837)ラ・フランスに優る西洋なし品種の開発	14	22	令達	園芸(技術)
園芸(技術)		(837-1000)国内外導入品種の選抜	14	22	令達	園芸(技術)

主査 研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
園芸(技術)	43	(826)おうとう、もも等の優良品種の選抜	14	22	令達	園芸(技術)
園芸(技術)		(826-1000)おうとう、もも等の優良品種の選抜	14	22	令達	園芸(技術)
園芸(技術)	44	(H15-38)新品种などの安定生産技術の確立	15	22	県単研究	園芸(技術)
園芸(技術)		(H15-38-1000)「岩手6号」の安定生産技術の確立	15	22	県単研究	園芸(技術)
園芸(技術)		(H15-38-2000)「シナノゴールド」の安定生産技術の確立	17	22	県単研究	園芸(技術)
園芸(技術)		(H15-38-3000)M7利用樹における樹勢衰弱の原因解明	20	22	県単研究	園芸(技術)
園芸(技術)	45	(H16-09)クラブアップル等リンゴ受粉専用品種の選抜と利 用法の確立	16	22	国庫委託, 県単 研究	園芸(技術)
園芸(技術)		(H16-09-1000)(1)受粉専用品種の選抜	16	22	県単研究	園芸(技術)
園芸(技術)	46	(H17-09)りんごの樹形改善による薬剤散布低減技術の開発	17	22	独法委託, 民間 委託, 県単研究	園芸(技術)
園芸(技術)		(H17-09-6000)スピードスプレーヤ用ドリフト低減ノズルの ドリフト低減効果試験	18	22	独法委託	園芸(技術)
園芸(技術)	47	(H19-11)M台木利用りんごわい性台木樹の高品質生産に 適した低樹高仕立て法の確立	19	22	県単研究	園芸(技術)
園芸(技術)	48	(H20-02)岩手県におけるおうとう品種「佐藤錦」の垣根仕立 て栽培法の確立	20	22	県単研究	園芸(技術)
園芸(技術)	49	(H21-05)つがる等に優るりんご早生品種の開発	21	30	令達	園芸(技術)
園芸(技術)	50	(H22-03)岩手県における果樹栽培の温暖化対策技術の確 立	22	27	県単研究、独 法委託	園芸(技術)
園芸(技術)		(H22-03-1000)開花期前進に伴う凍霜害対策技術の確	22	27	県単研究	園芸(技術)
園芸(技術)		(H22-03-2000)温暖化による果実障害対策技術の確立	23	27	県単研究	園芸(技術)
園芸(技術)		(H22-03-3000)気象変動に対応した優良系統の選抜	22	24	県単研究	園芸(技術)
園芸(技術)		(H22-03-4000)落葉遅延がリンゴ樹に及ぼす影響の解明	23	27	県単研究	園芸(技術)
園芸(技術)		(H22-03-5000)温暖化に対応できる新規果樹の選抜と栽 培技術の確立	24	27	県単研究	園芸(技術)
園芸(技術)		(H22-03-6000)果樹園における温暖化緩和技術の開発 (仮称)	22	26	独法委託	園芸(技術)
園芸(技術)	51	(H22-26)1-MCPによるりんごの長期鮮度保持技術の確立	22	23	民間委託	園芸(技術)
園芸(技術)	52	(H20-04)トマト抑制作型における省力栽培技術の開発	20	22	県単研究	園芸(技術)
園芸(技術)		(H20-04-1000)省力育苗技術の開発	20	22	県単研究	園芸(技術)
園芸(技術)		(H20-04-2000)省力管理方法の確立	21	22	令達, H22県単	園芸(技術)
園芸(技術)	53	(H20-06)新産地形成に向けたパブリカ等カラーピーマンの 栽培技術の開発	20	22	県単研究	園芸(技術)
園芸(技術)	54	(H20-16)寒冷地における良食味四季成り性品種定着のた めの夏秋どりイチゴ栽培技術の確立	20	22	独法委託	園芸(技術)
園芸(技術)		(H20-16-1000)組織培養による母株からの苗増殖性向上技 術の開発	20	22	独法委託	園芸(技術)
園芸(技術)	55	(H20-03)きゅうり長期どり生産技術の確立	20	22	県単研究	園芸(技術)
園芸(技術)		(H20-03-1000)空気膜二重ハウスを活用したきゅうり長期 生産技術の確立	20	22	県単研究	園芸(技術)
園芸(技術)		(H20-03-2000)空気膜二重ハウスの冬期有効活用品目 の選定	20	22	県単研究	園芸(技術)
園芸(技術)	56	(H20-17)ウリ科作物に発生するホモプシス根腐病の蔓延阻 止技術の開発	20	22	県単研究	園芸(技術)
園芸(技術)	57	(H21-10)寒冷地における冬～春野菜生産を可能にする新 品種・作型の開発	21	23	県単研究、独 法委託	園芸(技術)
園芸(技術)		(H21-10-1000)長日要求性素材を利用した極晩抽性ハク サイの新作型の開発	21	23	独法委託	園芸(技術)
園芸(技術)	58	(H21-17)寒冷地特性を活用し国産アスパラガスの周年安定 供給を実現する高収益生産システムの確立	21	23	独法委託	園芸(技術), 園芸 (県北)
園芸(技術)		(H21-17-1000)アスパラガス萌芽性の解明	21	23	独法委託	園芸(技術)
園芸(技術)		(H21-17-2000)冷涼な気象を活用した早期休眠打破技術 の確立	21	23	独法委託	園芸(技術)
園芸(技術)		(H21-17-3000)抗線虫資材としての利用技術の開発(旧 課題番号H20-09-1000)	21	23	独法委託	園芸(県北)
園芸(技術)		(H21-17-4000)促成アスパラガス収量確保のための根株 養成技術(旧課題番号H20-09-2000)	21	23	県単研究	園芸(県北)

主査 研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
園芸(技術)	59	(H21-15)低コスト養液土耕栽培による水田転換畑におけるリン酸肥料削減技術の実証	21	25	独法委託	園芸(技術)
園芸(技術)		(H21-15-1000)低コスト養液土耕草地を利用した効率的施肥法の確立	21	25	独法委託	園芸(技術)
園芸(技術)		(H21-15-2000)リン酸成分を有効活用した省資源型農業の開発	23	25	独法委託	生産環境
園芸(技術)	60	(843)りんどうの生育・生態調査	14	22	県単研究	園芸(技術)
園芸(技術)	61	(840)りんどうF1品種の親株維持・増殖技術の確立	14	22	県単研究	園芸(技術)
園芸(技術)		(840-1000)種子による親株維持技術の確立	14	22	県単研究	園芸(技術)
園芸(技術)		(840-2000)培養系親系統の特性検定及びF1品種の組合せ検定	14	22	県単研究	園芸(技術)
園芸(技術)	62	(H19-04)りんどう組織培養における増殖率の高位安定化技術の開発	19	22	県単研究	園芸(技術)
園芸(技術)		(H19-04-1000)(1)組織培養における花芽形成抑制と高増殖条件の解明	19	22	県単研究	園芸(技術)
園芸(技術)	63	(H20-18)純系りんどうとDNAマーカーを利用した品種育成技術の開発(純系りんどうの作出とマーカーを利用した系統選抜技術の開発)	20	22	独法委託	園芸(技術) 病理昆虫
園芸(技術)		(H20-18-1000)純系りんどうの作出とマーカーを利用した系統選抜技術の開発	20	22	独法委託	園芸(技術)
園芸(技術)		(H20-18-2000)種間交雑種におけるリンドウ褐斑病抵抗性の遺伝様式の解明	20	22	独法委託	病理昆虫
園芸(技術)	64	(191)りんどうの品種育成	S49	22	令達	園芸(技術)
園芸(技術)		(191-1000)りんどうの品種開発	20	22	令達	園芸(技術)
園芸(技術)		(191-2000)親株の安定生産	20	22	令達	園芸(技術)
園芸(技術)	65	(H19-09)温度・日長条件に対するりんどうの生育反応	19	23	県単研究	園芸(技術)
園芸(技術)	66	(H19-05)岩手県オリジナル花き遺伝資源の超低温保存法の確立	19	23	県単研究	園芸(技術)
園芸(技術)	67	(H22-07)リンドウ栽培安定化技術の開発	22	24	県単研究	園芸(技術)
園芸(技術)		(H22-07-1000)リンドウ発芽率向上安定化技術の開発	22	24	県単研究	園芸(技術)
園芸(技術)		(H22-07-2000)県育成極早生品種の株養成技術の開発	22	24	県単研究	園芸(技術)
【南部園芸研究室】						
南部園芸	6	(H20-07)イチゴ高設栽培の底面給液方式による作型別栽培技術の確立	20	22	県単研究	南部園芸
南部園芸		(H20-07-1000)促成作型における底面給液管理技術の確立	20	22	県単研究	南部園芸
南部園芸		(H20-07-2000)夏秋どり作型における底面給液管理技術の確立	21	22	県単研究	南部園芸
南部園芸	69	(H21-23)杉樹皮を用いた新規花壇苗用培養土の開発	21	22	独法委託	南部園芸
南部園芸	70	(H22-05)イチゴ夏秋どり作型における適品種の選定と多収生産技術の確立	22	24	県単研究	南部園芸
南部園芸		(H22-05-1000)夏秋どり作型における四季成り性イチゴ適品種の選定	22	23	県単研究	南部園芸
南部園芸		(H22-05-2000)夏秋どり作型における多収生産技術の開発	22	24	県単研究	南部園芸
南部園芸		(H22-05-3000)夏秋どり作型における一季成り性品種の適応性評価	22	24	県単研究	南部園芸
【生産環境研究室】						
生産環境	71	(H18-08)県産農産物のカドミウムリスク管理技術の確立	18	22	独法委託	生産環境
生産環境		(H18-08-3000)(3)畑作物・野菜類のカドミウム濃度予測手法の確立	20	22	独法委託	生産環境
生産環境	72	(H15-24)環境保全型有機質資源連用効果調査	15	22	県単(土壌対)	生産環境
生産環境		(H15-24-1000)水田における有機質資源連用効果	15	22	県単(土壌対)	生産環境
生産環境		(H15-24-2000)畑地における有機質資源連用効果	15	22	県単(土壌対)	生産環境

主査 研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
生産環境	73	(H16-22)新肥料の実用化	16	22	民間委託	生産環境
生産環境		(H16-22-5000)プロジェクト推進室	20	22	民間委託	プロ水田,プロ特 栽
生産環境		(H16-22-5100)水田農業担当分	20	22	民間委託	プロ水田
生産環境		(H16-22-5200)特栽・有機担当分	20	22	民間委託	プロ特栽
生産環境		(H16-22-7000)技術部	20	22	民間委託	作物(技術)、園 芸(技術)、南部
生産環境		(H16-22-7100)作物研究室(技術)担当分	20	22	民間委託	作物(技術)
生産環境		(H16-22-7200)園芸研究室(技術)担当分	20	22	民間委託	園芸(技術)
生産環境		(H16-22-7300)南部園芸研究室担当分	20	22	民間委託	南部園芸
生産環境		(H16-22-8000)環境部	20	22	民間委託	生産環境
生産環境		(H16-22-8100)生産環境研究室担当分	20	22	民間委託	生産環境
生産環境		(H16-22-9000)県北農業研究所	20	22	民間委託	園芸(県北)、作 物(県北)
生産環境		(H16-22-9100)園芸研究室(県北)担当分	20	22	民間委託	園芸(県北)
生産環境		(H16-22-9200)作物研究室(県北)担当分	20	22	民間委託	作物(県北)
生産環境	74	(H20-20)土壌由来温室効果ガスインベントリ情報等整備調	20	24	独法委託	生産環境
生産環境	75	(H15-23)土壌機能実態モニタリング調査	15	25	県単(土壌対	生産環境
生産環境	76	(H16-20)5. 野菜の品質自主管理技術の開発	17	24	県単研究、独 法委託	生産環境
生産環境		(H16-20-4000)(4)生食用野菜生産環境からの食中毒菌 の検出手法及び可食部汚染低減手法の実証と改善	21	24	独法委託	生産環境
生産環境	77	(H21-14)窒素質肥料添加による高窒素鶏ふん堆肥の製造 とその利用技術の開発	21	25	独法委託	生産環境
生産環境	78	(H22-21)省資源型土壌管理技術の確立	22	24	県単研究	生産環境
生産環境		(H22-21-1000)転作大豆栽培における低pH改善技術の 確立	22	24	県単研究	生産環境
生産環境		(H22-21-2000)露地野菜栽培における低pH改善技術の 確立	22	24	県単研究	生産環境
【病理昆虫研究室】						
病理昆虫	79	(841)りんどうこぶ症の発生を防止する技術の確立	14	22	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫		(841-1000)栽培的手法による発生防止技術の確立	14	22	国庫補助	園芸(技術)
病理昆虫		(841-3000)こぶ症発生リスクの解明と畦畔部の物理的遮 断等による防除法の確立	14	22	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫	80	(H09-03)【植物防疫事業研究】	9	22	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫	81	(402)新農薬の効果検定と防除基準作成	9	22	民間委託	病理昆虫
病理昆虫		(402-2000)県北地域	9	22	民間委託	園芸(県北)
病理昆虫		(402-4000)本部	9	22	民間委託	病理昆虫
病理昆虫		(402-5000)果樹	16	22	民間委託	園芸(技術)
病理昆虫	82	(H20-21)いちご萎黄病の耕種的防除技術の開発	20	22	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫	83	(H15-28)地域特産物における新防除資材の実用化	15	23	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫		(H15-28-1000)ホップのうどんこ病	21	22	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫		(H15-28-L000)りんどうのナスハモグリバエ	21	22	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫		(H15-28-M000)りんどうの葉枯病	22	23	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫	84	(H21-06)ダイズを加害するウコンノメイガの発生生態の解明 と防除対策の確立	21	23	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫	85	(H21-09)水稲箱施用剤の減量施用技術の開発	21	23	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫	86	(H22-01)広域的な葉いもち防除の徹底による穂いもち防除 を省略したいもち病防除体系の確立	22	26	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫	87	(H22-02)斑点米被害を低く抑える水稲出穂期以降の畦畔 雑草管理対策	22	24	令達	病理昆虫
病理昆虫	88	(H22-04)ハダニ類を主体としたリンゴ病害虫防除体系の最 適化	22	26	国庫補助	病理昆虫、園芸 (技術)
病理昆虫		(H22-04-1000)夏期の防除体系の最適化	22	26	国庫補助	病理昆虫
病理昆虫		(H22-04-2000)樹型等を考慮した適正な薬剤散布量の検	22	24	国庫補助	園芸(技術)
病理昆虫	89	(H22-06)キュウリ栽培で問題となる病害の防除技術確立	22	24	国庫補助、県 単研究	病理昆虫
病理昆虫		(H22-06-1000)ホモブシス根腐病の防除技術確立	22	24	国庫補助、独法 委託	病理昆虫
病理昆虫		(H22-06-2000)キュウリ黒星病の防除技術確立	22	24	県単研究	病理昆虫

主査 研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
【家畜育種研究室】						
家畜育種	90	(304)肉用牛における経済形質とDNAマーカーとの連鎖解	7	22	令達	家畜育種
家畜育種	91	(237)日本短角種産肉能力検定(現場後代検定法)	17	22	令達	家畜育種
家畜育種	92	(H19-23)血統・枝肉データを活用した日本短角種集団の全 個体情報管理システムの拡充	19	22	県単研究	家畜育種
家畜育種	93	(H20-23)有機自給飼料生産技術の確立とこれを用いた日 本短角種オーガニックビーフ生産の実証	20	22	独法委託	家畜育種
家畜育種	94	(H20-10)地域ブランド豚肉生産に活用する種豚性能調査と 飼養管理技術の確立	20	22	県単研究	家畜育種
家畜育種	95	(H20-12)受胎率向上のための受卵牛の飼養管理技術の確 立	20	22	県単研究	家畜育種
家畜育種	96	(236)日本短角種産肉能力検定(直接法)	S45	22	令達	家畜育種
家畜育種	97	(H20-22)遺伝子発現調節による和牛肉の不飽和度向上技 術の開発	20	24	独法委託	家畜育種
家畜育種	98	(H22-12)和牛肥育における尿石症予防のための飼養技術 の開発	22	25	県単研究	家畜育種,種山 畜産
家畜育種	99	(H22-13)地域未利用資源を活用したリキッドフィーディング システムの開発	22	24	県単研究	家畜育種
家畜育種	100	(H22-14)地域未利用資源を活用した南部かしわの飼料給 与技術の確立	22	24	県単研究	家畜育種
家畜育種	101	(H22-15)岩手独自の新軍鶏系統の開発	22	26	県単研究	家畜育種
家畜育種	102	(H22-30)ハーグシャー種における輸入トウモロコシから飼料 米への全量代替給与技術の確立	22	26	独法委託	家畜育種
家畜育種	103	(H22-29)発酵TMR素材としての自給高タンパク質飼料の低 コスト調製・給与技術の開発(乳牛・肉用牛給与)(2)肉用牛 への給与技術	22	24	独法委託	家畜飼養・飼料, 家畜育種
家畜育種	104	(H22-35)新規情報を指標とした種雄牛選抜の実用化	22		令達	家畜育種
【家畜飼養・飼料研究室】						
家畜飼養・飼料	105	(H20-11)自動搾乳システムにおける飼料給与技術の確立	20	22	県単研究	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	106	(H20-14)(postH14-21)腐熟堆肥とバイオガスプラント由来消 化液を併用した飼料用トウモロコシ栽培法の確立	20	22	県単研究	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	107	(253)とうもろこし市販品種の特性比較	S54	22	県単研究	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	108	(254)とうもろこし系統適応性検定試験	S55	22	国庫委託	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	109	(H21-07)飼料用トウモロコシの効果的な除草剤散布技術の 開発	21	23	県単研究	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	110	(H22-09)くず大豆の飼料化と給与技術の確立	22	24	独法委託,県 単研究	家畜飼養・飼料, 家畜育種
家畜飼養・飼料		(H22-09-1000)くず大豆のサイレージ化と乳牛への給与 技術	22	24	独法委託	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料		(H22-09-2000)くず大豆の肥育牛への給与技術の確立	22	24	県単研究	家畜育種
家畜飼養・飼料	111	(H22-18)飼料用トウモロコシ栽培における堆肥の効率的利 用技術の確立	22	24	県単研究	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	112	(H22-19)飼料作物栽培における土壌条件等に応じた減肥 技術の確立	22	25	県単研究	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	113	(H22-20)乳用育成牛から初産までのTMR給与技術の開発	22	25	県単研究	家畜飼養・飼料
家畜飼養・飼料	114	(H22-31)不耕起栽培トウモロコシを導入した寒冷地向け飼 料作物周年栽培作付体系の確立	22	26	独法委託	家畜飼養・飼料
【外山畜産研究室】						
外山畜産	115	(H22-10)日本短角種の周年出荷へ向けた飼養管理技術の 確立	22	25	県単研究	外山畜産,家畜 育種
外山畜産	116	(H22-11)外部寄生昆虫(アブ)の駆除技術の確立	22	24	県単研究	外山畜産
外山畜産	117	(H22-16)リモートセンシング、GPSを活用した効率的な草地 管理技術の確立	22	24	県単研究	外山畜産
外山畜産		(H22-16-1000)リモートセンシングによる草地管理情報の 取得技術	22	24	県単研究	外山畜産
外山畜産		(H22-16-2000)トラクター搭載型GPSを活用した草地の精 密管理技術	22	24	県単研究	外山畜産
外山畜産	118	(H22-17)作溝式播種機を活用した簡易な放牧地更新技術 の確立	22	24	県単研究	外山畜産
種山畜産	119	(235)黒毛和種産肉能力検定(間接法・現場後代検定)	1	22	管理運営費	種山畜産
種山畜産	120	(857)県有種雄牛の利用及び能力調査	14	22	管理運営費	種山畜産
種山畜産	121	(859)黒毛和種における分割胚移植技術を活用した高能力 種雄牛の作出	14	22	管理運営費	種山畜産
種山畜産	122	(234)黒毛和種産肉能力検定(直接法)	S62	22	管理運営費	種山畜産

主査 研究室	連番	(課題番号)課題名	開始	終了	予算区分	担当研究室
【園芸研究室(県北)】						
園芸(県北)	123	(H20-08)業務用需要に対応できる野菜生産技術の確立	20	22	独法委託	園芸(県北)
園芸(県北)		(H20-08-2000)業務用向け規格に対応したハウレンソウの栽培方法確立	20	22	独法委託	園芸(県北)
園芸(県北)	124	(H21-08)ほうれんそう産地における夏期増収技術の確立	21	23	県単研究	園芸(県北)
園芸(県北)		(H21-08-2000)夏期高温乾燥期における実用的かん水	21	23	県単研究	園芸(県北)
園芸(県北)		(H21-08-3000)夏期ほうれんそう1t穫りの実証	22	23	県単研究	園芸(県北)
園芸(県北)		(H21-08-4000)低濃度エタノールを用いたハウレンソウ萎凋病被害軽減技術	21	23	国庫補助	園芸(県北)
園芸(県北)	125	(H22-28)地球温暖化が果樹・野菜等の園芸作物および茶に及ぼす影響評価と適応技術の開発	22	26	独法委託	園芸(県北)
園芸(県北)	126	(H19-53)県北地域における小ぎくの安定生産技術の確立(旧題:県北地域における小ぎく「アイマムシリーズ」の安定生産技術の確立)	19	22	県単研究	園芸(県北)
園芸(県北)		(H19-53-2000)県北地域における小ぎく作付体系の構築	19	22	県単研究	園芸(県北)
園芸(県北)	127	(H22-08)県北地域におけるりんどうの収益向上技術の確立	22	24	国庫補助, 県単研究	園芸(県北)
園芸(県北)		(H22-08-1000)露地でのトンネル栽培による「極々早生6」の作期前進技術	22	24	県単研究	園芸(県北)
園芸(県北)		(H22-08-2000)りんどう有望系統の現地適応性	22	24	県単研究	園芸(県北)
園芸(県北)		(H22-08-3000)ハウス栽培における病害虫防除法	22	24	国庫補助	園芸(県北)
【作物研究室(県北)】						
作物(県北)	128	(H22-22)いわて雑穀生産・販売戦略を支援する雑穀優良種子の生産	22	26	令達	作物(県北)
作物(県北)	129	(H22-23)いわて雑穀生産・販売戦略を支援する品種開発と持続的安定生産技術の確立	22	26	国庫補助, 県単研究, 令達	作物(県北)
作物(県北)		(H22-23-1000)加工・栽培特性に優れた雑穀オリジナル品種の開発と雑穀遺伝資源の収集・評価・保存	22	26	県単研究	作物(県北)
作物(県北)		(H22-23-2000)安定生産を可能にする雑穀畑輪作技術の確立	22	26	県単研究, 令達	作物(県北)
作物(県北)		(H22-23-3000)安定生産に向けた雑穀の適正施肥体系の確立	22	26	県単研究	作物(県北)
作物(県北)		(H22-23-4000)化学合成農薬を用いない雑穀病害虫防除技術の開発	22	26	国庫補助	作物(県北)

(3) 平成23年度試験研究を要望された課題とその措置一覧

(平成22年11月8日付け農研企第181号で要望機関に回答)

【措置区分】 A:次年度実施予定 B:現在実施中 C:既知見あり D:次年度実施できない

要望No.	要望機関	要望課題名	担当研究室 (主査担当)	措置区分
農 産 部 会	1	中央農業改良普及センター 水田雑草「オモダカ」の効果的防除方法の確立	○作物(技術) PJ(水田農業)	B,C
	2	中央農業改良普及センター 県北・沿岸地域における水稲乾田直播栽培技術の確立	○PJ(水田農業) 作物(県北)	B
	3	二戸農林振興センター 統計手法を活用した農畜産物の産出額推定法の開発	○農業経営	C
	4	岩手県農業農村指導士協会 温暖化による県内農作物の生育への影響把握について	○作物(技術) 園芸(技術)	B,C
	5	全農岩手県本部 生物防除薬剤による効果的な水稲種子消毒法(処理一予措一育苗の工程)の開発	○病理昆虫	A,B,C
	6	流通課 米粉麴に適する水稲品種の開発(育種ではなく、現存する品種から製麴適性等に優れた品種を選抜)	○作物(技術)	B,C
園 芸 部 会	1	中央農業改良普及センター 野菜生産凋落要因の解明と野菜専作経営育成対策の提示	○農業経営	A,B,C
	2	中央農業改良普及センター 摘果剤「マイクロデナボン水和剤85」の岩手県オリジナル品種「黄香」「岩手7号」に対する効果的な使用方法について	○園芸(技術)	A
	3	中央農業改良普及センター トマトにおける低温障害果発生要因の解明と対策について	○園芸(技術)	A
	4	中央農業改良普及センター トマトにおける天敵・微生物資材を活用した害虫防除体系の確立	○病理昆虫	B,C,D
	5	中央農業改良普及センター りんごJM7台木に対する野ネズミ被害対策	○園芸(技術) 病理昆虫	B,C,D
	6	中央農業改良普及センター マメコバチに着生するコナダニの防除法	○病理昆虫	C,D
	7	中央農業改良普及センター 主要品目の適正土壌中無機態窒素レベルの解明	○生産環境	A,C
	8	中央農業改良普及センター リンドウホソハマキの防除体系の確立	○病理昆虫	A,B
	9	遠野農林振興センター 沢わさびの根茎部分を食害するコモチカツボの駆除方法	○病理昆虫	D
	10	農産園芸課 果菜類の天敵昆虫等を活用した総合的病害虫・雑草管理体系の確立	○病理昆虫	A,B,D
畜 産 部 会	1	中央農業改良普及センター 乾乳期間短縮による泌乳量平準化技術の確立	○家畜飼養・ 飼料	A
	2	中央農業改良普及センター TMRセンターやコントラクターにおける不耕起播種機の導入効果について	○家畜飼養・ 飼料、農業経営	B,C,D
県 北 振 興	1	中央農業改良普及センター ハウレンソウ白斑病の防除体系の確立	○園芸(県北) 病理昆虫	A
	2	中央農業改良普及センター 土壌中硫酸イオン濃度が雨除けほうれんそうの生育に及ぼす影響の解明	○園芸(県北) 生産環境	A,C

5 共同研究等の推進

(1) 国庫委託研究事業(国庫10/10委託)

課題名	委託元	研究期間	研究の内容	担当研究室
特性検定試験事業 (水稲、麦類(耐寒雪性)、大豆(立枯性病害抵抗性))	農林水産省	22	国及び育種指定試験地で育成中の系統について、育成地では実施しがたい特性の検定を行い、選抜効率の向上のための資料を得る。	作物(技術部)
系統適応性検定試験事業 (水陸稲、馬鈴薯、小豆、果樹、とうもろこし)	農林水産省	22	国及び育種指定試験試験地で育成中の系統について、育成地と異なった風土での確認を行い、新品種決定のための資料を提供する。	作物(技術部) 園芸(技術部) 家畜飼養・飼料作物(県北研)

(2) 農研機構プロジェクト(交付金プロジェクト)研究(10/10委託)

課題名	委託元	研究期間	研究の内容	担当研究室
寒冷地における良食味四季成り性品種定着のための夏秋どりイチゴ栽培技術の確立	東北農業研究センター(*1)	20~22	四季成り性イチゴの高増殖性母株作出技術の開発	園芸(技術部)
有機自給飼料生産技術の確立とこれを用いた日本短角種オーガニックビーフ生産の実証	東北農業研究センター(*1)	20~22	日本短角種の粗飼料主体肥育技術の確立	家畜育種
(東北農研地域連携プロ) 水田大豆の多収安定化に寄与する現地適用マニュアル作成のための連携研究	東北農業研究センター(*1)	22	太平洋側北部における各種耕うん播種法の適用条件解明	プロ推(水田農業)
(東北農研地域連携プロ) 水田農業に対する施策変更が地域農業の担い手に及ぼす影響把握	東北農業研究センター(*1)	22	水田農業に対する施策変更が地域農業の担い手に及ぼす影響把握	農業経営

* (独)農業・食品産業技術総合研究機構

(3) 農林水産省委託プロジェクト研究事業(10/10委託)

課題名	委託元	研究期間	研究の内容	担当研究室
水田の潜在能力発揮等による農地周年有効活用技術の開発	東北農業研究センター(*1)	19~23	水稲乾田直播と大豆浅耕小畦立て栽培技術による輪作体系の確立と実証	プロ推(水田農業)、農業経営
農業に有用な生物多様性の指標及び評価手法の開発	(独)農業環境技術研究所	20~23	寒冷地のキャベツほ場における環境保全型農法と関連した生物多様性の指標生物の選抜	病理昆虫、園芸(県北研)
		20~22	北日本の平地水田地帯における指標生物の選抜	プロ推(特裁・有機)
生産・流通・加工工程における体系的な有害要因の特性解明とリスク低減技術の開発(農産物におけるヒ素およびカドミウムのリスク低減技術の開発)	(独)農業環境技術研究所	20~22	イムノクロマト法等によるカドミウム濃度簡易測定のみぎ、ダイズ、野菜への適用(イムノクロマト法ののみぎ、ダイズへの適用)	生産環境
地域内資源を循環利用する省資源型農業確立のための研究開発	東北農業研究センター(*1)	21~25	水稲有機栽培に対応できる除草技術の確立	プロ推(特裁・有機)
	近畿中国四国農業研究センター(*1)	21~25	低コスト養液土耕栽培による水田転換畑におけるリン酸肥料削減技術の実証	園芸(技術部)
	中央農業総合研究センター(*1)	21~25	窒素質肥料添加による高窒素鶏ふん堆肥の製造とその利用技術の開発	生産環境
生産・流通・加工工程における体系的な有害要因の特性解明とリスク低減技術の開発(生食用野菜における病原微生物汚染の防止・低減技術の開発)	野菜茶業研究所(*1)	21~24	生食用野菜生産環境からの食中毒菌の検出手法および可食部汚染低減手法の実証と改善(冷涼地)	生産環境

* (独)農業・食品産業技術総合研究機構

課題名	委託元	研究期間	研究の内容	担当研究室
自給飼料を基盤とした国産畜産物の高付加価値化技術の開発	畜産草地研究所(*1)	22～26	多収でいもち病抵抗性・耐冷性・識別性を有する飼料用米品種の育成	作物(技術)
	国立大学法人山形大学	22～26	パークシャー種における輸入トウモロコシから飼料米への全量代替給与技術の確立	家畜育種
	畜産草地研究所(*1)	22～24	発酵TMR素材としての高タンパク質飼料の低コスト調製・給与技術の開発	家畜育種、家畜飼養・飼料
	畜産草地研究所(*1)	22～24	不耕起栽培とうもろこしを導入した寒冷地向け飼料作物周年作付体系の確立	家畜飼養・飼料
農林水産分野における地球温暖化対策のための緩和及び適応技術の開発	果樹研究所(*1)	22～24	果樹園における剪定しチップ等の施用の影響解明	園芸(技術部)
	中央農業研究センター(*1)	22～26	地球温暖化が果樹・野菜等の園芸作物および茶に及ぼす影響評価と適応技術の開発	園芸(県北研)

* (独)農業・食品産業技術総合研究機構

(4) 新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業(10/10委託)

課題名	共同研究機関 (筆頭が中核機関)	研究期間	研究の内容	担当研究室
耕作放棄地を活用したナタネ生産及びカスケード利用技術の開発(課題番号: 21014)	中央農業総合研究センター(*1)、福島県農業総合センター、茨城県農業総合センター	21～23	4「寒冷地および温暖地におけるナタネ生産現地実証試験」のうち、(1)「寒冷地:岩手県雫石町・西和賀町」において、小畦立て播種機の改良を行うとともに、播種の畦幅や条数について検討を行う。	プロ推(水田農業)
GAP導入促進のための経営支援ナビゲーションシステムの開発(課題番号:2005)	国立大学法人九州大学、愛媛県	20～22	1「GAP導入促進のための経営支援ナビゲーションシステムの設計・評価とサブシステム統合」のうち、(2)「岩手県におけるシステムの実証試験・現地評価」	農業経営
履歴水温管理による水稻の冷害軽減技術の開発(課題番号: 21089)	国立学校法人岩手大学、国立大学法人東京大学、国立大学法人山形大学、東北農業研究センター(*1)、北海道農業研究センター(*1)、青森県農林総合研究センター、宮城県古川農業試験場、秋田県農林水産技術センター、福島県農業総合センター	21～23	「やませ地域の現地圃場での影響評価」において、岩手県における履歴水温効果の定量化、現地実証を行う。	作物(技術部)
「純系を利用した新育種手法による国際競争力の高いリンドウの開発」(課題番号: 2040)	(財)岩手生物工学研究センター、国立学校法人岩手大学、有限責任中間法人安代リンドウ開発	20～22	「交配実生の県南地域での栽培評価」において、特性評価を行う。「交配実生におけるDNAマーカーの適用性検定」において、花色識別マーカーによる実生の検定を行う。	園芸(技術部)
寒冷地においてアスパラガスの周年安定供給を可能にする栽培技術の確立(課題番号: 21006)	東北農業研究センター(*1)、野菜茶業研究所(*1)、宮城県農業・園芸総合研究所、秋田県農林水産技術センター、山形県農業総合研究センター、福島県農業総合センター、国立大学法人北海道大学北方生物圏フィールド科学センター、国立大学法人弘前大学 【研究総括者】 岩手県農業研究センター 技術部園芸研究室 山口貴之	21～23	研究総括の他、1「早期休眠打破技術の開発」のうち、(1)「アスパラガスの休眠特性の解明」および(3)「冷涼な気象を活用した早期休眠打破技術の確立」において、休眠特性の解明と東北地域の冷涼な気象を活用した早期休眠打破技術の開発を、また、4「廃根の適正処理とバイオマス利用技術の開発」のうち、(2)「抗線虫資材としての利用技術の開発」において、レタス圃場でのアスパラガス廃根の抗線虫資材利用技術開発を行う。	園芸(技術部)、園芸(県北研)

* (独)農業・食品産業技術総合研究機構

課題名	共同研究機関 (筆頭が中核機関)	研究期間	研究の内容	担当研究室
北東北地域向け非主食用多用途稲の直播品種及び直播栽培等関連技術の開発(課題番号:22087)	岩手県農業研究センター (地独)青森県産業技術センター(農林総合研究所)、(財)岩手県生物工学研究センター 【研究総括者】 岩手県農業研究センター 技術部作物研究室 佐々木 力	22～24	研究総括の他、1「北東北地域に適応する非主食用多用途多収稲の品種開発」のうち、岩手県南部向けの非主食用多収稲品種の開発を行う。また、2「寒冷地における湛水直播栽培技術の確立」において、湛水直播に係る技術の開発を行うとともに、開発技術の現地実証を行う。	作物(技術部)、プロ推(水田農業)
ウリ科作物に発生するホモプシス根腐病の総合的な被害回避技術の確立(課題番号: 22082)	東北農業研究センター(*1)、秋田県立大学、宮城県農業・園芸総合研究所、福島県農業総合センター	22～24	2「被害リスクに応じた防除(被害回避)技術の開発」のうち、(2)「整枝管理による萎凋症状の緩和手法の開発」において、栽培(整枝)管理による被害緩和手法の開発を行う。また(3)「土壌改良資材による被害緩和技術の開発」において、土壌pH矯正による被害緩和技術の開発を行う。	病理昆虫
「遺伝子発現調節による和牛肉の不飽和度向上技術の開発(2004)」	山形県、宮城県、秋田県農林水産技術センター、東北大学、北海道大学、日本獣医生命科学大学	20～24	不飽和度を高める飼料及び給与技術の開発	家畜育種
業務用需要に対応した露地野菜の低コスト・安定生産技術の開発(2003)	野菜茶業研究所(*1)、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、愛知県、鹿児島県	20～22	1.「栽植方式の見直しによる省力化技術の開発」のうち、(3)「ハウレンソウの省力生産技術の開発」において、大型規格栽培に適した栽培技術の開発を行う。	園芸(県北研)

* (独)農業・食品産業技術総合研究機構

(5) 研究成果最適展開支援事業((独)科学技術振興機構、10/10委託)

課題名	共同研究機関	研究期間	研究の内容	担当研究室
(育成研究)				
長日要求性素材と遺伝子解析を応用したアブラナ科極晩抽性品種の開発	【中核機関】 東北農業研究センター(*1)	21～23	選抜系統・F1組み合わせを用いた新作型の開発	園芸(技術部)
(地域ニーズ即応型)				
杉樹皮を用いた新規花壇用培養土の開発	三研ソイル(株)、葛巻林業(株)	21～22	三研ソイル株式会社が持つ園芸用培養土の製造技術と、葛巻林業株式会社の杉樹皮培地製造技術に対して、岩手県農業研究センターが持つ、杉樹皮に起因する植物への生育阻害性等を解消する技術をマッチングし、杉樹皮培地を用いた花壇苗用の培養土を開発する。	南部園芸、生産環境

(6) その他独法等からの委託(10/10委託)

事業・課題名	共同研究機関	研究期間	研究の内容	担当研究室
新稲作研究会委託試験 積雪寒冷地水稲乾田 直播栽培における出 芽安定化技術の確立	—	22	積雪寒冷地においても比較的 適応性が高い播種方法を用いて、 出芽に適した土壌環境等の観点 から比較検討する。	プロ推(水田農業)
生研センター・イノベー ション創出基礎的研究 推進事業(発展型 研究一般枠)	(財)岩手生物工学研究センター、国 立大学法人 総合研究大学院大 学	21～23	「ひとめぼれ」突然変異集団と RILsを用いた連関解析実験系の 確立と利用	作物(技術部)
果樹用農薬飛散制御 型防除機の開発に関 する委託研究	生物系特定産業技術研究支援セ ンター(*1)	18～22	スピードスプレーヤ用ドリフト低減 型ノズルの防除効果、ドリフト及び 作業被曝低減効果試験	園芸(技術部)
財団法人園芸振興松 島財団 平成21年度 第36回研究助成	—	22	りんごにおける新規果樹鮮度保 持財の実用化研究	園芸(技術部)
平成21年度土壌由来 温室効果ガスインベ ントリ情報等整備調査	(独)農業環境技術研究所	20～22	全国農地土壌炭素調査	生産環境

* (独)農業・食品産業技術総合研究機構

※競争的研究資金に基づく共同研究機関数(延べ数)

研究機関区分	延べ機関数
大学	12
独立行政法人	26
公設試験場・地方独立行政法人	24
民間(公益法人を含む)	6

(7) 民間委託試験(10/10委託)

事業名・課題名	相手方	研究の内容	担当研究室
農薬及び植物調節剤 等の効果検定試験	(社)岩手県植物防 疫協会	(社)日本植物防疫協会からの委託分	病理昆虫、園芸(県北研)、作物(県北 研)
		(社)日本植物調節剤研究協会からの 委託分	プロ推(水田農業)、園芸(技術部)、南 部園芸、家畜飼養・飼料、作物(県北 研)
		(株)丸尾カルシウム、(株)井上石灰工 業、(株)晃栄化学工業からの委託分	園芸(技術部)
肥料の効果等に関す る試験	岩手県施肥合理 化協議会	(対象作物) 水稲、水稲(育苗)、小麦、りんご、トマ ト、きゅうり、アスパラガス、レタス、非結 球レタス、ほうれんそう、りんどう	プロ推(水田農業)、プロ推(特裁・有 機)、作物(技術部)、園芸(技術部)、 南部園芸、生産環境、園芸(県北研)
平成21年度加工・業 務用果実需要対応産 地育成事業	(財)中央果実生 産出荷安定基金 協会	果実加工品の試作品製作等調査	園芸(技術部)
土壌病害虫防除技術 基準策定事業	(社)日本くん蒸技 術協会	キュウリホモブシス根腐病に対するクロ ルピクリンくん蒸剤による防除に関する 調査試験	病理昆虫

(8) (財)岩手生物工学研究センターとの共同研究

研究課題名	生工研担当	研究期間	研究の内容	担当研究室
水稻重要形質と連鎖したDNAマーカーの探索	生命科学研究部 (遺伝学ゲノム学 研究分野)	H15～26	生工研と共同で遺伝子解析に基づくDNAマーカーを開発し、岩手オリジナル品種の育成を加速化する。	作物(技術部)
DNAマーカー利用によるリンドウ新育種技術の開発と品種保護への応用	細胞工学研究部 (分子育種研究分 野)	H20～24	リンドウのDNAマーカーの整備及びそれらを用いた優良品種の育成法の確立を行う。また、品種保護のために高精度かつ簡易なDNA鑑定技術を開発する。	園芸(技術部)、 病理昆虫
体系的な植物病害診断法の確立に向けた病原体検出診断技術の開発	生命科学研究部 (植物病態分子研 究分野)	H19～23	ウイルスによる感染の検出を長鎖二本鎖RNAの蓄積を指標とする手法を確立し、迅速かつ体系的な植物病害診断を確立する。	病理昆虫

(9) 他の公設試との共同研究

課題名等	相手方	研究期間	担当研究室
ワイン専用ぶどう新系統の醸造特性評価	工業技術センター	6～	園芸(技術部)
県産小麦品種の加工特性評価	工業技術センター	7～	作物(技術部)
醸造用水稲品種の開発	工業技術センター	8～	作物(技術部)

(10) AFR(岩手農林研究協議会)研究会

ア 研究会

名称	構成	研究期間	担当研究室
1 岩手育種研究会	◎岩手大学農学部・教育学部、東北農業研究センター、岩手県農業研究センター、生物工学研究センター	10～	作物(技術部)
2 水稻栽培研究会	◎岩手大学農学部、岩手県農業研究センター	11～	作物(技術部)
3 果樹栽培研究会	◎岩手大学農学部、岩手県農業研究センター、中央普及センター	11～	園芸(技術部)
4 リンドウ研究会	◎岩手大学農学部、東北農業研究センター、岩手県農業研究センター、安代町花き開発センター	11～	園芸(技術部)
5 農業IT活用研究会	岩手県立大学、農業普及技術課、◎岩手県農業研究センター	15～22	農業経営、プロジェクト(特栽・有機)、作物(県北研)

※平成21年度協議会(11/27)において継続活動実績のある研究会に整理することを承認。これを受けて当センター職員が参加している研究会のみを上記に掲載した。

イ AFR協議会等の開催

開催月日	場所	内容
22.11.26	岩手大学農学部第1会議室 同 5号館1階7番講義室	平成22年度岩手農林研究協議会(AFR)協議会 ※設置要綱を改訂[協議会、幹事会組織の見直し、等] 第11回岩手農林研究協議会(AFR)シンポジウム
22.7.23	岩手大学農学部会議室	平成22年度第1回岩手農林研究協議会(AFR)幹事会
22.10.5		平成22年度第2回岩手農林研究協議会(AFR)幹事会

(11) その他共同研究

課題名	相手方	研究期間	研究の内容	担当研究室
肉用牛における経済形質とDNAマーカーの連鎖解析	(社)畜産技術協会	13～	岩手県種雄牛の約300頭からなる半きょうだい家系を作成し、DNAマーカーによる連鎖解析を行い、経済形質遺伝子座を明らかにする。また、遺伝的不良形質について、500頭程度の半きょうだいサンプルを追加、原因領域に新たなマーカーの追加等を行い原因となる遺伝子座を明らかにする。	家畜育種
生物遺伝資源交換に関する研究協定	(独)農業生物資源研究所	14～24	植物、動物、微生物の生物遺伝資源及びDNAの相互交換	センター全体

(12) 産学官連携

名称	開催年月	場所	内容	担当研究室
岩手県産学官連携連絡会	年6回	盛岡市ほか	事務局:岩手大学地域連携推進センター ※(財)いわて産業振興センター、大学および研究機関における情報交換	研究企画室
いわて産学連携推進協議会(リエゾンI)	年4回	盛岡市ほか	事務局:岩手大学地域連携推進センター ※研究シーズと県内企業とのマッチング	研究企画室
東北地域農林水産・食品ハイテク研究会	年3回	仙台市ほか	事務局:東北農業研究センター(東北農政局) ※産学官の連携強化、先端技術に関する情報提供、異業種・異分野間交流の促進	研究企画室

※1 平成22年度リエゾン-Iマッチングフェアに出展した研究シーズ(研究シーズ集掲載)

研究シーズ名	担当研究室
安心して水稻直播栽培を取り入れるための生育予測モデルを一緒に作りませんか?	プロジェクト推進室(水田農業)
低コストで排液を系外に出さない閉鎖型高設栽培“エコ”システム	技術部 南部園芸研究室
耐寒性が強く食味良好なぶどう「岩手3号」	技術部 園芸研究室
そばや盛岡冷麺のクズ、おからなどの地域未利用資源で作るブランド豚及び地鶏の自給飼料	畜産研究所 家畜育種研究室
(以下は「研究シーズ集」掲載のみ)	
いわてオリジナル新形質米品種～機能性!色!香り!用途はあなた次第～	技術部 作物研究室
半もち性でおいしく、栽培しやすいヒエ新品種で新たな商品開発をしませんか～「ねばりっこ1号」「ねばりっこ2号」「ねばりっこ3号」～	東北農業研究所 作物研究室
果肉が褐変しにくいカットフルーツに好適な赤リンゴ「岩手7号」	技術部 園芸研究室
玄米は家畜のエサ、茎葉はバイオエタノール原料にも利用できる水稻多収新品種「つぶみのり」と「つぶゆたか」	技術部 作物研究室
低コスト化稲作には欠かせない直播栽培のための「作溝同時直播装置」	プロジェクト推進室(水田農業)

※2 平成22年度東北地域農林水産・食品ハイテク研究会研究・技術シーズ集に掲載した研究シーズ

研究シーズ名	担当研究室
安心して水稻直播栽培を取り入れるための生育予測モデルを一緒に作りませんか?	プロジェクト推進室(水田農業)
用途の広い機能性・新形質米品種(紫黒米、低グルテリン米、低アミロース米、香り米、巨大胚米)	技術部 作物研究室
健康志向の雑穀(ヒエ「ねばりっこ」)でお菓子を作りませんか	東北農業研究所作物研究室
果肉が褐変しにくいカットフルーツに好適な赤リンゴ「岩手7号」	技術部 園芸研究室
耐寒性が強く食味良好なぶどう「エーデルロツ」	技術部 園芸研究室
低コストで廃液を系外に出さない“エコ”な閉鎖型植物高設栽培システム	技術部 南部園芸研究室
そばや盛岡冷麺のクズ、おからなどの地域未利用資源で作るブランド豚及び地鶏の自給飼料	畜産研究所 家畜育種研究室

6 現地試験の実施

内 容 (試験研究課題名)	市町村名	地 区 名	担 当 (関係研究室)
<p>水稲湛水直播栽培の収量品質安定化のための技術開発 (側条対応) (側条対応) (材質改良) (材質改良) (同上のうち情報交流・連携活動) (東北農業新技術実用化促進プロジェクト(1.5年プロ))</p>	<p>紫波町 金ヶ崎町 花巻市 北上市 久慈市 青森県つがる市</p>	<p>片寄 六原 成田 成田 大川目 出来島</p>	<p>プロジェクト推進室 水田農業</p>
<p>水田単作地帯において堆肥を有効に活用した発酵粗飼料用稲多収生産と良質サイレージ生産技術の確立</p>	北上市	後藤野	<p>(生産環境) (家畜飼養・飼料)</p>
<p>積雪寒冷地水稲乾田直播栽培における出芽安定化技術の確立</p>	一関市	舞川	
<p>水稲乾田直播と大豆浅耕小畦立て栽培技術による輪作体系の確立と実証</p>	花巻市	轟木	<p>(農業経営) (生産環境)</p>
<p>水田大豆の多収安定化に寄与する現地適用マニュアル作成のための連携研究</p>	奥州市	土谷	
<p>小麦冬期播種栽培の安定多収化技術の確立と作期・適地拡大</p>	花巻市	轟木	
<p>麦類密条用小畦立て播種技術の現地実証</p>	<p>矢巾町 花巻市 奥州市</p>	<p>間野々 姥中 姉体南</p>	
<p>寒冷地におけるナタネ生産現地実証試験</p>	雫石町	鶯宿	
<p>水稲における特別栽培農産物等生産技術の安定化実証</p>	<p>奥州市 奥州市 一関市 一関市</p>	<p>江刺区愛宕 江刺区岩谷堂 花泉町花泉 大東町大原</p>	<p>特裁・有機</p>
<p>農業に有用な生物多様性の指標及び評価手法の開発</p>	<p>奥州市 花巻市</p>	<p>江刺区稲瀬 矢沢 東和町</p>	
<p>県産米の品質・食味トップブランド現地栽培実証 (施肥合:いわて純情米総合実証展示圃)</p>	<p>奥州市 奥州市 金ヶ崎町 奥州市 北上市 花巻市 花巻市 盛岡市 盛岡市 雫石町 八幡平市 九戸村</p>	<p>水沢区佐倉河 胆沢区北大畑 永栄 江刺区稲瀬 飯豊 西宮野目 東和町前田 中太田 土淵 西安庭 平笠 荒谷</p>	<p>技術部 作物</p>

内 容 (試験研究課題名)	市町村名	地 区 名	担 当 (関係研究室)
水稻奨励品種決定現地調査 (粳) (粳) (粳) (粳) (粳) (粳) (粳) (粳) (粳) (粳) (粳) (粳) (粳) (有色素米) (有色素米)	雫石町 紫波町 八幡平市 花巻市 西和賀町 奥州市 一関市 大船渡市 遠野市 山田町 洋野町 二戸市 一関市 軽米町	上野 星山 大更 矢沢 沢内前郷 江刺区稲瀬 萩荘 日頃市 上郷町 豊間根 宿戸 安比 花泉町 小軽米	技術部 作物
酒造好適米「岩手酒98号」醸造試験原料米生産	紫波町 花巻市	上平沢 石鳥谷	
麦類耐寒雪性特性検定試験	一戸町	奥中山	
麦類奨励品種決定調査(現地調査)	一関市 矢巾町	舞川 東徳田	
大豆奨励品種決定調査(現地調査)	奥州市 滝沢村	前沢区 大沢	
リンゴ育種系統の現地適応性試験	二戸市 宮古市 矢巾町 奥州市 一関市	金田一 内の沢 煙山 江刺区小倉沢 花泉町金沢	園芸(果樹)
JM7台木樹における低樹高仕立て法の確立	北上市	江釣子、口内	
クラブアップル等リンゴ授粉専用品種の選抜と利用法の確立	陸前高田市 藤沢町	米崎 黄海	
キャンベル・紅伊豆にかわる大衆嗜好品種の育成及び選抜	紫波町 花巻市	大迫町	
低コスト養液土耕装置を利用した効率的施肥法の確立(ピーマン)	遠野市	松崎	園芸(野菜)
リンドウ品種育成にかかる現地調査	花巻市 奥州市 一戸町 雫石町	石鳥谷 衣川区檜原 奥中山	園芸(花き)

内 容 (試験研究課題名)	市町村名	地 区 名	担 当 (関係研究室)
りんどうの効率的施肥技術の確立	八幡平市	安代	環境部 生産環境
水稻のケイ酸質資材の施用効果	盛岡市 花巻市 北上市 一関市	都南 東和 和賀 萩荘	
水稻に対する新けい酸加里の効果	花巻市	石鳥谷	
水稻に対するケイ酸入り基肥用配合肥料の効果	花巻市	石鳥谷	
小麦に対するLPコート配合肥料の効果検討	花巻市 九戸村	下根子 伊保内	
水稻箱施用剤の減量施用技術の開発	奥州市	江刺区伊手	病理昆虫
広域的な葉いもち防除の徹底による穂いもち防除を省略したいもち病防除体系の確立	一関市	舞川、中里	
紋枯病に効果のある箱施用剤を用いた伝染源密度および被害リスク低減技術の開発	奥州市	水沢区羽田 前沢区古城	
ダイズを加害するウコンノメイガの発生生態の解明と防除対策の確立	奥州市 平泉町 一関市	江刺区田原 長島 奥玉	
キュウリホモブシス根腐病の防除技術確立	花巻市	湯本糠塚	
こぶ症発生リスクの解明と畦畔部の物理的遮断等による防除法の確立実証	八幡平市 盛岡市	切通、瀬の沢 玉山区	
地域特産農作物における新防除資材の実用化	軽米町 青森県	晴山 田子町	
新農薬の効果検定と防除基準作成	岩手町 矢巾町	川口 煙山	
日本短角種の全期粗飼料多給肥育の実証トウモロコシサイレーヅ多給短角牛の安定生産)	岩泉町		畜産研究所 家畜育種
地域ブランド豚肉生産に活用する種豚性能調査と飼養管理技術の確立	岩泉町 紫波町		
血統・枝肉データを活用した日本短角種全個体情報システムの拡充	岩泉町 久慈市 二戸市 釜石市 盛岡市 八幡平市		

内 容 (試験研究課題名)	市町村名	地 区 名	担 当 (関係研究室)
不耕起栽培とうもろこしを導入した寒冷地向け飼料作物周年作付け体系の確立	滝沢村		家畜飼養・飼料
水田単作地帯において堆肥を有効に活用した飼料用稲多収生産と良質サイレージ生産技術の確立	北上市		
キャベツ圃場における生物多様性の指標候補種選定(農業に有用な生物多様性の指標および評価手法の開発)	八幡平市	松尾刈屋	東北農業研究所 園芸
現地ほうれんそうハウスの土壌水分の実態調査(ほうれんそう産地における夏期増収技術の確立)	八幡平市 久慈市 洋野町	平笠・大更 侍浜町 下高森・日当	
業務用ほうれんそう栽培の現地実証(業務用需要に対応できる野菜生産技術の確立)	岩手町	黒石	
りんどうトンネル栽培による作期前進実証(県北地域におけるりんどうの収益性向上技術の確立)	九戸村	江刺家	
りんどう施設栽培における病虫害発生実態調査(県北地域におけるりんどうの収益性向上技術の確立)	九戸村 軽米町	戸田 山内	
ペレットストーブ施設園芸栽培利用実証事業にかかる花き(レウイシア)栽培実証	一戸町	奥中山	
雑穀移植栽培技術現地実証(二戸農林水産振興協議会実証圃)	一戸町	月舘	作物
ヒエ新品種現地適応性試験(オリジナル雑穀品種の育成)	軽米町 花巻市	山内(2カ所) 東和	
ヒエ新品種種子増殖試験(オリジナル雑穀品種の育成)	軽米町	山内	
アワ初期害虫の被害を軽減する耕種的防除法の確立(雑穀の省力・安定栽培技術の確立)	洋野町	水沢	

試験研究の成果

1 試験研究成果

(1)平成22年度成果数

成果区分	普及 (普及に移しうる成 果)	指導 (技術指導に参考と なる成果)	行政 (行政施策等に反 映すべき成果)	研究 (技術開発に有効 な成果)	総計
1 農業構造・経営管理	1	5	1	1	8
2 水稻	1	2	4	2	9
3 畑作物	0	3	0	4	7
4 果樹	3	3	0	1	7
5 野菜	0	6	0	3	9
6 花き	1	1	0	2	4
7 作物バイオテクノロジー	0	0	0	0	0
8 作業技術	3	1	0	0	4
9 環境保全	1	0	0	1	2
10 土壌作物栄養	1	1	0	2	4
11 病虫害制御	2	5	0	4	11
12 食の安全	0	1	0	0	1
13 乳用牛	0	1	0	0	1
14 肉用牛	1	0	8	3	12
15 中小家畜(豚・鶏)	0	2	0	1	3
16 草地・飼料作物	2	4	0	2	8
17 家畜バイオテクノロジー	1	0	0	0	1
18 畜産環境	0	0	0	0	0
19 県北農業振興	1	2	0	0	3

普及: 農家等へ普及することによって、経済効果や経営改善等が見込まれる成果

指導: 普及指導員等の技術指導上の参考として適当と認められる成果

行政: 行政からのニーズに対応した研究成果等で、行政施策の企画等に参考になると認められるもの

研究: 新しい技術の試みで、今後の試験研究により技術に仕上げられる可能性のあるもの及び技術の基礎的知見、研究手法等に関するもの

(2)外部評価結果(集計)

ア 第1回(平成22年9月、評価対象:0成果)

イ 第2回(平成23年1月、評価対象:52成果)

評価項目	評価基準			
	A	B	C	D
総合評価	186 (67%)	90 (32%)	2 (1%)	1 (0%)
1 新規性	242 (87%)	35 (13%)	1 (0%)	1 (0%)
2 期待する活用効果	182 (66%)	85 (31%)	9 (3%)	0 (0%)
3 成果内容・表現の的確性	186 (67%)	89 (32%)	4 (1%)	3 (0%)

※評価基準

1 新規性	A(高い)	B(やや高い)	C(やや低い)	D(低い)
2 期待する活用効果	A(高い)	B(やや高い)	C(やや低い)	D(低い)
3 成果内容・表現の的確性	A(適切)	B(一部見直し)	C(大幅見直し)	D(不適切)

(3) 平成22年度成果名及び外部評価結果一覧

【普及(普及に移しうる成果)】

(A:提出可、B:一部修正、C:大幅修正、D:提出不可) [※委員数(人)]

分野	成果番号	成果名	担当研究室	総合評価			
				A	B	C	D
農業構造・経営管理	H22-普-01	生産工程管理支援のための農業経営ナビ・帳票作成ツール	農業経営	5	1	0	0
水稲	H22-普-02	水稲の乾田直播栽培法	プロジェクト(水田)	4	1	0	0
果樹	H22-普-03	J M 7 台木利用りんご樹の幼木～若木期(7年生頃)における低樹高仕立て法	園芸(技術)	4	1	0	0
果樹	H22-普-04	品種 りんご 1 1 月上旬に成熟する大玉で果汁の多い赤色品種「岩手5号」	園芸(技術)	5	0	0	0
花き	H22-普-05	9月下旬開花の切り花向け青色リンドウF1品種「いわてLB-2号」の育成	園芸(技術)	4	0	0	0
作業技術	H22-普-06	水稲湛水直播栽培における作溝同時直播装置の開発(追補)～粒状側条施肥機付き直播機での作溝同時直播～	プロジェクト(水田)	5	1	0	0
作業技術	H22-普-07	小麦の密条用小畦立て播種機の開発と効果	プロジェクト(水田)	4	2	0	0
作業技術	H22-普-08	極少量播種機構を備えたナタネの畦立て同時播種技術の開発	プロジェクト(水田)	5	1	0	0
環境保全	H22-普-09	簡易土壌分析システムに対応した施肥設計支援シート	生産環境	3	1	0	0
土壌作物栄養	H22-普-10	C/N比の低い有機質資材の畑状態での無機化特性とトマト雨よけ普通栽培の無化学肥料栽培における施肥法	プロジェクト(特裁)	2	2	0	0
病害虫制御	H22-普-11	イプロナゾール・銅水和剤による水稲種子の大量消毒法	病理昆虫	5	1	0	0
病害虫制御	H22-普-12	平成23年度病害虫防除指針に採用した主な殺虫剤、殺菌剤	病理昆虫	-	-	-	-
草地・飼料作物	H22-普-13	乾物収量性に優れた飼料用トウモロコシ極早生品種「38H20(パイオニア95日)」	家畜飼養・飼料	1	5	0	0
草地・飼料作物	H22-普-14	公共牧場等大規模草地におけるトラクタ搭載型GPS作業支援システムを活用した肥料散布作業精度の向上及び作業時間	外山畜産	4	2	0	0
家畜バイオ	H22-普-15	受胎率向上のためのホルスタイン種末経産受胎牛の飼料給与プログラムと血液検査指標値	家畜育種	4	3	0	0
県北農業振興	H22-普-16	県北地域における業務用向け露地ほうれんそうの栽培法	園芸(県北)	-	-	-	-
農業構造・経営管理	H22-普-17	りんどうの選花作業労力を軽減させる選花作業台セットの開発	農業経営	-	-	-	-

【指導(技術指導に参考となる成果)】

(A:提出可、B:一部修正、C:大幅修正、D:提出不可) [※委員数(人)]

分野	成果番号	成果名	担当研究室	総合評価			
				A	B	C	D
農業構造・経営管理	H22-指-01	先進的野菜経営体の特徴と展開方向	農業経営	-	-	-	-
農業構造・経営管理	H22-指-02	りんどう収穫調製作業に影響を及ぼす要因と改善方向	農業経営	4	0	0	0
農業構造・経営管理	H22-指-03	農業技術体系データ作成ブックver2.0	農業経営	5	1	0	0
農業構造・経営管理	H22-指-04	営農計画作成支援シートver2.0	農業経営	4	2	0	0
農業構造・経営管理	H22-指-05	GAPナビゲーションシステムの導入効果	農業経営	5	1	0	0
水稲	H22-指-06	平成22年岩手県産水稲の生育経過の特徴と作柄・品質に影響した要因の解析・特に夏季高温の影響の解析	作物(技術)	4	2	0	0
水稲	H22-指-07	新しい岩手県リアルタイムメッシュ気象情報システムに対応した水稲主要品種の生育ステージ予測技術	作物(技術)	6	0	0	0
畑作物	H22-指-08	岩手県における平成22年産小麦の生育経過の概要と特徴	作物(技術)	3	3	0	0
畑作物	H22-指-09	平成22年岩手県産大豆の生育経過の概要と特徴・特に夏季高温の影響の解析	作物(技術)	6	0	0	0
畑作物	H22-指-10	発酵鶏ふんを利用した大豆栽培の連作による影響	作物(県北)	2	4	0	0
果樹	H22-指-11	りんご「黄香」の裂果を軽減する摘果時期	園芸(技術)	2	2	1	0
果樹	H22-指-12	カラムナータイプ「タスカン」のリンゴ授粉専用品種としての特性	園芸(技術)	4	1	0	0
果樹	H22-指-13	スピードスプレーヤ用ドリフト低減型ノズル及び立木用ドリフト低減型防除機の特徴	園芸(技術)	4	1	0	0
果樹	H22-指-14	大玉で食味良好な西洋なし「バラード」の特性	園芸(技術)	4	1	0	0

分野	成果番号	成果名	担当研究室	総合評価			
				A	B	C	D
野菜	H22-指-15	若苗利用トマト抑制作型における適品種と栽植様式および仕立て方等栽培管理方法	園芸（技術）	-	-	-	-
野菜	H22-指-16	雨よけ無加温栽培におけるパプリカの栽植様式、かん水、着果管理等栽培管理方法	園芸（技術）	2	2	0	0
野菜	H22-指-17	四季成り性イチゴ主要3品種の春植え栽培における培養液濃度の適正範囲	南部園芸	2	2	0	0
野菜	H22-指-18	アスパラガス伏せ込み促成栽培における休眠打破の重要性	園芸（技術）	1	3	0	0
野菜	H22-指-19	根のBrix糖度を上昇させるアスパラガス伏せ込み促成栽培の新たな茎葉黄化法の開発	園芸（技術）	2	2	0	0
花き	H22-指-20	リンドウ種子の発芽促進を目的としたジベレリン浸漬時間	園芸（技術）	3	1	0	0
作業技術	H22-指-21	中間管理作業がスムーズにできる晩播大豆の狭畦密植畦立て播種栽培技術	プロジェクト（水田）	1	4	0	1
土壌作物栄養	H22-指-22	堆肥を用いた「つぶゆたか」の稲WC S多収栽培の施肥法	生産環境	2	4	0	0
土壌作物栄養	H22-指-23	採花期間のりんどうにおける新根の分布位置に合わせた効果的な施肥	生産環境	4	0	0	0
病害虫制御	H22-指-24	マルチプライマーPCR法による3種シンクイムシの種識別	病理昆虫	4	1	0	0
病害虫制御	H22-指-25	ダイズ害虫ウコンノメイガに対する薬剤防除効果	病理昆虫	6	0	0	0
病害虫制御	H22-指-26	モモシンクイガに対する各種殺虫剤の防除効果	病理昆虫	3	2	0	0
病害虫制御	H22-指-27	キュウリ黒星病防除薬剤の評価	病理昆虫	2	2	0	0
病害虫制御	H22-指-28	トマト雨よけ普通栽培の主要害虫に紫外線除去フィルムと防虫網を組み合わせた物理的防除を実施した場合の病害虫の発	プロジェクト（特裁）	1	3	0	0
病害虫制御	H22-指-29	7～8月の高温がアカスジカスミカメの発生に及ぼす影響	病理昆虫	6	0	0	0
食の安全	H22-指-30	イムノクロマト法を用いた畑作物のカドミウム濃度簡易測定法	生産環境	4	1	0	0
肉用牛	H22-指-31	黒毛和種肥育前期にトウモロコシサイレージを多給する技術	家畜育種	3	4	0	0
中小家畜（豚・）	H22-指-32	交配計画作成プログラム「豚交配管理支援システム」	家畜育種	5	1	0	0
中小家畜（豚・）	H22-指-33	南部かしわのME・C P摂取量による発育モデル	家畜育種	5	1	0	0
草地・飼料作物	H22-指-34	稲発酵粗飼料に調製した非主食用水稻品種「つぶゆたか」の飼料特性と収穫適期	家畜飼養・飼料	2	5	0	0
草地・飼料作物	H22-指-35	飼料用トウモロコシの不耕起栽培における二毛作前作ライ麦の再生残草の影響とその抑制法	家畜飼養・飼料	5	2	0	0
草地・飼料作物	H22-指-36	飼料用トウモロコシ牽引式不耕起播種機の作業能率の改善方法（中割往復作業法）	家畜飼養・飼料	4	3	0	0
草地・飼料作物	H22-指-37	作溝式播種機を用いた春期牧草追播における入牧時草丈等が牧草定着に及ぼす影響	外山畜産	4	2	0	0
県北農業振興	H22-指-38	県北地域における夏秋ギク系小ギクの長期継続出荷法	園芸（県北）	-	-	-	-
県北農業振興	H22-指-39	県北地域における小ギク7月咲品種の8月盆出荷向け栽培法	園芸（県北）	-	-	-	-

【行政(行政施策等に反映すべき成果)】

(A:提出可、B:一部修正、C:大幅修正、D:提出不可) [※委員数(人)]

分野	成果番号	成果名	担当研究室	総合評価			
				A	B	C	D
農業構造・経営管理	H22-行-01	岩手県産小ぎくの競争ポジショニングと対応方向	農業経営	-	-	-	-
水稲	H22-行-02	平成22年度水稲奨励品種決定本調査・現地調査結果	作物(技術)	-	-	-	-
水稲	H22-行-03	平成23年度水稲奨励品種決定本調査・現地調査新規供試系統	作物(技術)	-	-	-	-
水稲	H22-行-04	平成23年度水稲新配付系統(候補系統)	作物(技術)	-	-	-	-
水稲	H22-行-05	プレミアムブランド米の栽培基準(農薬使用4成分)で防除した場合のリスク	プロジェクト(特裁)	2	3	1	0
肉用牛	H22-行-06	黒毛和種産肉能力検定(直接法)成績	種山畜産	-	-	-	-
肉用牛	H22-行-07	黒毛和種産肉能力検定(現場後代検定法)成績	種山畜産	-	-	-	-
肉用牛	H22-行-08	黒毛和種子牛市場における県有種雄牛の評価	種山畜産	-	-	-	-
肉用牛	H22-行-09	黒毛和種種雄牛別枝肉成績	種山畜産	-	-	-	-
肉用牛	H22-行-10	黒毛和種種雄牛娘牛の繁殖成績および外貌	種山畜産	-	-	-	-
肉用牛	H22-行-11	日本短角種産肉能力検定(直接法)成績	家畜育種	-	-	-	-
肉用牛	H22-行-12	日本短角種産肉能力検定(現場後代検定法)成績	家畜育種	-	-	-	-
家畜ハイオテクノロジー	H22-行-13	県産黒毛和種牛肉中の脂肪酸組成への影響要因	家畜育種	-	-	-	-

【研究(研究開発に有効な成果)】

分野	成果番号	成果名	担当研究室	総合評価			
				A	B	C	D
環境保全	H22-研-01	特別栽培および有機栽培水田で確認された主な捕食性動物	プロジェクト(特裁)	-	-	-	-
水稲	H22-研-02	初期伸長性QTLを導入した水稲系統「岩1053」の育成	作物(技術)	-	-	-	-
水稲	H22-研-03	岩手県の水稲低アミロース品種・系統におけるアミロース含有率の変動性	作物(技術)	-	-	-	-
畑作物	H22-研-04	生育期の気象がばれいしょの収量・品質に及ぼす影響	作物(技術)	-	-	-	-
果樹	H22-研-05	ぶどう育成系統「岩手4号」、「岩手5号」の特性	園芸(技術)	-	-	-	-
野菜	H22-研-06	温度変換日数法による夏秋トマトの開花、収穫期予測モデル	南部園芸	-	-	-	-
野菜	H22-研-07	無加温での空気膜二重ハウスにおける温度・栽培特性	園芸(技術)	-	-	-	-
野菜	H22-研-08	「北の輝」の低温カット栽培における保温時の短日処理が連続出蕾性に及ぼす影響	南部園芸	-	-	-	-
花き	H22-研-09	未受精胚珠培養はリンドウの倍数性育種母本作出に利用可能	園芸(技術)	-	-	-	-
土壌作物栄養	H22-研-10	尿素添加により窒素濃度を高めたブロイラー鶏ふん肥料の製造	生産環境	-	-	-	-
病害虫制御	H22-研-11	ダイズ害虫ウコンノメイガは葉面積指数の大きな圃場に集中分布する	病理昆虫	-	-	-	-
病害虫制御	H22-研-12	リンドウ褐斑病に対する耐病性の遺伝様式	病理昆虫	-	-	-	-
病害虫制御	H22-研-13	リンドウ褐斑病の耐病性検定法	病理昆虫	-	-	-	-
花き	H22-研-14	リンドウこぶ症に対する畦畔遮断による抑制効果	病理昆虫	-	-	-	-
病害虫制御	H22-研-15	オリサストロビン粒剤の箱施用を活用したイネ紋枯病のインターバル防除の可能性	病理昆虫	-	-	-	-
乳用牛	H22-研-16	TMRにおける破砕処理トウモロコシサイレージ多給割合が産乳性に与える影響	家畜飼養・飼料	-	-	-	-
肉用牛	H22-研-17	肥育前期に大豆ホールクロップサイレージを給与した日本短角種の発育	家畜育種	-	-	-	-
肉用牛	H22-研-18	日本短角種の舎飼期自然交配技術	外山畜産	-	-	-	-

分野	成果番号	成果名	担当研究室	総合評価			
				A	B	C	D
中小家畜 (豚・)	H22-研-19	パークシャー種育成豚の能力調査成績Ⅱ	家畜育種	—	—	—	—
肉用牛	H22-研-20	日本短角種における枝肉形質関連遺伝子座の検出	家畜育種	—	—	—	—
草地・飼料 作物	H22-研-21	飼料用トウモロコシにおけるバイオガスプラント由来消化液の秋季施用が乾物収量に及ぼす影響	家畜飼養・飼料	—	—	—	—
草地・飼料 作物	H22-研-22	バイオガスプラント由来消化液秋季施用時の畑土壌中無機態窒素の経時的変化	家畜飼養・飼料	—	—	—	—
県北農業 振興	H22-研-23	温湯浸漬法がヒエの黒穂病菌の孢子発芽および種子発芽に与える影響	園芸（県北）	—	—	—	—
県北農業 振興	H22-研-24	アワおよびキビのヒサゴトビハムシに対する移植栽培の効果	園芸（県北）	—	—	—	—
県北農業 振興	H22-研-25	ヒエのイネヨトウに対するB T水和剤の効果	園芸（県北）	—	—	—	—

2 追跡評価

(1) 評価視点

岩手県農業研究センター試験研究課題評価実施要領別表5の規程により、「成果の活用状況」について、「現在も有効な成果であるか」「成果が経済活動等で活用されているか」の評価視点で追跡評価を実施。

(2) 追跡評価の調査方法

ア 評価1(評価の視点「現在も有効な成果であるか」)

(ア) 評価対象 平成9年度から平成19年度までに公表した「普及」、「指導」区分の試験研究成果

(イ) 評価方法 成果の主査研究室が関係研究室と調整の上、自己評価

(ウ) 評価区分

- A:(現在でも)有効
- B:目的達成(既に、成果の目的を達成し、現在では有効性がない)
- C:後年度の成果に反映(更新)
- D:無効(Bの概念にふくまないもの)

イ 評価2(評価の視点「成果が経済的活動等で活用されているか」)

(ア) 評価対象

- a 平成18、19年度に公表した「普及」区分の研究成果
- b 平成18、19年度に公表した「指導」区分の研究成果から評価対象として選定したもの

(イ) 評価方法

a 「普及区分」

(a) 本庁各室課が定める要綱・要領等に基づき検討されている成果は、自己評価を実施(別紙様式「平成22年度追跡評価調査書(普及区分)」)

- ① 農作物奨励品種等の決定及び改廃に関する要綱(奨励品種等)
※ 農産園芸課が所管する稲、麦類、豆類、果樹、野菜、花き等が対象
- ② 岩手県農作物病害虫・雑草防除指針作成要領(農薬の採用・使用上の留意点等)
- ③ いわて和牛改良増殖対策事業推進協議会設置要領(種雄牛の作出)
- ④ 日本短角種集団育種推進事業推進協議会設置要領(種雄牛の作出)

(b) 上記(a)以外の成果は、中央農業改良普及センターに調査を依頼(別紙様式「平成22年度追跡評価調査書(普及)」)

(c) 評価区分

- ① 農家への普及状況 A(目標の75%)、B(75%未満～50%)、C(50%未満～25%)、D(25%未満)
- ② 成果適用地帯または対象者における当該成果活用による効果
A(大いにあった)、B(あった)、C(あまりなかった)、D(なかった)
- ③ 成果活用等により地域(農家)に与えた具体的な効果(成果が活用されない要因)

a 「指導区分」

(a) 中央農業改良普及センターに次の調査を依頼する(別紙様式「平成22年度追跡調査調査書(指導区分利用状況)」)。

(b) 評価区分

- ① 技術指導の参考になったか:A(大いに参考になった)、B(参考になった)、C(あまり参考にならなかった)、D(参考にならなかった)
- ② 指導効果(技術改善、技術水準の向上、指導効率の向上等):A(大いにあった)、B(あった)、C(あまりなかった)、D(まったくなかった)

(3) 追跡評価結果(評価の視点「成果が経済的活動等で活用されているか」)

ア 普及区分

(ア) 農業研究センターが自己評価した成果

No.	<code>成果名	普及状況	効果	評価コメント (成果活用等による効果等)
2	(H18-普-02)平成19年度雑草防除指針に採用した水稻除草剤【担当:作物<水田作>】 【目標→現状】 -	-	A	本県の水田の雑草発生様相、除草効果及び省力性の面で使用効果を発揮している。
5	(H18-普-05)平成19年度雑草防除指針に採用した果樹除草剤【担当:園芸<果樹>】 【目標→現状】 -	-	B	果樹園では主に年3回除草剤を散布しているが、本剤は選択枝の1つとして利用されている。
7	(H18-普-07)平成19年度雑草防除指針に採用した花き除草剤【担当:園芸<花き>】 【目標→現状】 -	-	B	多くの普及センターで使用可能な剤として紹介している。しかし散布できる時機を逃し使用できない場合が多いので、使用方法の指導を徹底したい。
8	(H18-普-08)品種 乾物収量性に優れた飼料用トウモロコシ晩生品種「31N27(パイオニア125)」【担当:家畜飼養・飼料<飼料生産>】 【目標→現状】 普及見込み面積50ha → 8ha	<u>D</u>	A	安定多収新品種として、早晩性が同等の廃止品種パイオニア122日(32K61)の代替として紹介したが普及見込み面積に達しなかった。 晩生品種は流通品種数も特に多く、当該品種は晩生の晩に属する品種であるため県南部の一部に普及が限られた。
9	(H18-普-09)品種 収量性、耐倒伏性に優れた高消化性ソルガム「東山交29号」【担当:家畜飼養・飼料<飼料生産>】 【目標→現状】 普及見込み面積2ha → 2ha	A	A	育成元において種子増殖が芳しくなく、現在は市販ベース種子流通していないため広く普及していない。 当該品種の特長である多収性、耐倒伏性については現地において慣行品種と比べ優れることが認知されており、今後の普及が期待される。
11	(H18-普-11)平成19年度農作物病害虫防除指針に新たに採用した殺菌剤と殺虫剤【担当:病理昆虫<病理昆虫>】 【目標→現状】 -	-	B	各地域の病害虫防除体系策定の際に活用されている。
15	(H19-普-02)平成20年度岩手県農作物病害虫・雑草防除指針に採用した水稻除草剤【担当:作物<水田作>】 【目標→現状】 -	-	A	本県の水田の雑草発生様相、除草効果及び省力性の面で使用効果を発揮している。
16	(H19-普-03)品種 倒伏に強く褐斑粒の発生が少ない納豆用大豆「すずほのか」【担当:作物<野菜畑作>】 【目標→現状】 普及見込み面積40ha → 9ha	<u>D</u>	A	コスズに替わる納豆用品種として今後の面積拡大が期待される。平成21年産の普及面積は約9haである。
19	(H19-普-06)品種 りんご 9月下旬に成熟する着色良好な赤色品種「岩手7号」【担当:園芸<果樹>】 【目標→現状】 普及見込み面積8ha(目標年度:H22) → 6.2ha	A	A	平成21年春に展示圃3カ所に1406本、平成22年春に展示圃1カ所含む県内各地に4012本植栽され、順調に面積は拡大している。平成23年春に愛称を決定し、平成23年秋に初出荷を予定。
21	(H19-普-08)平成20年度岩手県農作物病害虫・雑草防除指針に新たに採用した除草剤【担当:園芸<果樹>】 【目標→現状】 -	-	A	果樹園では主に年3回除草剤を散布しているが、本剤は選択枝の1つとして利用されている。
25	(H19-普-12)品種 りんどう 新盆出荷可能な「極々早生6」【担当:園芸<花き>】 【目標→現状】 普及見込み面積2.5ha(種子供給開始5年後の作付け面積) → 平成22年現在の作付面積は3.1ha	A	B	露地栽培で7月上旬からの出荷が可能であり、新盆出荷量の増加に貢献できた。
26	(H19-普-13)品種 乾物収量性に優れた飼料用トウモロコシ早生品種「LG3520(スノーデント110)」【担当:家畜飼養・飼料<飼料生産>】 【目標→現状】 普及見込み面積90ha → 259ha	A	A	安定多収が期待できる品種として浸透し、普及面積が徐々に拡大している。
27	(H19-普-14)品種 乾物収量性に優れた飼料用トウモロコシ中生品種「34B39(パイオニア115)」【担当:家畜飼養・飼料<飼料生産>】 【目標→現状】 普及見込み面積90ha → 81ha	A	A	安定多収が期待できる品種として浸透し、普及面積が徐々に拡大している。
28	(H19-普-15)平成20年度岩手県農作物病害虫・雑草防除指針に新たに採用した殺菌剤と殺虫剤【担当:病理昆虫<病理昆虫>】 【目標→現状】 -	-	B	各地域の病害虫防除体系策定の際に活用されている。しかし、特別栽培米地帯では、効果が低いと評価した防除指針未掲載薬剤が広域的に使用される例もある。

*1:普及状況:農家への普及状況 A(目標の75%)、B(75%未満~50%)、C(50%未満~25%)、D(25%未満)、目標数値が定められていない場合は記載しない

*2:効果:成果適用地帯または対象者における当該成果活用による効果 A(大いにあった)、B(あった)、C(あまりなかった)、D(なかった)

(イ) 中央農業改良普及センターが評価した成果

No.	<code>成果名	普及状況	効果	評価コメント (成果活用等による効果等)
1	(H18-普-01)水稲品種「どんびしゃり」の栄養診断基準【担当:作物<水田作>】 【目標→現状】栽培目標面積3,000ha → 1,150ha (H22)	C	B	導入当初「どんびしゃり」は、耐病性良食味品種としていもち病多発地帯への普及が期待された。当該成果は「どんびしゃり」導入2年目の成果であり、品種導入時の普及目標に沿った内容となっている。現在は低米価下の影響で「どんびしゃり」が多収栽培されており、この成果をもとに現場で多収栽培が組み立てられ活用されており、一定の成果が得られている。
3	(H18-普-03)りんご「黄香」の収穫適期判断基準と判断用カラーチャートの作成【担当:園芸<果樹>】 【目標→現状】-	-	A	「黄香」は収穫時(過熟)に縦割れが発生するため、適期収穫が重要となる。本成果で作成されたカラーチャートは指導上の収穫の目安や生産者の収穫時に利用されている。
4	(H18-普-04)リンゴ斑点落葉病の発生が多い地域における防除対策【担当:病理昆虫<病理昆虫>】 【目標→現状】-	-	A	リンゴ斑点落葉病はリンゴの主要病害であり、その防除対策は重要である。本成果により6月下旬に効果の大きい薬剤を防除暦に採用する地域は多い。
6	(H18-普-06)ほうれんそうの「とろけ」発生の要因と対策【担当:生産環境<保鮮流通技術>】 【目標→現状】-	-	B	ほうれんそう主産地のJAで概ね活用されているが、「とろけ」に由来するクレームの低減には至っていない。
10	(H18-普-10)インターネットを活用した農業技術体系データベース・システム【担当:農業経営<農業経営>】 【目標→現状】-	-	A	Webサイトを通した利用なので、農家に紹介しやすい。複数作目の場合の作付規模に応じた集計の機能が利用者に喜ばれている。
12	(H18-普-12)農作業計画策定のためのアメダス地点別・半旬別作業可能日数率算出支援シート【担当:農業経営<生産工学>】 【目標→現状】-	-	B	作業計画を策定する上での作業可能日数を容易に算定できることは便利であるが、県内地点別に算定するニーズは少ないかもしれない。
13	(H18-普-13)農産物入りミルクジャムの新製造法【担当:生産環境<保鮮流通技術>】 【目標→現状】-	-	C	県内での農業者によるミルクジャムの製造がほとんどないことから活用はあまりないが、起業支援の中で今後の活用は見込まれる。
14	(H19-普-01)水稲湛水直播栽培の出穂期予測と収穫適期中の拡大【担当:プロジェクト(水田農業)<水田作>】 【目標→現状】-	-	B	直播における出穂期予測を可能にした基礎技術としてだけでなく、直播導入メリットをモデルとして示した点が評価される。
17	(H19-普-04)水田大豆の小畦立て播種栽培の導入効果【担当:プロジェクト(水田農業)<野菜畑作>】 【目標→現状】-	-	B	技術導入は順調に進んでいる。しかし収量向上に直結しない場合もある。
18	(H19-普-05)小麦赤かび病の防除適期【担当:病理昆虫<病理昆虫>】 【目標→現状】-	-	B	防除時期が明確に示されたことから、適期防除が可能となった。 ナンプコムギで2回防除が実施されていた地域ではカビ毒の発生が懸念されるため2回防除が定着しており、カビ毒への影響をもう少し詰めるべきと考える。
20	(H19-普-07)りんご「シナノゴールド」の収穫適期判断【担当:園芸<果樹>】 【目標→現状】-	-	A	「きおう」のカラーチャートはすでに多くの農家に配付されており、利用されている。また、油上がり判断基準としたことは画期的であり、理解しやすい。
22	(H19-普-09)イチゴ春秋二期どり作型で採苗効率を向上する2回採苗法【担当:園芸<野菜畑作>】 【目標→現状】-	-	B	冬期の日照量が少なく、暖房を用いた促成栽培の導入が困難な産地の一部ではあるが主業型生産者中心に活用されている。
23	(H19-普-10)畑わさびにおけるナトビハムシの生態と薬剤防除【担当:病理昆虫<病理昆虫>】 【目標→現状】-	-	B	畑わさび栽培地域において概ね活用されているが、効果を上げるためには、生産者がミドリサルゾウムシとの判別と薬剤選択を的確にできるようになる必要がある。
24	(H19-普-11)グラウンドカバープランツとしてのイブキジャコウソウによる農地法面の植生管理【担当:農業経営<生産工学>】 【目標→現状】-	-	A	導入面積は不明であるが、今も問い合わせは多く、法面管理を考えるきっかけになった。その後、マニュアルも整理された点もあわせて高く評価される。

*1:普及状況:農家への普及状況 A(目標の75%)、B(75%未満~50%)、C(50%未満~25%)、D(25%未満)、目標数値が定められていない場合は記載しない

*2:効果:成果適用地域または対象者における当該成果活用による効果 A(大いにあった)、B(あった)、C(あまりなかった)、D(なかった)

イ 指導区分

No.	<code>成果名	指導参考	指導効果	評価コメント	活用事例
1	(H18-指-01)水稲品種「いわてっこ」「どんびしゃり」の生育予測パラメータ【担当:作物<水田作>】	B	B	基本技術であり、適切なタイミングで成果としてまとめた点は評価できるが、場合により予測誤差が大きくなるなど、利用場面を考えた際の課題も多く、今後の成果取りまとめに期待したい。	一般に追肥や防除時期の推定で活用。
2	(H18-指-02)平成18年度における水稲生育の特徴と作柄・品質に影響した要因の解析【担当:作物<水田作>】	A	A	平成18年度の作柄について、反省・改善し、次年度への計画をたてていくうえで大いに参考になった。願わくば、過去のデータから将来におこるであろう問題を推測するような解析を行って欲しい。	次年度の栽培計画立案に活用。
3	(H18-指-03)堆肥を利用した水稲50%減化学肥料代替栽培におけるいもち病の発生リスク【担当:プロジェクト(特栽有機)<環	B	B	特別栽培等に取り組んでいる産地での防除指導の参考となる。	防除指導の裏付けとして活用
4	(H18-指-04)玄米タンパク質含有率を考慮した「ひとめぼれ」の栄養診断指標【担当:生産環境<土壌作物栄養>】	B	B	玄米タンパクを推測する栄養診断は画期的であるが、以後これに関する成果はなく、従来の栄養診断の延長の指導にしか使えない点は残念である。	ひとめぼれの作付け地帯で追肥の判断に活用
5	(H18-指-05)県北地域における有機育苗培土利用による水稲無化学肥料栽培【担当:作物(県北)<営農技術>】	B	B	化学肥料を使用しない体系として一つのメニューとして活用可能な技術として参考となる。	一部の生産者であるが取組実施されている
6	(H18-指-06)アカスジカスミカメの発生を抑制する水田畦畔雑草管理【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	A	A	カメムシ防除における畦畔管理の重要性を認識させられる成果であり、現場指導で大いに役立った。しかし、カメムシについては解明されていないことも多く、相変わらず落等要因の1位である事には変わりなく、今後の成果に期待したい。	耕種的防除として広く普及。
7	(H18-指-07)アカスジカスミカメの水田内侵入様式【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	A	A	現在はカメムシ防除の基本技術となっているが、この成果以前は圃場規模に係わらず額縁散布でも良いと思っていた農業者は多くいた。現状でも額縁散布で対応している方も多いので、出来れば、額縁散布の効果は畦畔から何mまでなのかについて取りまとめていただければ幸いである。	基本技術として定着
8	(H18-指-08)ミノストロピン剤250グラムの簡易機具を用いた畦畔からの投げ込み散布による穂いもち防除効果【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	A	B	次年度の大区画圃場での成果とあわせて評価、省力技術として参考になった。穂いもち防除は省略される傾向にあり、穂いもちによる減収、品質の低下が心配される。米価が安いのでコスト低減が要因の一つであり、課題解決のためには省力・低コスト技術が必要であり、今後の成果に期待したい。	一部地域で普及
9	(H18-指-09)水稲品種「いわてっこ」のいもち病圃場抵抗性を利用した省農薬防除法【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	A	A	一般に「いわてっこ」の省農薬栽培は定着しており、県全体で年間6000~9000万円のコスト低減効果があると考える。当該成果は高く評価できる。	基本技術として定着
10	(H18-指-10)水稲品種「どんびしゃり」の穂いもち圃場抵抗性「強」を利用した穂いもち防除の省略【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	A	A	一般に「いわてっこ」の省農薬栽培は定着しており、県全体で年間1000~3000万円のコスト低減効果があると考える。当該成果は高く評価できる。	基本技術として定着
11	(H18-指-11)各種粉体化技術による玄米粉の加工適性の評価【担当:生産環境<保鮮流通技術>】	B	C	農業普及員が販売農家に対して指導する場面があまりなかった。菓子製造や加工業者での技術改善効果はあったものと推察される。	関係機関での知見の共有
12	(H18-指-12)ナンブコムギの冬期播種栽培における窒素施肥法【担当:作物<野菜畑作>】	B	B	冬期播種栽培に取り組む際、参考となった。	冬期播種栽培導入時に参考になった事例がある。
13	(H18-指-13)ナンブコムギの冬期播種栽培における病害・雑草防除【担当:作物<野菜畑作>】	B	B	冬期播種栽培に取り組む際、参考となった。	冬期播種栽培導入時に参考になった事例がある。
14	(H18-指-14)大豆「黒千石」の特性及び栽培上の留意点【担当:作物<野菜畑作>】	A	A	契約栽培により黒千石を作付けする生産者への指導に役立った。	黒千石栽培において参考になった事例がある。
15	(H18-指-15)発酵鶏ふんの下層施用により大豆のタネバエ被害を低減できる【担当:作物(県北)<営農技術>】	B	B	従来タネバエ被害が出るとのことで大豆への鶏ふん利用は控えるよう指導していたものが利用推進を図られるようになった。	参考となった事例がある
16	(H18-指-16)雑穀栽培における畑用簡易手押し式除草機の特性【担当:作物(県北)<営農技	B	C	手作業に依存している零細農家での雑穀栽培において参考となった。(面積的にはあまり普及しなかった。)	雑穀栽培において参考になった事例がある。

No.	<code>成果名	指導参考	指導効果	評価コメント	活用事例
17	(H18-指-17)アワ栽培における早期培土を基本とした機械除草体系【担当:作物(県北)〈営農〉】	A	A	登録農薬のないアワ栽培において、機械化体系による作付け拡大に役立った。	雑穀栽培において参考になった事例がある。
18	(H18-指-18)キビの適正は種量及び作期【担当:作物(県北)〈やませ利用〉】	B	B	キビ栽培において機械化体系における播種量の参考となり、作付け拡大に役立った。	雑穀栽培において参考になった事例がある。
19	(H18-指-19)水田栽培用ヒエ「達磨」の無化学肥料一貫栽培体系の実用性【担当:作物(県北)〈やませ利用〉】	B	B	雑穀の有機栽培に取り組む生産者にとって参考となった。	雑穀栽培において参考になった事例がある。
20	(H18-指-20)JM7台利用樹の衰弱症状における年輪褐変年度の特定と樹勢回復対策法【担当:園芸〈果樹〉】	B	B	JM7台利用樹の衰弱症状については現地での発生が少なく、技術として利用する機会は少ない。しかし、衰弱症状を理解する上で、技術的な参考となった。	北上市内の発生園で盛土が行われている。
21	(H18-指-21)果樹の発芽及び開花予測法(追補)ー開花予測に係る定数計算プログラム作成による開花予測制度の向上ー【担当:園芸〈果樹〉】	A	A	果樹の発芽及び開花時期を予測することは、計画的な栽培管理を実施するうえで重要である。本成果によって得られた定数はすでに岩手県リアルタイムメッシュ気象情報システムに導入されており、各普及センターで利用されている。	岩手県リアルタイムメッシュ気象情報システムの発芽開花予測
22	(H18-指-22)5~6月の薬剤選択によるリンゴ病害の総合防除体系【担当:病理昆虫〈病理昆虫〉】	A	A	リンゴの主要病害の重点防除期と防除薬剤が示されており、各地域の防除暦を作成する際の技術的参考となった。	各地域防除暦
23	(H18-指-23)JM1台苗木におけるリンゴ高接病の発生特徴と診断法【担当:病理昆虫〈病理昆虫〉】	B	B	JM系台木を選択する際の一助となっている。なお、JM7台木がリンゴ高接病に対して抵抗性と判明したことは普及拡大に貢献している。	指導会等での情報提供
24	(H18-指-24)ぶどう「シャインマスカット」の特性【担当:園芸〈果樹〉】	B	B	全国的に話題となっている「シャインマスカット」は岩手県における特性について現地か求められていた。ぶどうの品種選択を検討する際の参考となった。	紫波町、花巻市で植栽本数は増加傾向である。
25	(H18-指-25)ブルーベリーの特徴評価と優良品種の選定【担当:園芸〈果樹〉】	A	A	ブルーベリーは生食、観光摘み取り、加工など多くの販売チャンネルを有する作目であり、販売用途に合わせて品種を選択することが重要である。本成果は品種選択における技術的な参考資料となっている。	指導会での情報提供
26	(H18-指-26)キュウリホモプシス根腐病の防除効果を安定させる作畦方法及び定植位置【担当:病理昆虫〈病理昆虫〉】	B	B	野菜栽培技術指針及び普及センター指導資料に当該研究成果の内容が盛り込まれており広く活用されている。	指導会等での情報提供
27	(H18-指-27)きゅうりの新病害黒点根腐病(仮称)の発生と診断のポイント【担当:病理昆虫〈病理昆虫〉】	A	A	新病害の診断対応が可能となったほか、野菜栽培技術指針及び普及センター指導資料に当該研究成果の内容が盛り込まれており広く活用されている。	現地での診断および指導会等での情報提供
28	(H18-指-28)夏秋トマトの不織布ポット栽培の特性【担当:園芸〈野菜畑作〉】	B	B	野菜栽培技術指針及び普及センター指導資料に当該研究成果の内容が盛り込まれており広く活用されている。	指導会等での情報提供
29	(H18-指-29)夏秋トマト雨よけ栽培に適する葉かび病耐病性品種「桃太郎なつみ」の特性【担当:南部園芸〈南部園芸〉】	B	B	野菜栽培技術指針及び普及センター指導資料に当該研究成果の内容が盛り込まれており広く活用されている。	指導会等での情報提供
30	(H18-指-30)アザミウマ類の土着天敵の発生消長に影響を与える数種の殺虫剤【担当:病理昆虫〈病理昆虫〉】	C	C	天敵等利用技術を活用する際の参考にはなるが、薬剤の種類が少ないほか、訪花昆虫への影響が不明など、実際の利用場面で重要となるデータの蓄積が必要。	指導資料の作成
31	(H18-指-31)いちご二期どり作型の経営モデルの策定【担当:農業経営〈農業経営〉】	B	B	野菜栽培技術指針及び普及センター指導資料に当該研究成果の内容が盛り込まれ活用されている。	指導会等での情報提供
32	(H18-指-32)イチゴ低温カット作型に適する高設栽培の栽培槽と施肥法【担当:南部園芸〈南部園芸〉】	C	C	低温カット作型を導入している生産者が既存の高設栽培様式を変更するほどの費用対効果が見込まれず、技術の提案先は新規生産者に限られている。	知見の共有
33	(H18-指-33)発酵豚ふんを用いてながいもの無化学肥料栽培ができる【担当:作物(県北)〈営農技術〉】	B	B	地域有機物資源の利用促進にもつながる技術として、当該地域の生産者に広く周知されている。	指導会等での情報提供

No.	<code>成果名	指導参考	指導効果	評価コメント	活用事例
34	(H18-指-34)葉菜類の栽培から出荷における衛生管理上の重要管理点【担当:生産環境<保鮮流通技術>】	B	<u>C</u>	調製作業時の衛生管理の重要さの啓発のためには参考になったが、活用場面としては、大腸菌群数の減少よりも、出荷物の品質確保の方が求められている。	調整作業の適正化指導の参考資料として活用
35	(H18-指-35)小型反射式光度計を用いた雨よけほうれんそうの体内成分の簡易測定法【担当:生産環境<保鮮流通技術>】	B	<u>C</u>	ほうれんそう品質向上に留意した栽培管理について説明する際の、基礎資料として役立った。	品質向上栽培管理指導の参考資料として活用
36	(H18-指-36)アスパラガス年内どり作型における1年養成根株の堀取り時期【担当:園芸<野菜畑作>】	A	A	野菜栽培技術指針及び普及センター指導資料に当該研究成果の内容が盛り込まれており広く活用されている。	指導会等での情報提供
37	(H18-指-37)生物農薬を利用した水わさびのアブラムシ類防除【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	B	B	野菜栽培技術指針に当該研究成果の内容が盛り込まれており、現地指導の参考になっている。	指導会等での情報提供
38	(H18-指-38)岩手県オリジナルりんどうF1品種採種用親系統の組織培養による維持・増殖システム【担当:園芸<応用生物工学>】	-	-	成果の対象や活用できる背景が限定されていること、マニュアルは農研センターで管理されていること等から当方では評価できない。	-
39	(H18-指-39)県中部におけるリンドウホソハマキ越冬世代羽化時期の変動【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	B	B	病害虫防除指導において広く活用されている。さらに解明していただきたい点もあるので、調査研究を継続してほしい。	防除指導の参考資料として活用
40	(H18-指-40)りんどうハダニ類の薬剤感受性の実態【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	A	B	病害虫防除指導において活用し、防除ごよみ作成等の参考とした。	防除指導の参考資料として活用
41	(H18-指-41)小ぎく「アイムムパープルレッド」および「アイムムアーリーホワイト」は県北地域において旧盆需要期出荷が可能である【担当:園芸(県北)<産地育成>】	B	B	旧盆出荷をねらった作型では晩霜対策も兼ねてトンネル被覆栽培は通常の技術として定着しており、その作型に「アイムムパープルレッド」も導入されている。	栽培技術指導資料として活用
42	(H18-指-42)TMR給餌タイミングによるヒートストレス緩和効果【担当:家畜飼養・飼料<家畜飼養>】	A	B	調整時間を夕方にする必要があり戸別農家では活用されている事例あるがTMRセンターでは利用が出来ない状況	農家指導時の情報提供
43	(H18-指-43)和牛繁殖経営における水田放牧の導入効果【担当:農業経営<農業経営>】	B	B	水田放牧志向農家の掘り起こしや取り組む際の経営試算等に活用するできるが、補助金・補助事業の活用や放牧管理に係る労働負担や衛生費用負担について考慮した検討が必要	PR資料や農家指導時の情報提供
44	(H18-指-44)バンくず及びそばくずを利用した南部かしわ生産のコスト低減【担当:家畜育種<家畜育種>】	A	<u>C</u>	低コスト生産の情報提供とはなったが、バンくず・そばくずの安定供給先がなく技術が活用されない。	関係機関での知見の共有
45	(H18-指-45)正常卵率向上のための飼料給与プログラムと血液生化学指標値【担当:家畜育種<家畜工学>】	A	<u>C</u>	技術の効果の情報提供とはなったが、業務多忙な獣医師に飼料給与改善や採血等の負担増となることが課題。普及には連携体制の構築が必要。	関係機関での知見の共有
46	(H18-指-46)OVSYNCH変法による定時人工授精と胚移植技術【担当:外山畜産<外山畜産>】	B	B	受精卵移植技術者において活用されている。	関係機関での知見の共有
47	(H18-指-47)黒毛和種種雄牛別枝肉成績【担当:種山畜産<種山畜産>】	B	B	各地域別枝肉成績については現状分析に留まらず、より詳細な解析を行い問題点と提起しないと指導に活用出来ない。	地域の関係機関での情報共有と農家指導時の情報提供
48	(H18-指-48)黒毛和種の県有種雄牛における子牛市場成績【担当:種山畜産<種山畜産>】	B	B	各地域別子牛市場成績については現状分析に留まらず、より詳細な解析を行い問題点と提起しないと指導に活用出来ない。	地域の関係機関での情報共有と農家指導時の情報提供
49	(H18-指-49)細断型ロールペーラを活用した発酵TMR調製技術【担当:家畜飼養・飼料<飼料生産>】	A	<u>C</u>	技術の情報提供は出来たが、発酵TMR活用技術を普及させる対象が、現状では、県内にない。	TMRセンター等への情報提供
50	(H18-指-50)効率的な発酵TMR調製のための細断型ロールペーラの操作方法【担当:家畜飼養・飼料<飼料生産>】	A	<u>C</u>	技術の情報提供は出来たが、発酵TMR活用技術を普及させる対象が、現状では、県内にない。	関係機関での知見の共有
51	(H18-指-51)細断型ロールペーラを利用して調製した粗飼料主体発酵TMRの発酵品質および飼料特性【担当:家畜飼養・飼料<飼料生産>】	A	<u>C</u>	技術の情報提供は出来たが、発酵TMR活用技術を普及させる対象が、現状では、県内にない。	TMRセンター等への情報提供

No.	<code>成果名	指導参考	指導効果	評価コメント	活用事例
52	(H18-指-52)飼料用トウモロコシ栽培で牛排せつ物を利用する際の留意点【担当:家畜飼養・飼料<飼料生産>】	A	A	トウモロコシの生産費低減のため、牛排せつ物利用による肥料代の節減が大規模飼料生産組織を中心に組み込まれており、施肥設計の参考として活用されている。	大規模飼料生産組織等への情報提供
53	(H18-指-53)経年草地における発酵鶏糞ペレットの化学肥料代替効果【担当:外山畜産<外山畜産>】	A	C	散布労力や、安定性に課題あり。コスト低減効果も不明なので、大規模な公共牧野では、化学肥料代替が進まない。	農家や大規模飼料生産組織等への情報提供
54	(H18-指-54)フラットベッドスキヤナを用いた簡易土壌分析システムの開発【担当:生産環境<土壌作物栄養>】	A	A	改良型のシステムとして市販化され、県内組織にも導入されるようになった	改良版のシステムとして市販化され導入されてきている
55	(H18-指-55)集落営農組織化効果試算シート【担当:農業経営<農業経営>】	B	B	集落営農組織化の効果を試算する資料作成に効果があった。	指導資料の作成
56	(H18-指-56)青果物の冷凍車による混載輸送の場合の冷気とエチレンの影響【担当:生産環境<保鮮流通技術>】	-	-	農業普及員が流通業者に対して指導する場面がなかった。	
57	(H18-指-57)寒締めほうれんそうの作期判定と生育調節技術(追補:品種「朝霧」)【担当:園芸(県北)<産地育成>】	B	B	野菜栽培技術指針に当該研究成果の内容が盛り込まれており、現地指導の参考になっている。	指導会等での情報提供
58	(H19-指-01)スルホニルウレア系除草剤抵抗性イヌホタルイの防除に有効な成分を含む水稲除草剤の効果【担当:作物<水田作>】	A	A	SU抵抗性雑草に対する対策成分の特徴を明らかにし、技術指導の際に参考となった。特に、ベンゾピシクロンについてはその後多くの除草剤で活用された。現在、多年生雑草やヒエ、SU抵抗性アゼナも残草する圃場が多く、今後の成果に期待したい。	基本技術として定着
59	(H19-指-02)平成19年収穫直前の冠水被害による水稲玄米品質の特徴【担当:作物<水田作>】	A	A	気象災害に速やかに対応し、被害の発生についてその特徴を明らかにした点は大いに参考になった。将来への参考資料としても価値が高い。	水害発生時に大いに参考となった。
60	(H19-指-03)平成19年における水稲生育の特徴と作柄・品質に影響した要因の解析【担当:作物<水田作>】	A	A	平成19年度の作柄について、反省・改善し、次年度への計画をたてていくうえで大いに参考になった。願わくば、過去のデータから将来におこるであろう問題を推測するような解析を行って欲しい。	次年度の栽培計画立案に活用。
61	(H19-指-04)トリコデルマ・アトロピリデ水和剤(商品名:エコホープDJ)の効果的な使用方法【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	A	B	特別栽培米の普及を進めるうえで大いに参考になった。研究としても評価できるものと思うが、普及場面から考えると対象病害によっては防除効果を低く評価し直すなど、成果として十分な検討が行われたと言いき難い。また、バカ苗に対する留意事項が不十分であるなど問題も多く見受けられる。	一部地域で普及
62	(H19-指-05)オリサストロビン粒剤のは種前床土混和およびは種時覆土前散布のいもち病に対する効果的な使用方法【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	A	B	普及面積は少ないが、現場のニーズに対応した播種前床土混和や播種時覆土前散布が可能な剤として、指導の参考になった。ストロビルリン系薬剤の連用に対する注意や食品衛生法への注意もなされていた点は地味であるが評価される。	一部地域で普及
63	(H19-指-06)メミノストロビン剤250グラムの省力散布による穂いもちに対する防除効果(追補)【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	A	B	次年度の大区画圃場での成果とあわせて評価、省力技術として参考になった。穂いもち防除は省略される傾向にあり、穂いもちによる減収、品質の低下が心配される。米価が安いのでコスト低減が要因の一つであり、課題解決のためには省力・低コスト技術が必要であり、今後の成果に期待したい。	一部地域で普及
64	(H19-指-07)岩手県におけるカスガイシン耐性もみ枯細菌病菌の発生【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	B	B	耐性菌の発生に対して迅速に対応した点は評価され、技術指導の参考になった。代替の薬剤防除技術はなく、対策は既存の耕種的防除の徹底のみであった。減農薬栽培が主流となっていたため、大きな混乱はなかったが、一部普及現場で混乱はあった。	県下全域で防除の参考となった
65	(H19-指-08)アカスジカスミカメ越冬世代幼虫の密度低減に効果的な草刈時期【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	A	A	カメムシ防除に関する耕種的防除方法の一つとして大いに参考になった。しかし、この時期の草刈りが実際の被害にどの程度影響しているかは不明であり、指導の効果としてよくわからない点が多い、今後の成果に期待したい。	県下全域に普及

No.	<code>成果名	指導参考	指導効果	評価コメント	活用事例
66	(H19-指-09)大豆生育期の広葉雑草を対象とした除草剤の特徴【担当:作物<野菜畑作>】	A	A	大豆栽培における除草対策において、広葉対象の茎葉処理除草剤の選択の際役立った。	大豆栽培において参考になった事例がある。
67	(H19-指-10)平成19年における大豆の冠水等被害の実態【担当:作物<野菜畑作>】	A	B	大豆生育後期の冠水・浸水被害の実態が明らかになり、被害推定に役立った。	損害評価において参考になった事例がある。
68	(H19-指-11)白いんげんの安定栽培法【担当:園芸<野菜畑作>】	A	B	白いんげんの作付けを検討する際、参考となった。標高の高い種山では成果を参考に適期を模索した。	白いんげん栽培において参考になった事例がある。
69	(H19-指-12)アワノメイガの被害を考慮したアワの適正播種量及び作期【担当:作物(県北)<営農技術>】	B	B	アワ栽培において機械化体系における播種量の参考となり、作付け拡大に役立った。	雑穀栽培において参考になった事例がある。
70	(H19-指-13)早期培土を基本とした機械除草体系はキビにも適用できる【担当:作物(県北)<営農技術>】	A	A	登録農薬のないキビ栽培において、機械化体系による作付け拡大に役立った。	雑穀栽培において参考になった事例がある。
71	(H19-指-14)生物農薬「BT水和剤」を用いたアワノメイガ防除【担当:作物(県北)<営農技術>】	A	B	生物農薬BT剤によるアワノメイガの防除方法が明らかになり、雑穀の安定生産に役立った。無農薬栽培にこだわる産地では使用していない。	雑穀栽培において参考になった事例がある。
72	(H19-指-15)畑栽培雑穀(ヒエ・アワ・キビ)の発酵鶏ふんを利用した無化学肥料栽培【担当:作物(県北)<やませ利用>】	A	B	有機栽培が望まれる雑穀への有機質肥料での栽培法が提示され、栽培指導の参考になった。	雑穀栽培において一部定着
73	(H19-指-16)JM7台木利用りんご樹の衰弱症状における樹勢回復法【担当:園芸<果樹>】	B	B	JM7台木利用樹の衰弱症状については現地での発生が少なく、技術として利用する機会は少ない。しかし、衰弱症状を理解する上で、技術的な参考となった。	北上市内の発生園で盛土が行われている。
74	(H19-指-17)授粉専用品種の「ふじ」への高接ぎによる結実向上効果【担当:園芸<果樹>】	A	A	ドリフトの防止や作業の効率化のためりんご園の単植化は求められており、授粉専用品種に関する技術は参考となった。	指導会における情報提供
75	(H19-指-18)ブルーベリーの新病害「バルデンシア葉枯病」の発生【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	A	A	本成果により、耕種的防除が実施されており、当病害の発生は少ない。	指導会における情報提供
76	(H19-指-19)寒締めほうれんそうに含まれる成分と食味評価【担当:生産環境<保鮮流通技術>】	B	B	寒締めほうれんそう品質向上に留意した栽培管理について説明する際の、基礎資料として役立った。	指導会等での情報提供
77	(H19-指-20)示差屈折計を用いた寒締めほうれんそうの品質評価【担当:生産環境<保鮮流通技術>】	A	A	現地で寒締めほうれんそう糖度調査を行う際、サンプリング法、糖度測定法の目安として役立った。	現地での簡易測定の実施
78	(H19-指-21)促成アスパラガス根株の養成年数に応じた最適な堀取り時期【担当:園芸<野菜畑作>】	A	A	野菜栽培技術指針及び普及センター指導資料に当該研究成果の内容が盛り込まれており広く活用されている。	指導会等での情報提供
79	(H19-指-22)着果調整による雨よけトマトの秋期増収効果と盛夏期収穫作業の軽減【担当:南部園芸<南部園芸>】	A	A	野菜栽培技術指針及び普及センター指導資料に当該研究成果の内容が盛り込まれており広く活用されているほか、各産地において秋期の収穫確保に向けた取組のきっかけとなった。	指導会等での情報提供
80	(H19-指-23)夜冷短日処理と窒素追肥によるいちご促成前進作型の年内収量向上技術【担当:南部園芸<南部園芸>】	B	B	野菜栽培技術指針及び普及センター指導資料に当該研究成果の内容が盛り込まれ活用されている。	指導会等での情報提供
81	(H19-指-24)ピーマン及びトマト雨よけ普通栽培における化学肥料削減技術【担当:生産環境<土壌作物栄養>】	B	B	野菜栽培技術指針及び普及センター指導資料に当該研究成果の内容が盛り込まれ活用されている。	指導会等での情報提供
82	(H19-指-25)キュウリホモブシ根腐病防除を目的としたクロルピクリンくん蒸剤(商品名:クロルピクリン錠剤)の畦立てマルチャーを用いた簡便な処理方法【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	A	A	本成果は効果の高い防除方法として、キュウリホモブシ根腐病対策に位置づけられ、現地で活用されている。	実証展示圃を活用した普及、指導会等での情報提供
83	(H19-指-26)TPI(Tissue Printing Immunoassay)法によるキュウリホモブシ根腐病の簡易診断【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	A	A	本成果は効率的な診断方法として、キュウリホモブシ根腐病対策に位置づけられ活用されている。	大量検体の迅速な診断

No.	<code>成果名	指導参考	指導効果	評価コメント	活用事例
84	(H19-指-27)ビニール被覆処理によるほうれんそうのケナガコナダニ類の被害軽減技術【担当:園芸(県北)<産地育成>】	A	A	野菜栽培技術指針及び普及センター指導資料に当該研究成果の内容が盛り込まれ活用されるとともに、現地での被害軽減効果も確認されている。	指導会等での情報提供
85	(H19-指-28)レタス腐敗性病害の耕種的防除法【担当:園芸(県北)<産地育成>】	B	B	野菜栽培技術指針に当該研究成果の内容が盛り込まれており、現地指導の参考になっている。	指導会等での情報提供
86	(H19-指-29)ビブルナムオプラス「スノーボール」の切り枝促成技術【担当:園芸<花き>】	B	<u>C</u>	切り枝栽培は一部で行われているが、切り枝を含む花き全般の価格低迷や燃料、資材等の高騰によりコスト高となる促成栽培は敬遠された。	指導会等での情報提供
87	(H19-指-30)固化培地育苗または直まきによるスターチスの高品質、多収生産技術【担当:南部園芸<南部園芸>】	B	<u>C</u>	品質向上等の技術改善は必要であるが、栽培面積の急激な減少に伴い、新たな技術の導入が進まなかった。	指導会等での情報提供
88	(H19-指-31)籾殻を利用したりんどコンテナ促成栽培用培地の軽量化【担当:生産環境<土壌作物栄養>】	<u>C</u>	<u>C</u>	一部でコンテナ栽培が行われているが、市販培土や自家配合した培土が使用されている。	特になし
89	(H19-指-32)施設花きに発生するインパチエンスネクロティックスポットウイルス(INSV)の発生源と重点防除時期【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	A	B	新病害であったことから不明点が多く、防除対策を講じるうえで参考となった。	発生調査、対策指導に活用
90	(H19-指-33)岩手県内に発生したインパチエンスネクロティックスポットウイルス(INSV)の分子系統解析に基づく伝搬経路の推定【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	B	B	新病害であったことから不明点が多く、防除対策を講じるうえで参考となった。	発生調査、対策指導に活用
91	(H19-指-34)リンドウのカンザワハダニに対する各種殺ダニ剤の残効性【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	A	B	病害虫防除指導において活用し、防除ごよみ作成等の参考とした。	防除指導の参考資料として活用
92	(H19-指-35)そばくずとオカラを混合したサイレージは豚の肥育飼料として有効である【担当:家畜育種<家畜育種>】	A	<u>C</u>	現在の養豚農家での給餌体系では活用ができない。	関係機関での知見の共有
93	(H19-指-36)南部かしわ(K系)の配合飼料給与時の発育モデル【担当:家畜育種<家畜育種>】	A	B	二戸地域での取組みにおいて、当該成果が活用されている。	関係機関での知見の共有
94	(H19-指-37)南部かしわに対するソバクズ+オカラサイレージの給与法【担当:家畜育種<家畜育種>】	A	<u>C</u>	ソバクズ、オカラサイレージの安価・安定入手が困難であるため普及しない。	関係機関での知見の共有
95	(H19-指-38)三陸地鶏の発育及び産肉成績【担当:家畜育種<家畜育種>】	—	—	三陸地鶏が生産中止となったため記載不可。	—
96	(H19-指-39)黒毛和種去勢育成牛へのTMR給与におけるサイレージの利用【担当:外山畜産<外山畜産>】	B	<u>C</u>	発育に関する情報のみの成果であり、TMR調整労力やコストについての検討がないので導入効果検討できない。	関係機関での知見の共有
97	(H19-指-40)過剰排卵処理方法の改善による正常胚数とAランク胚数の向上【担当:種山畜産<種山畜産>】	B	B	CIDERを用いた採卵技術の一般化が進み、当該研究成果が活用されている。	関係機関での知見の共有
98	(H19-指-41)黒毛和種子牛市場における育種価、産次表示と子牛、枝肉成績との関連【担当:種山畜産<種山畜産>】	B	B	育種価が子牛市場価格に反映されていることがわかった。産次の影響については、一般的な知見とズレがあるので指導活用難しい。	農家指導時の情報提供
99	(H19-指-42)汎用型飼料収穫機の飼料用トウモロコシ収穫における作業性能【担当:家畜飼養・飼料<飼料生産>】	B	B	これまで県内では、汎用型飼料収穫機の導入事例はないが、これから志向をもつ組合等に対し、速やかに対応可能するための技術的な参考となった。	関係機関での知見の共有
100	(H19-指-43)飼料用トウモロコシ不耕起栽培の収量性【担当:家畜飼養・飼料<飼料生産>】	B	B	県内では、不耕起播種機の導入事例はないが、これから志向をもつ組合等に対し、情報提供するための参考となった。ただし、普及においては、土壌条件による収量の変動についての検討必要。	関係機関での知見の共有
101	(H19-指-44)自給飼料主体発酵TMRの季節別の開封利用時期【担当:家畜飼養・飼料<飼料生	A	<u>C</u>	技術の情報提供は出来たが、発酵TMR活用技術を普及させる対象が、現状では、県内にない。	TMRセンター等組織への情報提供

No.	<code>成果名	指導参考	指導効果	評価コメント	活用事例
102	(H19-指-45)ホーククroppサイレージ用稲の雑草ヒエ混入割合に対応した刈取許容範囲【担当:作物<水田作>】	B	B	ヒエ多発圃場における収穫時において、当該成果が参考として活用されている。	飼料稲栽培農家への情報提供
103	(H19-指-46)里地・里山生き物データベースシステム(公開版)【担当:プロジェクト(特栽有機)<環境保全>】	—	—	普及センターでは生き物調査への関与は低いものの農地水環境保全対策の取組に非常に参考なるものと思われ、農村整備関係へのPRをさらに行うべきと思われる。	農地水環境保全対策において参考になったと思われる
104	(H19-指-47)里地・里山の生き物紹介【担当:プロジェクト(特栽有機)<環境保全>】	—	—	普及センターでは生き物調査への関与は低いものの農地水環境保全対策の取組に非常に参考なるものと思われ、農村整備関係へのPRをさらに行うべきと思われる。	農地水環境保全対策において参考になったと思われる
105	(H19-指-48)水田・水路の生き物調査手引き(ver.1)【担当:プロジェクト(特栽有機)<環境保全>】	—	—	普及センターでは生き物調査への関与は低いものの農地水環境保全対策の取組に非常に参考なるものと思われ、農村整備関係へのPRをさらに行うべきと思われる。	農地水環境保全対策において参考になったと思われる
106	(H19-指-49)バイオガスプラント由来消化液の飼料作物及び耕種作物への利用効果【担当:家畜飼養・飼料<飼料生産>】	A	B	プラント所有農場において、各作目の消化液を用いた施肥設計を当該成果を活用しながら、実施している。	プラント所有農場への情報提供
107	(H19-指-50)温湯消毒済み種子を循環式ハトムネ催芽器で催芽するとばか苗病の発生が多くなる【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	B	<u>C</u>	温湯消毒済み種子の取り扱いに対して注意を呼びかけた点では技術指導の参考になったが、当該成果は要因の一つと考えられる事に対応した課題解決を示しているのみである。温湯消毒済み種子におけるバカ苗発生にはそれ以外にもいくつかの要因があり、それらが解決されない限り問題は解決されないことの方が多い。	現場指導の参考となった
108	(H19-指-51)県内主要りんご産地におけるナミハダニの薬剤感受性実態【担当:病理昆虫<病理昆虫>】	A	A	リンゴの主要害虫であるハダニ類に対する薬剤感受性は現地でも問題になっている。本成果はハダニ防除における薬剤選択の参考となっている。	各地域防除暦

※技術指導の参考になったか: A(大いに参考になった)、B(参考になった)、C(あまり参考にならなかった)、D(参考にならなかった)

指導効果(技術改善、技術水準の向上、指導効率の向上等): A(大いにあった)、B(あった)、C(あまりなかった)、D(まったくなかった)

3 東北農業試験研究成果

<研究成果情報>

(1) 研究成果数

推進部会名	作物	基盤技術	畜産	果樹	野菜花き	流通・加工	計
研究成果数	3	3	2	1	3	0	12

(2) 研究成果名

推進部会名	部会 No.	成 果 名	分 類	主査研究室
作物	30	転換畑小麦の湿害を軽減できる密条用小畦立て播種機の開発	技術・普及	プロジェクト推進室 (水田農業)
	29	極少量播種機構を備えたナタネの畦立て同時播種技術の開発	技術・普及	プロジェクト推進室 (水田農業)
	9	ロータリハローシーダーを用いた水稻の乾田直播栽培技術体系	技術・参考	プロジェクト推進室 (水田農業)
基盤技術	7	イムノクロマト法を用いたコムギ及びダイズの cadmium 濃度簡易測定法	技術・普及	生産環境
	38	生産工程管理のための農業経営ナビ・帳簿作成ツール	技術・普及	農業経営
	39	GAPナビゲーションシステムの導入効果	技術・参考	農業経営
果樹	3	JM7台木利用リンゴ樹の幼木～若木期における低樹高仕立て法	技術・普及	技術部・園芸
野菜花き	3	秋期の低温遭遇がアスパラガスの萌芽に及ぼす影響	技術・参考	技術部・園芸
	4	業務用ホウレンソウ初夏どり作型および秋どり作型の栽培法	技術・普及	県北・園芸
	30	晩生のリンドウ新品種「いわてLB-2号」の特性	技術・参考	技術部・園芸
畜産	3	トラクタ搭載型GPS作業支援システムで大規模草地での肥料散布作業精度が向上し作業時間は短縮できる	技術・参考	外山畜産
	4	黒毛和種肥育前期におけるトウモロコシサイレージ多給が産肉性に及ぼす影響	技術・参考	飼料・飼養

試験研究成果の発表

1 試験成績書等刊行物

資料番号等	表題名	発行年月	総頁数
プロジェクト推進室			
プロ推 21 No.1	平成21年度プロジェクト推進室(特裁・有機)試験成績書	23.03	167
プロ推 22 No.1	平成22年度水稲関係除草剤試験成績書(適2試験)	22.10	82
プロ推 22 No.2	平成22年度プロジェクト推進室(特裁・有機)試験成績書	23.03	141
企画管理部			
経営 22 No.1	先進的野菜経営体の経営実態と特徴 ー施設野菜経営、土地利用型野菜経営の事例調査からー	22.05	67
経営 22 No.2	岩手県産小ぎくの競争ポジショニングと対応方向	23.02	92
経営 22 No.3	平成22年度試験研究成績書	23.02	224
経営 22 No.4	農業技術体系データ作成ブックVer2.0ユーザガイド2011年3月版	23.03	30
経営 22 No.5	営農計画作成支援シートVer2.0ユーザガイド2011年3月版	23.03	21
技術部			
園芸 21 No.1	平成21年度 試験成績書 技術部園芸研究室(果樹)	23.3	176
環境部			
環境 22 No.1	平成20年度 試験研究成績書(生産環境研究室)	22.06	171
環境 22 No.2	平成21年度 試験研究成績書(生産環境研究室)	22.06	195
環境 22 No.3	平成22年度 試験研究成績書(病理昆虫研究室)	23.03	297
病虫害防除部			
	岩手県における防除組織の実態調査結果等(平成21年度調査)	22.05	44
	平成22年度 植物防疫事業年報	23.03	169
病虫害防除技術情報No.22-1	岩手県におけるキンモンホソガの発消長と羽化盛期予測	23.01	2
病虫害防除技術情報No.21-2	ピーマンにおける天敵製剤を利用したアザミウマ防除法の現地実証	23.01	2
畜産研究所			
畜産 22 No.1	平成21年度試験成績書(畜産研究所)	23.3	90
県北農業研究所	なし		

2 研究レポート(平成22年度発行分)

No	タイトル	担当研究室
569	水稲乾田直播～麦・大豆感覚で始めてみませんか？～	プロジェクト推進室(水田農業)
570	小麦栽培でも小畦立て播種栽培ができる!!	プロジェクト推進室(水田農業)
571	作溝同時直播装置が粒状側条施肥付き直播機で使えます!	プロジェクト推進室(水田農業)
572	小さな種子でもOK! ナタネの畦立て同時播種機	プロジェクト推進室(水田農業)
573	大豆の狭畦密植栽培でも管理作業がスムーズにできる!	プロジェクト推進室(水田農業)
574	窒素濃度の高い有機質資材を利用したトマト無化学肥料栽培	プロジェクト推進室(特栽・有機)
575	トマトの害虫を物理的防除した時の病害虫の発生と注意点	プロジェクト推進室(特栽・有機)
576	生産工程管理支援のための農業経営研究室ナビ・帳票作成ツール	農業経営研究室
577	手軽に作れる! 農業技術体系データ作成ブックver2.0	農業経営研究室
578	簡単操作で経営試算! 営農計画作成支援シートver2.0	農業経営研究室
579	りんどう収穫調製作業に影響を与える要因	農業経営研究室
580	新しい岩手県リアルタイムメッシュ気象情報システムに対応した水稲主要品種の生育ステージ予測技術	作物研究室(技術部)
581	幼木～若木(7年生頃)におけるJM7台木利用樹の低樹高仕立て法	園芸研究室(技術部)
582	りんご 11月上旬に成熟する大玉で果汁の多い赤色品種「岩手5号」	園芸研究室(技術部)
583	りんご「黄香」の裂果を軽減する摘果時期	園芸研究室(技術部)
584	カラムナータイプ「タスカン」のリンゴ授粉専用品種としての特性	園芸研究室(技術部)
585	スピードプレイヤー用ドリフト低減型ノズル及び立木用ドリフト低減型防除機の特徴	園芸研究室(技術部)
586	大玉で食味良好な西洋なし「バラード」の特性	園芸研究室(技術部)
587	若苗利用トマト抑制作型における適品種と栽植様式および仕立て方等栽培管理方法	園芸研究室(技術部)
588	雨よけ無加温栽培におけるパブリカの栽植様式、かん水、着果管理等栽培管理方法	園芸研究室(技術部)
589	アスパラガス伏せ込み促成栽培における休眠打破の重要性	園芸研究室(技術部)
590	根のBrix糖度を上昇させるアスパラガス伏せ込み促成栽培の新たな茎葉黄化法の開発	園芸研究室(技術部)
591	9月下旬開花の切り花リンドウF1品種「いわてLB-2号」	園芸研究室(技術部)
592	リンドウ種子の発芽促進を目的としたジベレリン浸漬時間	園芸研究室(技術部)
593	四季成り性イチゴ主要3品種の春植え栽培における培養液濃度の適正範囲	南部園芸研究室
594	牛ふん堆肥と窒素肥料で「つぶゆたか」の稲ホールクroppサイレージを多収どり	生産環境研究室
595	コムギとダイズの cadmium 濃度をイムノクロマト法で簡易に測定	生産環境研究室
596	簡易土壌分析システムを使ったカンタン施肥設計!	生産環境研究室
597	りんどうの施肥は、新しい根の分布位置に行くと効果的	生産環境研究室
598	イブコナゾール・銅水和剤による水稲種子の大量消毒法	病理昆虫研究室
599	ダイズ害虫ウコンノメイガに対する薬剤防除効果	病理昆虫研究室
600	7～8月の高温がアカスジカスミカメの発生に及ぼす影響	病理昆虫研究室
601	PCR法による3種シンクイムシの種識別	病理昆虫研究室
602	モモシンクイガに対する新規殺虫剤の効果	病理昆虫研究室
603	キュウリ黒星病防除薬剤の評価	病理昆虫研究室
604	黒毛和種肥育前期にトウモロコシサイレージを多給する技術	家畜育種研究室
605	受胎率向上のためのホルスタイン未経産受胎牛の飼料給与プログラムと血液検査指標値	家畜育種研究室
606	交配計画作成プログラム「豚交配管理支援システム」	家畜育種研究室

No	タイトル	担当研究室
607	南部かしわのME・CP摂取量による発育モデル	家畜育種研究室
608	(欠番)	
609	飼料用トウモロコシ推奨品種「パイオニア95日(38H20)」	家畜飼養・飼料研究室
610	稲発酵粗飼料に調製した「つぶゆたか」の飼料特性と収穫適期	家畜飼養・飼料研究室
611	飼料用トウモロコシ不耕起栽培における二毛作前作ライ麦の再生残草の抑制法	家畜飼養・飼料研究室
612	飼料用トウモロコシ牽引式不耕起播種機の作業能率の改善	家畜飼養・飼料研究室
613	トラクタ搭載型GPSを活用した大規模圃地の肥料散布作業精度の向上と作業時間の短縮	外山畜産研究室
614	作溝式播種機を用いた春期牧草追播における入牧時草丈等が牧草定着に及ぼす影響	外山畜産研究室
615	黒毛和種県有種雄牛「純康大」、「秀福安」の作出	種山畜産研究室
616	発酵鶏ふんを利用した大豆栽培の連作による影響	作物研究室(県北農業研究所)
617	県北地域における業務用露地ほうれんそうの栽培法	園芸研究室(県北農業研究所)
618	県北地域における夏秋ギク系小ギクの長期継続出荷法	園芸研究室(県北農業研究所)
619	県北地域における小ギク7月咲品種の8月盆出荷向け栽培法	園芸研究室(県北農業研究所)
620	りんどうの選花作業労力を軽減させる選花作業台セットの開発	農業経営研究室

3 岩手県農業研究センター研究報告

※発行なし

4 学会等研究報告

(1) 学術論文(専門家の査読を受け、掲載された論文)

Applied Entomology and Zoology(日本応用動物昆虫学会報: 英文誌)

- Hiroshi Hada and Ken-Taro Sekine*1 (2011).
A Diagnostic Multiplex Polymerase Chain Reaction Method to Identify Japanese Internal Apple-feeding Lepidopteran Pests—*Grapholita molesta*, *Grapholita dimorpha* (Lepidoptera: Tortricidae), and *Carposina sasakii* (Lepidoptera: Carposinidae).
Appl Entomol Zool. 46:in press.
*1 岩手生工研

Theoretical and Applied Genetics

- Kiyosumi Hori*1,Kazuhiko Sugimoto*1,Yasunori Nonoue*2,Nozomi Ono*2,Kazuki Matsubara*1 ,Utako Yamanouchi*1,Akira Abe,Yoshinobu Takeuchi*3 and Masahiro Yano(2010)
Detection of quantitative trait loci controlling pre-harvest sprouting resistance by using backcrossed populations of japonica rice cultivars.
Theoretical and Applied Genetics 120:1547-1557.
*1 QTL Genomics Research Center,National Institute of Agrobiological Sciences *2 Institute of the Society for Techno-innovation of Agriculture,Forestry and Fisheries

北日本病害虫研究会

- 横田 啓・鈴木敏男・吉田樹史*1(2010).
岩手県のスイートコーン栽培におけるアワノメイガ防除適期およびBT水和剤の防除効果.
北日本病害虫研究会報 61:129-132.
- 羽田 厚・佐藤 美和子*1 (2010).
岩手県におけるアシグロハモグリバエの殺虫剤感受性.
北日本病害虫研究会報 61:168-169.
*1 岩手県病害虫防除所(現在:県中央農業改良普及センター地域普及グループ遠野普及サブセンター)
- 羽田 厚・佐藤 美和子*1 (2010).
岩手県におけるアシグロハモグリバエおよびトマトハモグリバエの発生状況.
北日本病害虫研究会報 61:165-167.
*1 岩手県病害虫防除所(現在:県中央農業改良普及センター地域普及グループ遠野普及サブセンター)
- 高橋 直子*1・富永 朋之・藤澤 由美子・岩館 康哉 (2010).
岩手県におけるMBI-D耐性イネいもち病菌の発生拡大要因の解析
北日本病害虫研究会報 61:9-13.
*1 現在:一関農業改良普及センター
- 斎藤真理子・大友 令史・藤澤 由美子(2010)
斑点米発生量を軽減するための除草剤散布による畦畔イネ科雑草管理体制
北日本病害虫研究会報 61:99-102
- 大友 令史・斎藤 真理子・岩館 康哉(2010)
アカスジカスミカメによる斑点米被害発生要因の解析
北日本病害虫研究会報 61:125-128.

日本農業機械学会東北支部

- 伊藤勝浩・日影勝幸・及川一也*1・鶴田正明*2(2010).
水稲湛水直播機のフロートに装着する作溝装置の開発(第2報)－装置の改良と現地適応性の検討－.
日本農業機械学会東北支部報. 57: p37-40
*1 八幡平農業改良普及センター
*2 元岩手県農業研究センター

(2) 学会発表(発表要旨)

Plant and Animal Genome XIX Conference(2011.1.15~1.19 San Diego, California, USA)

○Akira Abe, Takahiro Fujibe*1, Ryohei Terauchi*2(2011)
Mapping of quantitative trait loci for seedling shoot length in rice
Plant and Animal Genome XIX Abstract:200
*1 Tokyo University *2 Iwate Biotechnology Research Center

園芸学会(平成22年度秋季大会:2010.9.19~20開催・大分大学旦野原キャンパス 園芸学研究. 9(別2): 2010.9発行)

○山口貴之・高橋拓也・漆原昌二(2010).
低温及び茎葉部の黄化がアスパラガスの休眠性に及ぼす影響
園芸学研究第9巻(別冊1): 173.

○前田智雄*1・小村晶紀*1・本多和茂*1・山口貴之(2010).
アスパラガス伏せ込み促成栽培における若茎中のルチン含量に及ぼす補光処理の影響
園芸学研究第9巻(別冊2): 463.
*1 弘前大農学生命科学部

○阿部 弘・阿部 潤*1(2010).
北上市在来サトイモ'二子いも'の組織培養における培地組成簡易化の検討
園芸学研究 9(別2): 440.
*1現岩手県立農業大学校

園芸学会(平成23年度春季大会:2011.3.20~21開催・宇都宮大学(3.11東日本大震災により中止。要旨集発刊をもって発表と認める) 園芸学研究. 10(別1):2011.3発行)

○山口 貴之・元木悟*1・浦上敦子*2・松永邦則*3・國久美由紀*2・植野玲一郎*4・山崎篤*5・芳賀紀之*6・常盤秀夫*7・山田文典*8・酒井浩晃*1・瀧澤民雄*9・池内隆夫*10・渡辺慎一*11・新里仁克*12・遠山智之*13・鈴木卓*13・小泉丈晴*14・北澤裕明*15(2010).
アスパラガス1年養成株における根株重および貯蔵根Brix糖度の地域間差
園芸学研究第10巻(別冊1):164
*1長野県野菜花き試、*2農研機構野菜茶研、*3パイオニア・エコサイエンス(株)、*4北海道原環セ、*5農研機構東北農研、*6福島農総セ会津、*7福島農総セ浜、*8群馬農総セ中山間、*9JAちくま、*10香川農試三木、*11農研機構九州沖縄農研、*12沖縄農研セ、*13北海道大院農、*14群馬農総セ、*15農研機構食総研

○前田 智雄*1・小村 晶紀*1・小野 いずみ*1・本多 和茂*1・地子 立*2・白井 正利*3・橋本 寛隆*3・山口 貴之 (2010)
ホワイトアスパラガス若茎中のprotodioscin含量に及ぼす軟白方法およびストレス処理の影響
園芸学研究第10巻(別冊1):165
*1弘前大農学生命科学部、*2北海道大院環境科学院、*3(株)ファームホロ

○島山隆幸・森谷茂樹*1・本多親子*1・白井紀子*2・奥平麻里子*3 (2010).
SSRマーカーによるリンゴ新品種'岩手7号'の交配親同定
園芸学研究第10巻(別冊1):82
*1農研機構果樹研(盛岡)、*2岩手生工研セ、*3岩手県農林水産部

○藤尾拓也・佐々木裕二・小田島 雅(2011).
トマトの3段階心新栽培様式の標準温度変換日数法による栽培体系の最適化
園芸学研究 10(別1):105

○小田島 雅・佐々木裕二・藤尾拓也・高橋龍三*1 (2011).
杉樹皮培地における各種資材の施用がパンジー生育障害の軽減に及ぼす効果.
園芸学研究 10(別1):442
*1 葛巻林業(株)

○阿部 弘・塚越 芳樹*1・甲斐憲郎*2・鈴木良則・木嶋伸行*3(2010).
雨よけハウレンソウ仮想栽培ほ場における大腸菌群の分布傾向.
園芸学研究 10(別1): 258.
*1 食総研 *2 宮崎総農試 *3 農研機構野菜茶研

岡田邦彦*1・○田代勇樹(2011).
ホウレンソウの花芽分化および抽苔に及ぼす夜温の影響
園芸学研究 10(別1): (ポスター発表)
*1農研機構野菜茶研

園芸学会東北支部(平成22年度大会:2010.9.13~14 開催・山形市 園芸学会東北支部平成22年度研究発表要旨:2010)

○漆原 昌二・由比 進*1・高橋 拓也(2010).
長日要求性'つけな中間母本農2号'を利用したハクサイ晩抽性育種
(第3報)寒冷地における新作型の検討
園芸学会東北支部平成22年度研究発表要旨:33-34
*1農研機構東北農研

○山口 貴之・高橋 拓也(2010).
長日条件が秋のアスパラガスの休眠性に与える影響
園芸学会東北支部平成22年度研究発表要旨:41-42

北日本病害虫研究発表会(2011.2.9~10青森市. 北日本病害虫研究会報 62: 印刷中)

○細川 健・臼井 智彦・多田 勝郎(2011).
トマト雨よけ普通栽培の主要害虫に紫外線除去フィルムと防虫網を組み合わせた物理的防除を実施した場合の病害虫の発生

○横田 啓・村上 太郎(2011).
7~8月の高温がアカスジカスミカメの発生に及ぼす影響.

○岩館 康哉(2011).
キュウリ黒星病防除薬剤の評価.

○洞口 博昭・武田 眞一*1(2011).
オロサストロビン粒剤の箱施用を活用したイネ紋枯病のインターバル防除の可能性.
*1 JA全農いわて

○羽田 厚(2011).
岩手県内のりんご園地におけるハダニ類およびカブリダニ類の発生状況.

○加藤 清吾・吉田 雅紀・岩館 康哉(2011).
岩手県におけるホウレンソウ白斑病の発生.

○大友 令史・斎藤 真理子・岩館 康哉・村上 太郎・藤澤 由美子(2011)
アカスジカスミカメの在圃時期別の斑点米被害発生リスク

○村上 太郎・斎藤 真理子・大友 令史・藤澤 由美子(2011)
畦畔管理による斑点米カメムシ類の総合防除の実証

○阿部 亜希子・鈴木 敏男・吉田 樹史*1(2010).
アワ初期害虫に対する防虫網等資材による被害低減効果はない.
*1 仙台市経済局農林部

○阿部 亜希子・鈴木 敏男(2011).
岩手県における雑穀主要病害虫の被害実態.

北陸病害虫研究会(2011.2.28~3.1開催・越後湯沢市 北陸病害虫研究会報. 60:印刷中)

○横田 啓(2011).
岩手県におけるウコンノメイガの発生消長.

日本育種学会(第117回講演会-2010春季:2010.3.26~27 開催・京都大学 育種学研究. 12(別1):2010.3発行)

○小原 実広*1・阿部 陽・寺内 良平*1・武田 匠*1(2010)
複数のマッピング集団を用いた、水耕法で栽培された根の長さに関するQTLのマッピング
育種学研究.12(別1):292
*1 (財)岩手生物工学研究センター

日本育種学会(第118回講演会－2010秋季:2010.9.24～25 開催・秋田県立大学 育種学研究. 12(別2):2010.9発行)

○阿部 陽・藤部 貴宏*1・寺内 良平*2(2010)
イネの初期伸長性に関するQTLのファインマッピング
育種学研究.12(別2):43
*1 東京大学 *2 (財)岩手生物工学研究センター

日本育種学会(第119回講演会－2011春季:2011.3.29～30 開催・横浜市立大学 育種学研究. 13 (別1):2011.3発行)

講演会は東日本大震災の影響で開催中止

○阿部 陽・吉田 健太郎*1・小杉 俊一*1・夏目 聡*1・Tamiru Muluneh*1・高木 宏樹*1・落合 祐介*1・菅原 浩視・佐々木 力・寺内 良平*1(2011)

QTLseq:BC1F2バルクシーケンスによる迅速なQTL単離

育種学研究.13(別1):26

*1 (財)岩手生物工学研究センター

○夏目 聡*1・吉田 健太郎*1・小杉 俊一*1・三岡 周子*1・植村 亜衣子*1・阿部 陽・中出 啓子*1・坂本 裕一*1・中島 将博*1・武田 匠*1・寺内 良平*1(2011)

次世代シーケンサーを用いた北東北農林生産物のゲノム解析

育種学研究.13(別1):24

*1 (財)岩手生物工学研究センター

○小杉 俊一*1・Tamiru Muluneh*1・吉田 健太郎*1・夏目 聡*1・阿部 陽・三岡 周子*1・植村 亜衣子*1・寺内 良平*1(2011)

次世代シーケンサーを用いたイネ全ゲノム変異解析

育種学研究.13(別1):25

*1 (財)岩手生物工学研究センター

○吉田 健太郎*1・小杉 俊一*1・夏目 聡*1・阿部 陽・三岡 周子*1・植村 亜衣子*1・宇津志 博恵*1・寺内 良平*1(2011)

栽培イネ*Oryza sativa* と野生イネ*Oryza meridionalis* 間のゲノム網羅的DNA変異解析

育種学研究.13(別1):27

*1 (財)岩手生物工学研究センター

○神崎 洋之*1・奥山 雄大*2・阿部 陽・吉田 健太郎*1・松村 英生*3・斉藤 宏昌*1・伊藤 明子*1・曾根 輝雄*4・寺内 良平*1(2011)

イネいもち病抵抗性遺伝子*Pia*の単離・同定

育種学研究.13(別1):233

*1 (財)岩手生物工学研究センター *2 国立科学博物館・植物 *3 信州大学 *4 北海道大学大学院

○松村 英生*1・阿部 陽・浦崎 直也*2・宮城 徳道*2・安藤 裕教*1・寺内 良平*3(2011)

タグ配列による網羅的なゲノム多型の解析

育種学研究.13(別1):303

*1 信州大学 *2 沖縄県農業研究センター *3 (財)岩手生物工学研究センター

○中塚貴司*1・齋藤美沙*1・牛久由夏*1・山田恵理*1・星 伸枝・中里 崇・藤原一道・日影孝志*2・西原昌宏*1

白花リンドウの変異原因遺伝子の同定とDNAマーカーの開発

育種学研究 第13巻(別冊1号)301:2011. 4発行

*1岩手生工研セ、*2八幡平市花き研セ

○齋藤美沙*1・中塚貴司*1・牛久由夏*1・山田恵理*1・星 伸枝・中里 崇・藤原一道・日影孝志*2・西原昌宏*1

DNAマーカー選抜による効率的なピンク花リンドウ集団の育成

育種学研究 第13巻(別冊1号)302:2011. 4発行

*1岩手生工研セ、*2八幡平市花き研セ

日本応用動物昆虫学会(2011.3.27~29開催・九州大学 講演要旨)

○羽田 厚・多田典穂・鈴木敏男(2011).

寒冷地のキャベツ圃場におけるオオアトボシアオゴミムシ及びキンナガゴミムシの動態について.
第55回日本応用動物昆虫学会大会 平成23年度日本農学会大会分会講演要旨集.

○横田 啓(2011).

アカスジカスミカメによる斑点米形成時期-岩手県内の主要品種を用いた圃場での放飼試験-.
第55回日本応用動物昆虫学会大会 平成23年度日本農学会大会分会講演要旨集.

日本気象学会(2011年秋季大会:2010.10.29~30開催・京都府民総合交流プラザ)

○日影勝幸・伊藤勝浩

水稲湛水直播栽培導入リスク評価への暖候期予報活用の試み

日本作物学会(第231回講演会-2011春季:2011.3.30~31開催・厚木市 日本作物学会紀事. 81)

○荻内 謙吾.

雑穀の畑移植栽培における栽植密度が移植後生育と収量に及ぼす影響.

日本作物学会記事. 81(別1):印刷中

○仲條 真介・阿部亜希子・岩館 康哉(2010).

温湯浸漬がヒエ黒穂病の孢子発芽と種子発芽に与える影響

日本作物学会東北支部報. 53:37-38.

日本作物学会東北支部(第53回講演会:2010.8.20~21開催・仙台市 日本作物学会東北支部報.53)

○荻内 謙吾(2010).

雑穀の移植栽培における育苗培土が移植苗の素質と移植後生育に及ぼす影響.

日本作物学会東北支部報. 53:33-34.

○仲條 真介(2010).

育苗培土の違いがヒエ2品種の発根に与える影響について

日本作物学会東北支部報. 53:37-38.

日本植物病理学会大会(2010.4.18~20開催・国立京都国際会館)

○岩館 康哉・猫塚 修一*1(2010).

転炉スラグ資材施用によるキュウリホモプシス根腐病の発病抑制効果.

平成22年度日本植物病理学会大会講演要旨予稿集. 55.

*1 現在: 県農林水産部農業普及技術課

○小林 括平*1・岩館 康哉・関根 健太郎*2・赤坂 志保・千葉 賢一*3・富田 麗子*2・猫塚 修一*4(2010).

リンドウこぶ症発症株から高頻度で検出されるウイルス様dsRNA.

平成22年度日本植物病理学会大会講演要旨予稿集. 111.

*1 岩手生工研(現在:愛媛大学)、*2 岩手生工研、*3 県大船渡農業改良普及センター

*4 現在: 県農林水産部農業普及技術課

日本植物病理学会大会(2011.3.26~29開催・東京農工大学)

○岩館 康哉(2011).

キュウリホモプシス根腐病に対するクロルピクリンくん蒸剤のマルチ畦内処理と抵抗性台木の併用による防除効果.

平成23年度日本植物病理学会大会講演要旨予稿集. 63.

○永坂 厚*1・岩館 康哉(2011).

転炉スラグ資材がホモプシス根腐病菌の感染によるカボチャ台キュウリ苗の水分移動低下に及ぼす影響.

平成23年度日本植物病理学会大会講演要旨予稿集. 130.

*1(独)東北農業研究センター

日本土壌肥料学会 (2010年北海道大会 2010.9.7～9開催・札幌市 講演要旨2010.9発行)

- 鈴木良則*1・槻館 満*2・小菅裕明*1・高橋好範*3・加藤直人*4(2010).
肥料価値の高い豚ふん堆肥・鶏ふん堆肥の製造と利用
日本土壌肥料学会講演要旨集第56集:134
*1 岩手農研セ *2 プライフーズ *3 久慈農改セ *4 中央農研

日本土壌肥料学会東北支部会 (2010年山形大会 2010.7.28～29開催)

- 大友英嗣・日影勝幸(2010).
湛水直播栽培の土壌中窒素動態及び、水稻湛水直播栽培に適した肥効調節型肥料の検討

日本農業情報学会 (2010年度年次大会:2010.5.21開催・東京大学弥生講堂

農業情報学会2010年度年次大会講演要旨集:2010.5発行)

(オーガナイズドセッション講演:セッションA「ICTによるGAP支援」)

- 前山 薫・南石 晃明*1・松浦貞彦.
GAP導入促進のための農業ナビ・帳票作成ツールの試作および評価
農業情報学会2010年度年次大会講演要旨集:3-4.
*1 九州大院農

東北畜産学会 (第60回大会:2010.8.29～30開催 講演要旨:2010.8発行)

- 藤村 和哉(2010).
岩手県の黒毛和種妊娠期間の現状と育種価
第60回東北畜産学会大会講演要旨
○佐藤 洋一(2010)
岩手県産黒毛和種における脂肪酸組成に影響を与える遺伝子型の効果の検討
第60回東北畜産学会大会講演要旨

日本動物遺伝育種学会 (第11回年次大会:2010.10.6～7開催 講演要旨:2010.10発行)

- 佐藤 洋一(2010)
日本短角種における枝肉形質QTLのマッピング
日本動物遺伝育種学会第11年次大会講演要旨

日本草地学会 (2011年宇都宮大会2011.3.26～27開催・宇都宮市 講演要旨2011.3発行)

- 河本 英憲*1・増田 隆晴(2011)
くず大豆のサイレージ発酵品質と発酵に伴うタンパク画分の変化
日本草地学会誌第57巻別号:177
*1 農研機構東北農研
○樽見恵梨奈*1・築城 幹典*1・増田 隆晴・菊池 恭則・石橋菜奈子1*・前田 武己*1(2011)
ALOS AVNIR-2データを用いた草地現存量の推定
日本草地学会誌第57巻別号:140
*1 岩手大学農学部
○尾張 利行・多田 和幸・福士 恵子・高橋ミヨス・山口はる美・福田 淳子・渡辺麻由子・高橋 彩子(2011)
稲発酵粗飼料に調製した岩手県育成非主食用水稻品種「つぶゆたか」の飼料特性と収穫適期

東北農業試験研究発表会(第53回 2010.8.11開催・青森市)・東北農業研究(第63号.印刷中)

- 臼井 智彦・多田 勝郎(2010).
水稲特別栽培専用肥料の効果的な施用方法
- 高橋 司・大野 浩・田村 博明*1
幼木期におけるJM7台木利用樹の低樹高仕立て法
*1 中央農改善セ
- 大野 浩(2010)
発芽～開花期の低温によるリンゴ花芽の耐凍性の向上.
- 中里 崇(2010)
栄養繁殖性鉢物用リンドウ品種「ももずきんちゃん」の育成
- 藤尾拓也・佐々木裕二・佐藤 弘*1(2010).
根域冷却による高糖度トマト生産に適する品種
*1 岩手県立農業大学校
- 鈴木 良則・多田 勝郎・小菅 裕明(2010).
岩手県における育苗箱全量施肥専用肥料の溶出と水稲の生育.
- 鈴木良則・小菅裕明・高碓敏晴*1(2010).
シグモイド型被覆肥料を用いた水稲の全量基肥用肥料の改良
*1 ジェイカムアグリ㈱
- 高橋 彩子・葉上 恒寿*1・尾張 利之・小菅 裕明(2010).
シグモイド型被覆肥料を用いた水稲の全量基肥用肥料の改良
*1 宮古普及セ岩泉
- 佐藤 直人・菊池 雄・伊藤 修(2010).
異なる品種間の鶏肉における遊離アミノ酸、ジペプチド、イノシン酸量.
- 清水 恒*1・仲條 真介(2010).
平成20、21年産の低アミロース短稈新品種ヒエの水溶性画分の抗酸化性
*1 東北農研

中国四国地域マッチングフォーラム. P1-5(2010.11)

- 漆原 昌二(2010)
土壌蓄積リン酸利用による減化学肥料栽培ーリン酸減肥,10%増収を実現ー

5 雑誌等掲載

(1) 専門雑誌等

日本植物調節剤研究協会東北支部会報

日影 勝幸(2011).
岩手県におけるSU抵抗性雑草発生実態と対応策
日本植物調節剤研究協会東北支部会報第46号(2011年3月 印刷中)

果実日本

高橋 司(2010).
果樹園管理のポイント リンゴ (連載)
果実日本2010Vol.65(4):112-114
果実日本2010Vol.65(5):107-108
果実日本2010Vol.65(6):106-107
果実日本2010Vol.65(7):133-135
果実日本2010Vol.65(8):107-109
果実日本2010Vol.65(9):116-117
果実日本2010Vol.65(10):126-127
果実日本2010Vol.65(11):116-117
果実日本2010Vol.65(12):103-105

及川 耳呂
リンゴわい性台樹における薬液到達性の高い樹体構成
果実日本2011Vol.66(1):82-87

植物防疫

岩館 康哉・山口 貴之・藤沢哲哉*1(2010).
キュウリホモプシス根腐病抵抗性台木の検索と台木適性
植物防疫(2010) Vol.64(7):50-55
*1 中央農業改良普及センター

田代勇樹(2010).
レタス腐敗性病害の耕種的防除法
植物防疫(2010) Vol.64(9):589-593

目時梨佳(2010).
カラシナすき込みによるハウレンソウ萎凋病の発病抑制効果
植物防疫(2010) Vol.64(9):575-579

植調

渡邊麻由子(2010)
飼料用稲(WCS)栽培における効率的な雑草防除
植調(2010) 第44巻第5号:29-34

農業と科学

藤尾 拓也(2010).
肥効調節型肥料とハンモック式栽培槽を組み合わせたイチゴ低温カット栽培
農業と科学(2010.10:5-8)
鈴木良則(2011)
岩手県における育苗箱全量施肥法の普及に向けた試験研究.
農業と科学 2011. 1

農業技術

仲條眞介(2010)
 岩手県における雑穀栽培・研究のあゆみと近年の主要研究成果
 農業技術(2010) 8月号: 277-293

畜産技術

細川 泰子(2010).
 1 受胎率向上のための黒毛和種受胎牛の飼料給与プログラムと血液検査指標値
 畜産技術(2010) Vol.665(10):25-28

(2) 月刊農業普及(平成22年4月号～平成23年3月号)

4月号	岩館 康哉.	話題の病害虫講座「キュウリホモプシス根腐病(続き)」
5月号	日影 勝幸	農業研究センター試験研究レポート「水稻乾田直播の良好な出芽と収量向上のためには？」
5月号	加藤 清吾	シリーズ「話題の病害虫講座」 ネギ小菌核病
6月号	阿部 弘	遠距離輸送に対応したりんどうの鮮度保持技術
	羽田 厚.	病害虫防除特集～薬剤抵抗性の実態と対策～「岩手県のリンゴ園地における薬剤抵抗性ナミハダニの発生実態」
	吉田 雅紀	シリーズ「話題の病害虫講座」 ハモグリバエ類
	大友 令史	病害虫防除特集～薬剤抵抗性病害虫の発生動向、防除の課題と対策～
7月号	横田 啓.	話題の病害虫講座「アワノメイガ」
	大野 浩.	試験研究レポート りんご「ふじ」わい性台木利用樹の簡便な樹相診断手法
8月号	横田 啓.	話題の病害虫講座「ウコンノメイガ」
	富永 朋之.	農業研究センター試験研究レポート「リンゴすす斑病に効果の高い防除対策」
9月号	藤尾拓也.	試験研究レポート「四季成り性イチゴ「なつあかり」の定植時期の前進化と増収効果」
	大友 令史	シリーズ「話題の病害虫講座」 ハダニ類
10月号	阿部 信治	シリーズ「話題の病害虫講座」 赤かび病
10月号	齋藤 浩和.	らぼれたあ「自給タンパク質飼料を利用した発酵TMRの調製を開始」
	菊池 恭則.	農業研究センター試験研究レポート「粗砕カキ殻施用草地における土壌改良効果の持続性(利用5年目)」
11月号	大野 浩.	試験研究レポート 品種ぶどう 耐寒性が強く食味良好な赤色品種「岩手3号」
	洞口 博昭.	話題の病害虫講座「いもち病」
	藤澤 牧人.	らぼれたあ「新たな日本短角種生産方式を探る」
12月号	洞口 博昭.	話題の病害虫講座「リンドウえそ斑紋病(INSV)」
	今野 一之.	らぼれたあ「受精卵移植を活用した種雄牛造成」
	細川 泰子.	農業研究センター試験研究レポート「受胎率向上のための黒毛和種受胎牛の飼料給与プログラムと血液検査指標値」
1月号	高橋彩子	よく分かる土づくり「県内耕地土壌の実態」
	荻内 謙吾	農業研究センター試験研究レポート「キビ、アワの機械化栽培マニュアルの策定」
2月号	齋藤 真理子.	シリーズ「話題の病害虫講座」 アカスジカスミカメ2
2月号	村上 太郎	シリーズ「話題の病害虫講座」 イネドロオイムシ
	齋藤 浩和.	農業研究センター試験研究レポート「初妊牛における分娩直後の環境性乳房炎予防技術」
3月号	高橋彩子	よく分かる土づくり「新たな土壌診断手法」
	加藤 清吾	シリーズ「話題の病害虫講座」 リンドウ炭そ病

(3) 岩手の畜産(平成22年5月号～平成23年3月号)

5月号	尾張 利行.	乾物収量性に優れた飼料用トウモロコシ極早生品種「ニューデント95日(DKC34-20)」
7月号	細川 泰子.	黒毛和種受胎牛における受胎率向上のための飼料給与プログラムと血液検査指標値
9月号	藤澤 牧人.	黒毛和種における自然哺乳回数制限が母牛の繁殖機能回復に及ぼす影響
11月号	藤村 和哉.	今こそ肉用牛の増頭を 一次世代を担う、期待の新星！！—
	堀間 久己.	飼料用トウモロコシ栽培における一次発酵オガクズ鶏ふん堆肥の窒素の肥効性
1月号	佐藤 直人.	盛岡冷めん+さな粉は南部かしわの肥育飼料として活用できる
3月号	藤村 和哉.	黒毛和種種雄牛娘牛の繁殖成績および外貌

(4) 岩手りんごタイムス(平成21年4月号～平成22年3月号)

4月号	大野 浩	凍霜害対策について
	畠山 隆幸	岩手4号、5号について
	畠山 隆幸	マメコバチの利用方法
5月号	羽田 厚.	交信攪乱剤使用の留意点
	富永 朋之.	斑点落葉病と褐斑病の防除について
	大友 令史	ダニ剤の使用について
	藤田 章宏	幼果期の防除について
6月号	大野 浩	樹相診断について
	富永 朋之.	輪紋病と炭そ病の発生生態と防除について
	大友 令史	農薬の適正使用について
7月号	及川 耳呂	夏期管理について
	羽田 厚.	枝幹害虫の防除について
	富永 朋之.	効率的なすす病対策について
	藤田 章宏	盛夏期の防除について
8月号	及川 耳呂	早生品種の管理について
	大友 令史	収穫期前の防除について(早生種)
9月号	畠山 隆幸	黄香の収穫期の予測と収穫前管理について
10月号	畠山 隆幸	岩手系統について(岩手7号)
11月号	及川 耳呂	湿害対策について(暗きょ排水などの設置)
	藤田 章宏	野そ対策
12月号	畠山 隆幸	岩手5号について
	高橋 司	改植の進め方について
	大友 令史	今年の防除の反省
1月号	畠山 均	年頭に当たり
	高橋 司	せん定について
	羽田 厚.	平成23年りんご病害虫防除指針の主な改正点
3月号	藤田 章宏	今年の防除に向けて

(5) その他の雑誌等

農耕と園芸

山口 貴之・山田 修*1
年内どりを目指すアスパラガス伏せ込み促成栽培の最適な根株堀取り時期
農耕と園芸65(10). 2010.10月. P116-119
*1現岩手県農林水産部農産園芸課

施設と園芸

藤原 一道.
ミニ情報 7月上旬から出荷できるリンドウ「いわてVBE6号」の育成
施設と園芸150(2010夏). 2010.7月. P34

現代農業

富永 朋之.
リンゴすす斑病半減の新防除体系.
9月号

グリーンレポート

岩館 康哉(2010).
ダイズ紫斑病の効率的な防除.
グリーンレポート第490号(平成22年4月)

山口 貴之.
トウガンを利用してキュウリホモブシ根腐病の被害を回避
グリーンレポート第498号(平成22年12月)

養豚の友

佐々木 直
肥育豚における玄米混合給与が発育と肉質に及ぼす影響
養豚の友 9月号

技術と普及(平成22年4月号～平成23年3月号)

羽田 厚.
岩手県のリンゴ園値における殺ダニ剤の使用状況と薬剤抵抗性ナミハダニの発生実態.
8月号

温暖化ネット(全国農業改良普及支援協会によるWEB情報)

藤尾拓也.
根域冷却処理と培養液の高濃度管理による夏秋トマトの糖度向上技術
温暖化ネットHP. 平成22年12月より公開

6 新聞等掲載

部所名	記事見出し(内容)	掲載紙名	掲載年月日
プロジェクト推進室			
水田農業			
	水稲直播向きの地域や品種 気象情報から算出	日本農業新聞	H22.4.15
	水田乾田直播 均平作業、鎮圧が鍵 岩手県農研センター 密植で収量確保	日本農業新聞	H22.4.22
	水稲乾田直播栽培 鎮圧で発芽良好 種まき前後土壌内の安定実証	岩手日日	H22.4.22
	直播と移植”交代制” 初期に深水管理 栽植密度高める WCS用稲雑草抑制 簡易技術で新体系	日本農業新聞	H22.5.27
	全国大豆現地フォーラム 播種技術を共有 本県オリジナルなど実演・北上 安定生産へ関心高く	岩手日日	H22.6.3
	大豆生産向上策探る 北上で全国フォーラム 最先端農機を実演	岩手日報	H22.6.3
	岩手で全国大豆現地フォーラム 最新の除草機実演 ハイブリッド型に注目	日本農業新聞	H22.6.3
	大豆播種4通り試験	日本農業新聞	H22.6.12
	転作大豆の栽培技術向上 及川さん(八幡平農改センター)全国表彰	岩手日報	H22.6.16
	めざせ大豆300A 下 小畦立て播種栽培 投資少なく作業早い	日本農業新聞	H22.10.1
	低コスト栽培拡大へ 北上で戦略検討会 水稲直播技術学ぶ	岩手日日	H23.2.4
特裁・有機			
	有機稲作移植、機械除草 25日から実演会 一関・大東	岩手日日	H22.5.14
	有機稲作普及へ 発芽雑草埋込同時移植 田植えを实践 一関地方推進協など	岩手日日	H22.5.29
	有機稲作栽培技術学ぶ 一関 試験研究の成果発表	岩手日日	H23.2.5
企画管理部			
農業経営研究室			
	草刈り負担を軽減 畦畔のり面に作業道	日本農業新聞	H22.4.11
	水田のり面草刈り足場の小段 作業機で造成を 北上・県農業研究センター 費用などを示す	岩手日日	H22.4.21
	イブキジャコウソウ直栽 花巻市湯本	岩手日日	H22.7.5
研究企画室			
	転作大豆の栽培技術向上 及川さん(八幡平農改センター)全国表彰	岩手日報	H22.6.16
	目輝かせ蚕観察 北上・県農研センター 子供たち白衣姿で飼育体験	岩手日日	H22.8.4
	蚕の一生なるほど 北上・県農業研究センター 児童が体験学習	岩手日報	H22.8.4
	来月3日から参観デー 北上・県農研センター 施設公開や収穫体験	岩手日日	H22.8.22
	「一日子供研究員～夏休み蚕の飼育体験～」の開催	NOSAI岩手中部 ふれあい通信8 no118	H22.8.27
	県農業研究センター参観デー	朝日新聞	H22.9.3
	参観デー開幕 試験成果を展示、解説 北上・県農研センター 郷土食の実演も	岩手日日	H22.9.4
	郷土食の提供に人気 北上・県農業研究センター 参観デー多彩に	岩手日報	H22.9.4
	農の生け花 楽しんで 農業科学博物館で展示	日本農業新聞	H22.9.5
	トウモロコシ、エダママも 収穫体験に笑顔	岩手日日	H22.9.5
	黒竜江省の農業紹介 中国研修団 試験圃場見学も 北上・県農研センター	岩手日日	H22.9.15
総務課			
	県農業研究センターが北上署に交通安全誓約書	岩手日報	H22.8.20
	北上署に交通安全誓約書提出 農研センター	岩手日日	H22.8.21
	26日冬休み子供体験学習 北上・農業科学博物館	岩手日日	H22.12.16
	26日、親子で松飾り作り 北上・農業科学博物館	岩手日日	H22.12.20
	松飾り 上手にできた 親子9組体験学習 北上	岩手日報	H22.12.27
	新年の松飾り制作 農業科学博物館・北上 親子ら伝統行事体験	岩手日日	H22.12.27
	大豆の栽培方法紹介 北上・農業科学博物館で企画展 江戸と現代比較も	岩手日日	H23.1.22
	「岩手のダイズ」知る 北上・農業博物館展	岩手日報	H23.1.24
○農業科学博物館			
	害虫防除 絵巻物で 北上・農業科学博物館 半世紀前の指導法紹介	岩手日日	H22.4.16
	南部升、まゆます、豚籠…農業博物館「度量衡と交易」展 用途 何でしょう?	岩手日日	H22.5.8
	食を支えた木の実 農業科学博物館企画展・北上 加工技術や道具紹介	岩手日日	H22.8.29
技術部			
作物研究室			
	WCS用稲 雑草抑制 ～簡易技術で新体系～	日本農業新聞	H22.5.27
	コメショック 第4部新たなコメづくり 5 温暖化への対応 新品種と技術戦略を	岩手日報	H23.2.2
園芸研究室			
	リンゴわい化栽培 モデル樹形公表	日本農業新聞	H22.4.16
	リンゴわい化樹 作業省力化へ	岩手日日	H22.4.18
	抑制トマトに徒長防ぐ かん水は子葉で判断、品薄期に収量安定	日本農業新聞	H22.6.19

部所名	記事見出し(内容)	掲載紙名	掲載年月日
(技術部)(園芸研)	りんご「ふじ」のわい化栽培 樹勢ひと目で診断 葉の枚数と長さで	日本農業新聞	H22.6.30
	生育状態把握、簡単にリンゴ「ふじ」樹相診断法を確立 北上・県農研センター	岩手日日	H22.7.2
	新品種リンドウ 岩手県が育成 愛称「いわて夢あおい」	日本農業新聞	H22.7.2
	リンゴ「ふじ」わい化樹を簡便に樹相診断	農業共済新聞	H22.8.25
	パプリカ6品種選定 岩手県農研センター	日本農業新聞	H22.8.26
	パプリカ6品種有望	日本農業新聞	H22.8.30
	パプリカで有望品種 北上・県農業研究センター 赤・黄色の各3品種 無加温栽培 安定生産に見込み	岩手日日	H22.8.30
	鉢物用リンドウ新品種「ももずきんちゃん」春先の加温不要で8月下旬に出荷 県農業研究センター 技術部 園芸研究室が育成	農業共済	H22.9.8
	側枝2〜4本最適 矮化リンゴの樹形改善 内部に薬剤到達	日本農業新聞	H22.9.10
	北上・県農研センター 糖度高く栽培容易 「岩手3号」大粒品種を開発	岩手日日	H22.9.12
	フラワーコン作品一般公開 岩手県農研センターで	日本農業新聞	H22.9.14
	大粒ブドウ「岩手3号」 糖度高く脱粒少ない	日本農業新聞	H22.9.15
	甘さ抜群 耐寒大粒ブドウ 県農研が新品種 苗木来春販売へ	読売新聞	H22.9.19
	南方系果樹の生産探る 北上・県農業研究センター モモ、ユズを試験栽培 温暖化で生育可能性	岩手日報	H22.9.27
	今が食べごろ！岩手生まれのりんご『黄香』	岩手日報 週刊岩手TVガイド	H22.10.8
	新種リンゴ うまさ好評 酸味と甘さが調和 来年発売 特産化に期待「岩手7号」二戸市で試食会	岩手日報	H22.10.11
	色鮮やか、粒ぞろいですが… 猛暑で出品大幅減 北上で県産のリンゴの品評会	朝日新聞	H22.10.22
	糖度高く味に自信 いわて純情りんごコン 猛暑乗り越え食感上場 北上・農研センター	岩手日日	H22.10.22
	いわて純情りんごコンテスト レベルの高さ評価 北上	岩手日日	H22.11.27
	南部園芸研究室		
	冷涼な気候を生かした夏秋どりイチゴ栽培	農業共済新聞	H22.8.1
	秋夏イチゴ定植前進し収穫増 出荷期延び、販売額も	日本農業新聞	H22.8.3
環境部			
生産環境研究室			
	簡易装置使いこなそう 研修会で操作習得	日本農業新聞	H22.9.8
	土壌分析機を安く手軽に 田畑に必要な肥料量測定 岩手県と3社開発 販売好調、全国PRへ	河北新報	H22.10.30
病理昆虫研究室			
	澱粉でハダニ除去 県農業研究センター開発	毎日新聞	H22.5.27
	リンゴハダニに新対策 でんぶん水と剤散布 希釈し落花期に2回	日本農業新聞	H22.6.9
	スイートコーンの害虫防除 生物農薬使用適 来月初めまで 県農研センター散布呼び掛け	岩手日日	H22.6.21
	生物農薬が効果 コーン食害のアワノメイガ防除 第一世代ふ化ピークに散布	日本農業新聞	H22.6.23
	りんごすす斑病半減 新防除体系を考案	日本農業新聞	H22.6.29
病害虫防除部			
病害虫防除課			
	病害虫図鑑コーナー「ネギコガ」	日本農業新聞	H22.10.13
畜産研究所			
種山・外山畜産研究室			
	口蹄疫 種牛、冷凍精液の分散検討 消石灰無料配布が拡大	読売新聞	H22.5.25
	種牛の分散検討 県、口蹄疫問題で	朝日新聞	H22.5.26
	種牛の分散管理視野 口蹄疫で本県 現在は住田の施設集中 リスク軽減必要に	岩手日報	H22.6.8
	口蹄疫 種牛の分散管理も 県が被害対策で方針	岩手日報	H22.6.10
	種牛と精液分散 口蹄疫で岩手県	河北新報	H22.6.10
	種雄牛、三つに区分 口蹄疫 県が管理対応方針	岩手日日	H22.6.10
	優秀種雄牛 DNAで選定	岩手日日	H23.1.22
	精度高まる種雄牛選定 子牛をDNA検査	盛岡タイムス	H23.1.24
	種雄牛 遺伝子データ重視	日本農業新聞	H23.3.8
家畜育種研究室			
	優秀種雄牛 DNAで選定 県農研センター 従来法と合わせ調査 県産牛の質向上に期待	岩手日日	H23.1.22
	精度高まる種雄牛選定 県農業研究センターが新手法 子牛をDNA検査	盛岡タイムス	H23.1.24
県北農業研究所			
総務課			
	交通ルール順守します 軽米の県北農業研究所など3機関 二戸署に誓約書提出	デーリー東北	H22.9.28
園芸研究室			
	ほうれんそう業務用品種を選定 品薄の初夏、秋狙う 作業効率高く低コスト	日本農業新聞	H22.7.24

部所名	記事見出し(内容)	掲載紙名	掲載年月日
作物研究室	雑穀・古代米・玄米商品特集「もちヒエ配合十二穀 岩手産100%でラインアップ」	商系アドバイス	H22.4.12
	「ねばりっこ」に決定 ヒエの県オリジナル品種 軽米小6年仲條さん命名 粘りあり、味落ちにくい	岩手日報	H22.5.8
	ヒエ新品種「ねばりっこ」と命名 岩手県試食会で高評価	日本農業新聞	H22.5.8
	県オリジナルヒエ品種 名称は「ねばりっこ」 雑穀ブランド推進へ 花巻中心に本格栽培	岩手日日	H22.5.8
	県がヒエの新品種「ねばりっこ」 食感残し収穫も容易	盛岡タイムス	H22.5.8
	岩手県開発のヒエは「ねばりっこ」に決定	デーリー東北	H22.5.8
	キビ・アワ栽培CD 県農業研究センターが作成・配布 機械化の工夫を紹介	毎日新聞	H22.5.14
	アワ・キビ機械化へ 岩手県農業研究センター県北農業研究所 動画で栽培手引き	日本農業新聞	H22.5.19
	新食感ヒエ「ねばりっこ」開発、菓子に加工も	読売新聞	H22.5.20
	収量確保へ本格栽培 田植え機使い苗移植 ヒエ新品種のねばりっこ2号 優れた加工特性に期待	岩手日日	H22.6.20
	県産雑穀を全国に 県などがセミナー	日本農業新聞	H22.9.15

7 テレビ・ラジオ放送

(1) テレビ

部所名	出演者氏名	内 容	放送局名	放送年月日
県北農業研究所		IBCニュースエコー ヒエの新品種「ねばりっこ」試食会	岩手放送	H22.5.7
県北農業研究所		めんこいニュース 県オリジナルのヒエがお披露目	岩手めんこいテレビ	H22.5.7
畜産研究所		食材図鑑(南部かしわのルーツである岩手地鶏紹介)	NHK仙台放送局	H22.6.16
企画管理部		「一日子供研究員～夏休み蚕の飼育体験～」の開催	岩手朝日テレビ	H22.8.3
県北農業研究所	仲條真介	カラダのキモチ キビしい夏でもアワてずチョイス！ヒエッと驚く雑穀パワー	TBS	H23.8.8
県北農業研究所	仲條真介	週刊！健康カレンダーカラダのキモチ(雑穀を紹介)	岩手放送	H22.8.8
技術部	大野 浩	品種 ぶどう 耐寒性が強く食味良好な赤色品種「岩手3号」	岩手朝日テレビ	H22.9.6
企画管理部		おはよう日本・ウイークエンド東北 農業科学博物館企画展(昔と今日の稲づくり ～技術の移り変わり～)	NHK盛岡放送局	H22.10.16
畜産研究所	長内幸一	冬の放牧で子牛への影響を研究	NHK盛岡放送局	H23.1.25
技術部	山口貴之	NHK ニュースいわて845 北上市民への研究の紹介について(主に野菜)	NHK盛岡放送局	H23.3.9

(注) イベント開催のニュース等は対象外

(2) ラジオ

部所名	出演者氏名	内 容	放送局名	放送年月日
		該当なし		

(注) イベント開催のニュース等は対象外

8 指導資料等掲載

部所・研究室名	執筆者 氏名	タイトル	掲載資料名	発行年月
プロジェクト推進室 生産環境研究室 家畜飼養・飼料 研究室	渡邊麻由子 高橋彩子 尾張利行	水田単作地帯において堆肥を有効に活用した発酵粗飼料用多収生産と良質サイレージ生産技術の確立	研究成果シリーズ「粗飼料多給による家畜飼養技術の開発」第2編 寒冷地における飼料稲を基軸とした時給飼料多給型肉用牛生産技術の開発 第3章 高品質飼料イネ生産・給与技術の実証と経営評価・拡大支援方	23.3
プロジェクト推進室 生産環境研究室 家畜飼養・飼料 研究室	渡邊麻由子 高橋彩子 尾張利行	寒冷地における稲WCSの生産利用技術	CD版	22.11
プロジェクト推進室 生産環境研究室 家畜飼養・飼料 研究室	渡邊麻由子 高橋彩子 尾張利行	寒冷地における飼料イネ栽培マニュアル		23.3
技術部				
作物	高橋智宏	雑草防除(水稲)	岩手県農作物病害虫・雑草防除指針	23.3
	小綿 寿志 伊藤 信二	雑草防除(畑作物)	岩手県農作物病害虫・雑草防除指針	23.3
園芸	畠山 隆幸	果樹雑草防除及び果樹用成長調整剤使用指	岩手県農作物病害虫・雑草防除指	23.3
	山口 貴之	野菜雑草防除及び野菜用成長調整剤使用指	岩手県農作物病害虫・雑草防除指	23.3
	藤原 一道	花き雑草防除及び花き用成長調整剤使用指	岩手県農作物病害虫・雑草防除指	23.3
	藤原 一道	品目別栽培技術指針 切り花 りんどう	花き栽培技術指針	23.3
	中里 崇	品目別栽培技術指針 鉢もの りんどう	花き栽培技術指針	23.3
	小田島 雅	品目別栽培技術指針 花壇苗(パンジー他)	花き栽培技術指針	23.3
環境部				
生産環境	阿部 弘	花き栽培における施肥管理	花き栽培技術指針	23.3
病理昆虫	多田 典穂 富永 朋之 羽田 厚 横田 啓 洞口 博昭 岩館 康哉	防除指導資料(病害虫・鳥獣害防除・資材消毒、展着材の利用)	平成23年度農作物病害虫・雑草防除指針	23.3
	横田 啓 洞口 博昭	主要病害の防除、主要害虫の防除、生物農薬	平成23年度稲作指導指針	23.3
	横田 啓 岩館 康哉	麦類病害の防除、豆類病害虫の防除	平成23年度畑作指導指針	23.3
	多田 典穂 岩館 康哉	近年問題となっている病害虫、分析・診断マニュアル(トマト萎ちよう性病害)	平成23年度野菜栽培技術指針	23.3
	横田 啓 洞口 博昭 岩館 康哉	水稲、小麦、大豆の採種ほ基本防除体系	平成23年度主要農作物採種ほ病害虫基本防除体系	23.3

部所・研究室名	執筆者 氏名	タイトル	掲載資料名	発行年月
病虫害防除部 病虫害防除課	吉田 雅紀	農薬安全使用指針	岩手県農作物病虫害・雑草防除指	23.3
県北農業研究所 園芸 作物	川戸 善徳 荻内謙吾 吉田宏 仲條真介 阿部亜希子	小ぎく Ⅱ栽培の要点 3雑穀 (1)ソバ～(8)病虫害対策	花き栽培技術指針 畑作物指導指針	23.3 22.3

9 図書資料収集・提供

項目	冊数・人数
総蔵書数	68,555 冊
平成22年度収集図書数	811 冊
内、研究報告類	596 冊
内、定期刊行類	215 冊
図書室利用者数(延べ)	202 名
同貸し出し冊数	223 冊

※数値はいずれもセンター本部のみ

10 ホームページ

項目		件数	内訳
入力件数	研究レポート	120	平成22年度発行分
	試験研究成果	315	平成22年度試験研究成果書、指導上の参考事項(昭和50～53)
	研究報告類	24	旧蚕業試験場研究要報
	らぼ・れたあ	78	No. 1～75(研究トピックス)
	行事予定	9	参観デー、現地ふれあい農研センター、他
	各種資料	55	外部評価結果、平成21年度年報
	農業科学博物館	22	企画展第44回～第47回、棚田日記、他
その他	30	一日子供農業研究員、英語版サイト、 月別アクセス状況、組織紹介、他	
アクセス件数	トップページ	60,554	平成22年度分
	総ページビュー	3,924,884	平成22年度分

指導・啓発活動

1 技術伝達研修等への対応

担当部所	開催期日	開催場所	内 容	参集人員
【新技術・普及活動検討会】(中央農業改良普及センター主催)				
プロジェクト推進室 技術部 作物 環境部 生産環境・病理昆 病虫害防除部 病虫害防除課	23.1.21	農業研究センター 大会議室	平成22年度 新技術・普及活動検討会(水田利用)	42名
企画管理部 農業経営 技術部 園芸・南部園芸 環境部 生産環境・病理昆 病虫害防除部 病虫害防除課	23.1.21	農業研究センター 中会議室	平成22年度 新技術・普及活動検討会(野菜)	36名
企画管理部 農業経営 技術部 園芸 環境部 生産環境・病理昆 病虫害防除部 病虫害防除課	23.1.21	農業研究センター 小会議室	平成22年度 新技術・普及活動検討会(花き部門)	26名
技術部 園芸・南部園芸 環境部 病理昆虫 病虫害防除部 病虫害防除課	23.1.17	農業研究センター 大会議室	平成22年度 新技術・普及活動検討会(果樹)	31名
企画管理部 農業経営	23.02.04	農業研究センター 中会議室、PCルーム	平成22年度 新技術・普及活動検討会(経営)	15名
畜産研究所 家畜育種 家畜飼養・飼料 外山畜産 種山畜産	23.01.21	畜産研究所	平成22年度 新技術・普及活動検討会(畜産)	40名
【普及指導員専門技術研修】(中央農業改良普及センター主催)				
技術部 園芸	22.05.10 ～14	農業研究センター内	普及指導員専門技術基本研修Ⅰ(果樹)	1名
技術部 園芸	22.05.17 ～19	農業研究センター内	普及指導員専門技術基本研修Ⅰ(野菜)	1名
技術部 園芸	22.06.09 ～11	農業研究センター内	普及指導員専門技術基本研修Ⅰ(花き)	3名
技術部 園芸 環境部 病理昆虫	22.06.14 ～18	農業研究センター内	普及指導員専門技術基本研修Ⅱ(果樹)	1名

担当部所	開催期日	開催場所	内 容	参集人員
技術部 園芸	22.06.24	農業研究センター内	普及指導員専門技術研修Ⅰ(果樹)	6名
技術部 園芸 環境部 病理昆虫	22.06.28 ～30	農業研究センター内	普及指導員専門技術基本研修Ⅱ(野菜)	1名
技術部 園芸	22.07.13	農業研究センター内	普及指導員専門技術研修Ⅱ(果樹)	7名
技術部 園芸	22.08.30 ～09.01	農業研究センター内	普及指導員専門技術基本研修Ⅱ(花き)	3名
技術部 園芸	22.10.04 ～08	農業研究センター内	普及指導員専門技術基本研修Ⅳ(果樹)	1名
環境部 病理昆虫	22.11.12	農業研究センター内	普及指導員専門技術研修Ⅳ(作物)	6名
環境部 病理昆虫	22.11.25	農業研究センター内	普及指導員専門技術研修Ⅲ(花き)	12名
プロジェクト推進室	22.04.30	農業研究センター	直播栽培米研究会講習会	100名
	22.06.21	農業研究センター 遠野市、花巻市、北 上市	直播栽培現地巡回 直播技術の安定化をはかるための現場課題とその対応	45名
県北農業研究所	23.02.03	農業研究センター 大会議室	平成22年度 水田営農を元気にする新技術等普及戦略検討会	250名
	22.7.6	県北農業研究所	公開技術セミナー ・施設栽培ほうれんそうにおける土壌水分の実態 ・業務用ほうれんそうの栽培方法 ・圃場見学	30名
	22.9.10	県北農業研究所	県北農業研究所参観デー「野菜セミナー」 ・雨除けほうれんそうの土壌水分の実態	64名

※農業研究センターが主催した研修等および新技術普及活動検討会

2 現地指導・研修会等への講師派遣

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
プロジェクト推進室				
(水田農業)				
扇良明 伊藤勝浩 菅野輝彦	東北農業新技術実用化促進プロジェクト(1.5年プロ)プロジェクトチーム会議	22.4.13	青森県西北地域 農業普及振興室 分室(つがる普及	青森県つがる市
伊藤勝浩 日影勝幸	直播栽培米研究会講習会	22.4.30	いわて直播栽培 米研究会	農研センター
伊藤勝浩 菅野輝彦	東北農業新技術実用化促進プロジェクト(1.5年プロ)播種実 演会	22.5.11	青森県西北地域 農業普及振興室 分室(つがる普及	青森県つがる市
高橋昭喜	全国大豆現地フォーラム	22.6.2	(社)全国農業改良 普及支援協会	農研センター
伊藤勝浩	集落営農組織等ステップアップ講座第1回水稻直播	22.6.2	中央農業改良普 及センター(地域)	農研センター
高橋昭喜	小麦現地検討会	22.6.17	農産園芸課	花巻市、矢巾町
扇良明 伊藤勝浩 日影勝幸	水稻直播栽培現地検討会	22.6.21	農産園芸課	遠野市、花巻 市、北上市
伊藤勝浩	集落営農組織等ステップアップ講座第2回水稻直播	22.7.16	中央農業改良普 及センター(地域)	農研センター
渡邊麻由子	大豆300A技術現地検討会	22.8.5	(株)クボタ	農研センター
伊藤勝浩	平成22年度東北地域マッチングフォーラム 「ここまで低コスト化、省力化が進んだ東北の水稻直播栽培	22.8.10	農林水産省技術 会議事務局	青森市 県民福 祉プラザ
高橋昭喜	集落営農組織等ステップアップ講座第1回小麦	22.8.26	中央農業改良普 及センター(地域)	農研センター
高橋昭喜	麦大豆収益性向上チーム会議	22.8.30	農産園芸課	農研センター
伊藤勝浩 菅野輝彦	東北農業新技術実用化促進プロジェクト(1.5年プロ)中間現 地検討会	22.9.7	青森県西北地域 農業普及振興室 分室(つがる普及	青森県つがる市
伊藤勝浩	集落営農組織等ステップアップ講座第3回水稻直播	22.9.13	中央農業改良普 及センター(地域)	農研センター
扇良明	いわてアグリフロンティアスクール「水田高度利用技術」	22.9.30	岩手大学	岩手大学滝沢 農場
高橋昭喜	大豆300A収穫実演会	22.10.26	(株)クボタ	奥州市
伊藤勝浩	JST新技術説明会	22.10.29	(独)科学技術振興 機構	東京都 JST ホール
高橋昭喜	集落営農組織等ステップアップ講座第2回小麦	22.11.29	中央農業改良普 及センター(地域)	農研センター、 花巻市
伊藤勝浩 日影勝幸	JAいわて中央直播研究会実績検討会	22.12.16	JAいわて中央	紫波町
伊藤勝浩 菅野輝彦	東北農業新技術実用化促進プロジェクト(1.5年プロ)成績検 討会	22.12.21	(独)農研機構東 北農業研究セン	青森県つがる市
渡邊麻由子	土谷グリーンファーム検討会	22.12.21	土谷グリーン ファーム	奥州市江刺区
伊藤勝浩 高橋昭喜 日影勝幸	平成22年度新技術・普及活動検討会(作物部門)	23.1.21	中央農業改良普 及センター	農研センター
伊藤勝浩 日影勝幸 渡邊麻由子	平成22年度水田営農を元気にする新技術等普及戦略検討 会	23.2.3	中央農業改良普 及センター	農研センター

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
扇良明 高橋昭喜	釜石地域農業技術サポート会議	23.2.8	沿岸広域振興局	大槌町
(特裁・有機) 臼井智彦	平成22年度普及指導員等研修「稲作等の有機栽培技術」	22.8.26	(独)農研機構東北農業研究センター	東北農研センター福島研究拠点(福島市)
多田勝郎	いわてアグリフロンティアスクール	22.10.20	岩手大学	岩手大学
臼井智彦	水稻の有機栽培における機械除草研究会	22.11.5	(独)農研機構中央農業総合研究センター	(独)農研機構中央農業総合研究センター(茨城県つくば市)
臼井智彦	有機栽培技術試験研究成果発表会兼宮農大講座「有機農業(米)」	23.2.4	一関地方有機農業推進協議会	一関市大東農業技術センター
企画管理部				
農業経営研究室				
小川勝弘	図表で学ぶ統計ゼミ 「線形計画法と農業における多変量解析の活用例」 農業法人の経営発展を考えるフォーラム	22. 07.15	(地独)岩手県工業技術センター	(地独)岩手県工業技術センター
	第1回 農業法人の連携について	22.08.03	県南広域マーケットイン産地育成支援協議会	プラザイン水沢
	第2回 LLPと農商工連携について	22.12.09	県南広域マーケットイン産地育成支援協議会	一関市川崎公民館
	第3回 農業法人連携の方向性について	23.02.08	県南広域マーケットイン産地育成支援協議会	金ヶ崎町中央生涯教育センター
	農業・農村づくり研修会 「水田農業の担い手育成に資する情報について」	23.02.18	農村計画課	県庁12階特別会議室
前山薫	日本農業経営学会シンポジウムコメンテーター 「農業における企業経営の可能性と課題」	22.09.16	日本農業経営学会	秋田県立大学
	いわてアグリフロンティアスクール 「集落型経営体の管理」	22.11.10	岩手大学	岩手大学
松浦貞彦	担い手経営力アップセミナー 「生産技術体系を活用した農業経営の改善」	22.09.14	岩手県農協中央会	農研センター
	JA岩手県営農指導員研究発表集会研修会 「県外のGAP導入先進事例および生産工程管理のための情報システム」	23.02.10	岩手県農協中央会	金ヶ崎町「みどりの郷」
技術部				
作物研究室				
佐々木 力	岩手大学研修(水稻育種について)	22.04.26	岩手大学	農業大学校
	平成22年度新技術普及活動検討会(農産部門)	23.01.21	中央農業改良普及センター	農研センター
菅原 浩視	農業大学校 講師(作物増殖)	22.07.08	農業大学校	農業大学校
	水稻生育状況作柄予想等情報交換	22.08.20	広島県種子部会	農研センター

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
	親子お米食育学校	22.09.26	いわて純情米協 議会	アイーナ
	「ぎんおとめ」の栽培および乾燥施設について	22.10.29	久慈地方酒米研 究会	農研センター
	平成22年度水田営農を元気にする新技術等普及戦略検討 会	23.02.03	中央農業改良普 及センター	農研センター
小綿 寿志	平成22年度種子審査員研修会講師	22.07.30	農産園芸課	農研センター
高橋智宏	平成22年度種子審査員研修会講師	22.07.30	農産園芸課	農研センター
	JA岩手ふるさと水稲採種部会研修会	22.08.30	JA岩手ふるさと	農研センター
	平成22年度水稲採種圃オペレーター研修会	22.09.02	(社)岩手県農産 物改良種苗セン	農研センター
	平成22年度農薬管理使用アドバイザー養成研修	23.01.13	農業普及技術課	マリオス
伊藤 信二	平成22年度水稲採種圃オペレーター研修会	22.09.02	(社)岩手県農産 物改良種苗セン	農研センター
園芸研究室				
渡辺 芳幸	いわてフラワーコンテスト2010	22.9.2	全農岩手県本部	農研センター
	純情りんごコンテスト審査(1期)	22.10.21	全農岩手県本部	農研センター
	純情りんごコンテスト審査(2期)	22.11.25~26	全農岩手県本部	農研センター
高橋 司	普及員専門技術基本研修(果樹)	22.6.24	中央農業改良普 及センター	農研センター
	第1回りんご病虫害防除研修会	22.6.3	全農岩手県本部	農研センター
	「岩手冬恋研究会」栽培講習会	22.6.4	全農岩手県本部	黒川
	果樹共済損害評価講習会	22.8.20	農業共済組合連 合会	農研センター
	りんご新品種現地検討会	22.9.17	園芸育種研究会	奥州市江刺区
	純情りんごコンテスト審査(1期)	22.10.21	全農岩手県本部	農研センター
	JA江刺りんご品評会審査	22.10.29	JA江刺	岩手江刺農業 協同組合
	純情りんごコンテスト審査(2期)	22.11.25~26	全農岩手県本部	農研センター
	第3回りんご病虫害防除研修会	22.12.16	全農岩手県本部	農研センター
	新技術普及活動検討会(果樹部門)	23.1.17	中央農業改良普 及センター	農研センター
	りんご新品種耐病性指導および試食調査	23.1.25	JAいわて南	一関市
	普及員専門技術向上研修	23.2.22	中央農業改良普 及センター	農研センター
	いわて純情りんごセミナー	23.2.24	全農岩手県本部	農研センター
	西洋なし研修会	23.3.2	全農岩手県本部	花巻市東和町
及川 耳呂	第1回りんご病虫害防除研修会	22.6.3	全農岩手県本部	農研センター
	ぶどう栽培流通研修会	22.6.23	全農岩手県本部	花巻市東和町
	普及員専門技術向上研修	22.7.13	中央農業改良普 及センター	農研センター
	共同研究ワイン試飲検討会	22.7.23	(地独)岩手県工業 技術センター	花巻市大迫町
	純情りんごコンテスト審査(1期)	22.10.21	全農岩手県本部	農研センター
	純情りんごコンテスト審査(2期)	22.11.25~26	全農岩手県本部	農研センター

担 当 部 所 研究室 担当者	内 容	年 月 日	依 頼 者	場 所
大野 浩	第3回りりんご病虫害防除研修会	22.12.16	全農岩手県本部	農研センター
	新技術普及活動検討会(果樹部門)	23.1.17	中央農業改良普及センター	農研センター
	いわて純情りんごセミナー	23.2.24	全農岩手県本部	農研センター
	普及員専門技術基本研修(果樹)	22.5.12 22.6.14 22.6.17	中央農業改良普及センター	農研センター
	第1回りりんご病虫害防除研修会	22.6.3	全農岩手県本部	農研センター
	ぶどう栽培流通研修会	22.06.23	全農岩手県本部	花巻市東和町
	花北果樹青年研修対応	22.7.9	JAいわて花巻	農研センター
	普及員専門技術向上研修	22.7.13	中央農業改良普及センター	農研センター
	共同研究ワイン試飲検討会	22.7.23	(地独)岩手県工業技術センター	花巻市大迫町
	ブドウ醸造試験打合せ	22.9.17	(地独)工業技術センター	盛岡市
	ぶどう大粒種検討会	22.09.22	全農岩手県本部	花巻市大迫町
	純情りんごコンテスト審査(1期)	22.10.21	全農岩手県本部	農研センター
	リエゾン1マッチングフェア	22.11.10	いわて産学連携推進協議会	盛岡市
	第3回りりんご病虫害防除研修会	22.12.16	全農岩手県本部	農研センター
	純情りんごコンテスト審査(2期)	22.11.25~26	全農岩手県本部	農研センター
	新技術普及活動検討会(果樹部門)	23.1.17	中央農業改良普及センター	農研センター
	畠山 隆幸	国産リンゴを使った新商品開発セミナー・交流会	23.2.11	中央果実生産出荷安定基金協会
平成22年度岩手県果実酒研究会		23.2.22		盛岡市
いわて純情りんごセミナー		23.2.24	全農岩手県本部	農研センター
大粒系無核ぶどうステップアップ研修会		23.3.11	全農岩手県本部	花巻市大迫町
普及員専門技術基本研修(果樹)		22.5.10 22.5.11 22.6.16	中央農業改良普及センター	農研センター
第1回りりんご病虫害防除研修会		22.6.3	全農岩手県本部	農研センター
花北果樹青年研修対応		22.7.9	JAいわて花巻	農研センター
農業大学校 講師(作物増殖・果樹)		22.7.15	農業大学校	農業大学校
第2回りりんご病虫害防除研修会		22.7.30	全農岩手県本部	花巻市石鳥谷
純情りんごコンテスト審査(1期)		22.10.21	全農岩手県本部	農研センター
第3回りりんご病虫害防除研修会		22.12.16	全農岩手県本部	農研センター
純情りんごコンテスト審査(2期)		22.11.25~26	全農岩手県本部	農研センター
新技術普及活動検討会(果樹部門)		23.1.17	中央農業改良普及センター	農研センター
りんご新品種耐病性指導および試食調査		23.1.25	JAいわて南	一関市
いわて純情りんごセミナー		23.2.24	全農岩手県本部	農研センター

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
漆原 昌二	野菜普及員専門技術基本研修	22.5.17 22.6.28	中央農業改良普及センター	農研センター
	園芸産地改革技術対策部会現地検討会(なす部会)	22.7.2	農産園芸課	紫波町
	技術対策部会研修会きゅうり部会	22.7.14	農産園芸課	農研センター
	ピーマン類の安定生産対策技術検討会	22.7.16	農産園芸課	遠野市
	きゅうり・ピーマン第2回現地検討会	22.9.9	農産園芸課	奥州市江刺区
高橋 拓也	新技術普及指導検討会	23.1.21	中央農業改良普及センター	農研センター
	野菜普及員専門技術基本研修	22.5.17 22.6.28	中央農業改良普及センター	農研センター
	パプリカ栽培研修会および目揃会	22.7.8	全農岩手県本部	農研センター
	ピーマン類の安定生産対策技術検討会	22.7.16	中央農業改良普及センター	花巻市
	夏秋どりトマト栽培技術検討会	22.7.27	中央農業改良普及センター	農研センター
	野菜(果菜)関係実証調査成果検討会	22.12.20	中央農業改良普及センター	農研センター
	新技術普及指導検討会	23.1.21	中央農業改良普及センター	農研センター
	パプリカ研修会	23.3.9	全農岩手県本部	花巻市
山口 貴之	野菜普及員専門技術基本研修	22.5.17 22.6.28	中央農業改良普及センター	農研センター
	技術対策部会研修会きゅうり部会	22.7.14	農産園芸課	農研センター
	野菜(果菜)関係実証調査成果検討会	22.12.20	中央農業改良普及センター	農研センター
	花北アスパラ研修会	23.1.19	JAいわて花巻	農研センター
	新技術普及指導検討会	23.1.21	中央農業改良普及センター	農研センター
藤原 一道	りんどう採種技術指導	22.4.21 22.5.21	種苗センター	種苗センター
南部園芸研究室				
藤尾 拓也	四季成りいちご経営体技術支援チーム会議	22.4~11 (年4回)	中央農業改良普及センター	北上市 北一農
小田島 雅	花づくり講習会	22.06.24	陸前高田市	陸前高田市総合営農指導センター
藤尾 拓也	新規就農希望者促成イチゴ基礎研修	22.06月~	奥州農業改良普及センター	南部園芸研究室
佐々木裕二	きゅうりほ場コンクール審査	22.08.27	JAおおふなと	陸前高田市住田町
佐々木裕二 藤尾 拓也 小田島雅	普及員専門技術向上研修(野菜第Ⅲ期)	22.08.30	中央農業改良普及センター	陸前高田市総合営農指導センター
佐々木裕二 藤尾 拓也 小田島雅	岩手いちごセミナー	22.08.30	中央農業改良普及センター	陸前高田市総合営農指導センター
小田島 雅	花いっぱいコンクール(審査)	22.09.01	陸前高田市	陸前高田市内
佐々木裕二 藤尾 拓也 小田島 雅	普及員専門技術基本研修	22.09.13 ~15	中央農業改良普及センター	南部園芸研究室
佐々木裕二 小田島 雅	陸前高田市産業まつり 農産物展示品評会審査	22.11.5	陸前高田市	陸前高田市

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
環境部				
生産環境研究室				
小菅裕明	平成22年度花き研究所成果発表会 リンドウ切り花の遠距離輸送技術の開発	22.11.10	(独)農研機構	つくば市
	水田土壌由来温室効果ガス計測・抑制技術実証普及事業 北海道・東北ブロック説明会	22.12.21	土壌保全調査事 業全国協議会	盛岡市 マリオ ス
鈴木良則	平成22年度家畜ふん処理利用研究会 窒素添加による粒状化高窒素鶏ふん堆肥の製造	22.11.11	(独)農研機構	つくば市
大友 英嗣	簡易土壌分析システム操作法及び施肥設計支援シート活用 研修会	22.9.6	紫波みらい研究 会	紫波町赤石
		22.9.15	雫石町農業指導 センター	農研センター
		22.11.9	盛岡農業改良普 及センター	農研センター
		22.11.10	盛岡農業改良普 及センター	畜産研究所
		22.12.10	八幡平農業改良 普及センター	八幡平農業改 良普及センター
		22.12.14	農研センター	畜産研究所
		22.12.22	農業普及技術課	農研センター
		22.12.20	赤沢水稲営農組合	紫波町赤沢
		23.1.13	まるも農協	盛岡市永井
		23.1.27	北寺林施肥改善 研究会	花巻市石鳥谷
		23.3.25	葛巻肥料低減研 究会	農研センター
病理昆虫研究室				
多田典穂	野菜専門技術基本研修Ⅱ期	22.6.30	中央農業改良普 及センター(県域)	農研センター
	農業大学校講義	22.8.31	農業大学校	農研センター
富永朋之	果樹専門技術基本研修Ⅱ期	22.6.18	中央農業改良普 及センター(県域)	農研センター
	平成22年度雄勝地方病害虫防除新協議会研修	22.7.16	雄勝地方病害虫 防除員協議会	農研センター
	農業大学校講義	22.8.31	農業大学校	農研センター
	平成22年度岩手県職員採用内定者職場実習	22.11.9	人事課	農研センター
	作物専門技術向上研修Ⅳ期	22.11.12	中央農業改良普 及センター(県域)	農研センター
	一関地方りんご病害虫防除歴編集会議	22.12.20	一関農業改良普 及センター	
羽田 厚	果樹専門技術基本研修Ⅱ期	22.6.18	中央農業改良普 及センター(県域)	農研センター
	平成22年度ブドウ栽培流通研修会	22.6.23	全農岩手県本部	JAいわて花巻東 和支店
	花き専門技術向上研修Ⅲ期	22.11.25	中央農業改良普 及センター(県域)	農研センター

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所		
横田 啓	盛岡地方りんご病害虫防除対策検討会	22.12.20	盛岡農業改良普及センター	盛岡中央市場会議室		
	平成22年度新技術・普及活動検討会(果樹部門)	23.1.17	中央農業改良普及センター(県域)	農研センター		
	平成23年度岩手県農薬卸商業協同組合研修会	23.1.28	岩手県農薬卸商業協同組合	盛岡八幡宮「参集殿」		
	平成22年度雄勝地方病害虫防除新協議会研修	22.7.16	雄勝地方病害虫防除員協議会	農研センター		
	作物専門技術向上研修Ⅳ期	22.11.12	中央農業改良普及センター(県域)	農研センター		
	農薬管理使用アドバイザー研修	22.1.13	農業普及技術課	アイーナ会議室		
	平成22年度新技術・普及活動検討会(水田利用部門)	22.1.21	中央農業改良普及センター(県域)	農研センター		
	洞口 博昭	農薬管理使用アドバイザー研修	22.1.13	農業普及技術課	アイーナ会議室	
		平成22年度新技術・普及活動検討会(水田利用部門)	22.1.21	中央農業改良普及センター(県域)	農研センター	
	岩館 康哉	野菜専門技術基本研修Ⅱ期	22.6.30	中央農業改良普及センター(県域)	農研センター	
		平成22年度岩手県園芸産地改革戦略推進会議技術対策部会園芸産地改革ネットワークほうれんそう夏秋ナスの安定生産対策技術検討会	22.7.2	農産園芸課	矢巾町煙山現地圃場	
		平成22年度岩手県園芸産地改革戦略推進会議技術対策部会園芸産地改革ネットワーク夏秋キュウリの安定生産対策	22.7.14	農産園芸課	農研センター	
		農薬管理使用アドバイザー研修	23.1.13	農業普及技術課	アイーナ会議室	
		平成22年度新技術・普及活動検討会(野菜部門)	23.1.21	中央農業改良普及センター(県域)	農研センター	
		平成22年度新技術・普及活動検討会(花き部門)	23.1.21	中央農業改良普及センター(県域)	農研センター	
畑作物共済(ホップ)事業推進会議並びにホップ栽培歴検討会		23.1.27-28	岩手県農業共済組合連合会 岩手県ホップ協会	ホテル愛真館		
第40回岩手県ホップ生産者研修会		23.2.4	岩手県ホップ連合会	岩手労働福祉会館		
病虫害防除部		築地 邦晃	日植防シンポジウム「残留農薬基準ポジティブリスト制度後の5年間」	23.1.17	(社)日本植物防疫協会	東京都
			病虫害防除課	阿部 信治	ゴルフ場における農薬適正使用研修会	22.4.8
	農薬適正使用研修会	22.6.1		中央農業改良普及センター	北上市	
	農薬安全使用講習会	22.6.22		JA新しいわて	雫石町	
	産直農薬適正使用研修会	22.9.9		宮古農業改良普及センター	宮古市	
	産直農薬適正使用研修会	22.9.27		奥州農業改良普及センター	奥州市	
	普及指導員植物防疫事業専門研修	22.10.27~28		中央農業改良普及センター(県域)	農研センター	
	大豆研修会	22.8.3		中央農業改良普及センター(地域)	北上市・花巻市	

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
大友 令史	普及指導員新採用研修	22.11.17	中央農業改良普及センター(県域)	農研センター
	産直等農業者・関係団体研修会	22.11.24	産直交流会(流通課)	花巻市
	農薬アドバイザー更新研修	22.12.9	農業普及技術課	奥州市
	JA農薬研修会	22.12.24	JA江刺	奥州市
	農薬アドバイザー養成研修	23.1.13	農業普及技術課	盛岡市
	農協職員研修会	23.1.17	JAおおふなど	大船渡市
	産直農薬適正使用研修会	23.3.7	宮古農業改良普及センター	宮古市
	りんご発生子察講習会	22.4.7	JAいわて中央 りんご部会	紫波町
	第1回りんご病害虫防除研修会	22.6.3	全農岩手県本部	農研センター
	「環境にやさしいりんごづくり推進事業」指導会	22.6.7	滝沢村	滝沢村
	第2回りんご病害虫防除研修会	22.7.30	全農岩手県本部	花巻市石鳥谷
	一関地方りんご病害虫防除暦編成会議	22.12.20	一関地方農林業振興協議会	一関市
	防除暦及び生産・販売体制説明会	22.12.27	JAいわて中央 りんご部会	紫波町
	農薬卸商組合研修会	23.1.28	農薬卸商組合	盛岡市
	花巻太田地区水稲防除検討会	23.2.28	太田地区水稲防除協議会	花巻市
加藤 清吾	岩手県ホップ生産者研修会	23.2.4	岩手県ホップ連合会	盛岡市
	花き専門技術向上研修Ⅲ	22.11.25	中央農業改良普及センター(県域)	農研センター
	二戸地方花き栽培技術研修会	23.2.2	二戸農業改良普及センター	県北研究所
	小菊栽培レベルアップ研修会	23.2.3	中央農業改良普及センター(地域)	北上市
	岩手ふるさと農協園芸部会衣川総支部花卉専門部研修会	23.2.24	奥州農業改良普及センター	盛岡市
藤澤 由美子	一関地域小ぎくリーダー研修会	23.3.8	一関農業改良普及センター	農研センター
	損害評価会委員研修会	22.9.7	NOSAI磐井	一関市
藤田 章宏	胆沢地方病害虫防除員協議会実績検討会	22.12.20	胆沢地方病害虫防除員協議会	奥州市
	りんご発生子察講習会	22.4.7	JAいわて中央 りんご部会	紫波町
	第1回りんご病害虫防除研修会	22.6.3	全農岩手県本部	農研センター
	「環境にやさしいりんごづくり推進事業」指導会	22.6.7	滝沢村	滝沢村
	「環境にやさしいりんごづくり推進事業」指導会	22.7.14	滝沢村	滝沢村
	「環境にやさしいりんごづくり推進事業」指導会	22.9.2	滝沢村	滝沢村

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所	
吉田 雅紀	防除暦及び生産・販売体制説明会	22.12.27	JAいわて中央 りんご部会	紫波町	
	盛岡地方りんご病虫害防除対策検討会	22.12.20	盛岡農業改良普及センター	紫波町	
	江刺りんご栽培暦作成検討会	23.1.24	JA江刺	奥州市江刺区	
	防除計画検討会	H23.2.2	JAいわて花巻果樹部会広域連絡協議会	花巻市	
	こくみトマト アザミウマ研修会	22.5.24	大船渡農業改良普及センター	陸前高田市	
	花き専門技術向上研修	22.11.25	中央農業改良普及センター(県域)	農研センター	
	二戸地方花き栽培技術研修会	22.2.2	二戸農業改良普及センター	県北農業研究所	
	小菊栽培レベルアップ研修会	23.2.3	中央農業改良普及センター(地域)	北上市	
	JA岩手ふるさと園芸部会衣川支部花卉専門部研修会	22.2.24	JA岩手ふるさと	盛岡市	
	一関地域小ぎくリーダー研修会	23.3.8	一関農業改良普及センター	農研センター	
	斎藤 真理子	病虫害防除員研修会	22.6.23	病虫害防除員協議会	農研センター
		病虫害防除員研修会	22.6.23	病虫害防除員協議会	農研センター
	村上 太郎	植物防疫関係者研修会	22.7.1	岩手県植物防疫協会	花巻温泉
		一関地域水稲病虫害防除研修会	22.9.7	NOSAI磐井	一関市
		水田営農を元気にする新技術等普及戦略検討会	23.2.3	中央農業改良普及センター	農研センター
		無人ヘリコプターオペレーター協議会研修会	23.2.4	無人ヘリオペレーター協議会	花巻市
JA新しいわて南部稲作部会		23.2.7	JA新しいわて	雫石町	
JA新しいわて		23.2.7	JA新しいわて	雫石町	
畜産研究所					
家畜育種研究室					
佐藤 直人	家畜人工授精講習会	22.10.22	畜産課	金ヶ崎町	
細川 泰子	受精卵移植講習会	22.5.19	岩手県北家畜人工授精師協会	二戸市	
	農業大学校講義	22.7.12	農業大学校	金ヶ崎町	
	中央家畜衛生協議会研修会	22.10.21	中央家畜保健衛生協議会	滝沢村	
	家畜人工授精講習会	22.10.29	畜産課	金ヶ崎町	
	家畜体内受精卵移植講習会	23.2.4、 10、16～18	畜産課	金ヶ崎町	
佐藤 洋一	肉牛経営者連絡協議会研修会	22.8.26	全農岩手県本部	花巻市	
	農業大学校研究科講義	22.9.2	農業大学校	金ヶ崎町	

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
鈴木強史	中央家畜衛生協議会研修会	22.10.21	中央家畜保健衛生協議会	滝沢村
	家畜人工授精講習会	22.11.16	畜産課	金ヶ崎町
	第3回畜産・家畜衛生部会講習会	22.11.18	岩手県獣医師会	滝沢村
	獣医畜産業績発表会特別発表	23.1.18	畜産課	盛岡市
	農業大学校講義	22.9.17	農業大学校	金ヶ崎町
	二戸地域短角肥育農場指導	22.11.12～13	日本産肉研究会	久慈市
	西部地域短角生産部会全体研修会	22.12.22	JA新しいわて	八幡平市
家畜飼養・飼料研究室				
齋藤 浩和	家畜人工授精講習会	22.10.25	畜産課	金ヶ崎町
外山畜産研究室				
藤澤 牧人	家畜人工授精講習会	22.10.28	畜産課	金ヶ崎町
	家畜体内受精卵移植講習会	23.2.4、 10、16～18	畜産課	金ヶ崎町
種山畜産研究室				
熊谷光洋	家畜商講習会	22.7.23	流通課	盛岡市
	現地ふれあい農研センター	22.7.9		西和賀農協
	人工授精師講習会	22.11.1～10	畜産課	金ヶ崎町他
	受精卵移植師講習会	22.2	畜産課	金ヶ崎町他
	田老和牛繁殖友の会研修会	22.12.19	宮古農林振興センター	田老町
	いわい東和牛改良組合大東支部和牛講演会	23.2.18	JAいわい東	一関市大東町
	県南和牛育種組合女性研修会	23.2.1	和牛登録協会岩手県支部	花巻市
今野一之	人工授精師講習会	22.11.1～10	畜産課	金ヶ崎町他
	胆江地区家畜人工授精師協会講習会	22.12.21	胆江地区家畜人工授精師協会	奥州市
	和牛繁殖生産性向上研修会	22.9.10	JAおおふなと	大船渡市
藤村和哉	人工授精師講習会	22.11.1～10	畜産課	金ヶ崎町他
	和牛改良研修会	22.12.21	くじ和牛改良組合	久慈市
	中央和牛育種組合女性研修会	22.2.2	和牛登録協会岩手県支部	花巻市
	北上肉牛部・和牛繁殖部会合同研修会	23.2.10	JAいわて花巻・北上	北上市
	遠野地方和牛改良組合主催講演会	23.3.4	遠野地方和牛改良組合	遠野市
	和牛改良講習会	23.3.10	JAいわて花巻	花巻市

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
県北農研				
作物研究室				
鈴木敏男 荻内謙吾	二戸地域雑穀推進大会講師 雑穀病害虫の発生生態と防除対策 畑雑穀の移植栽培について	H23.2.25	二戸地方農林水産振興協議会	二戸市
鈴木敏男 仲條真介	平成22年度東北農業試験研究推進会議病害虫研究会(夏期)講師 1.岩手県における雑穀生産の歴史・現状と新品種開発について、 2.雑穀の病害虫について?	H22.8.26		県北農業研究所
鈴木敏男 阿部亜希子	平成22年度植物防疫事業実績検討会 水稻・畑作分科会	H22.12.14,15	病害虫防除所	農研センター、二戸合庁
荻内謙吾	雑穀栽培圃場巡回研修会講師	H22.8.9	一戸町安全安心農産物生産流通研究会	一戸町
荻内謙吾 阿部亜希子	雑穀栽培セミナー(雑穀移植栽培技術・病害虫の発生生態と防除対策)講師	H23.3.2	一戸町安全安心農産物生産流通研究会	一戸町
仲條真介	雑穀栽培研修(事業協同組合「水・緑にいがた」、生産者、コメリ営農指導者、ヤマタネ)講師	H22.4.15	(株)ヤマタネ 営業開発部長	県北農業研究所
	岩手県オリジナルひえ品種名称発表会「岩手県オリジナルひえ3品種の特性」	H22.5.7	岩手県農林水産部	エスポワールいわて
	ヒエ新品種「ねばりっこ」栽培研修会(北万丁目営農組合)講師	H22.7.16	花巻市北万丁目営農組合	県北農業研究所
	雑穀栽培事情視察研修(忠北大学校・農試職員)講師	H22.8.3	韓国 忠北大学校 禹 仙熙 助教授	県北農業研究所
	雑穀栽培・収穫調製法研修(山形県・白鷹農産加工研究会)講師	H22.8.27	山形県白鷹農産加工組合	県北農業研究所
	ヒエ新品種「ねばりっこ」栽培研修会(西八重畑農業生産組合)講師	H22.8.28	花巻市西八重畑農業生産組合	県北農業研究所
	雑穀セミナー in いわて講師「宮澤賢治と雑穀」	H22.9.7	岩手県農林水産部	花巻温泉
	岩手県における雑穀栽培の歴史と栽培の基礎研修(JA庄内たがわ)会講師(資料提供)	H22.11.12	山形県JA庄内たがわ朝日支所	軽米町内
吉田 宏 仲條真介	ヒエ新品種「ねばりっこ」栽培技術研修会講師	H22.6.24	花巻市農業振興対策本部 雑穀振興対策室長	県北農業研究所
日山千代司 仲條真介	ヒエ選別法研修会(岩手大学 寒冷FS教育研究センター職員)講師	H22.7.8	岩手大学 寒冷FS教育研究C 星野教授	県北農業研究所
阿部亜希子	県北広域農業技術セミナー「今年発生の目立つ雑穀病害虫について」	H22.9.10		県北農業研究所
園芸(県北)				
高橋 晋 川戸 善徳	JA新いわて西部地域りんどう圃場巡回指導会	H22.7.2	JA新いわて西部営農経済センター JA新いわて西部地域花卉生産部	八幡平市
藤沢巧	西部地域ほうれんそう全体研修会(雨除けほうれんそうの土壌水分実態)	22.4.13	JA新いわて西部地域野菜生産部	JA新いわて西部営農センター
藤沢巧	平成22年度レタス研修会(ナモグリバエの生態と防除)	23.3.3	二戸地域農業振興協議会	JA新いわて奥中山営農センター
川戸 善徳	芽なし菊(一輪ギク)栽培研修会	H22.4.7	全農岩手県本部	農業大学校
	小ギク出荷目揃い会	H22.7.7	全農岩手県本部	北上市和賀町

担当部所 研究室 担当者	内 容	年月日	依 頼 者	場 所
鈴木 敏男 川戸 善徳 川戸 善徳	芽なし菊(一輪ギク)栽培研修会	H22.9.8	全農岩手県本部	農業大学校
	久慈地方フラワーコンテスト審査	H22.9.17	久慈地方農業農村活性化推進協議会	JA新いわて久慈営農経済センター
	平成22年度花き専門技術向上研修Ⅱ(小ぎく)	H22.10.12	中央農業改良普及センター	農研センター
	芽なし菊(一輪ギク)実証展示圃実績検討会	H22.10.25	JA全農いわて	農業大学校
	平成22年度花卉部会九戸支部キク生産販売実績検討会	H22.12.22	JA新いわて北部地域花き生産部会九戸支部	久慈市
	平成22年度 二戸地方花き栽培技術研修会	H23.2.2	二戸地方農林水産振興協議会	県北農業研究所
	小ぎく栽培指導会	H23.3.9	JA新いわて北部地域花卉生産部	県北農業研究所

3 視察者、見学者の受け入れ状況

区 分	公式来場者数	非公式来場者数	合計	備 考
本 部	1,907 人	5,037 人	6,944 人	・平成22年4月～平成23年3月 ・非公式来所者数は、参観 デー来場者
畜産研究所	126	3,879	4,005	
県北農業研究所	687	500	1,187	
計	2,720 人	9,416 人	12,136 人	

4 春季一般公開及び参観デー

名 称	開催期日	開催場 所	参集人員
春季一般公開	22.4.13～18	農業ふれあい公園「農業科学博物館」	37 名
参観デー(本部)	22.09.03～04	農業研究センター本部、農業ふれあい公園	5,000 名
〃 (畜産研究所)	22.08.27～29	岩手県産業文化センター「アピオ」他	3,879 名
〃 (県北農業研究所)	22.09.10～11	県北農業研究所	500 名

5 現地ふれあい農業研究センター

開催期日	開催場 所	主 な 内 容	参集人員
22.7.9	JAVいわて花巻・西和賀地域営農センター	自給飼料と新技術を活用した飼養管理の高度化を目指して	61名
22.12.14	畜産研究所大会議室	簡易土壌分析システムを活用した誰でもできる新たな土壌診断	112名

6 一日子供農業研究員

名 称	開催期日	内 容	参集人員
一日子供農業研究員 ～夏休み 蚕の研究～	22.08.03	小学5年生を対象とした蚕の研究 (蚕の観察、飼育体験) 講師: 繭と糸の会(7名) (補助: 花巻農業高等学校2年生2名)	36名

7 農業科学博物館、農業ふれあい公園、加工工房(加工体験)の利用者

項目	主な内容	開催期日	参集人数	
農業科学博物館	入館者数	入館者総数(企画展、イベント、その他を含む来館者数)	3,617名	
		農業研究センター春季一般公開	22.4.13~18 (37名)	
		農業研究センター参観デー	22.9.3~4 (564名)	
	企画展	収蔵品を「企画テーマ」に合わせて年4回展示紹介		—
		第44回「度量衡と交易～長さ、容積、重さをはかる」	22.04.01~06.30	
		第45回「森の恵み～木の実食ときのこ」	22.07.04~09.30	
第46回「むかしのイネづくり～技術のうつり変わり」		22.10.05~12.27		
	第47回「岩手のダイズ～昔の栽培技術と加工」	23.01.09~03.31		
イベント	「松飾りづくり体験」	22.12.26	17名(8組)	
その他	学校教育支援活動(社会科実習、校外学習等の受入)	-	782名(11校)	
農業ふれあい公園	利用状況	利用期間4月～11月 ゲートボール、グラウンドゴルフなど	6,761名 (237件)	
	棚田	田んぼアート「も～っと！棚田でお絵かき・V」 担当:技術部作物研究室 絵・・・純鬼(じゅんき)くん、赤富士 字・・・「15」*、「いわて」 *(財)穀物検定協会による食味ランキングで岩手県南ひとめぼれが最高位「特A」を獲得した回数	22.5.28~9.30 —	
加工工房	加工体験	加工実習、講習	- 51名(4件)	

8 研修生の受け入れ

(1) 海外研修 該当なし

(2) 北東北3県連携にかかる人事交流(研修)

氏名	所属	研修目的	受け入れ部所 (研究室)	期間
工藤 忠之	(地独)青森県産業技術センター農林総合研究所	大豆の湿害回避播種技術について	プロジェクト推進室 (水田農業)	22.06.02~06.04
渡邊 智雄	(地独)青森県産業技術センター農林総合研究所	小麦の湿害回避播種技術について	プロジェクト推進室 (水田農業)	22.09.29~10.01

(3) 短期研修生

氏名	所属	研修目的	受け入れ部所 (研究室)	期間
千田 拓也	(新規就農予定者)	りんごの一般的な栽培管理と先進的な栽培方法の研修	(技術部)園芸研究室	22.04.01 ~23.03.31

(4) 体験学習の受け入れ

ア 小中学校等の「総合的な学習の時間」等に対応したもの

所属	研修内容	人数(人)	受け入れ研究室等	期日
北上市立いわさき小学校3年生	校外学習(米づくりの様子について学ぶ)	37	研究企画室	22.09.30
北上市立江釣子中学校1年生	職場訪問	25	研究企画室	22.10.01

イ 高等学校、大学の「職場体験研修」「視察」等に対応したもの

所属	研修内容	人数(人)	受け入れ研究室等	期日
岩手大学農学部農学生命課程生命資源科学コース3年生	植物育種学実験	35	技術部 (作物、園芸研究室)	22.4.26
岩手県立盛岡農業高等学校 特別専攻科社会人講習	特別講義(園芸育種)	15	技術部 (作物、園芸研究室)	22.5.13
岩手県立花巻農業高等学校 生物科学科2年生	現場体験実習	3	—	22.08.03~04
	体験学習イベント 「一日子供農業研究員」		研究企画室	(22.08.03)
	農研センター施設・圃場見学		研究企画室	(22.08.04)
	バイテク関連施設見学 土壌分析実習		研究企画室 生産環境研究室	
青森県農業大学校 1年生	野菜研究の取り組み	29	(技術部)園芸研究室	22.09.15
岩手県立千厩高等学校 1年生	視察研修	41	研究企画室	22.09.24
岩手県立花巻農業高等学校 生物科学科1年生	現場見学	41	研究企画室	22.09.28
岩手県立盛岡北高等学校 1年生	現場見学	44	(技術部)作物研究室 研究企画室	22.11.18
岩手県立花巻農業高校高校	リンドウの育種について	25	(技術部)園芸研究室	23.02.18
岩手大学農学部農学生命課程生命資源科学コース3年生	農業経営関係研究成果	6	農業経営研究室	23.2.25

ウ インターシップ等に対応したもの

氏名	所属	研修内容	受入研究室等	期日
西舘孝治	平成23年度 岩手県職員 採用内定者	<ul style="list-style-type: none"> ○プロジェクト推進研究に関する実習 ・研究概要及び研究成果等について ・研究圃場管理作業補助(大豆収穫) ○作物研究(水稻)に関する実習 ・水稻研究の概要及び研究成果等 ・水稻研究に関する調査(食味試験補助) ○生産環境研究に関する実習 ・生産環境研究の概要及び研究成果等 ・簡易土壌分析システム研究会運営補助 ○病理昆虫研究に関する実習 ・病理昆虫研究の研究概要、研究成果等 ・病理昆虫に関する実験補助 	<p>プロジェクト推進室 水田農業</p> <p>技術部 作物</p> <p>環境部 生産環境 病理昆虫</p>	22.11.09～10

9 協議会、委員会等委員

協議会、委員会等の名称	役 職	担 当 機 関	職 名
岩手県農業技術開発会議	構成員 構成員 構成員 構成員 構成員 構成員 構成員	農業普及技術課	所長 副所長 企画管理部長 技術部長 環境部長 病害虫防除部長 畜産研究所長 県北農業研究所長
岩手県研究開発推進連絡会議	委員	商工労働観光部科学・ものづくり振興課	所長
東北農業試験研究協議会	理事	(独)農研機構・東北農業研究センター	所長
岩手県バイオテクノロジー研究調整会議	委員	農業普及技術課	所長
(財)岩手生物工学研究センター評議会	評議員	(財)岩手生物工学研究センター	所長
岩手農林研究協議会 (AFR)	副会長 委員 委員 委員 委員 委員 委員	岩手大学農学部	所長 企画管理部長 技術部長 環境部長 病害虫防除部長 畜産研究所長 県北農業研究所長
岩手農林研究協議会 (AFR) 幹事会	幹事 幹事		企画管理部長 技術部長
岩手県農業人材育成連携推進委員会	委員	岩手県教育委員会事務局学校教育室	研究企画室長
国営和賀中部地区営農推進委員会	委員	東北農政局和賀中部農業水利事業所	研究企画室長
岩手県農業農村指導士選考委員会	選考委員	農業普及技術課	所長
農作物奨励品種検討会議	構成員	農産園芸課	所長
日本農業賞岩手県代表選考審査委員	委員	全農岩手県本部	所長
岩手県施肥合理化協議会	参与 参与 幹事 幹事 幹事 幹事 幹事 幹事	全農岩手県本部	環境部長 畜産研究所長 プロジェクト推進室長 (特裁・有機) 作物研究室長 園芸研究室長 生産環境研究室長 家畜飼養・飼料研究室長 県北農業研究所次長

協議会、委員会等の名称	役 職	担 当 機 関	職 名
岩手県農業共済組合連合会損害評価会	委員 (農作物・水稲) 委員 (農作物・水稲) 委員 (農作物・麦) 委員 (果樹) 委員 (畑作物) 委員 (園芸施設)	NOSAI岩手	作物研究室長(技術部) 病理昆虫研究室長 上席専門研究員 (技術部作物研究室) 主任専門研究員 (技術部園芸研究室) 専門研究員 (技術部作物研究室) 園芸研究室長(技術部)
岩手県植物防疫協会	運営幹事 運営幹事 運営幹事 事業幹事 事業幹事 事業幹事 事業幹事 事業幹事	(社)岩手県植物防疫協会	技術部長 環境部長 病虫害防除部長 作物研究室長(技術部) 園芸研究室長(技術部) 病理昆虫研究室長 家畜飼養・飼料研究室長 病虫害防除課長
日本植物調節剤研究協会東北支部	委員 監事	日本植物調節剤研究協会東北支部	作物研究室長 プロジェクト推進室長 (水田農業)
岩手県農業気象協議会	委員 委員 幹事 幹事 幹事 幹事 幹事 幹事	農業普及技術課	技術部長 病虫害防除所長 (病虫害防除部長) 作物研究室長(技術部) 園芸研究室長(技術部) 生産環境研究室長 家畜飼養・飼料研究室長 作物研究室長(県北農研) 病虫害防除所次長 (病虫害防除課長)
土地改良事業営農推進対策委員会	副委員長 委員 委員 中央幹事 中央幹事	農村計画課	副所長 技術部長 県北農業研究所長 家畜飼養・飼料研究室長 園芸研究室長(技術部)
岩手県農作業安全対策協議会	委員 委員	農産園芸課	副所長 畜産研究所長
中央環境審議会土壤農薬部会農薬小委員会	専門委員	環境省 水・大気環境局	病虫害防除部長
日本農業経営学会	理事	(独)中央農業総合研究センター	農業経営研究室長
東北農業経済学会	評議員	東北大学農学部	農業経営研究室長

協議会、委員会等の名称	役 職	担 当 機 関	職 名
岩手県特産農産物生産振興共進会	審査委員長 審査委員	農産園芸課	県北農業研究所長 農業経営研究室長
岩手県特産農産物生産振興共進会	審査委員	農産園芸課	作物(県北)研究室長
岩手県農業農村整備事業地区担い手育成協議会	委員	農村建設課	農業経営研究室長
土地改良事業営農推進対策委員会	委員	農村計画課	農業経営研究室長
いわて純情米体質強化推進協議会	幹事	全農岩手県本部	技術部長
岩手県農産物改良種苗センター種子価格設定委員会	委員	(社)岩手県農産物改良種苗センター	作物研究室長(技術部)
岩手県種子事故調査委員会	委員	(社)岩手県農産物改良種苗センター	病理昆虫研究室長
岩手県農業共済保険審査委員会	委員	団体指導課	技術部長
いわて純情米需要拡大推進協議会	幹事	流通課	技術部長
岩手県農業機械士認定委員会	委員	農産園芸課	技術部長
岩手県農業機械士技能検定	技能検定員 (委嘱) 技能検定員 (委嘱) 技能検定員 (委嘱) 技能検定員 (委嘱)	農業大学校	上席専門研究員 (プロジェクト推進室 水田農業) 主任専門研究員 (プロジェクト推進室 水田農業) 技能員 技能員
北上市みどりのまちづくり審査会	審査員	北上市	技術部長
2010いわて純情りんごコンテスト	審査委員長 審査員 審査員 審査員	全農岩手県本部	技術部長 園芸研究室長(技術部) 園芸研究室(果樹担当、技術部) 病理昆虫研究室長
いわてフラワーコンテスト2010	審査委員長 審査委員	全農岩手県本部	技術部長 園芸研究室(花き担当、技術部)
岩手県麦・大豆等産地体制確立推進協議会 同 事務局員	委員 事務局員	農産園芸課	技術部長 作物研究室長(技術部)
いわての大豆普及推進協議会	委員	流通課	技術部長
岩手県麦民間流通地方協議会	構成員	全農岩手県本部	作物研究室長(技術部)
全国豆類経営改善共励会岩手県審査委員会	審査委員長 審査委員 審査委員	農産園芸課	技術部長 作物研究室長(技術部) 作物研究室長(県北農研)
全国麦作共励会岩手県審査委員会	審査委員長 審査委員 審査委員	農産園芸課	技術部長 作物研究室長(技術部) 作物研究室長(県北農研)
岩手県特産農作物生産振興共進会審査委員会	審査委員長 審査委員 審査委員	農産園芸課	県北農業研究所長 作物研究室長(技術部) 作物研究室長(県北農研)

協議会、委員会等の名称	役 職	担 当 機 関	職 名
東北土地利用型作物安定生産推進協議会	構成員	東北農政局	プロジェクト推進室長 (水田農業)
麦・大豆収益性向上対策チーム	構成員	農産園芸課	プロジェクト推進室長 (水田農業) 作物研究室長(技術部)
飼料用米生産拡大プロジェクトチーム	構成員	畜産課	家畜育種研究室長
県産米食味向上プロジェクトチーム	構成員 構成員 構成員 構成員	農産園芸課	プロジェクト推進室長 (水田農業) プロジェクト推進室長 (特裁・有機) 作物研究室長(技術部) 生産環境研究室長
いわてオリジナル低コスト肥料製造プロジェクトチーム	構成員	農業普及技術課	上席専門研究員 (生産環境研究室)
「農業機械安全使用講習会開催業務委託」 契約候補者審査委員会	委員	農産園芸課	上席専門研究員 (プロジェクト推進室(水 田農業))
岩手県園芸産地改革戦略推進会議	委員 委員	農産園芸課	農業経営研究室長 園芸研究室長(技術部)
花北地方農業農村振興連絡協議会(花巻地 域希望農業技術サポート会議を兼ねる)	構成員	県南広域振興局農政部 花巻農林振興センター	企画管理部長
大船渡地方農業振興協議会	構成員	大船渡地方振興局農林部	南部園芸研究室長
大船渡地方農林水産振興連絡協議会	構成員	大船渡地方振興局農林部	南部園芸研究室長
大船渡地区行政連絡協議会	構成員	大船渡地方振興局企画総務部	南部園芸研究室長
陸前高田市総合農政推進協議会	委員	陸前高田市	南部園芸研究室長
住田町農業振興協議会	構成員	住田町	南部園芸研究室長
岩手県農薬管理使用アドバイザー認定委員 会	委員 委員	農業普及技術課	病害虫防除部長 環境部長
岩手県産業用無人ヘリコプター推進協議会	幹事	NOSAI岩手	病害虫防除課長
岩手県埋設農薬適正管理専門家会議	委員	農業普及技術課	環境部長
岩手県獣医師会学術広報委員会	副委員長	岩手県獣医師会	家畜飼養・飼料研究室長
岩手県農協大型酪農経営連絡協議会	委員	全農岩手県本部	畜産研究所長
ミルクシステム診断事業推進委員会	委員	(社)岩手県畜産協会	家畜飼養・飼料研究室長
岩手県乳用牛群検定推進協議会	幹事	(社)岩手県畜産協会	家畜飼養・飼料研究室長
自動搾乳データ分析検討会	委員	(社)家畜改良事業団	専門研究員(家畜飼 養・飼料研究室)
県南和牛育種組合育種推進委員会	育種推進委員	全国和牛登録協会岩手県支部	専門研究員(種山畜産 研究室)
中央和牛育種組合育種推進委員会	育種推進委員	全国和牛登録協会岩手県支部	専門研究員(種山畜産 研究室)
全国和牛能力共進会出品対策委員会	委員 委員	畜産課、全農岩手県本部	畜産研究所次長兼種 山畜産研究室長 家畜育種研究室長
全国和牛登録協会登録委員産肉能力検定 委員会	参与 参与 委員	全国和牛登録協会	畜産研究所長 畜産研究所次長兼種 山畜産研究室長 専門研究員(種山畜産 研究室)

協議会、委員会等の名称	役職	担当機関	職名
和牛改良専門委員会	委員	全国和牛登録協会岩手県支部	畜産研究所次長兼種山畜産研究室長 家畜育種研究室長
日本短角種集団育種推進協議会	委員	日本短角種集団育種推進協議会 畜産課	家畜育種研究室長
いわて和牛改良増殖対策事業推進協議会	委員 委員	畜産課	畜産研究所次長兼種山畜産研究室長 家畜育種研究室長
日本短角種研究会	評議員	日本短角種研究会	家畜育種研究室長
盛岡市牧野運営協議会委員	委員	盛岡市	外山畜産研究室長
日本短角種集団育種推進事業協議会	委員	畜産課	外山畜産研究室長
東北草地研究会	幹事	東北大学農学部	家畜飼養・飼料研究室長
畜産環境整備事業農機具導入委員会	委員	畜産課	家畜飼養・飼料研究室長
岩手県畜産技術連盟	世話人	畜産研究所	畜産研究所長
岩手県飼料増産推進協議会	委員	畜産研究所	家畜飼養・飼料研究室長
高性能畜産機械等普及促進協議会	委員幹事	新農業機械実用促進(株)	家畜飼養・飼料研究室長
岩手農林統計協会二戸支部	会員	東北農政局二戸統計情報センター	県北農業研究所長

職員研修

1 大学院派遣

職・氏名	所属部所・研究室	研究内容	派遣先	派遣期間
専門研究員 阿部 陽	技術部 作物研究室	水稻の重要形質に關与するQTL遺伝子の単離・同定および機能解析	岩手大学大学院 連合農学研究科 (連携院:岩手生物 工学研究セン ター)	19.4～
専門研究員 岩館 康哉	環境部 病理昆虫研究室	キュウリホモプシス根腐病の發生生態と防除に 關する研究	岩手大学大学院 連合農学研究科 (山形大学)	21.10～
専門研究員 佐藤 洋一	畜産研究所 家畜育種研究室	日本短角種におけるDNA情報を活用した育種 に關する研究	東北大学大学院 農学研究科	22.4～

2 海外派遣・研修

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容等	派遣先	派遣期間
環境部長 木内 豊 主任専門研究員 勝部 和則 主査 大友 令史	環境部 企画管理部 研究企画室 病虫害防除部 病虫害防除課	中国黒龍江省農業科学院との研究交流に關する 意見交換	中国(黒龍江省)	22.8.7～14
専門研究員 阿部 陽	技術部 作物研究室	【学会発表】 Plant and Animal Genome XIX Conference(San Diego, California, USA)	米国(カリフォルニア 州)	23.1.14～ 1.21

3 国内研修への派遣

(1) 依頼研究員 該当なし

(2) 北東北3県研究職員交流(職員派遣)

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容	派遣先	派遣期間
主任専門研究員 高橋 智宏	技術部 作物研究室	水稻原種生産体制について	秋田県農林水産技 術センター農業試 験場	22.6.22
技能員 西野 哲仁	技術部 作物研究室			
専門研究員 島山 隆幸	技術部 園芸研究室	りんご交雑実生のDNAマーカー選抜手法の研 修	(地独)青森県産業 技術センターりんご 研究所	22.2.22～25

(3) 農林水産関係研究リーダー研修 該当なし

(4) 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 短期集合研修

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容	派遣先	派遣期間
主任専門研究員 川戸 善徳	東北農業研究所 園芸研究室	数理統計基礎編 I	農林水産技術会議 事務局筑波事務所	22.7.7～11

(5) 農林水産関係研究者研修

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容	派遣先	派遣期間
技師 川代 早奈恵	技術部 作物研究室	平成22年度農林水産関係若手研究者研修	農林水産技術会議 事務局筑波事務所	22.12.15～17
技師 武田 純子	東北研究所 園芸研究室	平成22年度農林水産関係若手研究者研修	農林水産技術会議 事務局筑波事務所	22.12.15～17

(6) その他

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容	派遣先	派遣期間
上席専門研究員 伊藤 勝浩 主任専門研究員 日影 勝幸	プロジェクト推進室(水田農業)	水稲直播研修「鉄コーティング」、「モリブデン粉衣」	近畿中国四国農業研究センター、九州沖縄農業研究センター(筑後研究拠点)	23.2.22～23
技能員 中軽米 徳典	プロジェクト推進室(水田農業)	ガス溶接技能講習	岩手県自治会館 盛岡地域職業訓練センター	22.11.1～2
主任専門研究員 細川 健	プロジェクト推進室(特栽・有機)	トマト害虫防除技術先進地研修	福島県農業総合センター	22.9.6
研究企画室長 泉川 澄男	企画管理部 研究企画室	農村研究フォーラム2010	東京都	22.11.19
主任専門研究員 勝部 和則	企画管理部 研究企画室	全国イノベーションコーディネーターフォーラム2010	静岡県浜松市	22.11.29～30
主任専門研究員 高橋 正樹	企画管理部 研究企画室	会計担当者研修(出前サポート)	盛岡市	22.7.13
主任専門研究員 伊勢 智宏	企画管理部 研究企画室	農林水産知的財産実務者養成ワークショップ	東京都	22.9.9～10 22.10.18～19
主任専門研究員 伊勢 智宏	企画管理部 研究企画室	知的財産権制度説明会(実務者向け)	盛岡市(工業技術センター)	22.11.4、11、 18、30
主任専門研究員 伊勢 智宏	企画管理部 研究企画室	広報研修	盛岡市	23.1.21
作物研究室長 佐々木 力	技術部 作物研究室	新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「北東北地域向け非主食用多用途稲の直播品種及び直播栽培等関連技術の開発」課題担当者先進技術視察研修会(直播栽培コース)	近畿中国四国農業研究センター	22.2.22
作物研究室長 佐々木 力 専門研究員 伊藤信二	技術部 作物研究室	東北6県主要農作物原種原々種生産にかかる情報交換会	(地独)青森県産業技術センター農林総合研究所	22.7.22～23
上席専門研究員 菅原浩視	技術部 作物研究室	第230回日本作物学会秋季大会	北海道大学	22.9.4～5
上席専門研究員 小綿寿志	技術部 作物研究室	日本作物学会東北支部会第53回講演会	東北大学大学院	22.8.20
主任専門研究員 高橋智宏	技術部 作物研究室	フォークリフト運転技能講習	花巻市技術振興会館(花巻市松園町)	22.7.20～23
専門研究員 阿部 陽	技術部 作物研究室	新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「北東北地域向け非主食用多用途稲の直播品種及び直播栽培等関連技術の開発」課題担当者先進技術視察研修会(多収品種育成コース)	近畿中国四国農業研究センター	22.2.23
専門研究員 阿部 陽	技術部 作物研究室	第118回日本育種学会秋季大会	秋田県立大学	22.9.24～25
技師 川代早奈恵	技術部 作物研究室	平成22年度農林水産部新採用職員農林漁家体験研修	西部開発農産(北上市)	22.11.1～8
技師 川代早奈恵	技術部 作物研究室	平成22年度県南広域振興局職員研修第1回異業種交流研修	県南広域振興局(一関合庁)	22.12.27
室長 渡辺 芳幸 主任専門研究員 漆原 昌二 主任専門研究員 山口 貴之 主任専門研究員 高橋 司	技術部 園芸研究室	園芸学会東北支部平成22年度大会	山形県	22.9.13～14
室長 渡辺 芳幸 主任専門研究員 大野 浩	技術部 園芸研究室	国産果実を使った新商品開発セミナー	盛岡市	23.2.10
主任専門研究員 高橋 司	技術部 園芸研究室	りんご生産流通研究会	盛岡市	23.3.1

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容	派遣先	派遣期間
主任専門研究員 高橋 司 主任専門研究員 及川 耳呂	技術部 園芸研究室	生研センター研究報告会	埼玉県	23.3.10
主任専門研究員 高橋 司 主任専門研究員 大野 浩	技術部 園芸研究室	第4回環境保全型農業シンポジウム	東京都	23.2.17
主任専門研究員 高橋 司 主任専門研究員 大野 浩 主任専門研究員 中里 崇	技術部 園芸研究室	第53回東北農業試験研究発表会	青森県	22.8.10～11
主任専門研究員 及川 耳呂	技術部 園芸研究室	農作業学会シンポジウム	埼玉県	22.10.20～21
主任専門研究員 及川 耳呂	技術部 園芸研究室	岩手県果実酒研究会講演会	盛岡市	22.7.13
主任専門研究員 大野 浩	技術部 園芸研究室	いわて産学官連携フォーラム～リエゾン-Iマツ チングフェア2010～	盛岡市	22.11.10
主任専門研究員 大野 浩	技術部 園芸研究室	全国リンゴ研究大会	長野県	22.9.28～29
主任専門研究員 大野 浩	技術部 園芸研究室	GLP作物残留試験現地研修会	茨城県	22.9.7～8
主任専門研究員 漆原 昌二	技術部 園芸研究室	第64回北日本病害虫研究発表会	青森県	23.2.9～10
主任専門研究員 漆原 昌二 主任専門研究員 高橋 拓也	技術部 園芸研究室	ハクサイ育成研究育成地調査及びポジティブリ ストシンポジウム	東京都	23.1.17
主任専門研究員 高橋 拓也	技術部 園芸研究室	平成22年度野菜茶業課題別研究会	愛知県	22.11.11
主任専門研究員 高橋 拓也 技能員 菊地 徳章 技能員 小黑澤 清人	技術部 園芸研究室	第32回施設園芸総合セミナー・機器資材展	東京都	23.2.16～17
主任専門研究員 山口 貴之	技術部 園芸研究室	アグリビジネス創出フェア	千葉県	22.11.25～26
主任専門研究員 山口 貴之	技術部 園芸研究室	園芸学会平成22年度秋季大会	大分県	22.9.18～20
上席専門研究員 藤原 一道	技術部 園芸研究室	平成22年度花き研究所研究成果発表会	茨城県	22.11.10
上席専門研究員 藤原 一道 主任専門研究員 星 伸枝	技術部 園芸研究室	リンドウ栽培及び育種技術に係わる研修	長野県	23.2.9
上席専門研究員 藤原 一道 主任専門研究員 星 伸枝 主任専門研究員 中里 崇	技術部 園芸研究室	生物工学研究センターシンポジウム	盛岡市	22.10.29
主任専門研究員 星 伸枝	技術部 園芸研究室	農研機構シンポジウム	茨城県	22.10.19
主任専門研究員 星 伸枝 主任専門研究員 山口 貴之	技術部 園芸研究室	東北農業研究センターセミナー	盛岡市	22.10.25

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容	派遣先	派遣期間
主任専門研究員 中里 崇	技術部 園芸研究室	リンドウ育種に係る調査	福島県	23.3.2
主任専門研究員 富永 朋之	環境部 病理昆虫研究室	第11回赤かび病研究会	つくば市	22.9.9
主任専門研究員 富永 朋之 主任専門研究員 多田 典穂	環境部 病理昆虫研究室	第64回北日本病害虫研究発表会	青森県	22.2.9～10
専門研究員 岩館 康哉	環境部 病理昆虫研究室	EBC研究会	京都市	22.4.17
専門研究員 岩館 康哉	環境部 病理昆虫研究室	日本農薬学会第35回大会	札幌市	22.5.28～30
専門研究員 岩館 康哉	環境部 病理昆虫研究室	第25回土壌伝染病談話会	大阪市	22.9.15～17
専門研究員 岩館 康哉	環境部 病理昆虫研究室	日本土壌肥料学会2010年度北海道大会	札幌市	22.9.8～10
専門研究員 洞口 博昭	環境部 病理昆虫研究室	第4回植物病害診断研究会	東京都	22.9.15
主任専門研究員 多田 典穂	環境部 病理昆虫研究室	第20回天敵利用研究会	埼玉県熊谷市	22.11.11～12
主任専門研究員 多田 典穂	環境部 病理昆虫研究室	報農会シンポジウムー生物農薬の展開と化学農薬との調和ー	東京都	22.9.17
専門研究員 羽田 厚	環境部 病理昆虫研究室	りんご国際シンポジウム	青森県平川市	22.12.4
専門研究員 羽田 厚	環境部 病理昆虫研究室	省農薬リンゴ研究セミナー	盛岡市	22.5.25
専門研究員 羽田 厚 専門研究員 横田 啓	環境部 病理昆虫研究室	日本生態学会第58回大会	札幌市	23.3.8～11
専門研究員 横田 啓	環境部 病理昆虫研究室	ダイズを加害するチョウ目害虫の発生生態の解明と管理技術の開発に関する研究会	新潟県上越市	22.4.20
専門研究員 横田 啓	環境部 病理昆虫研究室	第15回農林害虫防除研究会埼玉大会	埼玉県熊谷市	22.7.14～15
専門研究員 横田 啓	環境部 病理昆虫研究室	東北地域大豆300A技術等普及推進大会	仙台市	22.12.10
専門研究員 横田 啓	環境部 病理昆虫研究室	第4回環境保全型農業シンポジウム	東京都	23.2.17
病害虫防除課長 阿部 武美	病害虫防除部 病害虫防除課	安全運転管理者等講習(公安委員会による研修)	矢巾町	22.9.10
病害虫防除課長 阿部 武美	病害虫防除部 病害虫防除課	JGAP指導員基礎研修	東京都	22.10.5～10.6
病害虫防除課長 阿部 武美 主任主査 阿部 信治 主査 大友 令史 主任 藤澤 由美子 技師 村上 太郎	病害虫防除部 病害虫防除課	東北地区植物防疫職員等技術研修会	秋田市	22.10.7～10.8
主任主査 阿部 信治 主任 藤澤 由美子 主任 藤田 章宏	病害虫防除部 病害虫防除課	北日本病害虫研究会	青森市	23.2.9～2.10
主任 加藤 清吾	病害虫防除部 病害虫防除課	植物保護ハイビジョン2010	東京都	22.9.17
主任 加藤 清吾	病害虫防除部 病害虫防除課	病害虫防除所職員等中央研修	農林水産省横浜植物防疫所	22.12.6～12.9

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容	派遣先	派遣期間
技師 吉田 雅紀	病虫害防除部 病虫害防除課	植物病害診断研究会	東京都	22.9.15
技師 村上 太郎	病虫害防除部 病虫害防除課	北陸病虫害研究会	新潟県	23.2.28～3.1
主任技能員 工藤 明彦 技能員 鷺見 義信 技能員 荒屋 康之 技能員 西野 聖 技能員 鳴海 茂揮	畜産研究所 総務課	伐採等業務従事者講習会	林業研究センター	23.3.10～ 3.11
専門研究員 米澤 智恵美	畜産研究所 家畜育種研究室	第180回地方審査委員認定講習会	家畜改良センター中央畜産研修施設 (福島)	22.11.23～26
主任専門研究員 多田 和幸	畜産研究所 家畜飼養・飼料研究室	自給飼料研究会	栃木県	22.11.4～ 11.5
専門研究員 尾張 利行	畜産研究所 家畜飼養・飼料研究室	自給飼料TMRセンター研究会	東京都	22.12.13～ 12.14
専門研究員 尾張 利行	畜産研究所 家畜飼養・飼料研究室	飼料イネ研究会	東京都	22.12.14～ 12.15
技師 木戸場 結香	畜産研究所 家畜飼養・飼料研究室	酪農指導者育成研修会	県内	22.10.28～ 10.29
技師 木戸場 結香	畜産研究所 家畜飼養・飼料研究室	酪農技術セミナー(搾乳システムの点検研修)	宮城県	23.2.28
技師 木戸場 結香 技能員 上澤 賢輝	畜産研究所 家畜飼養・飼料研究室	全酪連絡農セミナー	宮城県	23.2.8
主任専門研究員 増田 隆晴	畜産研究所 外山畜産研究室	イアーコーンサイレージ技術研修会	北海道	22.10.7～ 10.8
主任技能員 佐藤 洋貴	畜産研究所 種山畜産研究室	圧力容器技能講習会	盛岡市 教育会館	22.6.17～18
主任技能員 佐藤 洋貴	畜産研究所 種山畜産研究室	特管廃棄物管理責任者講習会	盛岡市 アイーナ	23.1.26

4 所内研修等

(1) 岩手県総務部人事課主催研修

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容	派遣先	派遣期間
プロジェクト推進室長 扇 良明	プロジェクト推進室 (水田農業)	新任振興局課長等研修(第2期)・マネジメント能力	人事課主催	H22.5.25～ 5.26
主任専門研究員 細川 健	プロジェクト推進室 (特裁・有機)	人事課能力開発研修(選択)「行政法入門」	人事課主催	H22.11.11～ 11.12
主任専門研究員 高橋 正樹	企画管理部 研究企画室	人事課能力開発研修(基本)「新任主査」	人事課主催	H22.7.6～7.8
主任専門研究員 沼田 芳宏	企画管理部 研究企画室	人事課能力開発研修(選択)「プレゼンテーション」	人事課主催	H22.9.9～10
主任専門研究員 及川 浩一	企画管理部 農業経営研究室	人事課能力開発研修(選択)「ファシリテーションスキル」	人事課主催	H22.9.2～3
専門研究員 松浦 貞彦	企画管理部 農業経営研究室	人事課能力開発研修(選択)「政策法務」	人事課主催	H22.11.4～5
作物研究室長 佐々木 力	技術部 作物研究室	人事課能力開発研修(特別研修)「コンプライアンス推進員研修」	人事課主催	H22.5.17
上席専門研究員 菅原 浩規	技術部 作物研究室	人事課能力開発研修(特別研修)「プレイング・マネージャー研修」	人事課主催	H22.6.24～25

職・氏名	所属部所・研究室	研修内容	派遣先	派遣期間
上席専門研究員 菅原 浩視	技術部 作物研究室	新採用職員指導者研修	人事課主催	H22.4.8,6.2
上席専門研究員 小綿 寿志	技術部 作物研究室	人事課能力開発研修(特別研修)「プレイング・マネージャー研修」	人事課主催	H22.6.24～25
技師 川代 早奈恵	技術部 作物研究室	新採用職員研修(第1期)	人事課主催	H22.4.5～9
技師 川代 早奈恵	技術部 作物研究室	新採用職員研修(第2期)	人事課主催	H22.11.1～8
上席専門研究員 藤原 一道	技術部 園芸研究室	人事課能力開発研修(特別研修)「プレイング・マネージャー研修」	人事課主催	H22.6.24～25
上席専門研究員 藤原 一道	技術部 園芸研究室	人事課能力開発研修(選択)「政策法務」	人事課主催	H22.11.4～5
主任専門研究員 高橋 拓也	技術部 園芸研究室	人事課能力開発研修(選択)「プレゼンテーション」	人事課主催	H22.10.28～29
主任専門研究員 藤尾 拓也	技術部 南部園芸研究室	人事課能力開発研修(選択)「交渉力向上」	人事課主催	H22.10.14～15
専門研究員 高橋 彩子	環境部 生産環境研究室	人事課能力開発研修(基本)「中堅職員研修」	人事課主催	H22.9.1～3
主任専門研究員 多田 典徳	環境部 病理昆虫研究室	人事課能力開発研修(特別研修)「プレイング・マネージャー研修」	人事課主催	H22.6.24～25
主任専門研究員 多田 典徳	環境部 病理昆虫研究室	人事課能力開発研修(特別研修)「公共マーケティング研修」	人事課主催	H22.7.20～21
専門研究員 岩館 康哉	環境部 病理昆虫研究室	人事課能力開発研修(選択)「行政法入門」	人事課主催	H22.11.11～12
主査 大友 令史	病害虫防除部 病害虫防除課	人事課能力開発研修(選択)「プレゼンテーション」	人事課主催	H22.9.9～10
主任 加藤 清吾	病害虫防除部 病害虫防除課	人事課能力開発研修(選択)「交渉力向上」	人事課主催	H22.11.1～2
技師 木戸場 結花	畜産研究所 家畜飼養・飼料研究	新採用職員研修(第1期)	人事課主催	H22.4.5～9
技師 木戸場 結花	畜産研究所 家畜飼養・飼料研究	新採用職員研修(第2期)	人事課主催	H22.11.1～8
上席専門研究員 藤沢 巧	東北農業研究所 園芸研究室	新採用職員指導者研修	人事課主催	H22.4.8,6.4
上席専門研究員 藤沢 巧	東北農業研究所 園芸研究室	人事課能力開発研修(選択)「ファシリテーションスキル」	人事課主催	H22.9.2～3
主任専門研究員 川戸 善徳	東北農業研究所 園芸研究室	人事課能力開発研修(特別研修)「公共マーケティング研修」	人事課主催	H22.7.20～21
技師 武田 純子	東北農業研究所 園芸研究室	新採用職員研修(第1期)	人事課主催	H22.4.5～9
技師 武田 純子	東北農業研究所 園芸研究室	新採用職員研修(第2期)	人事課主催	H22.10.18～22
専門研究員 米澤 智恵美	畜産研究所 家畜育種研究室	平成22年度採用3年目職員研修	人事課主催	H22.11.10～12

(2) 所内研修

研修会名称	所属部所・研究室	研修内容	主催	開催日
会計事務等研修会	—	会計の基本原則、適正な会計事務処理の方法、経理事務処理方法等	企画管理部 総務課	22.6.30
交通安全研究会	—	交通安全の啓発ビデオ上映、北上警察署員による講話	企画管理部 総務課	22.7.22
救急救命・AED操作講習会	—	一般救命講習	企画管理部 総務課	22.8.30
保健衛生教室	—	「脂質異常予防」～ドロドロ血液をサラサラに～	企画管理部 総務課	23.2.10

4 所内セミナー等

名 称	開催期日	内 容	参集人員
[本 部] 農業研究センター職場 研修会	22.12.21	TPPによる岩手県農業に及ぼす影響について 講師:農林水産企画室 主任主査 米谷仁 氏 岩手県農業を取り巻く情勢と政策対応等について 講師:農業振興課 担い手対策課長 千田牧夫 氏	40名
知的財産権セミナー	23.2.10	農業分野の試験研究における知的財産権の活用について 講師:富沢特許事務所 所長・弁理士 富沢 知成 氏	11名
産学官連携セミナー	23.2.22	出口を見据えた研究開発における競争資金の活用と成果還元について 講師:農林水産省産学官連携事業コーディネーター 酒井眞次 氏 講師:農林水産省産学官連携事業コーディネーター 高橋淑径 氏	26名
[プロジェクト推進室] プロジェクト推進室ゼミ	22.5.27	研究センター土壌について 多田勝郎(室長)	20 名
	22.6.23	生き物調査 佐藤千穂子(専門研究員)	11 名
	22.7.22	バッテリーについて 中軽米徳典(技能員)	
	22.10.15	琥珀について 伊藤勝浩(上席専門研究員)	12 名
	22.11.15	宗教について～イスラム教の矛盾～ 高橋昭喜(主任専門研究員)	12 名
	22.12.17	水田農業経営での所得向上のために 扇良明(室長)	9 名
	22.12.17	大豆の除草について 渡邊麻由子(主任専門研究員)	9 名
	22.2.18	キャベツとホウレンソウから知る岩手県北の野菜の歴史 細川 健(主任専門研究員)	9 名
	22.2.18	キャッシュフローについて考えてみよう 臼井智彦(主任専門研究員)	9 名

名 称	開催期日	内 容	参集人員
[技術部] 技術部ゼミ	22.04.07	「出張くん」「購入ちゃん」を活用した支出事務の適性化 松浦 貞彦(農業経営研究室主任専門研究員)	23 名
	22.04.22	北東北地域向け非主食用用途稲の直播品種及び直播栽培等関連技術の開発 佐々木 力(作物研究室長)	15 名
	22.06.29	研究実施圃場の状況確認(作物研究室、園芸研究室) 技術部各担当(作物研究室、園芸研究室)	18 名
	22.07.21	水稻の重要形質に関与するQTL遺伝子の単離・同定および機能解析 阿部 陽(作物研究室 専門研究員)	20 名
	22.08.05	農研本部圃場説明会への参加	7 名
	22.09.30	野生トマトを見て、触って、嗅いでみよう 伊藤 信二(作物研究室 専門研究員)	13 名
	22.09.30	発芽～開花期の低温によるリンゴ花芽の耐凍性の向上 大野 浩(園芸研究室 主任専門研究員)	13 名
	22.11.17	農家派遣研修報告 川代早奈恵(作物研究室技師)	57 名
	22.11.17	ポルトガル紀行(国際園芸学会)報告 山口貴之(園芸研究室 主任専門研究員)	57 名
[環境部] 環境部ゼミ	22.5.10	転炉スラグを用いたきゅうりホモプシス根腐病の防除について 岩館康哉(病理昆虫研究室 専門研究員) ハダニ類の薬剤感受性について 羽田厚(病理昆虫研究室 専門研究員)	
	22.5.27	農業研究センターの土はこうなっている 多田 勝郎(プロジェクト推進室長)	
	22.5.13	堆肥を活用した稲WCS多収栽培のための効率的施肥技術 高橋彩子(生産環境研究室 専門研究員) シグモイド型肥料を利用した水稻の施肥技術 鈴木良則(生産環境研究室 上席専門研究員)	
	22.7.13	バイオエネルギー利活用促進事業について 高橋良学(農業振興課 主任) 簡易土壌診断システムの普及について 小林卓史(農業普及技術課 主任主査) 簡易土壌分析システムの開発について 大友英嗣(生産環境研究室 主任専門研究員)	
	22.12.13	簡易土壌分析システムについて 大友英嗣(生産環境研究室 主任専門研究員)	

名 称	開催期日	内 容	参集人員
	23.1.31	岩手県内のリンゴ園地に生息するカブリダニ類について 羽田厚(病理昆虫研究室 専門研究員) イネ紋枯病防除について 洞口博昭(病理昆虫研究室 専門研究員) 雨よけトマト総合防除体系について 細川健(プロジェクト推進室 主任専門研究員)	
[病害虫防除部] 第1回病害虫防除所内 オープンゼミ	22.10.28	主要病害の診断手法 仲谷房治氏(岩手県植物防疫協会)	15 名
第2回病害虫防除所内 オープンゼミ	23.1.20	新規殺虫剤の作用及び効果 笹島敏也氏(デュポン株式会社)	20 名
[畜産研究所] 東北畜産学会発表予演 会	22.8.24	岩手県の黒毛和種妊娠期間の現状と育種価 岩手県産黒毛和種における脂肪酸組成に影響を与える遺伝子型効果の 検討	15 名
[県北農業研究所] 所内ゼミ (個人発表)	22.12.21	森のトレー問題 阿部(君)(総務課主査) 雑穀考古学 仲條真介(作物研究室 主任専門研究員)	11 名
	23.1.20	新採用所感等 武田純子(園芸研究室技師) 岩手県における雑穀主要病害虫の発生実態 阿部亜希子(作物研究室主任専門研究員) 知事の公用車について 藤沢 巧(園芸研究室上席専門研究員)	9 名

試験研究以外の業務概要

1 作物の原々種の採種

(1) 主要農作物種子法に基づく原々種種子の生産

種 類	品 種	面 積 (a)	採種量 (kg)	備 考 (採種場所等)
水稻(うるち)	いわてっこ	3	69	農業研究センター
	あきたこまち	3	95	〃
	どんぴしゃり	3	63	〃
	ひとめぼれ	5	190	〃
水稻(もち)	カグヤモチ	3	70	〃
	ヒメノモチ	3	54	〃
小麦	ナンブコムギ	60	1,080	〃
大豆	生産無し	—	—	—

(2) その他原々種種子の生産

種 類	品 種	面 積(単位)	採種量(単位)	備 考(採種場所等)
小豆	生産無し	—	—	—
りんどう	AZ系	—	20ml	〃
	北海道系	—	10ml	〃
	矢巾系	—	20ml	〃
	ササ系	—	25ml	〃
	その他	—	20ml	〃
低アミロースヒエ	ねばりっこ1号	0.5(a)	0.1kg	県北農業研究所
	ねばりっこ2号	3.5(a)	0.5kg	〃
	ねばりっこ3号	3.5(a)	0.1kg	〃
うるちアワ	虎の尾	0.4(a)	0.1kg	〃
もちアワ	大槌10	1.5(a)	0.3kg	〃
もちキビ	釜石16	2.5(a)	0.5kg	〃

注) 雑穀の原々種は原種生産圃場からの穂刈り採種としたため、面積は原種生産面積と一致すること。

また、雑穀原々種種子の採種量は未精選種子であること(H23.3.16現在)

2 作物の原種の採種

(1) 主要農作物種子法に基づく原種種子の生産

種 類	品 種	面 積 (a)	採種量 (kg)	備 考 (採種場所等)
水稲うるち	いわてっこ	60	1,820	農業研究センター
	あきたこまち	160	4,300	〃
	どんびしゃり	30	1,380	〃
	ひとめぼれ	330	10,460	〃
水稲もち	カグヤモチ	13	180	農業研究センター
	ヒメノモチ	40	720	〃
酒造好適米	ぎんおとめ	10	371	農業研究センター
水稲非主食用米	つぶみのり	7	220	農業研究センター
水稲非主食用米	つぶゆたか	8	125	〃
小麦	ナンブコムギ	200	5,460	農業研究センター
	ゆきちから	100	2,340	〃
大豆	ナンブシロメ	87	900	農業研究センター
	スズカリ	77	640	〃
	ユキホマレ	20	80	〃
	青丸くん	20	110	〃

(2) その他原種種子の生産

種 類	品 種	面 積(単位)	採種量(単位)	備 考(採種場所等)
小豆	岩手大納言	生産無し	—	—
そば	岩手早生	生産無し	—	—
小ぎく	アイمامアーリーイエロー	-	20株	農業研究センター
	アイمامホホワイト	-	20株	〃
	アイمامホホワイトビーチ	-	20株	〃
	アイمامピンク	-	20株	〃
	アイمامイエロー	-	20株	〃
	アイمامレモンイエロー	-	20株	〃
	アイمامオータムホホワイト	-	20株	〃
	アイمامパープルレッド	-	20株	〃
	アイمامアーリーホホワイト	-	20株	〃
	アイمامオレンジ	-	20株	〃
	アイمامレッド	-	20株	〃
りんどう	ENG	-	10ml	農業研究センター
	AZ系	-	30ml	〃
	IHO	-	20ml	〃
	HO2・1・4	-	20ml	〃
	えぞ早生	-	20ml	〃
	Sen2	-	20ml	〃
	Y5・1・4	-	20ml	〃
	Y5・3・1	-	20ml	〃
	OK100	-	10ml	〃
TO2S	-	10ml	〃	
低アミロースヒエ	ねばりっこ1号	0.5(a)	0.2kg	県北農業研究所
	ねばりっこ2号	3.5(a)	10kg	〃
	ねばりっこ3号	3.5(a)	7kg	〃
うるちアワ	虎の尾	0.4(a)	1.5kg	〃
もちアワ	大槌10	1.5(a)	10kg	〃
もちキビ	釜石16	2.5(a)	10kg	〃

注) 雑穀原種種子の採種量は未精選種子であること(H23.3.16現在)

3 種苗等の配布

(1) 主要農作物種子法に基づく種苗の配布

種 類	品 種	数 量(kg)	配 布 先
水稲うるち原種 (23年採種圃用)	かけはし	449	(社) 岩手県農産物改良種苗センター
	いわてっこ	1,875	〃
	あきたこまち	2,815	〃
	どんびしゃり	636	〃
	ササニシキ	298	〃
	ひとめぼれ	10,830	〃
	ぎんおとめ	20	〃
	吟ぎんが	58	〃
	つぶみのり	119	〃
	つぶゆたか	119	〃
水稲もち原種 (23年採種圃用)	カグヤモチ	197	(社) 岩手県農産物改良種苗センター
	ヒメノモチ	931	〃
	もち美人	87	〃
小麦原種 (22年採種圃播種用)	ナンブコムギ	3,810	(社) 岩手県農産物改良種苗センター
	ゆきちから	2,130	〃
	ネバリゴシ	360	〃
大豆原種 (23年採種圃播種用)	ナンブシロメ	800	(社) 岩手県農産物改良種苗センター
	スズカリ	490	〃
	青丸くん	38	〃
	すずほのか	9	〃
	ユキホマレ	32	〃
	コスズ	9	〃

注) 旧年産の種子も供給していること。

(2) その他種苗の配布

種 類	品 種	数 量(単位)	配 布 先
小豆原種	岩手大納言	8(kg)	(社)岩手県農産物改良種苗センター
	ベニダイナゴン	5(kg)	〃
そば原種	岩手早生		配付実績無し
えだまめ原種			配付実績無し
りんどう	採種用母株培養株		
	Sen2	100(株)	(社)岩手県農産物改良種苗センター
	TO	80(株)	〃
	採種用母株実生苗		
	ENG	300(株)	
	えぞ早生	800(株)	
	Y5・3・1	400(株)	
	YRy	350(株)	
	TO	80(株)	
うるちヒエ原種	達磨	2(kg)	(社)岩手県農産物改良種苗センター
	軽米在来(白)	0.05(kg)	〃
低アミロースヒエ原種	ねばりっこ2号	1.5(kg)	〃
うるちアワ原種	虎の尾	0.15(kg)	〃
もちアワ原種	大槌10	1(kg)	〃
もちキビ原種	釜石16	2(kg)	〃

注) 雑穀種苗は、全て平成22年採種圃用としての原種供給

4 県有種雄牛の精液の供給

(畜産研究所種山畜産研究室:平成23年3月31日現在)

(1) 黒毛和種

(単位:本)

種雄牛の名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
菊福秀	1,463	1,553	1,444	1,495	1,558	1,619	1,438	2,515	2,138	2,033	2,061	1,863	21,180
菊安舞鶴	376	491	471	542	398	474	468	381	443	363	298	242	4,947
来待招福	55	48	85	94	83	82	98	157	540	723	787	671	3,423
金菊徳	70	20	5	55	30	30	5	22	25	5	0	0	267
飛良美継	122	95	70	115	111	53	105	135	305	248	240	235	1,834
雪乃花	146	165	45	118	35	120	80	138	252	423	744	0	2,266
平北勝1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	0	0	20
北真鶴	10	0	0	5	3	5	0	0	0	20	5	30	78
岩輝57	22	85	0	0	2	0	5	0	15	0	0	20	149
房平茂	0	2	4	5	4	0	0	0	0	0	0	0	15
城乃神	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	0	0	15
第5八雲	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	3	0	8
秀福安	3	2	50	0	0	20	30	16	20	0	5	85	231
原茂勝	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
純康大	5	5	10	15	25	5	0	18	5	0	0	0	88
桜銀次	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	5
大和魂	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	5
その他	0	30	40	0	130	0	124	8	5	0	0	0	337
計	2,282	2,496	2,224	2,444	2,379	2,413	2,358	3,390	3,753	3,850	4,143	3,146	34,878

(2) 日本短角種

(単位:本)

種雄牛の名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
高福	5		5										10
福藤					2								2
川辰					3	4							7
木川12		10							12				22
波辰					3								3
勝富	10								10				20
辰錦	10	10	3			4					5		32
辰郎			5		10				10	15	5		45
辰福					10					15		3	28
松錦									10		20		30
その他					3	8		3			5		19
計	25	20	13	0	31	16	0	3	42	30	35	3	218

5 種豚、種鶏等の配布

(畜産研究所家畜育種研究室:平成22年3月31日現在)

(1) 銘柄鶏の配布

品 種	種 類			配 布 先
	雌(羽)	雄(羽)	計	
南部かしわ雛(羽)	7,643	687	8,330	岩手しずくいし南部かしわ生産組合他
軍鶏×ロード種卵(個)			0	

(2) 種豚の配布

品 種	種 類			配 布 先
	雌	雄	計	
L(頭)	3	0	3	県内養豚農場
B(頭)	11	4	15	県内養豚農場、山形県養豚試験場
LW(頭)	2	0	2	県内養豚農場
計	16	4	20	

6 寄託放牧

(畜産研究所外山畜産研究室:平成23年3月31日現在)

(1) 牛

品 種	種 類			計(頭)
	成牛雌(頭)	成牛雄(頭)	子牛(頭)	
日本短角種	67	1	54	122

(2) 馬

品 種	種 類			計(頭)
	成馬雌(頭)	成馬雄(頭)	子馬(頭)	
ブル系等	15	1	5	21

人事、予算、財産

1 岩手県農業研究センター予算 (H22・2月現計)

(単位:千円)

区 分	(内 訳)	予 算 額
【農業費】		
人件費(本部・県北)		750,208
庁舎管理費(本部)		113,302
庁舎管理費(施設整備費)		84,526
ほ場管理費(本部)		47,617
ふれあい公園管理運営費		17,413
庁舎管理費(県北)		37,984
ほ場管理費(県北)		44,828
試験研究費 (国庫、委託試験 等)		155,197
(1)植物防疫研究費	12,431	
(2)土壌対策研究費	4,090	
(3)農業関係試験研究委託事業費	103,416	
(4)民間委託試験研究費	35,260	
高生産性農業新技術開発促進研究費 (県単研究費)		23,803
主要農作物採種管理費		16,338
令達事業(本部)		27,207
令達事業(県北)		4,436
合 計		1,322,859
【畜産業費】		
人件費(畜産)		443,910
庁舎管理費		83,604
飼育管理費		136,854
種山畜産研究室管理費		116,488
試験研究費 (国庫、委託試験 等)		14,726
農業関係試験研究委託事業	14,726	
高生産性畜産新技術開発促進研究費 (県単研究費)		19,569
令達事業		37,714
合 計		852,865
全 体 計		2,175,724

2 建物・用地の面積及び飼養家畜数 (H22.3.31現在)

(1) 建物・用地の面積

	用 地 (ha)								建物(m ²)	
	耕 地					林野等	施設用地	総面積	棟数	延面積
	水田	畑	樹園地	採草放牧地	小計					
本 部	30	28	21		80	16	23	118	79	29,676
北 上	26	18	21		65		18	84	32	19,198
【主な施設面積(内数)】										
管理棟										2,911
実験研究棟										5,057
作物調査研究棟										716
育苗ガラス温室										992
穀物乾燥原種調整調査棟										860
園芸作物調査棟										716
生産環境調査棟										608
ふれあい公園						16	2	17	13	3,431
南部園芸研究室		1			1		0	2	6	1,522
旧銘柄米開発研究室	4	1			5		2	7	25	4,684
その他		8			8		0	8	3	841
畜産研究所		136		1,535	1,671	399	38	2,108	181	36,427
滝沢(本所)		68		14	82	50	33	165	124	23,299
外山畜産研究室		6		1,471	1,477	241	5	1,722	42	6,676
種山畜産研究室		63		50	112	108	0	221	15	6,452
県北農業研究所	1	11	0		12		8	20	16	6,738
合 計	31	175	22	1,535	1,762	415	69	2,246	261	62,508

(2) 飼養家畜頭数

(単位:頭・羽)

種別性別		雄	雌	計	品種別頭羽数
乳用牛	経産牛		63	63	ホルスタイン種 112
	育成牛(子牛含む)		47	47	
肉用牛	(滝沢)	90	49	139	黒毛和種 37、日本短角種 64、交雑種 10
	(外山)	19	121	140	黒毛和種 81、日本短角種 59
	(種山)	111	46	157	黒毛和種 141、交雑種 16
牛 計		220	326	546	
豚	種豚	15	30	45	【種豚の内訳】 パークシャー種 26、ランドレース種(イワテハヤチネL2) 9、大ヨークシャー種 2、デュロック種 2、雑種 6
	子豚	150	150	300	
	計	165	180	345	
鶏	種鶏	432	1,364	1,796	岩手地鶏 241、岩手大型ロード 318、基礎鶏 342、ホワイトロックロード 545、軍鶏 316、ホワイトロック 34
	南部かしわ雛			0	
	計	432	1364	1796	

3 種苗登録、特許等

(1) 種苗登録

種 類	登録(出願)品種の名称	登 録 番 号	登 録 年 月 日	備 考
りんどう	いわて乙女	第 544号	S59. 3.19	育成者権失効
りんどう	ジョバンニ	第 1,101号	S61. 8. 8	〃
りんどう	イーハトーヴォ	第 1,100号	S61. 8. 8	〃
大豆	緑良	第 2,517号	H 2.12. 5	〃
大豆	緑翠	第 2,516号	H 2.12. 5	〃
りんどう	アルビレオ	第 2,553号	H 2.12. 5	〃
りんどう	マシリイ	第 3,073号	H 4. 2.29	〃
りんどう	ホモイ	第 3,074号	H 4. 2.29	〃
ぶどう	エーデルアアーリー	第 3,404号	H 5. 3.10	
りんご	きおう	第 3,947号	H 6. 3.14	
りんどう	アルタ	第 4,085号	H 6. 8.22	育成者権失効
稲	かけはし	第 4,410号	H 7. 3.23	
稲	ゆめさんさ	第 4,411号	H 7. 3.23	育成者権放棄
りんどう	ポラーノ ホワイト	第 4,999号	H 8. 3.18	
りんどう	あおこりん	第 7,713号	H12. 2.22	
りんどう	ももこりん	第 7,714号	H12. 2.22	
りんどう	ポラーノ ブルー	第 7,715号	H12. 2.22	
大豆	星めぐり	第 7,756号	H12. 2.22	品種登録取消
稲	吟ぎんが	第10,471号	H14. 9. 4	
スターチス	アイスター モーブ	第10,673号	H14. 9.30	育成者権放棄
スターチス	アイスター ラベンダー	第10,674号	H14. 9.30	〃
スターチス	アイスター ライラックブルー	第10,675号	H14. 9.30	〃
スターチス	アイスター ロージーピンク	第10,676号	H14. 9.30	〃
スターチス	アイスター ライラック	第10,677号	H14. 9.30	〃
稲	ぎんおとめ	第10,963号	H15. 2.20	
大豆	ちやげ丸	第11,099号	H15.3.17	
大豆	ぶっくらこ	第11,100号	H15.3.17	品種登録取消
稲	いわてっこ	第12,177号	H16. 8.18	
きく	アイمامアーリーイエロー	第13,034号	H17. 3.23	
きく	アイمامホワイト	第13,035号	H17. 3.23	
きく	アイمامピンク	第13,036号	H17. 3.23	
きく	アイمامイエロー	第13,037号	H17. 3.23	
きく	アイمامホワイトピーチ	第13,038号	H17. 3.23	
稲	もち美人	第13,295号	H17. 9.13	
りんご	黄香	第13,771号	H18. 2.27	
きく	アイمامレモンイエロー	第13,800号	H18. 2.27	
きく	アイمامオータムホワイト	第13,801号	H18. 2.27	
きく	アイمامパープルレッド	第13,802号	H18. 2.27	

種 類	登録(出願)品種の名称	登 録 番 号	登 録 年 月 日	備 考
きく	アイマムアーリーホワイト	第13,803号	H18. 2.27	
きく	アイマムオレンジ	第15,952号	H19.12.18	
きく	アイマムレッド	第15,953号	H19.12.18	
稲	どんびしゃり	第16,604号	H20. 3.17	
りんどう	マジエル	第16,725号	H20. 3.17	
りんどう	キュースト	第16,726号	H20. 3.17	
スターチス	アイスター ソフトピンク	出願番号第18,507号	出願(H17. 7. 8)	登録申請取り下げ
きく	アイマムオータムイエロー	第17,727号	H21. 3. 6	
きく	アイマムオータムレッド	第17,728号	H21. 3. 6	
きく	アイマムピュアホワイト	第17,968号	H21. 3.19	
りんご	岩手7号	第18,415号	H21. 9.10	
りんどう	いわて夢あおい	第18,762号	H22. 1.14	
りんどう	ももずきんちゃん	第20,210号	H23. 1.25	
りんどう	いわてDPB1号	第20,345号	H23. 2.15	
稲	かぐやの舞	第20,350号	H23. 2.15	
稲	つづみ星	第20,351号	H23. 2.15	
稲	つづみのり	第20,535号	H23. 3. 9	
稲	あけのむらさき	第20,710号	H23. 3.18	
稲	吟さやか	第20,711号	H23. 3.18	
稲	ゆきおとめ	第20,712号	H23. 3.18	
稲	つづゆたか	第20,716号	H23. 3.18	
ひえ	ねばりっこ1号	出願番号第23,655号	出願(H21. 3.31)	
ひえ	ねばりっこ2号	出願番号第23,656号	出願(H21. 3.31)	
ひえ	ねばりっこ3号	出願番号第23,657号	出願(H21. 3.31)	
ぶどう	エーデルロツソ	出願番号第24,975号	出願(H22. 7. 2)	

(2) 特許、実用新案

名 称	出願・公開番号(年月日)	登録番号(年月日)
米を原料とした飲料の製造方法	特開平03-272671 (H 3.12. 4)	1990534(H 7.11. 8)
牧草種子の播種方法及び牧草種子の散布用の複合肥料ペレット	特開平10-276514 (H10.10.20)	(公開・拒絶査定)
マクロシードペレットの散布装置	特開平10-276516 (H10.10.20)	(公開・拒絶査定)
遺伝子導入りんご及びその作出法	特開2000-270700 (H12.10. 3)	(公開・拒絶査定)
果樹の育成状態評価方法	特開2004-147539 (H16. 5.27)	4026684(H19.10.19)
土壌用有機成分の推定装置	特開2005-017115 (H17. 1.20)	3902160(H19. 1.12)
ハトムギ食品の製造方法	特開2005-040104 (H17. 2.17)	3842253(H18. 8.18)
家畜用胚移植器	特開2006-181078 (H18. 7.13)	4111523(H20. 4.18)

名 称	出願・公開番号(年月日)	登録番号(年月日)
降霜予測装置	特開2006-189403 (H18. 7.20)	4053544(H19.12.14)
有機肥料の製造方法及び有機肥料	特開2006-265027 (H18.10. 5)	4240492(H21. 1. 9)
物質の成分推定方法及び物質の成分推定装置	特開2007-187486 (H19. 7.26)	4258780(H21. 2.20)
水田作業機の排水溝形成装置	特開2010-124775(H22. 6.10)	(公開・審査請求中)
りんどうの鮮度保持用包装袋及びりんどうの保存方法	特開2010-163197(H22. 7.29)	(出願・公開中)
高設栽培装置及びこれを用いた高設栽培方法	特開2010-227008(H22.10.14)	(公開・審査請求中)
樹皮繊維培土の製造方法及び樹皮繊維培土	特願2010-164641(H22. 7.22)	(出願・審査請求中)

(3) 一般に公開しているプログラム等

名 称	公 開 (年月日)	バージョン	担当研究室(開発者)
「生産技術体系」及び「営農計画作成支援シート」	平成18年 2月22日	ver.1.2	農業経営研究室 (主任専門研究員 前山 薫)
集落営農組織化効果試算シート	平成18年 6月 9日	ver.0.1	農業経営研究室 (主任専門研究員 前山 薫)
作業可能日数率算出支援シート	平成19年 3月30日	ver.1.0	生産工学研究室 (主任専門研究員 前山 薫)
里地里山の生き物紹介	平成20年 7月 9日	ver.1.0	プロジェクト推進室 (専門研究員 佐藤千穂子)
水稻施肥設計支援シート	平成21年 7月 6日	ver.2.0	生産環境研究室 (専門研究員 大友英嗣)

4 表彰

表彰名称（表彰団体）	表彰の対象者（組織）		表彰の対象となった研究成果等	年月日
研究功労者表彰 (全国農業関係試験研究場所長 会)	八幡平農業改良普及センター所長 (前プロジェクト推進室長(水田農業))	及川 一也	転換畑ダイズ栽培技術及び水稲湛水直播栽 培技術の開発と普及	H22. 6.17
平成22年度岩手県職員表彰 (事績顕著者)	生産環境研究室長 主任専門研究員(生産環境研究室) 主任(農業振興課) 主任主査(農業普及技術課)	小菅 裕明 大友 英嗣 高橋 良学 小林 卓史	簡易土壌分析システムの開発・製品化による 新たな土壌診断体制の構築	H22.10.25
(内部表彰) 平成22年度 第1回農業研究センター所長表彰	主任専門研究員(研究企画室) 主任専門研究員(農業経営研究室) 農業経営研究室長 主事(総務課) 主査(総務課) 上席専門研究員(技術部作物研究室) 専門研究員(技術部作物研究室) 主任専門研究員(県北農業研究所作物研究室)	勝部 和則 前山 薫 小川 勝弘 須賀 美奈子 照井 博幸 小綿 寿志 伊藤 信二 荻内 謙吾	競争的資金の導入拡大により試験研究計画 の推進に貢献 農業IT活用研究会の活動活性化及び 市場動向分析支援システムの開発 労働災害防止への取り組み 小麦及び大豆の作柄解析により本県の 栽培技術指導に貢献	H22. 8.23
(内部表彰) 平成22年度 第2回農業研究センター所長表彰	主任専門研究員(プロジェクト推進室) 上席専門研究員(プロジェクト推進室) 技能員(プロジェクト推進室) 主任専門研究員(プロジェクト推進室) 主任専門研究員(研究企画室) 農業経営研究室長 主任専門研究員(農業経営研究室) 主任専門研究員(農業経営研究室) 専門研究員(技術部園芸研究室) 主任専門研究員(技術部園芸研究室) 主任専門研究員(技術部園芸研究室) 主任専門研究員(技術部園芸研究室) 主任専門研究員(技術部作物研究室) 上席専門研究員(技術部作物研究室) 主任専門研究員(プロジェクト推進室) 主任専門研究員(県北農業研究所作物研究室) 上席専門研究員(技術部作物研究室) 主任専門研究員(県北農業研究所作物研究室) 主任専門研究員(技術部園芸研究室) 主任専門研究員(技術部園芸研究室) 専門研究員(生産環境研究室) 主任専門研究員(生産環境研究室) 専門研究員(生産環境研究室) 専門研究員(病理昆虫研究室) 専門研究員(病理昆虫研究室)	高橋 昭喜 伊藤 勝浩 菅野 輝彦 細川 健 沼田 芳宏 小川 勝弘 土澤 一博 及川 浩一 畠山 隆幸 高橋 司 山口 貴之 藤尾 拓也 高橋 智宏 菅原 浩視 日影 勝幸 吉田 宏 菅原 浩視 吉田 宏 中里 崇 川戸 義徳 阿部 弘 中野 亜弓 高橋 彩子 横田 啓 洞口 博昭	代かきハローの汎用利用による小麦、 ナタネの畦立て同時播種技術の開発 東北農業新技術実用化促進プロジェクト(1.5 年プロ)現地実証試験を通じた作溝同時直播 装置の普及 プレミアムブランド米の商品化への貢献 及び生産にあたっての留意点の明確化 一般視察者、小中学生向けに分かり易い業務 説明資料を作成 岩手県花き生産振興計画策定への貢献と りんどう選花・調製作業能率の改善 11月上旬に成熟する大玉で果汁の多い 赤玉りんご「岩手5号」の育成 アスパラガス関連2成果の取りまとめと 共同研究総括者として研究推進に貢献 夏秋イチゴの安定生産技術開発及び 普及拡大に貢献 新しい岩手県リアルタイムメッシュ 気象情報システムに対応した 水稲育成予測のためのパラメータの作成 平成22年岩手県水稲生育経過の特徴、 特に夏季高温の影響を解析 9月下旬開花の切り花向け青色リンドウ F1品種「いわてLB-2号」の育成 採花期間のりんどうにおける新根の分布 位置に合わせた効果的な施肥法を解明 イムノクロマト法を用いた畑作物の カドミウム濃度簡易測定法の開発 7～8月の高温がアカスジカスミカメの 発生に及ぼす影響を解明 イブコナゾール・銅水和剤による 水稲種子の大量消毒法の開発	H23.2.21

表彰名称（表彰団体）	表彰の対象者（組織）		表彰の対象となった研究成果等	年月日
(内部表彰) 平成22年度 第1回農業研究センター畜産研究 所長表彰	主任技能員(外山畜産研究室) 技能員(外山畜産研究室)	藤原 時夫 葉木澤 一也	和牛子牛飼養改善による市場成績の向上	H22.10.29
(内部表彰) 平成22年度 第2回農業研究センター畜産研究 所長表彰	上席専門研究員(種山畜産研究室) 主任技能員(種山畜産研究室) 主任技能員(種山畜産研究室) 主任技能員(種山畜産研究室) 主任技能員(種山畜産研究室)	熊谷 光洋 斉藤 和一 佐藤 洋貴 中村 健 松本 徹	県有種雄牛の飼養管理及び精液生産管理改 善による凍結精液の安定供給	H22.12.20
(内部表彰) 平成22年度 第3回農業研究センター畜産研究 所長表彰	専門研究員(種山畜産研究室)	藤村 和哉	子牛市場成績や枝肉データ解析による県有 種雄牛の改良と利用の促進	H23.3.7
	主任専門研究員(外山畜産研究室)	増田 隆晴	トラクタ搭載型GPS作業支援システムを活 用した肥料散布作業精度の向上及び作業時 間を短縮する草地管理技術の開発	
	専門研究員(外山畜産研究室)	菊池 恭則	作溝式播種機を用いた春期追播による草地 簡易更新技術の開発	
	上席専門研究員(家畜育種研究室)	細川 泰子	受胎率向上のための受卵牛飼養管理技術の 開発	
(内部表彰) 平成22年度 第1回農業研究センター県北農業 研究所長表彰	主査(総務課)	阿部 君男	備品管理事務の運営改善、簡素効率化	H22.8.25
(内部表彰) 平成22年度 第2回農業研究センター県北農業 研究所長表彰	主任専門研究員(園芸研究室)	川戸 善徳	県北地域における小ギクの同一品種による継 続出荷・開花調節技術の開発	H23.2.23
	専門研究員(園芸研究室)	田代 勇樹	県北地域における業務用露地ほうれんそう栽 培技術の開発	
	主任専門研究員(作物研究室)	阿部 亜希子	環境にやさしい雑穀害虫防除技術の開発	

5 職員名簿

(平成23年3月31日現在)

職 名	氏 名	職 名	氏 名
所長	高 橋 伸 夫	園芸研究室長	渡 辺 芳 幸
副所長	(欠 員)	[野菜チーム]	
プロジェクト推進室長	扇 良 明	主任専門研究員(チーム長)	漆 原 昌 二
上席専門研究員	伊 藤 勝 浩	主任専門研究員	高 橋 拓 也
主任専門研究員	高 橋 昭 喜	主任専門研究員	山 口 貴 之
主任専門研究員	日 影 勝 幸	[果樹チーム]	
主任専門研究員	渡 邊 麻 由 子	主任専門研究員(チーム長)	高 橋 司
技能員	菅 野 輝 彦	主任専門研究員	及 川 耳 呂
技能員	中 軽 米 徳 典	主任専門研究員	大 野 浩
プロジェクト推進室長	多 田 勝 郎	専門研究員	畠 山 隆 幸
主任専門研究員	細 川 健	[花きチーム]	
主任専門研究員	臼 井 智 彦	上席主任専門研究員(チーム長)	藤 原 一 道
専門研究員	佐 藤 千 穂 子	主任専門研究員	星 伸 枝
企画管理部長	古 川 勉	主任専門研究員	赤 坂 志 保
研究企画室長	泉 川 澄 男	主任専門研究員	中 里 崇
主任専門研究員	勝 部 和 則	南部園芸研究室長	佐々木 裕 二
主任専門研究員	高 橋 正 樹	主任専門研究員	藤 尾 拓 也
主任専門研究員	伊 勢 智 宏	専門研究員	小 田 島 雅
主任専門研究員	沼 田 芳 宏	環境部長	木 内 豊
農業経営研究室長	小 川 勝 弘	生産環境研究室長	小 菅 裕 明
主任専門研究員	及 川 浩 一	上席専門研究員	鈴 木 良 則
主任専門研究員	前 山 薫	主任専門研究員	中 野 亜 弓
主任専門研究員	土 澤 一 博	主任専門研究員	大 友 英 嗣
専門研究員	松 浦 貞 彦	専門研究員	阿 部 弘
主幹兼総務課長	高 橋 義 記	専門研究員	高 橋 彩 子
主査	照 井 博 幸	技能員兼運転技士	佐 藤 広 昭
主査	加 藤 泰 彦	技能員兼運転技士	貉 澤 哲 哉
主事	小 笠 原 和 夫	病理昆虫研究室長	一 守 貴 志
主事	須 賀 美 奈 子	主任専門研究員	多 田 典 穂
主事	佐々木 あき子	主任専門研究員	富 永 朋 之
技術部長	畠 山 均	専門研究員	羽 田 厚
作物研究室長	佐々木 力	専門研究員	横 田 啓
上席専門研究員	菅 原 浩 視	専門研究員	洞 口 博 昭
上席専門研究員	小 綿 寿 志	専門研究員	岩 舘 康 哉
主任専門研究員	高 橋 智 宏	病害虫防除部長	築 地 邦 晃
専門研究員	阿 部 陽	病害虫防除課長	阿 部 武 美
専門研究員	伊 藤 信 二	主任主査	阿 部 信 治
技師	川 代 早 奈 恵	主査	大 友 令 史
技能員	菊 地 徳 章	主任	加 藤 清 吾
技能員	西 野 哲 仁	主任	藤 澤 由 美 子
技能員	小 黒 沢 清 人	主任	藤 田 章 宏
		技師	吉 田 雅 紀
		技師	斎 藤 真 理 子
		技師	村 上 太 郎

職名	氏名	職名	氏名
畜産研究所長	佐々木 宏	外山畜産研究室長	長内 幸一
次長	竹田 順一	主任専門研究員	藤澤 牧人
次長	小松 繁樹	主任専門研究員	増田 隆晴
次長	山田 和明	専門研究員	菊池 恭則
総務課長	澤口 総一	主任技能員	藤原 時夫
主任主査	柳本 登	主任技能員	上野 由克
主任	吉田 由美子	技能員	鳴海 茂揮
運転技士兼技能員	吉田 正弘	技能員	葉木 澤一也
主任技能員	関村 武志	種山畜産研究室長 (次長兼務)	山田 和明
主任技能員	小笠原 幸一郎	主任専門研究員	今野 一之
主任技能員	石川 勝美	主事	管野 潔
主任技能員	小林 雄二	上席専門研究員	熊谷 光洋
主任技能員	米澤 健治	主任専門研究員	小梨 茂哉
主任技能員	右京 隆二	専門研究員	藤村 和一
主任技能員	工藤 明彦	主任技能員	斎藤 和貴
主任技能員	荒木 田俊一	主任技能員	佐藤 洋健
主任技能員	竹田 政則	主任技能員	中村 徹
主任技能員	菅原 薫	主任技能員	松本 徹
技能員	永洞 俊司	県北農業研究所長	茂市 修平
技能員	細野 貴樹	次長	鈴木 敏男
技能員	鷺見 義信	総務課長	工藤 一也
技能員	畠山 博文	主査	阿部 君男
技能員	水澤 博征	運転技士兼技能員	日山 千代司
技能員	上澤 賢輝	技能員	清水 賢一
技能員	後藤 克明	技能員	藤根 寛道
技能員	谷地 館透	園芸研究室長	高橋 晋
技能員	荒屋 康之	上席専門研究員	藤沢 巧
技能員	西野 聖	主任専門研究員	川戸 善徳
家畜育種研究室長	菊池 雄	専門研究員	田代 勇樹
上席専門研究員	佐藤 直人	技師	武田 純子
上席専門研究員	細川 泰子	作物研究室長(次長兼務)	鈴木 敏男
専門研究員	佐藤 洋一	主任専門研究員	吉田 宏
専門研究員	鈴木 強史	主任専門研究員	荻内 謙吾
専門研究員	佐々木 直	主任専門研究員	仲條 眞介
専門研究員	米澤 智恵美	主任専門研究員	阿部 亜希子
家畜飼養・飼料研究室長	豊田 吉隆		
主任専門研究員	堀間 久己		
主任専門研究員	多田 和幸		
専門研究員	斎藤 浩和		
専門研究員	尾張 利行		
技師	木戸 場結香		

沿革

- 明治31年 種馬厩を盛岡市に設置。
- 明治34年 農事試験場(3部制:庶務・種芸・分析)を本宮村向中野(現盛岡市)に設置。
種馬厩を種畜場と改称。
- 明治35年 種畜場を盛岡市から滝沢村に移転。
- 明治36年 農事試験場に園芸部(4部制)を新設。
- 大正 2年 原蚕種製造所を胆沢郡水沢町(現奥州市水沢区)に設置。
- 大正 8年 農事試験場胆江分場を江刺郡愛宕村(現奥州市江刺区)に設置。
- 大正11年 原蚕種製造所を蚕業試験場(4係制:庶務・蚕種・試験・桑園)と改称。
- 大正12年 農事試験場に病虫部(5部制)を新設。
外山御料牧場を種畜場に移管し、種畜場本場を玉山村(現盛岡市玉山区)に移転(滝沢は支場となる)。
- 昭和 2年 種鶏場を岩手郡巻掘村(現盛岡市玉山区)に設置。
- 昭和 5年 農事試験場軽米農場を九戸郡軽米町に設置。
蚕業試験場一戸桑園を二戸郡一戸町に設置。
- 昭和10年 農事試験場遠野試験地を上閉伊郡松崎村(現遠野市)に設置。
- 昭和12年 種畜場本場を滝沢村に移転、玉山は外山支場となる。
蚕業試験場六原桑樹試験地を金ヶ崎町に設置。
- 昭和13年 蚕業試験場一戸桑園を一戸支場と改称。
- 昭和15年 農事試験場軽米農場を九戸分場と改称。
- 昭和21年 農事試験場高冷地試験地を二戸郡小鳥谷村(現一戸町)に設置。
- 昭和22年 農事試験場遠野試験地が国営に移管。
- 昭和23年 種鶏場を紫波郡日詰町(現紫波町)に移転。
- 昭和25年 農事試験場を農業試験場(4部制:総務・営農・農産・畜産)と改称。
農業試験場畜産部を種畜場と併設。
農業試験場葡萄試験地を稗貫郡大迫町(現花巻市大迫町)に設置。
農業試験場沿岸作物試験地を九戸郡長内村(現久慈市)、下閉伊郡豊間根村(現山田町)及び気仙郡小友村(現陸前高田市)に委託設置。
- 昭和26年 農業試験場南部試験地を気仙郡米崎村(現陸前高田市)に設置。
農業試験場に遠野試験地が国から移管。
農業試験場に農業経営研究部門設置。
工芸作物原種農場を雫石町に設置。
- 昭和28年 蚕業試験場を水沢市(現奥州市水沢区)龍ヶ馬場に移転。
- 昭和30年 農業試験場本場機構改革(8部制:庶務・種芸・化学・園芸・病虫・経営・農機具・畜産)。
蚕業試験場機構改革(4部制:庶務・栽桑・養蚕・病理化学)。
- 昭和32年 蚕業試験場一戸支場を一戸分場と改称。
- 昭和36年 蚕業試験場一戸分場を二戸郡一戸町上野に新築移転。
- 昭和37年 農業試験場の園芸部、南部試験地及びぶどう試験地を分離して園芸試験場(3部制:庶務・果樹・蔬菜花卉)を北上市に設置。南部試験地及びぶどう試験地をそれぞれ、南部分場、大迫圃場と改称。
農業試験場胆江分場及び九戸分場をそれぞれ、県南分場、県北分場と改称。
種畜場に種鶏場及び農業試験場畜産部を併合して畜産試験場を滝沢村に設置。
農業試験場遠野試験地及び沿岸作物試験地を廃止。
工芸作物原種農場を農業試験場に統合し、原種部を設置。
- 昭和38年 農業試験場本場を盛岡市から滝沢村へ移転。
- 昭和39年 畜産試験場外山支場を外山試験地と改称。
- 昭和41年 農業試験場本場機構改革(4部制:庶務2係・技術・環境・経営)。
- 昭和44年 園芸試験場蔬菜花卉部を野菜花き部に改称。
- 昭和46年 農業試験場本場機構改革(科制導入。技術部:水田作科・畑作科・作業技術科、環境部:施肥改善科・土壌改良科・病害虫科、経営部:経営科・流通経済科)。
農業試験場県南分場及び県北分場に分場次長を設置。
農業試験場高冷地試験地を園芸試験場へ移管し、高冷地分場となる。
園芸試験場に環境部を設置。
園芸試験場大迫圃場を大迫試験地と改称。
畜産試験場外山試験地を外山分場と改称。
- 昭和47年 園芸試験場南部分場を陸前高田市米崎町から同市高田町へ移転。

昭和48年	蚕業試験場六原桑樹試験地を六原試験地と改称。
昭和51年	農業試験場作業技術科を農業機械科に改称。
昭和53年	蚕業試験場六原試験地を廃止。 蚕業試験場養蚕部、病理化学部をそれぞれ養蚕経営部、環境部に改称。
昭和56年	園芸試験場高冷地分場を高冷地開発センターに改称。
昭和57年	蚕業試験場整備計画実施(～昭和58年)。
平成 3年	農業試験場に水稻育種科を設置。
平成 8年	畜産試験場種山肉用牛改良センターを住田町に設置。
平成 9年	農業試験場、蚕業試験場、園芸試験場及び畜産試験場を農業研究センターに再編整備。 農業試験場本場、園芸試験場本場、同大迫試験地及び蚕業試験場本場を統合し、北上市にセンター本部を設置。 農業試験場県南分場及び園芸試験場南部分場をそれぞれ銘柄米開発研究室、南部園芸研究室と改称。 農業試験場県北分場、園芸試験場高冷地開発センター及び蚕業試験場一戸分場を統合し、軽米町に県北農業研究所を設置。 畜産試験場を畜産研究所に改組。 畜産試験場外山分場及び種山肉用牛改良センターをそれぞれ外山畜産研究室、種山畜産研究室に改称。 県北農業研究所に専門技術員を配置。
平成10年	園芸畑作部蚕桑技術研究室繭品質評価分室を盛岡市に設置(繭検定所を廃止)。 センター本部に専門技術員を配置。
平成11年	企画経営情報部マーケティング研究室を農業経営研究室に統合。
平成13年	病害虫部を新設し、病害虫防除課及び病理昆虫研究室を設置。 銘柄米開発研究室、蚕桑技術研究室及び同研究室繭品質評価分室を廃止。 南部園芸研究室を陸前高田市高田町から同市米崎町へ移転。
平成16年	総務部管理課を同部総務課に統合。 県北農業研究所にいわて雑穀遺伝資源センターを設置。 企画経営情報部内にいわて農林水産知的財産相談センターを設置。
平成17年	病害虫防除課県北農業研究所駐在を廃止、病害虫防除所(本部)へ統合。 専門技術員(県北農業研究所勤務)を専門技術員室(本部)へ勤務振り替え。
平成18年	専門技術員室を廃止(中央農業改良普及センターへ勤務振り替え)。 いわて農林水産知的財産相談センターを閉鎖(業務は岩手県知的所有権センターで実施)。
平成20年	センター本部が2プロジェクト推進室4部体制、畜産研究所が1課4研究室、県北農業研究所が1課2研究室に再編整備。

<所 在>

岩手県農業研究センター		
本 部	〒024-0003	岩手県北上市成田20-1 Tel. 0197-68-2331 FAX. 0197-68-2361 ホームページ http://www.pref.iwate.jp/~hp2088/ Email : CE0008@pref.iwate.jp(本部) Email : CE0001@pref.iwate.jp(病害虫防除所)
(南部園芸研究室)	〒029-2206	岩手県陸前高田市米崎町字川崎101 Tel. 0192-55-3733 FAX. 0192-55-2093
畜産研究所	〒020-0173	岩手県岩手郡滝沢村字砂込737-1 Tel. 019-688-4326 FAX. 019-688-4327 Email : CE0010@pref.iwate.jp
(外山畜産研究室)	〒028-2711	岩手県盛岡市玉山区藪川字大の平40 Tel. 019-681-5011 FAX. 019-681-5012
(種山畜産研究室)	〒029-2311	岩手県気仙郡住田町世田米字飼沢30 Tel. 0197-38-2312 FAX. 0197-38-2177 Email : CE0034@pref.iwate.jp
県北農業研究所	〒028-6222	岩手県九戸郡軽米町大字山内23-9-1 Tel. 0195-47-1070 FAX. 0195-49-3011 Email : CE0009@pref.iwate.jp

平成 22 年度 岩手県農業研究センター年報

平成 23 年 6 月発行

岩手県農業研究センター

〒024-0003 岩手県北上市成田20-1

TEL(0197)68-2331 FAX(0197)68-2361

IWATE-AGRICULTURAL RESEARCH CENTER

20-1Narita,Kitakami Iwate 024-0003,Japan